

(2) 万県事件	一四二九
(3) 宣統帝ノ動靜	一四六五

付録 日本外交文書 大正十五年第二冊(上・下卷) 日付索引

(以上 下卷)

- 一 北京政府ト一般政況
- 二 国民政府ノ動靜並ニ国民革命軍ノ北伐關係
- 三 日中通商条約改訂問題
- 四 大沽事件
- 五 奉票暴落問題等ニ関スル奉天省政府トノ交渉

(以上 上卷)

事項六 北京関税特別會議關係

六八六 一月八日(着)

在北京関税特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

華府付加税ニ関スル第六回非公式会合ノ議事

報告ノ件

関会第一八五号

往電関会第一八一号ニ関シ

一月六日和蘭公使館ニ於テ第六回非公式会合開催出席者米
国側ハ「マクマレー」其他前回ノ通

(一) 顔惠慶ヨリ現行輸入税率ヲ現実五分ニ改訂セル場合ノ計
算並ニ日英米伊各整理案ノ詳細ナル比較表ヲ提出セリ

(二) 仏国全権ハ四日配布ノ自国案(郵報濟)ニ付説明シ

(三) 和蘭全権ハ今日迄ニ提出セラレタル各国家案中ニハ華府会
議所定ノ範圍以上ニ出テタルモノ多キ処若シ右範圍ヲ超
ユヘカラストスレハ之等ノ案ハ論議ノ余地ナキ事トナル
ヘキヲ以テ右範圍内ニ限ルヘキヤ否ヤカ先決問題ナリ現
ニ日本案ノ如キ華府条約所定ノ付加税ヲ以テ足ルトナシ
居レリト云ヘルニ白国全権ハ本国政府ヨリ支那ヲ援助ス
ヘシトノ訓令ヲ受ケ居ル次第ニシテ自分ハ華府會議以上

六 北京関税特別會議關係 六八六

ニ亘リ論スルモ差支ナシト述ヘ「マクマレー」モ亦米國
側トシテハ華府會議所定以上ニ亘ル事ハ差支ナキ旨ヲ述
ヘタリ芳沢ハ日本ハ二分五厘及五分案ヲ主張シ居ルモ同
時ニ支那ヲ援助シタキ希望ヲ有ス此ノ見地ニ基キ目下当
方ニテモ研究中ナルカ要スルニ現行税ニ二分五厘ノ付加
税ヲ加ヘタル七分五厘ヲ「ミニマム」トシ差等率ヲ設ケ
ントスル考案ナルカ右ニ就テハ政府ニ請訓スル必要モ有
リ旁々未タ確定ニ至ラスト告ケ置タリ

(四) 「ピール」ハ各国ノ案中ニハ甚シキ高率ヲ承認スヘシト
ナスモノアルモ俄カニ賛スル能ハスト述ヘ且自国案ニ就
キ鉄道公債ハ之カ担保トナレル鉄道收入ヲ以テ支払ヲ為
シ能ハサル時追加担保トシテ関税收入ヨリ支払ヲ為スコ
シトノ点ヲ説明セルニ白、仏、蘭全権モ亦此ノ点ニ関シ
何レモ同様ノ希望ヲ有スト云ヘリ「ピール」ハ尚顔ニ対
シ支那側ニ於テモ本問題ヲ研究セン事ヲ求メタリ

(五) 顔及和蘭全権ハ成ルヘク速ニ日本側ノ提案ヲ求メタルニ
付芳沢ハ目下考究中ニテ成ルヘク速ニ提出スル様努ム可

七一九

シト答へ置タリ

本日ノ會議ニ於テハ結局右日本案ハ重要ナルモノナレハ其ノ提出ヲ待ツテ實質上ノ討議ヲ見ル事ト成ルヘキモ兎ニ角次回ハ來週水曜日ニ開催ノ事トシテ散会セリ
關係書類郵送ス

六八七

幣原外務大臣ヨリ
在北京關稅特別會議帝國代表宛(電報)

華府附加稅ニ關シ国内各方面ノ事情ヲ考慮シ
十分審議ノ上何分ノ儀電報スル迄我方提案
ヲ差控エルヨウ訓令ノ件

開會第五九号

貴電第一八五号(三)ニ關シ

一(イ)当初実行スヘキ普通品ノ附加稅ヲ二分五厘以上トスル
コトニ傾ク惧アル提案ヲ我方ヨリ為スコトハ我根本方
針ニ副ハサルハ固ヨリ他面我國内關係上甚タ面白カラ
ス

(ロ)貴電開會第一八三号等最近英、米、仏、伊ノ附加稅ニ
關スル新提案ニ見ルニ仏ハ稍不明ノ処アルモ其ノ他ノ
三国ハ実施期間ニ多少長短アルモ要スルニ二分五厘ノ

我当初ノ案ニ接近シ來レル傾向アリ

(イ)二分五厘以上トスル時ハ華府條約ノ修正ナルニ付批准
ヲ終了スル迄相當ノ期間實施シ得サルハ篤ト御承知ノ
通ニシテ支那ニ取り却テ不利益ナル次第ナリ

二 貴方ニ於テ七分五厘ヲ「ミニマム」トスル案ヲ持出タ
サレタルハ如何ナル事情ニ依ルモノナリヤ詳細電報アリ
度且貴方ニ於テハ平均及最高率ヲ如何程トセラルノ所存
ナリヤ併セ回電アリ度右回電ヲ待チ当方ニ於テ国内各方
面ノ事情等ヲ考慮シ十分審議ヲ加ヘタル上何分ノ儀電報
スル迄本件提案ヲ差控エラレ度シ

六八八 一月九日

在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

華府附加稅ニ關スル交渉方針ニツキ請訓ノ件

別電一

同日在北京關稅特別會議帝國代表發幣原外務
大臣宛電報開會第一八七号

米國側專門家私案

二 同日在北京關稅特別會議帝國代表發幣原外務
大臣宛電報開會第一八八号

我方提案

開會第一八六号(大至急)

(一)附加稅率及使途問題ニ關スル各国側ノ意向ハ内交渉ニ關

スル累次ノ電報ニ依リ御承知ノ通支那側ノ一億二百萬元
增收案ニ對シ大体ニ於テ八千乃至九千萬元案ヲ認メ居リ
其ノ稅率ハ普通品(支那側提議ノ範圍)ニ對シ五分同奢
修品「A」級一割乃至二割「B」級一割見當ヲ按排シ何
レモ我方二分五厘三千五百萬元案ニ比シ倍額半以上ノ
增收ヲ見込ミ從テ附加稅率平均モ七分五厘見當トナリ居
リ又米國側ハ初メ增收額五千七百万元(平均五分ノ差等
稅率ナルモ稅率不明)ヲ提出シ來リタルカ(往電開會第
一八三号)其ノ後專門家私案トシテ別電開會第一八七号
(增收額五千六百万元ノ差等稅率案)ヲ提示シ來リ右私
案ハ輸入額二億五千万元ニ對シ二分五厘ヲ課シ居ル点ニ
於テ主義上我方ノ意向ヲ尊重スルモノナルヲ以テ之ニ
對シテハ本邦對支貿易ノ得失及之ヲ重要視スル事情ヲ說
明シ一層我方提案ニ賛成方說得ニ努メ英國側ニ對シテモ
同様說得シ居ル処各国側ニ於テハ釐金補償及政費ノ外
債整理ニ重キヲ置キタリ之レカ為メ右諸費用ヲ支弁スル
ニ足ル程度ノ增收額ヲ必要トシ居ルヲ以テ我方「モラ
トリアム」付二分五厘案ヲ此ノ上維持スルヲ得サル現狀
ニアリ

(二)尤モ他方各国側ニ於テハ我方對支貿易上ノ地位ハ相當ト
解シ適當ノ差等稅率ヲ認ムルノ意向ヲ示シ居ル次第ナレ
ハ此際我方ニ於テモ大体釐金廢止補償三千萬元外債整理
三千万元政費一千万元合計七千万元程度ノ增收額及名義
タケニテモ建設費目ヲ認ムルト共ニ附加稅率ノ按排ニヨ
リ低級品ノ貿易ヲ輕クスルノ趣旨ニテ別電開會第一八八
号ノ普通品ニ對シ二分五厘(範圍六億元)奢侈品ニ對
シ五分乃至二割五分見當ヲ認ムルノ覺悟ヲ要スヘシト認
メラル

(三)右折衷案ニ依レハ外債整理ニ就テモ「モラトリアム」ニ
代ヘ二十六年度ヨリ相當ノ整理ヲナシ得ルノ外我方對支貿
易ノ全局ヨリ之ヲ見ルモ支那輸入本邦品ノ六割五分位ハ
二分五厘ニテ止マリ得ヘク其他ノ輸入品ニ對シテモ差等
稅率ニヨルコトナルニ付我方對支貿易ニ及ホス打撃ハ非
常ニ緩和シ得ルモノト認メラル而シテ此方法ニヨレハ暫
定期間ニ於テ我方ノ主張タル差等稅率ノ主義ヲ貫徹シ自
主權回復後ニ實施スヘキ稅率ノ協定ニ對スル措置ヲモ作
リ易キ次第ナリ就テハ大体前記ノ方針ニテ支那及各国ト
ノ交渉ヲ進ムルコトニ御承認アリタシ

(別電一)

同日在北京関税特別会議帝國代表發幣原外務大臣宛電報開會
第一八七号

米國側專門家私案

開会第一八七号 (至急)

米國側專門家私案ハ(一九二六年四月ヨリ九ヶ月間ハ華府
条約二分五厘ヲ実施シ)一九二七年度ハ一律二分五厘ノ釐
金付加税ノ外(增收三千五百万)別ニ有税輸入品(一、三
七五百万元)ヲ八級ニ分チ(最下級ノモノ二億五千万元ニ
對シテハ外ニ付加税ヲ課セス)夫々二分五厘(輸入額六
億)五分(二億)七分五厘(一億)一割(七千五百万)一
割二分五厘(五千万)ノ付加税ヲ課シ(增收額六千二百五
十萬元付加税增收額合計九千六百万元(平均税率一割一分
六厘)ヲ得ントスルモノニシテ(一九二七年ノ改訂ヲ予想
シ以テ增收額ハ何レモ現實從価ノ計算トナリ居レリ)(三)尚
本案ハ英國側釐金付加税案英伊側ノ輸入付加税增收額及輸

二分五厘ノモノ 二三三、〇〇〇、〇〇〇元
三分五厘ノモノ 四〇、〇〇〇、〇〇〇元

支那輸入本邦品全
部ニ對スル割合

六四・一パーセント
一〇・八

各級物品支那輸入金額
ニ對スル日本品ノ割合

三八・三パーセント
一八・九

入品ノ全部カ一割税ヲ負擔シ得ストスル日本側ノ意向及米
國側差等税率ヲ包含スト説明セリ

(別電二)

同日在北京関税特別会議帝國代表發幣原外務大臣宛電報開會
第一八八号

我方提案

開会第一八八号 (大至急)

我方提案ハ

(一)有税品輸入額十三億五千六百万元ヲ七級ニ分チ之ニ對シ
付加税二分五厘(輸入額六億一千万元) 三分五厘(同二
億一千二百萬元) 五分(二億二百万元) 七分五厘(一億)
一割(七千八百万) 一割五分(六千五百万) 二割(葉煙草
及酒四千五百万) 及二割五分(葉卷紙卷煙草四千二百五十
万)ヲ課シ增收額合計七千七百三十萬元(以上ハ現實從価
ノ計算ナルカ現行税率ヲ基礎トセハ六千五百四十萬元トナ
ル)ヲ得ントスルモノニシテ

(二)右ノ結果各級所屬本邦品ノ一九二四年度輸入額ハ

五分ノモノ 四〇、〇〇〇、〇〇〇元
七分五厘ノモノ 三四、〇〇〇、〇〇〇
一割ノモノ 九、〇〇〇、〇〇〇
一割五分ノモノ 六、〇〇〇、〇〇〇
二割ノモノ 四、〇〇〇、〇〇〇
二割五分ノモノ 六、〇〇〇、〇〇〇

トナリ

(三)各級物品本邦輸入品ノ種類ハ

(二分五厘ノモノ) 綿糸、綿布(殆ント全部)、綿交織傘、
綿袋、海産物(七百五十萬元)、洋紙(四百萬元)、石炭、
鉄及鉄製品(二百七十萬)、空瓶、「セメント」陶器、化学
製品、膠、「マツチ」材料、玻璃、石鹼材料、曹達工業用
酒精、自転車等

(三分五厘ノモノ) 綿縫糸、「カンパス」及「コットンダ
ック」、黄銅(線板等)、銅(板線等)、鉄(板管電鍍板及
線)、「ガラス」製品、「マツチ」、塗料、「ハーバー」、ダッ
クリン、綿莫大小、藥、文房具、木材等

(五分ノモノ) 毛、綿、毛布、人造絹、絹綿交織物、鉦
(普通ノモノ)、鞣皮、海參、鮑、椎茸、「スルメ」、貝類、

六 北京関税特別會議關係 六八八

一〇・九パーセント 一九・六パーセント
九・七 三三・五
二・四 一一・〇
一・五 三・六
一・〇 三・五
〇・一 一・四

塩、醬油、寒天、乾果物、龍顏、瑠璃鉄器、電気材料、玩
具「セルロイド」、洗濯石鹼、護謄製品、鉄道材料、「スト
ーブ」、機械類、赤白糖等

(七分五厘ノモノ) 毛氈、交織物、革靴、衣帽類、白糖、
精糖(十八号以上)、鱈ノ鱈(税番一九五、(a)、(b)、「サイ
ダー」、洋菓子、時計(金、白金、以外ノモノ)

(一割ノモノ) 毛織物、衣帽類(絹、人絹交織)、革(「エ
ナメル、パテント」、水砂糖、茶、鱈ノ鱈(税番一九四号
及一九五号(c))、「コンデンス、ミルク」、人參、「ペッパ
ー」、洋紙(煙草紙及高級紙)、木器、「ガラス」類、(高級
級)鏡(普通ノモノ)、花筵、樂器、下級化粧品、革製品
(一割五分ノモノ) 純絹織物及製品(衣帽ヲ含ム) 高級鉦
類、高級硬木及同製品、写真機、高級鏡、金箔、金時計、

人造藍、高級化粧品等ニシテ

(二)割及二割二分五厘ニ含マルモノ)ハ酒(「ビール」ヲ含ム)煙草ノミナリ(但右品目ハ固ヨリ確定的ノモノニアラス)

(四)尚付加税ノ実施期ニ付テハ米國案ノ為一律二分五厘ハ二十六年ヨリ夫レ以上ノ分ハ二十七年ヨリ実施スルコトシタキモ後者ニ付テハ條約効力發生後一定ノ予告期間ヲ以テ実施ヲ認ムルトキハ其ノ税率ヲ基礎ニ低ク定メ得ルカ如キ場合ニハ二十六年度ニ於テモ之カ実施ヲ承認スル意向ナリ

六八九 一月十三日

在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

華府付加税ニ關スル我方提案ハ以前ト何等異

ナル所ナキ旨申進ノ件

關会第一九〇号(至急)

貴電關会第五九号ニ關シテハ当方ヨリ行違ニ發電セル往電第一八六号ヲ以テ委細御承知ノ通ト思考セラルル処

(一)我方提案ハ往電第一八五号ノ際モ以前ト何等異ナル処ナシ問題ハ從來我方ノ提出セル「モラトリウム」付二分五厘案ハ各国カ債務整理ノ關係上付加税増徴ニ寛大ナル態

ス撤廃ヲ前提トスルカ故ニ抵代税ハ撤廃セラル可ク結局有利ノ税率ナリ

(四)貴電第五九号(一)ノハ二分五厘(奢侈品五分)以下トセハ日本ニ於テモ批准ヲ要セス即時増徴差支ナキヲ意味スル次第ナリヤ(華府條約批准ノ際枢密院ニ對スル説明參照)

(五)税率ノ問題ハ我對内問題トシテノ利害關係ニ付テハ當方ニ於テモ充分研究ヲ遂ケ庄司ノ如キモ之ニ同感ヲ表シ居レリ右末段御含迄

六九〇 一月十三日

在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

段執政ノ進退ハ慎重ヲ要ストノ在本邦汪公使ノ意見等報告ノ件

第二四号(極秘扱)

(1)一月十一日外交次長ハ東京汪公使ヨリ外交部經由段執政宛秘密電信トシテ館員ニ内示セル処其内容ハ日本政府カ一昨年十二月段政府ヲ承認セルハ全ク段カ良ク政府ヲ統裁スヘキヲ信シタル為ナルカ今日段ニシテ下野スル場合ニハ承認ノ目的物ヲ失フ次第ニシテ此処ニ關稅會議及法

六 北京關稅特別會議關係 六九〇 六九一

度ヲ持シ支那側ト寧ロ同一ノ立場ニアルタメ我方单独ニテ最後迄我案ヲ突通スコト不可能トナリ從ツテ我方ノ特ニ利害關係アル品目ニ付二分五厘ヲ維持シ關係尠ナキ品目ニ對シ高率ヲ課スルニカムルノ外ナシ往電第一八五号(三)モ此点ニ付回訓ヲ待ツテ提案スル予定ナリ

(二)右ノ趣旨ヲ以テ支那側ハ勿論米、英側ト充分了解ヲ取付クルヲ得策ト思考シ度々之等ノ方面ト非公式ノ會合ヲ行ナヒ我方針ヲ了解セシメタル結果漸次接近シ來タリツツアリ

尤モ王正廷ハ外交總長就任ニ先チ增收九千万弗ヲ捻出スル二分五厘ヨリ二割五分迄ノ差等付加税率ヲ承認シ與レタク右ハ支那側最終案ニシテ他國ハ異議ナキ次第ニ付是非日本ニ賛成ヲ請ヒ度ク支那側ニ於テ其ノ他ノ点ニ付出來得ル限り日本ノ立場ヲ尊重スル積ナル旨申來リ居ルモ右ノ如キ多額ノ增收ハ困難ナル旨ヲ説明シ置キタリ

(三)請訓ノ差等税率案ハ付加税平均從価五分七厘(此率ハ現實改訂以前ニ於テハ現實從価四分八厘トナル)トナルモ本邦品輸入額ノ六割五分ハ二分五厘ニ止マリ七分五厘以上ノ税ヲ受クルモノハ実體ノ一割強ニ過キサノミナラ

權會議モ中止ヲ觀ル可クスノ如クシテ支那ノ國際的地位ハ失墜スルニ至ル可キニ付執政ノ進退ニハ慎重ノ用意ヲ要スト云フニアリ而シテ外交次長ハ右電報ハ昨今政府ニ於テ極メテ重大視セラレ居ル由説明セリ(以上極秘)

(2)十一日東京發「ロイター」ノ一節ニ日本外務省「スポークスマン」ハ吳佩孚側ノ發展ニ伴イ法權委員會ノ開催如何ハ疑問ナリト述ヘタリトアリ又支那新聞中ニハ日本ハ關稅會議中止ヲ計畫中ナリト報道スルモノアリ

(3)而シテ前記兩項ニ關連シテ本月十一日ノ國民新聞ハ治外法權撤廢ニ關スル日英米ノ態度ト題シテ米國ハ治外法權ニ關シ切實ニ中國ヲ援助スルノ意志アルモ英國ハ本問題ニ關シ考慮ヲ加ルコトヲ願ハス日本ニ至テハ關稅會議及ヒ法權會議ノ中止ヲ以テ段執政ノ辭職ヲ牽制セントシツツアリト論シヲレリ何等御參考迄

六九一 一月十五日

在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

我方ガ自主權問題ヲ高調セル結果列國ノ反感ヲ招キ居レリトノ報道ハ事實ニ相違セル件

關会第一九四号

貴電開会第六〇号ニ関シ

我方カ自主権問題ヲ高調シタル結果列国ノ反感ヲ招キ居レリトノ報道ハ全然事実ニ相違セル想像ナリ各国ト我方トノ關係ハ極メテ円満親密ニシテ我方ノ特殊地位ハ漸次一般ノ認識スル処トナリ目下税率其他ノ問題ニ関シ米英等ハ茲ニ我方専門家ト意見ノ交換ヲ為シツツアル次第ナリ為念

六九二 一月十七日

在北京関税特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中国政局ノ現状ニ鑑ミ華府所定ノ付加税ノミ

ニツキ協定セントスル仏国ノ提案ニ関スル非

公式会合ノ議事報告ノ件

別電

同日在北京関税特別會議帝國代表發幣原外務大
臣宛電報開会第一九六号

仏国ノ提案

開会第一九五号

仏国全權ハ支那目下ノ政情ニ於テハ関税會議モ何時終了スルヤ見込付カサルニ顧ミ此際不取敢華府會議決定ノ付加税ノミニ付協定シ其ノ他ノ事ハ更ニ商議ヲ繼續スルコトトスヘシトノ考案ヲ抱キ芳沢及英米蘭等ノ全權ニ計リタル結果支那ヲ除キタル各国全權ハ一月十六日英國公使館ニ会合シ

先ス仏国全權ヨリ大要別電第一九六号ノ如キ意見ヲ述ヘシニ付テ審議セリ(右意見ハ覺書トシテ配付ヲ受ケ居タリ)右ニ対シ米國全權ハ本案ハ米國ノ趣旨ト全然合致スルニ付之ヲ支持スル旨ヲ声明シ伊國全權又同様ノ趣旨ヲ述ヘタルカ英國全權ハ支那現下ノ政況ニ顧ミ此際北京政府ニ政費ヲ供給スルカ如キ措置ハ大多數ノ省ノ反抗ヲ起サシムル事トナル可キヲ以テ賛成シ得サル旨ヲ述ヘタリ

芳沢ハ付加税ヲ華府條約処定ノ範圍ニ止ムル事ハ結構ナル

モ我方ハ關係事項ノ一切ヲ付加税ノ問題ト同時ニ決定シ度

キ方針ニシテ此方針ヲ變更スルコトナルカ如キ案ニハ同意スルコト困難ナリト述ヘタリ

右ノ次第二ニテ仏國提案ハ直ニ各国ノ同意ヲ得ル事能ハサリシモ本案ノ外ニモ何等意見出スルヤモ計ラレサルニ付來土曜日更ニ非公式会合ヲ続行スルコトナレリ

(別電)

同日在北京関税特別會議帝國代表發幣原外務大臣宛電報開会

第一九六号

仏國ノ提案

開会度一九六号

各国全權ハ華府條約所定付加税ノ實施ヲ決定スル全權ヲ有

二十一日「ウエルズリー」ヲ往訪セシニ

(一)「ウ」ハ支那ハ益々悪化スルノミニテ改善ノ模様ナク絶望ト云フノ外ナシ関税會議ニ付テモ其後格別ノ報告ナク進行シ居ル模様モ見ヘス今後如何ニスヘキヤニ付種々焦慮シ居ルモ考ヘレハ考ヘル程六ヶ敷途方ニ暮レ居レリト云ヒタルニ付本使ハ最近當國新聞ハ支那殊ニ南支ニ於ケル英國ノ權威失墜商業衰退ヲ叫ビ在支實業家ノ報道等ヲ掲載シテ當局ノ無能ヲ批難シ居ルモ一体如何ニセハ宜シトノ事ナリヤト訊ネタルニ実ニ困ツタモノナリ全ク名案ナシ一体「ボイコット」ニ依リ貿易カ何程ノ打撃ヲ受ケ居ルヘキヤ將又日本ハ支那ノ混乱ヲ如何ニ見ルヘキヤ云々ト述ヘ本使ノ意見ヲ敲キタルニ付本使ハ外國カ如何ニ支那ノ為ニ援助ヲ与ヘント欲スルモ支那カ誠実ニ之ヲ歡迎スルニ非サレハ政情ハ何時迄モ安定セサルヘク今日ノ狀況ニテハ差當リ名案モ出サルヘシ又日本ハ最近數年ニ亘リ「ボイコット」ニ遭ヒタルカ併シ一地方ノ貿易減少セハ他地方ニ増加シ又或年ハ減退シテモ翌年ハ増ストカ云フ事モアリ又商標變更等ノ方法ニテ必需品ハ「ボイコット」ニ拘ラス相當取引行ハレ數年ヲ通シテ見レハ貿易ハ

ス然ルニ右以上ノ付加税ハ批准ヲ要スル新タナル條約ニ依ラサルヘカラス且ツ總テ新タナル付加税ノ實施ニハ通商保護上其ノ決定後少ナクトモ二ヶ月ノ猶予期間ヲ必要トス他方付加税實施ノ遲延ハ支那國庫ノ損失ヲ來シ財政整理計畫ヲ困難ナラシム依ツテ(一)會議ニ於テ必要ト認ムル收入ヲ舉クヘキ付加税ヲ課スル為メ出來得ル限り速ニ新條約ノ締結ニ努ムルト共ニ(二)直ニ來ル四月一日ヨリ華府所定付加税ヲ實施スヘキコトヲ議決スルコト而シテ五分ヲ課スヘキ品目ハ一月中ニ決定スルカ(各国全權ハ右ノ決定權アリ)又ハ先ツ一律二分五厘ヲ課シ或ル貨物ニ對シテハ其ノ「リスト」決定後二ヶ月ヲ経テ之ニ五分ヲ課スルコト付加税收入ハ海關ニテ保管シ今後會議ノ定ムル所ニ依リ処分スルコト然ルヘシ(右ノ使途ハ付加税實施以前ニ決定セラルルナラン)

六九三 一月二十三日(着)

在英國松井大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中国問題及ビ関税自主権問題ニ関スルウェル

ズリートノ会談ニツキ報告ノ件

第一一号

六 北京関税特別會議關係 六九三

漸次増加シ居レリトノ話ヲ聞キ居レリト答ヘタリ

「ウ」ハ更ニ日本ハ当初關稅自主權ヲ与フルコトニ反対ニシテ當時日米英三國間ニ種々経緯ノアリタルニ拘ハラ一旦會議開カルルヤ率先之ヲ承認シタルハ実ニ自分ノ諒解スルニ苦シム所ナリト述ヘタルニ付本使ハ關係國間ニ之カ問題トナリタル當時本使ハ赴任旅行中ニテ事情ヲ承知セサルモ一体之ハ米國ノ強硬ニ主張セル所ニシテ日本モ遂ニ主張ヲ枉ケ之ヲ認ムルコトナレルモノニ非スヤト答ヘ置ケリ

(二) 次テ本使ハ臘舘條約ノコトニ言及シ米國ハ露國ニ委員ヲ送ルコトモ又米國ニ露國委員ヲ迎フルコトニ付テモ躊躇セスト思フカ貴見如何ト述ヘタルニ「ウ」ハ米ハ其ノ何レモ承諾セサルヘシト答ヘタリ依テ本使ハ然リトセハ殘ルハ東京倫敦ニシテ其ノ何レカニ會議ヲ開クノ外ナキ次第ナルカ此ノ場合米國委員カ露國委員ト卓ヲ囲テ會議スルコトニ關シ米國ニ異議アルヘキヤト反問セシニ「ウ」ハ米ハ之ヲモ欲セサルヘシトノ意味ヲ繰リ返セリ何レニシテモ英國政府ノ意見ハ成ルヘク速ニ承知シタキ旨ヲ述ヘタルニ他ノ關係省トノ打合モアルニ付精々早目ニ纏メ

密関会第一三〇号拙信付属案文ノ通りナルモ尚為念各原文(番号等ヲモ入レ) 写茲ニ送付ス

(付屬書一)

一月十九日付在中国芳沢公使ヨリ王外交総長宛公文第二二号 写

協定税率ノ商議開始方提議ノ件

第二二号

以書翰啓上致候。陳者。目下開會中ノ支那關稅特別會議暫行措置ニ關スル委員會第二回會議(大正十四年十一月十三日)ニ於テ貴國代表ハ日米兩國ノ各提案ニ對スル一般意見書ヲ提出セラレ其ノ中ニ於テ關稅率ニ關スル互惠條約問題ニ言及シ左ノ趣旨ヲ陳述セラレ候。

「互惠條約問題ニ關シテハ關稅定率條例第五條ニ『或種ノ貨物ノ輸入税ニ關シ或國ト互惠條件ニ依ル協定アルトキハ此等貨物ニ對スル税率ハ該協定ニ從フ』トアルヲ以テ何國ト雖暫行期間又ハ其ノ以後ニ於テ我政府ト互惠協定問題ヲ討議スルヲ得ヘキハ明ニシテ、若今日ヨリ一千九百二十八年ニ至ル間ニ於テ互惠協定成ルニ於テハ該協定ハ自ラ關稅定率條例ト同時ニ實施セラルルコトナルヘシ。」

テ御返事スヘシト答ヘタリ

在米大使ヘ転電セリ

六九四 一月二十九日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ 幣原外務大臣宛

協定税率ノ商議開始ニ關スル交換公文写送付

ノ件

付屬書一

一月十九日付在中国芳沢公使ヨリ王外交総長宛公文第二二号写

協定税率ノ商議開始方提議ノ件

二 一月二十七日付王外交総長ヨリ在中国芳沢公使宛公文昭字第十三号写

協定税率ノ商議開始方応諾ノ旨回答ノ件

関会第一四二号

(二月十二日接受)

大正十五年一月二十九日

關稅特別會議帝國代表 日置 益

同 芳沢 謙吉 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

協定税率ニ關スル交換公文写送付ノ件

本件ニ關スル公文ノ交換ヲ了シタル次第ハ關會往電第二〇二号所報ノ通りニシテ右交換公文ノ内容ハ一月十五日付機

次テ特別會議暫行措置ニ關スル委員會分科会(同年十一月十七日)ニ於ケル討議中日本代表ハ左ノ趣旨ヲ陳述致候。

「日本カ關稅率問題ニ關スル支那ノ國民的希望ヲ實現セシムル為同國ヲ援助スルノ用意アルコトハ日本代表ノ屢次宣明シタル所ナリ。而シテ之ト同時ニ日本ハ其ノ支那トノ間ニ有スル重要特殊ナル通商關係ニ顧ミ日支兩國ノ經濟的利益ヲ擁護スルノ極メテ緊要ナルコトヲ感ス。是吾人カ嚮ニ陳述シタル如ク協定税率締結ノ提議ヲ為シタル所以ナリ。

日本代表ハ右協定カ日本ニ採リ新事態ニ応スヘキ一手段トシテ最緊切ナリト思惟ス。仍テ支那代表ニ於テ日本ト協定税率ニ關スル協定ヲ締結スルノ用意アル旨ヲ宣明セラルヘキヤヲ質問セムト欲ス。」

右ニ對シ貴國代表ハ關稅定率條例第五條及前記日米各提案ニ對スル貴國代表意見書ノ一節ニ言及シ支那ハ日本又ハ其ノ他互惠協定税率ヲ協定セムト欲スル國ト右協定締結ニ応スルノ用意アル旨ヲ言明セラレ候。

仍テ本使ハ日支兩國ノ特種の經濟關係ヲ一層緊密ナラシメ且兩國ノ親善友誼ヲ益々敦厚ナラシムル目的ヲ以テ目下

關稅會議ノ為ニ派遣セラレタル多数ノ我専門委員滞在中ノ機會ニ於テ貴國國定關稅定率實施ノトキニ適用セラルヘキ關稅率ニ關スル互惠の協定締結ノ商議ヲ日支兩國間ニ開始セムコトヲ茲ニ本國政府ノ訓令ニ依リ貴國政府ニ提議スルノ光榮ヲ有シ候。

右照會得貴意候。 敬具。

大正十五年一月十九日

日本帝國特命全權公使 芳沢 謙吉

支那共和國外交總長 王 正廷殿

(付屬書二)

一月二十七日付王外交總長ヨリ在中國芳沢公使宛公文昭字第
十三号写

協定稅率ノ商議開始方應諾ノ旨回答ノ件

照會昭字第十三号

外交總長王為

照復事准

貴公使照稱目下開會中之中國關稅特別會議關於暫行弁法之委員會第二次會議(十一月十三日)席上
貴國代表曾提出對於日美兩國各提案之一般意見書內提及關於關稅率之互惠條約問題陳述如左

關於互惠條約一事查關稅定率條例第五條載稱關於某種貨物之進口稅倘与某國有依互惠條件之協定時此等貨物之稅率應照該協定課之等語故無論何國在暫行期間或其時間以後均能与我政府商議互惠協定問題固無疑義倘自今日起至一九二八年期間訂成互惠協定則該協定自可与關稅定率條例同時實施

嗣在特別會議關於暫行弁法之分股委員會(十一月十七日)席上日本代表陳述如左

日本為使中國對於關稅問題之國民的希望實現起見甘欲援助中國是為日本代表屢所聲明者而同時日本鑒於中日間重要而特殊之通商關係以為擁護兩國之經濟利益極為緊要此所以如前所述吾人提議商訂協定稅率也日本代表以為此項協定在日本為應新情狀之一手段最為緊切故欲詢中國代表是否將聲明中國有準備与日本商訂關於協定稅率之協定旋貴國代表提及關稅定率條例第五條以及上述對於日美各提案貴國代表意見書之一段言明中國有準備与日本或其他欲訂互惠協定稅率之國締結該協定等語

因此本公使為使中日兩國之特種經濟關係更加緊密並使兩國之親善友誼益臻敦睦起見茲遵本國政府訓令提議乘現為關稅

會議所派之多数本國專門委員逗留本京之機會由中日兩國開始商訂實施中國國定稅則時應適用之關於稅率之互惠協定等因業經閱悉本國政府為使
貴我兩國經濟互相通惠起見對於
貴公使前項之提議可予贊同及早由雙方酌定各該國之特種貨品俾
貴我兩國共同享受互惠之利益並由雙方商訂實行期間藉以庇兩國經濟上需要之隨時變遷諒
貴公使必予贊同也相應照復
貴公使查照須至照復者

右 照 會

大日本國欽命駐華全權公使芳沢

中華民國十五年一月二十七日

六九五 二月一日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

付加稅ニ關スル我方ノ方針ヲ速ヤカニ決定シ

局面打開ヲ計ルコト緊要ナル旨意見具申ノ件

關會第二〇七号 (至急 極秘) (二月二日接受)

(一)支那側ニ於テ付加稅率問題ノ決定ヲ急キツツアル事情ハ

六 北京關稅特別會議關係 六九五

篤御推知ノ通ナル處支那側ハ頻リニ會議促進ノ必要ヲ痛感スル旨ヲ声言シ關會往電第二〇六号所報ノ專門家會議ヲ明二日ニ更ニ繼續シタキ旨通告シ來レリ然ルニ右ハ仮令表面專門家ノ私の會合ナリト云フモ三十日ノ同會議ノ經過ニ依リ大体御推知ノ通各國專門家ハ何レモ自國ノ立場ニ依リ具體的意見ヲ表明シ結局帝國政府ニ於テ最終的方針決定前付加稅問題ニ付會議一般ノ空氣ヲ作り上クルノ狀勢ヲ誘致スルコトナリ我方ニ取リ甚シク不利益ナル展開ヲ見ルコト無キヤヲ恐レタルニ付右專門家ノ會合ハ差当リ延期方ヲ申入レ兎ニ角此ノ種會合ニ依ル根本問題ノ決定急進ヲ防止スルコトシタキ所存ナリ

(二)尤モ幸ニ前記專門家會議ニ依ル事實的進行ヲ防止シ得ヘシトスルモ稅率其ノ他ノ問題ニ關シ各國トノ間ニ非公式ニ意見ノ交換進行セラルルハ如何トモシ難ク又大イニ其ノ懸念無キニ非サル現狀ニ付一方外國側殊ニ先ツ米英側ヲシテ更ニ進ンテ我カ主張ニ同意セシムル手段ヲ講スヘキノ處実ハ何分ニモ關會往電第一八六号稟申ニ對スル政府ノ御意向大体ニテモ御垂示ニ接スル迄ハ當方トシテハ吾意見ヲ十分ニ主張シ難キハ申迄モ無キ次第ナルニ付テ

ハ前記稟申ニ対シ何分ノ儀至急御回訓ヲ煩シ度ク將又佐分利帰來ノ見込ニ対シテモ何分ノ儀承知致シ度シ

(三)尚支那側ニ於テ昨今ノ焦リ氣味ナルハ前記ノ通ナルカ一方支那側ニ於テハ日本内閣ノ變動ニ伴ヒ関稅會議中止説モ相当日本側内部ニ擡頭スヘシトノ風説ヲ耳ニシ引テ吾方現下ノ態度ニ付支那側一流ノ猜疑心ヲ以テ憶測シ始メタル模様無キニ非サルノミナラス支那政情ノ為メ一層速ニ何等カノ結果ヲ得ンカ為メ焦慮シツツ在ルニ非サヤト察セラルル節有リ又他方外国側ニ於テモ會議ノ停頓ニ対スル一種ノ倦怠ヨリ軋シテ相当ノ程度ニテ一氣呵成ニ會議ノ進捗ヲ期セントスル空氣相當濃厚ニテソノ間支那側ノ思惑ト共鳴スル点無キニ非ス旁一般ニ日本ノ態度ニ対シ内心満足ヲ表シ居ラサル現状ニ付コノ際吾方ノ方針ヲ速ニ決定シ局面打開ヲ計ル事極テ喫緊事ト信セラルルニ付ソノ辺篤ト御考勘ノ上御配慮有ラン事ヲ希望ス

六九六 二月二日(着) 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中国側ガ専門家會議ノ延期ニ同意シタル件

関会第二〇九号

最終案大綱決定次第返電方稟請ノ件

関会第二一二号(極秘) (二月六日接受)

往電関会第二〇七号ニ関シ

爾來引續キ支那其他外国側ト折角接触ニ努メツツアル処先方ニ於テハ何レモ會議ノ促進ヲ希望シ日本ノ方針ハ佐分利着京後一週間ノ今日何トカ極リ居ル事ト推察シ且日本ヨリノ新聞電報ニ刺戟セラレ我方ノ説明ニ拘ラス益焦心氣味トナリ王正廷ノ如キハ連日使ヲ以テ我方來電ノ有無ヲ問ヒ「ストローン」ノ如キモ速ニ會議ヲ進ムルノ必要ヲ力説シ居ル次第ナリ右様ノ次第ニテ自然我方ヲ差置キ非公式ニ談合ヲ進ムルノ恐レ無キニ非ス時日ヲ遷延スルニ伴ヒ益不利益トナルノ形勢ニアリ就テハ關稅增收總額及其他ノ諸問題ニ対スル我方最後案大綱ニテモ御決定次第御返電アリタク又佐分利ハ諸般ノ事情ニ依リ可成旧年関迄ニ歸燕出來得ル様此上トモ御配慮アリタシ

六九八 二月五日 幣原外務大臣ヨリ
在北京關稅特別會議帝國代表宛(電報)

佐分利委員北京到着マデ審議深入セザルヨウ

訓令ノ件

六 北京關稅特別會議關係 六九八 六九九

往電関会第二〇七号(一)ノ末段ニ関シ

一日芳沢蔡廷幹ニ会见日本側ハ支那側ノ九千六百万円ニハ応シ難キ立場ニ在リテ日本ノ重ヲ置クハ二分五厘ノ普通品ノ品目ヲ多クスルコトナルニ拘ラス支那側案ニ右品目少キハ我方ノ満足セサル処ナルカ日本ハ目下折角態度ヲ決定スヘク努力中ナルニ拘ラス支那側ニ於テ昨今急キ専門家ノ会合ヲ開クハ如何ナル事情ニ依ルモノナリヤ或ハ英米其他ノ外国側ヨリ依頼ノ結果ナリヤト尋ネタルニ蔡ハ外国側ノ依頼ハ絶対ニナキモ右ハ支那側委員カ焦リテ此種ノ会合ヲ開クコトナリタルモノナリト答ヘタルニ付芳沢ハ日本側ハ私案ヲ有スレトモ貴方ニ於テハ政府ノ決定案ヲ予期シ居ルモノナル可ク從テ右我方私案ヲ以テ商議スルコトスルモ貴方ハ真面目ニ協議スル氣ニモナラサル可シト述ヘタルニ蔡ハ公使ノ謂ハルコトモ尤ナルニ付顏惠慶及王正廷ト協議シ兎ニ角明日ハ會議ヲ開カス当分延期スルコトトスヘキ旨答ヘタリ

六九七 二月五日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

關稅增收總額及ビ其ノ他諸問題ニ対スル我方

関会第六七号

貴電関会第二〇七号(二)ニ関シ

内閣更迭等ノ為佐分利持歸リノ案ニ対スル我方針決定方段々遅レ居ル処同官ハ夫人同伴堀内帯同七日午後癸十二日午後貴地着ノ予定ナリ同官着燕ノ上今後ノ政府ノ方針並底意等懇談スヘク從テ申迄モナク非公式会合等ニ於テモ此ノ上深入セサル様御配慮アリタシ

六九九 二月十三日(着) 在英国松井大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中国問題ニ関スル英外相トノ懇談ニツキ報告

ノ件

第二九号

十日外相ト支那問題ニ付懇談ス外相本使ノ問ニ対シ十日外相力議會ニ於テ答ヘタル要領ヲ述ヘタル後(此分ハ新聞電報ニ譲ル)往電第一一号「ウエルズリー」談ト大体同様ノ談話ヲ為シタルカ要趣左ノ通

(一)本使ヨリ最近新聞ヲ見ルニ南支方面關係英国商人ヨリ頻リニ英国政府ニ強硬手段ヲ取ランコトヲ迫リ居ル模様ナルカ一体如何ニスヘシトノコトナルヤト尋ネタルニ外相

ハ彼ニモ会ヒ意見モ聞キタルモ単ニ強硬手段ト云フノミニテ確タル考ヘナシ英國トシテハ拳ヲ振り上ケ之ヲ打下サルカ如キ不体裁ノコトハ出来ス当惑シ居ル次第ナリト述ヘタリ

(二) 本使ヨリ關稅會議ハ列國ニ支那問題研究ノ機會ヲ供シダイニ有益ナルモ其議決セルコト因果シテ実行セラレ得ルヤ否ヤ大イニ危惧セラルト述ヘタルニ外相ハ大イニ同感ノ意ヲ表シタル後本會議ノ結果中央ニ金集ラハ其争奪起リ又地方ニ金ヲ遣ラサレハ稅關差押ヘノ如キコト起リ却テ支那ノ内乱ヲ助長スル結果ト成ラサルヤヲ恐ル殊ニ稅關差押ヘ等ノ為其組織ノ根底ヲ破壞スルカ如キコト有ラハ由々シキ大事ニシテ事此処ニ至ラハ英モ之ヲ黙過スルヲ得サルヘク日本トテモ御同感ナルヘシト云ヘリ本使ハ華府會議ノ際稅關員關稅收入保管等ノコトニ關シ希望記録ニ止メタルコトアルカ目下北京關稅會議ニ於テ之ノ点迄討議スル運ヒニ至リ居ルヤ承知セスト当ラス觸ラスノ応答ヲ為シタルカ外相ハ尚日本ニテ考慮シ居ラルルコト有ラハ何ナリト申出テ有リ度ク英政府ハ喜ンテ考慮ヲ加フヘク支那ノ問題ニ付テハ利害關係最モ密接ナル兩國

那ノ海外ニ於ケル信用ハ忽チ地ニ墜ツルニ至ル可ケレハナリト述ヘタルニ「ラ」ハ大イニ歡喜ノ情ヲ示セリ
本使ハ支那稅關組織ニ關シ目下政府ニ於テ如何ナル御考案ヲ有セラルルヤ不明ニ付應ト当ラス觸ラスニ答ヘタル次第也

七〇一 二月十三日 幣原外務大臣ヨリ
在北京關稅特別會議帝國代表宛 (電報)

關稅會議ニ對スル方針訓令ノ件

關會第七〇号

往電關會第六七号關稅會議諸問題ニ對スル今後ノ方針ニ關シ

佐分利携行ノ差等稅率案ハ原則トシテ一九二八年末迄ノ過渡期間ニ適用スヘキ稅率ニシテ長クトモ二年半而テ批准等ノ關係ニテ實施遲延ノ場合ニハ僅カニ一、二年ノ間適用ヲ見ルヘキモノナルヘキ処同案ハ(1) 暫定稅率ニ關スル華府條約規定ノ根本的變更ヲ意味シ且(2) 綿糸布等低率ニ屬スルモノヲ除ク他ノ品目ニ對シテハ二分五厘ノ場合ニ比シ新ナル

ニテ善ク話合フ必要有リト云ヘリ

(三) 外相ハ露國ハ昔ハ併吞主義今ハ排外煽動ヲ事トシ何ヲ仕出カスヤ分ラス深甚ノ注意ヲ以テ監視ヲ要スト述ヘタリ

七〇〇 二月十三日(着) 在英國松井大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中国ノ稅關組織ニ關スル林大使ト英國外務省

員トノ談話ニ關スル件

第三〇号

往電第二九号ニ關シ

「チエ」外相ノ談第二ノ下段ハ林大使ト當國外務省員「ラムソン」(中央部長ニシテ一時支那關係事務担当ヲ命セラレ居ル)トカ内々個人トシテノ會話ニ關連スルモノカトモ思ハル其ノ次第ハ一月二十七日付機密第五〇号往信ニテ報告シタルカ之ニ關スル要点ハ左ノ通

林大使ハ「ラ」ニ對シ將來稅關ノ組織ハ日英米ノ外仏ヲ加ヘタル會議制ト為ス事最モ公平ナランモ右ハ列國共同管理ノ觀ヲ呈シ支那側ハ好マサル可シ今本使一個ノ見解ヲ忌憚ナク云ヘハ當分ノ間現狀維持論ヲ寧ロ支持ス可シ蓋シ現在ノ制度ヲ廢シ之ヲ純然タル支那ノ支配下ニ置クニ於テハ支

重大負擔タルコト疑ナク尚(3) 本案ハ其ノ形式上協定稅率ニ類似スルノミナラス實質上華府條約ノ暫定稅率以上ノ讓歩ヲ意味スルモノナル処日支協定稅率交渉ノ場合ニハ各國間ニ共通ノ暫定稅率ノ場合ニ比シ我方ニ於テ多少ト雖モ特殊ノ好意ヲ表セサルヘカラサルハ當然ナルヲ以テ一旦華府條約暫定稅率以上ノ暫定稅率ヲ承認スルトキハ右協定稅率ノ交渉ニ當リ華府暫定稅率ヲ基礎トシテ之ヲ交渉スル場合ニ比シヨリ多クノ讓歩ヲ為ササルヘカラサル立場トナル虞ナシトセス

從テ我方トシテハ右華府暫定稅率ヲ採用セスシテ本件差等稅率案ヲ承認スルニ付テハ之カ理由ヲ十分明ニスルニ非サレハ國民一般ノ認識ヲ得難キノミナラス關係各省側ニ對スル説明會議關係乃至御批准問題等ニ關シ極メテ苦境ニ立タルヘカラサル次第ナル処關稅會議ノ今日ニ至ル迄ノ成行ニ徴スルニ乍遺憾右ニ對スル地步明瞭ナリト云フヲ得ス從テ此ノ際我方トシテハ本件暫行差等稅率案承認ノ先決問題トシテ又ハ少クトモ之ト併行シテ右承認ノ原因タル支那側要求額ノ支途ヲ明瞭ニシ其ノ必要ノ限度ヲ超ヘサルコトヲ詳ニシ且右承認ニ伴フ貿易上ノ打撃緩和(例ハ生産稅ノ設

置不当課税ノ匡正等）ニ遺漏ナキヲ期スルト共ニ債權整理、保管銀行並ニ税関制度問題等ニ関シ我方ニ有利ナル解決ヲ期待セサルヲ得ス殊ニ協定税率問題ニ付大体ノ見据ヲ付クルコト絶對ニ必要ナリト思考シ居ル次第ナリ就テハ右ノ次第御含ノ上我目的達成方此上其御努力相成度尤モ当方トシテハ前記国内各方面トノ關係ニモ顧ミ右暫行差等税率案ヲ支那側其ノ他ニ正式発表ノ場合ニハ叙上諸問題進捗ノ程度等ヲ考慮ニ容レ慎重考究ヲ遂ケ度意向ナルニ付右正式発表ニ先チ一応請訓アリ度シ

尚現存税関制度ノ運用ヲ中心トスル英國側釐金補償税案並支途ニ関スル英國案殊ニ鐵道整理案ハ其ノ影響極メテ重大ナルニ顧ミ我方ノ到底其ノ儘承認シ難キ所ニシテ当方研究ノ結果ハ一兩日中郵報スヘキニ付委細右ニテ御承知アリ度シ

七〇二 二月十六日 幣原外務大臣ヨリ
在英國松井大使宛（電報）

海關並ビニ保管銀行問題ニ關スル我方ノ方針

ニ關スル件

第二六号

姿ナルノミナラス之迄ノ成績ヲ見ルモ漸ク自主權ノ事ヲ決シ得タルノミ此分ニテハ會議ハ今後三年モカカルヘシト笑ヒナカラ述ヘタルニ付本使ハサレハトテ停止ヲ提議スルモノモナカルヘシト答ヘタルニ「ウ」ハ然リ英國政府モ其ハ為シ得スト述ヘタリ

(二)「ウ」ハ日本ハ不確實債權整理ニ重キヲ置クモ之ハ華府條約ヨリ見レハ會議ノ範圍外ナリト述ヘタルニ付本使ハ華府條約ノコトハ今能ク記憶セサルモ華府會議ノ際モ其話ハアリタルヤニ記憶ス單ニ支那ノ收入ヲ増スノミニテ其使用方法ヲ支那ノ自由ニ委スルニ於テハ濫費ヲ助長シ益々財政ヲ紊亂セシメ支那ノ為ニモナラサルニ付之ハ当然ノ事ナラスヤト答ヘタルニ「ウ」ハ一般論トシテハ其通ナルカ華府條約ノ正面ノ解釈ヨリ云ヘハ前述ノ如シト云ヘリ

(三)「ウ」ハ數日前ノ報告ニ拠レハ支那側カ広東税関ヲ差押ヘントスル氣配アリ事実トナラハ容易ナラサルコトナルモ適當ノ策無キニ困惑シ居ル旨ヲ述ヘタルニ付本使ハ往電第二九号「チャンバレン」トノ談話ヲ引キ一部英人ノ所謂強硬手段ナルモノモ具體的ニ云ヘハ何等纏リタルモ

貴電第二九号(二)ニ關シ

税関組織並ニ保管制度問題ニ關スル我方ノ方針ハ客年十月十六日付拙信並一機密（極秘）合第三八二号帝國政府一般方針（該方針第一ノ二ノ(二)及同別紙甲号第一ノ(四)尚ホ予テ送付シ置キタル亜細亞局調書關稅會議參考資料第五輯及第十六輯参照）ニ依リ御承知ノ通り税率引上ノ條件トシテ是非共其ノ改善ヲナサシメ度意向ニ有之何レ會議ノ形勢ヲ見計ヒ之ヲ提案スル考ナリ就テハ貴電第三〇号ノ次第ニモ顧ミ本件ニ限ラス右一般方針ハ林大使ニモ内談シ置カレタシ

編註 『日本外交文書大正十四年第二冊下卷』一二四文書
(一〇七二頁) 参照

七〇三 二月十九日(着) 在英國松井大使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

關稅會議及ビ中國問題ニ關スルウェルズリー
トノ會談ニツキ報告ノ件

第三七号

十八日「ウェルズリー」ヲ往訪セルニ

(一)「ウ」ハ支那ハ殆ト無政府ノ狀態ニテ關稅會議モ休會ノ

ノナク又軍艦派遣位ニテハ昔ト違ヒ今ハ余リ効能ナカルヘシ日本ニテハ滿州ニハ緊切ノ利害關係アリ形勢切迫シタル故出兵モシタルモ之ハヨクヨクノコトナリ最後迄ハスルコトハ出来難シト述ヘタルニ「ウ」ハ肯キ英國トシテモ最後ニ至ラサレハ之ヲ執ラスト云ヘリ

七〇四 二月二十一日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

華府條約第三条ノ暫行税率實施時期ニ關スル
件

關會第二二四号（至急）

往電關會第二二一号華府條約第三条ノ暫行税率實施ニ關スル決定ヲ今回會議ニ於テ審議ノ税率全般ニ關スル條約ト合併スル時ハ華府税率ハ華府條約ノ規定ニ拘ラス今回成立スヘキ條約ノ實施期ニ至ル迄何等徵收スルヲ得サル次第ナル所右ハ支那側ノ大ニ苦痛トスル所ニシテ他ノ列國モ可成速ニ華府税率ノ實施ヲ切望シ二十日ノ分科會ノ空氣ハ本問題ニ關スル決議後二ヶ月ニシテ右徵收ヲ許ス事トシ同時ニ其ノ徵收額ハ然ル可キ方法ニテ積立テ置キ其用途ハ會議ニ於テ決定スヘキ案又ハ會議ニ於テ締結スヘキ條約ノ規定スル

目的ニ之ヲ充當スル趣旨ナルカ本件ニ付テハ當方ハ會議ニ於ケル諸問題ニ關連シ其用途條件等ニ付慎重ニ考慮シ我方ニ有利ニ導ク考ヘナルカ本件決議ハ果シテ樞密院ノ諮詢ヲ要スル次第ナリヤ若シ然ラハ當方ニ於テハ「ad reference」ニテ決議ニ加ル可クマタ右課稅實施期其他ニ關シ何等御考ヘアラハ至急御回電アリタシ

幣原外務大臣ヨリ

七〇五 二月二十五日

在北京關稅特別會議帝國代表宛
(電報)

華府條約附加稅實施決議案ニ關シ訓令ノ件

關會第七四号

貴電關會第二二四号ニ關シ法理ト實際ノ両面ヨリ慎重考慮ノ要アリト思考セラル

一、往電關會第二〇号ノ次第ハアルモ華府條約第三條第一項後段ノ規定ハ暫行附加稅實施ノ期日及目的條件ノ決定ヲ特別會議ニ委任シタルモノトモ見ルヲ得ヘク從テ之等三点ヲ同時ニ決定スル場合ハ論無キモ貴電ノ如ク目的條件ヲ後日ニ留保スル場合ハ華府條約規定ノ精神ト異ルトノ論ヲ生スヘク從テ本案ノ形式ニ依リ予メ主義上實施期日ヲ決定シ置クコト止ムヲ得ストスルモ但書ヲ以テ右期

ナル保障ヲ取付クル為前掲(イ)ノ條件ヲ付シ置クノ必要アリ

三、本案ニ依リ用途決定迄ノ増徴金ヲ海關ニ保管スルコトヲ認ムルニ於テハ從來ノ例ニ拠リ独リ香上銀行ニ預金セラルヘク或ハ保管銀行制度現狀維持ノ既成事實ヲ作ルノ虞アルニ付此ノ際公平ニ各國銀行ニ分轄保管ノ問題ヲ提起セラレタシ

四、二分五厘増徴ヲ暫定差等稅率ト切離シ決定スルコトハ我提案即チ二分五厘増徴大部分ヲ占ムルノ差等稅率案ヲ通過セシムルニ困難ヲ來サルカ申ス迄モナク夙ニ此ノ點考慮セラレ居ルヘキモ為念

五、Note B 記載ノ Item ハ貴信關會第一三九号差等稅率案ヲ謂フモノト考フル処C級中ニハ往電關會第五〇号其他奢侈品ニ對スル我方当初ノ方針ト容レサルモノ多數アルノミナラス我方差等稅率案主張ニモ障害ヲ及ホスモノアルニ付前記我方針ニ扞格スル物品ヲ精々削除セラレタシ

七〇六 三月一日

在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

間内ニ目的條件確定セサルトキハ其ノ確定ノ日ヨリ實施スルコト最合理的且實際的ナリト思考ス就テハ右ニ精々御努力アリタシ但シ日本独リ列國ノ同意セルモノヲ拒否セムトスル意思ナキヲ以テ万止ムヲ得サル場合ニハ左ノ二條件ヲ付シテ本案ニ同意セラレ差支ナシ

(イ)目的條件決定迄増徴額ハ之ヲ別途保管シ右收入ヲ引當トシテ借款ノ担保設定等他ニ流用ヲ許ササルコト

(ロ)万一右目的條件ニ付何等ノ決定ニ達シ難キコト明瞭トナリタル場合ニハ之ヲ納入者ニ払戻スヘキコト將又決議ノ形式ニヨルコト差支ナキモ我方トシテハ一應樞密院ノ諮詢ヲ要スルニ付 ad referendum ニテ同意セラレタシ

二、支那ノ政局又々動搖ノ徵アルハ在支公使發本大臣宛電報第九二号ノ通りナルカ支那當局カ從來ノ態度ニ反シ此ノ際殊更ニ二分五厘徴收ノ速行ヲ希望スルハ実ハ之ヲ引當ニ資金調達ヲ計ルコトアルヘシトモ思考セラレ九六公債及最近年關切拔借款計畫ノ例モアルニ付會議ニ於テ右増收ノ支途ヲ決定スルニ先タチ支那カ恣ニ其ノ増收ヲ新公債ノ担保ニ供スルコトヲ得サルコトヲ支那側ヨリ明確

協定稅率ノ商議促進ノタメ我方委員ノ氏名
等ヲ付シ外交部ニ申入レノ件

關會第二二三二号

(三月二日接受)

協定稅率ニ關スル商議促進方ニ付テ外交部當局ト懇談ヲ重ネツツアル所不取敢二十六日付公文ヲ以テ佐分利ヲ我方委員トシテ關稅會議專門委員及書記官ヲ隨時補佐員トシテ出席セシムルコトニ決定シタルニ付支那側委員ノ氏名會議ノ場所及期日通報アリタキ旨申入レタリ右ニ對シ支那側ヨリ回答ニ接シ次第商議ヲ開始スルコトスル所存ナリ

七〇七 三月五日(着)

在大阪對中國雜貨貿易業者大會
ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

關稅特別會議ニ對スル要望ニ關スル件

同文二
支那關稅會議ニ關シ本日大阪商業會議所ニ於テ本大會ヲ開キ一、暫行附加稅率中雜貨ニ對スル高率課稅ニ反對ス一、互惠協定稅中ニ雜貨類ヲ加フル事ノ二項ヲ決議ス宜敷ク御配慮ヲ請フ

七〇八 三月十二日

在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

六 北京關稅特別會議關係 七〇八

差等稅率表日英米三國共同案ヲ基礎トシ暫行
稅率問題ニ關シ審議スベキ旨各國代表ニ招請
發出ノ件

關會第二三九号

(三月十三日接受)

(一) 差等稅率表問題ニ關シテハ佐分利歸燕ト共ニ本省ニ於ケル打合ノ基礎ニ供シタル案ニ依リ東京ニテ得タル當業者ノ意向ヲ參酌シ支那側提案ニ對シ必要ナル修正ヲ加ヘテ二月十六日我方具體案ノ作成ヲ了シ之ヲ基礎トシ我方專門委員ヲシテ引續キ英米委員トノ間ニ充分ノ協議ヲ行ハシメ去ル十日日英米三國共同案ヲ作成シ三國委員共同通牒ヲ以テ支那以外ノ會議參列國全部ニ之ヲ送致スルト共ニ來ル十五日(月)英國公使館ニ於テ右三國共同案ヲ基礎トシテ支那以外ノ各國間ニ暫行稅率問題ニ關シ一般の審議ヲ行フヘキ旨ヲ以テ各國全權ニ招請ヲ發シタリ

(二) 右三國共同案ト本省打合ノ案トノ關係ハ別電關會第二四〇号ノ如ク大体ニ於テ右打合案ニ近キモノニシテ全体ヲ(a) 附加稅二割二分五厘(b) 一割七分五厘(c) 一割二分五厘(d) 一割(e) 七分五厘(f) 五分(g) 二分五厘ノ七級ニ分チ各級ノ輸入額及其有稅品總輸入額ニ對スル割合ハ a、五千二百萬元ヲ超過スル七十八萬元ノ增收ノ範圍内ニテ其ノ希望ニ応シ得ル場合ニハ右ニ決定(ノ上カ) 支那側ニ提出シテ差等稅率表ヲ確定スル予定ナリ而シテ右共同案ハ本省打合ノ基礎案ニ比シ多少ノ變更アルモ一方我對支貿易ノ保護ニ努ムルト共ニ他方英米ノ希望ヲ參酌シテ少ナカラサル困難ノ後漸ク三國間ノ意向ヲ纏メタルモノニ之レアリ大体之レニテ纏ムルコトト致シ度キニ付右ニ御含ミ置キヲ請フ尤モ他ノ關係國側ニ於テ右ノ減少以上ニ多大ナル變更ヲ要求シ之ニ応スルカ如キ場合ニハ更ニ電稟スヘシ

七〇九 三月十二日

幣原外務大臣ヨリ
在北京關稅特別會議帝國代表宛

中国ニ於ケル生産稅賦課ニ關スル當業者ノ意

見申進ノ件

關會機密第一八号

大正十五年三月十二日

外務大臣男爵

幣原 喜重郎

在北京

會議代表宛

支那ニ於ケル生産稅賦課ニ關スル件

六 北京關稅特別會議關係 七〇九

七四〇

元(四「パーセント」) b、七千九百萬元(六・一「パーセント」) c、六千一百萬元(四・七「パーセント」) d、七千五百萬元(五・七「パーセント」) e、三億三千五百萬元(二五・八「パーセント」) f、二億九千六百萬萬元(二二・七「パーセント」) g、四億三百萬元(三一・〇「パーセント」) 增收額九千七十八萬六千元トナリ又本邦品ノ価額及其ノ本邦有稅品總輸入額ニ對スル割合ハ a 級二百五十萬元(〇・七「パーセント」) b 級一千二百六十萬元(三・六「パーセント」) c 級七百萬萬元(一・二「パーセント」) d 級四百萬元(一・二「パーセント」) e 級五千七百萬萬元(二六・三「パーセント」) f 級六千七百萬萬元(一九・一「パーセント」) g 級一億九千八百萬元(五七・〇「パーセント」) トナリ本邦品ノ負擔增加額ハ全体九千七十八萬元ニ對シ約一千六百六十萬元トナリ又附加稅率ノ平均從価割合ハ全体ニテ六・九八「パーセント」ニ對シ本邦品ニ付テハ四・七八「パーセント」トナル

(三) 而シテ右三國共同案ニ對シテハ其ノ他ノ關係國ヨリ自國關係品ニ付多少ノ引下方申出ツヘキモ大体ニ於テ九千萬

先般齋藤通商局長代理ヲ阪神地方ニ出張セシメ大阪ニ於ケル綿糸布當業者ト會談セシメタル処支那ニ於テ工場ヲ經營セルモノハ本件ニ關シ別紙在華日本紡績同業會意見書ト同様ノ意見ヲ具陳シタル趣ナルカ同局長代理ノ感想ニ依レハ是等支那内地ニ於テ工場ヲ有サルモノト雖必スシモ右意見書ノ通本件賦課ニ全然反對ナル次第第二ハ非ルモノノ如ク而シテ一方支那ニ工場ヲ有セサルモノハ何レモ本件賦課ニツキ大体反對ノ意見ヲ有セサルモ唯前記意見書記載(四)ニ付テハ支那ニ工場ヲ有セサルモノト同一意見ニテ從テ他國ノ提議アリタルトキハ我方ニ於テ之ニ贊同スルコト望マシキモ我方ヨリ他國ニ率先シテ本件賦課ヲ提議スルコトハ望マシカラストノ意向ヲ有シ居ル趣ナリ以上貴官御參考迄申進ス(別紙)

大正十五年三月二日

大阪市西区江戸堀南通一丁目

在華日本紡績同業會委員長 谷口 房藏

外務省通商局長代理 齋藤 良衛殿

拜啓愈御清祥奉賀候陳者過日御出張ノ節御諮問相成候支那内地生産稅ノ儀ニ付テハ其節纏々具申仕置候処万一生産稅

七四一

ノ賦課力実現スル場合ニ立至リ候ヘハ其歩合如何ニヨリ直ニ在華日本紡績業ノ致命傷トモ相成可申會員一同頗ル憂慮罷在候次第事情御賢察ノ上可然御配慮被成下度候別紙ハ過日ノ陳情ト重復ノ嫌有之候ヘ共取纏メ当会所見トシテ御手許差出候間何卒御高覽被下度願上候

(別紙)

支那国内生産税ニ対スル所見

在華日本紡績同業会

支那国内生産税ニ就テ

支那關稅會議ニ於テ同国政府ノ希望スル增收額ヲ全部關稅ノミニ抛ラントスルハ極メテ不合理ニシテ其一部ハ支那国内稅ニヨリ補充スヘシトノ説ハ相当根拠アル議論トシテ固ヨリ排斥スヘキニハ非ルモ之ヲ生産税ニ求メントスルハ頗ル愚策タルヲ免レス之レカ為直接国内工業ノ發達ヲ阻害スルハ勿論其稅法ヲ制定スルニ当リ大工業ト小工業原料加工々業ト精製品工業トノ關係等之レカ公平ヲ期スルニハ頗ル複雑ナル手續ヲ要シ随テ其間弊害モ起リ易ク我國織物消費稅ニツキ我商工業者カ經驗シタル点ヨリ見ルモ實施上種々ノ困難ヲ伴フ事明ナレハ單ニマツケー條約ニ捉ハレ支那国

重クセラルルモ在華日本人紡績ハ其輸入原料ニ対シ等シク二分五厘ノ負担ヲ加ヘラルル外新タニ生産税ヲ課セラルトキハ其負担甚重ク到底堪ヘ能ハサル処ニ御座候近時支那人紡績ハ其數激增シ通州棉漢口棉等所謂支那產棉花ハ多クハ内地ノ紡績ニテ消化セラレ開港地ニ集マルモノハ益減少シ在華日本人紡績ハ原料トシテ過半米印兩棉ヲ使用スル実情ニ候間原棉ノ輸入稅以外ニ生産税ヲ仕払フハ非常ナル苦痛ニ候

三、目下開港地ニ於テ支那政府ニ納稅スルモノハ少額ノ土地稅ノミニシテ同国政府ハ其以外ニ課稅スルノ途ナキ現狀ナルニ今若シ生産税ヲ開港地ヨリ徵收スル端ヲ開カンカ将来アラユル納稅ヲ外人ニ強ユルニ至ルコト明ニ有之外交上重大ナル問題ト被存候王正廷氏カ關稅會議ノ席上列國委員ニ向テ既ニ此事ヲ主張セル事實ニ徴シ決シテ杞憂トシテ輕視スヘキニハ無之候尤モ居留地撤廢ノ議モ或時期ニ於テハ實現スヘキモノナルヘキモ今ヨリ之ヲ考慮ニ加フルコトノ尚早ナルハ申迄モナキ儀ト存候

四、独リ日本人紡績ノミナラス支那ニ在ル凡テノ外国人工業ハ支那ノ現狀ヲ基礎トシテ其經營方針ヲ定メ居ルモノ

内稅ハ生産税ニ限ルモノノ如キ謬見ハ全然放擲シ他ニ適當ナル稅源ヲ詮索スルコトニ努力スヘキモノト信シ候殊ニ在華日本紡績同業会々員ハ支那人紡績業者ト其立場ヲ異ニスル關係上左記ノ点ニ付一層生産税ノ不可ナル事ヲ確信致居候

一、支那ニ完全ナル生産稅法カ制定セラレタリトスルモ之カ實施ニ当リ同国ノ国情ヨリ見テ果シテ全國普遍的ニ公平ニ徵稅セラルル見込アリヤ否疑ナキ能ハス稅法ニヨリ正確ニ賦課セラルルハ居留地又ハ商埠地ニ在ル工場ノミニシテ内地ニ散在スル支那人工場ハ種々ノ手段ヲ以テ当局ト妥協シ稅額ヲ減少シ殆ント有名無実ニ終ラシメ開港地ト奧地トノ同業者ニ不公平ナル負担ヲナサシムル結果我同業会々員ハ奧地支那人紡績業者ニ対シ競争上非常ニ不利益ノ位置ニ置カルル事ト相成可申候現在支那紡績鉦數三百三十万鉦ノ内百三十万鉦ハ日本人紡績ニシテ残り二百万鉦ハ支那人其他ノ經營ニ係リ其内約百万鉦ハ居留地又ハ其付近ニアルモ他ノ百万鉦ハ奧地ニ在リ前記徵稅ノ公平ヲ期シ難キモノニ候

二、外国產綿糸布ハ輸入關稅引上ニ依リ二分五厘ノ負担ヲナレハ之ニ急激ナル變化ヲ与ヘンカ為メニ其基礎ヲ危クスルニ至ル恐アリ之レ當業者ハ勿論支那ノ為ニモ亦不利益タルヲ免レス尤モ時代ノ推移ニヨリ秩序的ノ變化ハ常時止ムナシト雖モ一時ニ生産税ノ如キ巨額ノ負担ヲ課スルコトハ大ニ考ヘサルヘカラス今ヤ在華日本人紡績ノ鉦數ハ一百三十拾万鉦織機七千二百台ニ上リ今後益々増加セントシ其生産已ニ三億円ニ達シ居レハ之ニ對スル生産税ハ其歩合少ナリトモ稅額ハ蓋シ莫大ノ額ニ上ルヘク仮リ二百分ノ一トスルモ年額三百万円ヲ要スヘク候内地製造業者カ所得稅營業稅等年來我政府ニ納稅スル金額ハ不少候ヘ共之ヲ製造高ニ比スレハ其割合ハ百分ノ一乃至二ニ當ルノミニ候然ルニ在華日本人紡績業ハ現在既ニ居留地行政ノ為負担スル費用モ相當ノ額ニ上リ居候上更ニ巨額ノ生産税ヲ賦課セラルルニ至リテハ仮令其幾分ハ需要者ニ轉嫁シ得ル可能性アリトスルモ将来ノ發展上甚シキ障礙ニ有之候

五、支那ノ生産稅法ハ支那ノ国内法タル論ヲ俟タス近時支那人ノ内政干涉ヲ重大視スルコト周知ノ事實ニ御座候生産稅賦課ノ懲憑ハマツケー條約ノ一部ニ属スルモノト言

六 北京關稅特別會議關係 七一〇

ヒ得ヘケレトモ現下支那人ノ風潮ヲ考慮スレハ之レカ提議ハ直ニ列國ニ對スル排外氣分ヲ煽ル恐アルノミナラス發案國ニ對シテハ一層内政干涉ノ攻撃ヲ強クシ延テ排貨罷工等ノ舉ニ出ツルハ明ナル事ニ候

六、近時一部ノ人ニハ邦人ノ支那ニ工業ヲ起スハ資本ノ流出ヲ見ルノミニテ社会政策ニ反スルモノナリトノ説ヲナスモノアルヲ聞クハ頗ル意外トスル処ニ候思フニ總テノ製造工業カ原料ノ供給製品ノ需要ノ状況ヲ參酌シテ有利ノ場所ニ集ルコトハ經濟上ノ通則ニシテ支那ハ原料豐富需要無限ナルニ尚未タ利用セラレサル狀態ニ在レハ歐米諸國ハ支那ニ注目スルコト久シク支那ニ製造工業ヲ起サントシテ經營艱難タルモノ有之候吾人カ彼等ニ先鞭ヲ着ケ支那ノ事業ニ手ヲ染メタル所以ノモノハ此ノ世界的ノ潮流ニ副ヒタルモノニシテハ我國人口増加ノ影響ヲ緩和シハ日華國人ノ經濟的連鎖ヲ固クセントスル微衷ニ外ナラス候以上ノ諸點ヲ考察スルトキハ支那ニ生産稅ヲ設定スルコトハ我國トシテハ是非共之ヲ避ケタキコトト存候希クハ在華紡績業者ノ立場ニ同情セラレ其發達ヲ阻害スル虞アル施設方法ハ總テ除斥セラレンコト切望シテ

七一 三月十八日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

第五回華府附加稅決議案起草委員會ノ狀況報告ノ件

別電 同日在北京關稅特別會議帝國代表發幣原外務大臣宛電報開會第二四五号
中国側修正案

開會第二四四号

(三月十九日接受)

往電開會第二三七号ニ関シ

三月十八日第五回委員會開催出席者前回ト同シ願惠慶ハ日置提案ノ proviso ニ對シテハ前回述ヘタル如ク誤解ヲ招ク惧有ルヲ以テ同意シ難キモ同案ノ予見セル技術上ノ困難ハ考慮ノ必要有ルヲ以テ一ノ修正案ヲ交換セリトテ別電開會第二四五号ヲ披露シ説明セルカ日置ハ日本案ハ既ニ支那ノ外ノ各委員ノ同意ヲ得居リ且支那案ハ直ニ賛同シ難キ点有ル旨ヲ述ヘ英、米其他各委員ハ交々我立場ヲ支持シ支那委員ノ再考ヲ促シタルモ頗ハ之ニ応セス支那側同僚ト相談シタル上若シ更ニ会合ノ必要有ラハ次回日ヲ通告ス可ク若シ然ラサレハ使途其他ノ条件ヲ先ツ決定スルノ外無シトテ稍々棄鉢氣味ノ口吻ヲ漏シタルカ米國委員ハ本決議案ハ

六 北京關稅特別會議關係 七一

已マサル処ニ候

七四四

七一〇 三月十六日

幣原外務大臣ヨリ
在北京關稅特別會議帝國代表宛
(電報)

三国共同差等稅率案及ビ協定稅率問題ノ成行

回電方訓令ノ件

開會第八〇号(至急)

貴電開會第二三九号ニ関シ

貴電開會第二四〇号^(省略)三国共同差等稅率案ニ付テハ此ノ際取急キ關係各省間ノ議ヲ纏メ度意向ニテ既ニ右手配中ナル処本件ニ関シテハ予テ往電開會第七〇号申進メノ次第モ有之本案ニ依ル增收ノ支途及本案承認ニ伴フ貿易上ノ打撃緩和^(省略)方法其他債務整理、保管銀行並ニ稅關制度問題等ニ付テモ可然關係方面トノ協議ヲ進メ居ラルコトト思考ス將又協定稅率問題ニ付テハ貴電開會第二三二号ノ次第ハアルモ新聞電報等ハ王正廷ノ外交總長離任等ニ關連シ稅率協定交渉ノ前途ニ悲觀說ヲ伝ヘ居ル關係モアリ旁々叙上ノ諸點ハ前記關係各省會議ノ際問題トナルヘシト思考セラルルニ付右諸問題其後ノ成行委細折返し回電アリ度シ

出来得ル限り早く附加稅徵收ヲ認メントスルニ在ルヲ以テ寧ロ早く日本案ニ同意スルノ適當ナル事ヲ述ヘ一度各國ノ間ノ同意ヲ見タル決議案並支那側ノ reserve セル點(前文第四項ニ九千万云々ヲ挿入スル事、本文第一項實施期日及同第二項 proviso ノ三点)ヲ読合セテ散會セリ

(別電)

三月十八日在北京關稅特別會議帝國代表發幣原外務大臣宛電
報開會第二四五号
中国側修正案

開會第二四五号

And it is further resolved that the increased customs revenue which will accrue from the leaving of these surtaxes shall temporarily be held free from all encumbrances by the Chinese Maritime Customs Administration, to be employed for such purposes and subject to such conditions as this Special Conference may determine, with the understanding however, that in case this Conference shall not have come to a decision before the ... day of —, 1926, as to the disposal of the fresh revenue produced by these surtaxes, the one-third

七四五

of the said revenue shall be applied towards the abolition of likin, one-third towards the consolidation of inadequately secured domestic and foreign debts, and the remaining one-third towards urgent Administrative expenses.

七一二 三月十八日 幣原外務大臣ヨリ
在北京關稅特別會議帝國代表宛
(電報)

差等税率ニ対スル大阪雜貨商諸団体ノ陳情ニ

關スル件

關会第八三号

大阪雜貨商諸団体代表者來省左記雜貨品ハ大阪ニ於ケル對支貿易品ノ重要ナルモノナルニ付五分程度ノ差等附加税ニ止メラレ度旨並若シ困難ナル場合ハ差等税率ニ依ル増収ニシテ一定額(例ヘハ九千万元)以上ニ達シタル場合其ノ超過額タケ或種品目ニ付差等税率ヲ引下クルコトトシ右諸品ニ対シ五分迄引下ケラルル様努力セラレタキ旨陳情セリ右參考迄電報ス

尚陳情ノ品目ニ關スル對支輸出額等ニ關スル一覽表作成郵送スヘキモ此等雜貨品ノ我對支總輸出額ハ一億円余ニ達ス

ヲ有シ從テ英、米、蘭、「スエーデン」等ヨリ單ニ二、三品目ノ留保ヲ為シタルニ止リ仏國モ写真機、音樂器、自動車等ヲ留保シタル時ハ寧ロ其ノ沒常識ヲ笑フカ如キ氣勢ヲ示シタリ我方ニ於テハ「c」級中ヨリ一四五種品目ノ留保ヲ為シ然モ其ノ中ニハ性質上相当無理ノ物モアリタルニ拘ラス右ノ外往電關会第二三〇号末段掲記ノ如キ品目ヲ追加スルニ於テハ前記我方留保ニ付會議「サポ一ト」ヲ得難シト思ハレタルヲ以テ之カ留保ヲ避ケ且ツ第二回會議ニ於テ往電關会第二二三三号末段二品目 (medicine patent ハ引続キ保留)ノ留保ヲ撤回シタルモノニシテ右ハ支那側ヲシテ我方爾余ノ留保ヲ承認セシムルカ為必要ノ措置ナリシ次第ナリ

(二)而シテ支那側ヲシテ右我方留保品目削除ヲ認メシメ且ツ新ニ右留保ヲ避ケタル品目及貴電關会第七六号ノ品物(同電中刷毛及絹莫大小以外ノ品物ハ奢侈品ニ含マレ居ラス)ヲ合併セテ削除セシムル為我方專門委員及關係諸隨員等ヲシテ蔡廷幹其他支那側担当者ト引続キ直接交渉セシメタル結果漸ク前記留保又ヲ認メシメ得ヘキ見据エ付キタル様ノ次第ニテ新ニ右留保以外ノ品物モ削除セシム

六 北京關稅特別會議關係 七一二

ル趣ナリ

記

(一)「フェルト」製及麦稈帽子(二)莫大小製及綿製肌衣(三)「メリヤス」地(四)護謄製ノ靴、同哺乳器、同靴ノ底(五)刷子(六)袋物(靴、金入等)(七)魔法罐(八)「オルガン」「マンドリン」「ヴィオリン」(九)玩具(十)綿又ハ紙張ノ傘(十一)卓上用鏡(十二)綿毛布(十三)帶子(十四)水牛又ハ貝製鈕(十五)鉛筆及文房具(十六)「セルロイド」製品(十七)石鹼(十八)化粧品(十九)硝子器

七一三 三月二十日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

奢侈品ヨリ削除スベキ品目ノ追加困難ナル事

情報報告ノ件

關会第二四九号

貴電關会第八二号ニ關シ

(一)a、b、cヨリ差支ヘアル品目ヲ削除スルニ至リタルハ初メ支那側ノ「e」級以上ヲ奢侈品トスヘシトノ希望アルニ対シ我方ニ於テ英、米ノ諒解ヲ取付ケタルニ依ルモノナル事御承知ノ通ニシテ右削除方審議ニ際シ各國ニ於テハ大体a、b、c全体ヲ認ムルモ差支ヘナシトノ意向

ル事ハ到底不可能ト思ハル

七一四 三月二十日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

三国共同差等税率案及ビ協定税率問題ニツキ

報告ノ件

關会第二五〇号

貴電關会第八〇号ニ關シ

(三月二十一日接受)

(一)三国共同差等税率案ハ各國ノ間ニ合意成リ次テ支那ノ同意ヲ得テ決定スルモ右ハ單ニ仮ノ決定ニ止マリ増収使途目的並ニ条件等關稅會議ニ於ケル一切ノ問題カ關係諸國ニ依リ一致ヲ見タルトキニ於テ初メテ此等諸問題ト共ニ一律ニ確定スヘキモノニシテ右ハ独リ当方ノミナラス他ノ諸國ニ於テモ全然同方針ナリ而シテ貿易ニ及ホス打擊緩和トシテノ生産税ノ設定ニ付テハ釐金問題ニ關連シ考慮セラレ居リ差シ当リ英國側ニ於テ專ラ支那ト交渉シ居リ保管銀行ニ關シテハ既ニ華府付加税承認決議案起草委員會並ニ和蘭公使館非公式會議ニ於テ我方ヨリ問題ヲ提起シ英國以外ノ國ハ勿論之レカ急速ナル解決ヲ要望シ英國側モ主義上異議ナキ模様ナリ又稅關制度ノ調整ニ付テ

七四七

ハ第三委員會ニ關連シ又ハ其ノ以外ノ機會ニ於テ我方ノ主張ノ達成スル様努力スル積リニシテ既ニ英國委員ニ非公式ニ意見ヲ述ヘ置ケリ

(二)協定稅率問題ニ付テハ佐分利帰燕後王正廷、顏惠慶、蔡廷幹ニ対シ夫々本問題ハ日本ノ最モ重大視セル所ニシテ当初ノ方針ニ何等ノ変更ナキコト從テ總テノ問題ニ対シ我方ニ於テ同意スルト否トハ協定稅率ノ成否ニ係ルノ趣旨ヲ力説シ置キタルカ其ノ後外交部トノ書面往復ニ當リテモ充分王正廷ト協議ヲ為シ居リタル次第ニシテ最近彼カ外交總長ノ職ヲ辭任スルニ際シテモ交渉開始ニ必要ナル準備ハ之ヲ為シ置ケリト隨員ニ内話セリ尚ホ支那側ハ二回程會議ヲ開キ交渉準備ヲ為セル趣ナリ固ヨリ稅率協定ノ問題ハ將來支那政局ノ如何ニ係ルコト多キ次第ナルモ今後外交總長決定次第出來得ル限り速ニ交渉開始方督促スル積リナリ

七二五 三月二十日 幣原外務大臣ヨリ
在北京關稅特別會議帝國代表宛
(電報)

差等稅率案確定及ビ中國側トノ交渉延期方訓
令ノ件

ニスルモノナリ尚本件差等稅率案ハ往電關會第二四〇号ノ如ク多大ノ困難ヲ以テ漸ク認メラレタルモノニテ此際我方ヨリ右一部修正ヲ提議スルニ於テハ各國側ヨリモ修正ヲ申出テ來タル可ク折角纏メタル物ヲ又々根本ヨリ遣リ直ス事トナル可ク其ノ場合ニハ更ニ我方ニ有利ナル案ヲ作ル事到底不可能ナルニ付貴電關會第八五号ノ次第ハアルモ本案御承認方各省ノ議ヲ纏ムル様御尽力ヲ請フ

編註 別電關會第二五三号、同第二五四号省略

七二七 三月二十四日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛

債務整理關係七國代表者第一回非公式會合

經過報告ノ件

關會第一八八号

(四月六日接受)

大正十五年三月二十四日

關稅特別會議帝國代表 日 置 益
同 芳 沢 謙 吉 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

債務整理關係七國代表者第一回非公式

會合經過報告ノ件

六 北京關稅特別會議關係 七二七

關會第八五号(至急)

貴電關會第二四七号末段ハニ關シ差等稅率案ニ就テハ關係各省間會議ニ於テ未タ決定ニ至ラサルノミナラス往電關會第八〇号記載支途其他ノ條件ニ就テ少クトモ大体ノ決定又ハ見込承知スルニ非サレハ稅率案自体ニ直ニ同意シ難シトノ反對論モアリ旁々右案確定支那側トノ正式交渉開始ハ何分ノ儀申進ムル迄延期セラレタシ

七二六 三月二十四日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛 (電報)

差等稅率日英米三国決定案ノ承認方稟請ノ件

關會第二五二号

(三月二十五日接受)

貴電關會第八五号ニ關シ

往電關會第二四七号ハ我方作成ノ drafting ハ別電關會第二五三号ノ通右ハ二十日我方ヨリ英、米ニ説明シ置キタル上二十二日、英、米三国專門委員會會議ニ於テ右我方原案通り決セリ右稅率表ハ別電關會第二五四号「カバリング・ノート」ヲ付シテ日、英、米三国專門委員ヨリ支那側ニ提示スル事ニ申合セ済ナルカ右「ノート」ヲ付スルハ何等支那側ニ対シ「コミット」スル次第ニアラサル事ヲ明ラカ

本件會合經過ノ大要ハ往電關會第二五一号ヲ以テ不取敢報告ニ及ヒ置タル処委細ハ別紙議事要領ニ就キ御了悉相成度右写三部茲ニ送付ス

(別紙)

債務整理關係七國代表者(支那ヲ除ク)第一回
非公式會合議事要領

一、時日 大正十五年三月二十二日午前十一時ヨリ

一、場所 和蘭公使館

一、出席者 支那ヲ除キ前回非公式會合ノ通り(米國ハ

「マクマレー」「ストロイン」両全權出席我方
佐分利委員津島書記官隨行ス)

一、議事

(一)和蘭全權ヨリ前回非公式會合ニ於ケル約ニ基キ顏惠慶ヨリ別紙甲号ノ如キ書翰ニ接シタル旨ヲ述ヘ顔ニ対スル回答振ニ関シ各國側ノ意見ヲ求ムルト共ニ最近政局急變シ財政總長モ辭任セル状態ナレハ非公式會合ニ於テ引續キ債務整理ノ問題ヲ課スヘキヤ否ヤニ付意見交換ヲ行ヒ度キ旨ヲ述フ

(二)「ピール」ハ今十日モスレハ多少政局ノ見据モ付クヘキ

ニ依リ夫レ迄ハ非公式会合ニ於ケル協議ヲ差控ヘ吾人ノ間ニ協議ヲ行フコト可然又顔ノ書翰ニ関シテハ付加税收入ト現在ノ関税收入トヲ區別セムトスル支那側ノ議論ハ採用シ難シ此ノ点ハ米国家案モ同様ナリト述ヘ「ストローン」之ニ同ス

「ピール」ハ又何レニスルモ内債ハ爾余ノ charges ノ後順位タルヘキモノナリト云ヘリ

(三) 芳沢全権ハ政局ハ果シテ何時ニ至ラハ安定スルヤ予測シ難キニ付協議ハ従来通り之ヲ続行スルコトトシ同時ニ顔書翰ノ内容ニ関シテハ同意シ能ハサル旨回答スヘキ旨提議セルニ

白国全権ハ先ツ支那ヲ除キタル各国間ニ腹藏ナキ意見ノ交換ヲ遂ケ妥協案ヲ作成シタル上ニテ支那ヲ加ヘ協議スヘシト唱ヘ仏伊全権之ニ和シタリ

「ピール」ハ右ノ提議ニハ賛成ナルモ今直チニ支那側ト絶縁スルコトハ面白カラス支那側ノ意向ヲ聴クコトモ亦必要ナリト述ヘタリ

(四) 結局明後二十四日(水曜日)ハ支那ヲ除ケル関係国代表者ノミ会合スルコトトシ其後モ此種会合ヲ続行スルト共

電関会第二四五号ノ通明読シタルニ蔡ヨリ右往電中ノ majority ノ文字ニ付質問シタルヲ以テ右ハ本案カ仏国以外全部ノ専門委員ノ同意ヲ得タルモノニシテ仏国側ハ之ニ反対ナラサルモ目下請訓中ニテ手続上同意シ難キ為ナルコト及右ニ同意シタル国ニ於テモ本案ハ単ニ専門委員ノ意見ニ過キサルコト並ニ之カ作成ノ目的ニ付前記ノ趣旨ヲ敷衍説明シ且本案ハ債務整理釐金保障其他會議ニ問題ト為ルヘキ諸種ノ事項ト一併同時ニ決定セラルヘキモノナルモノニ付三國首席専門委員ヨリ交々詳細ニ説明シ蔡ハ本案ハ専門家ニ研究セシメタル上各国側全権ノ好意的考慮ヲ請フ様取計フコトトスヘシト述ヘタリ尚佐分利ヨリ本案ノ税率ハ抵代税又ハ釐金ニ代ルヘキ新税ヲ包含スルモノナルコトヲ明言シタルニ蔡ハ勿論同様ニ了解シ居ル旨ヲ答ヘタリ

七一八 三月三十日

幣原外務大臣ヨリ
在北京関税特別會議帝國代表宛
(電報)

差等税率及ビ奢侈品目ニ関スル關係省會議ノ

結果ニ基キ対処振リ訓令ノ件

関会第八八号

一、差等付加税率(貴電関会第二五三号ノ修正ヲ含ムモ

六 北京関税特別會議關係 七一八

ニ他方来週水曜ヨリ従来通り支那ヲ加ヘタル会合ヲモ継続スルコトニ決シ顔惠慶ニ対シテハ和蘭全権ヨリ(i)今次内債発行ノ件ニ関スル支那側所論ニハ同意スル能ハサル旨並(ii)今週ハ非公式会合ヲ開カサル旨ヲ申送ルコトトセリ

(五) 尚最後ニ「ピール」ハ曩ニ配付セル債務整理ニ関スル原則(三月十二日付和蘭全権宛書翰)ニ遵ヒ作成セル決議案ヲ提出セリ

編註 別紙甲・乙両号省略

七一八 三月二十六日

在北京関税特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

差等税率各国専門委員案ヲ中国側ニ手交シタル件

関会第二五六号

(三月二十七日接受)

往電関会第二五二号ニ関シ

各国専門委員案ハ其内容カ主トシテ日本専門家ノ努力ニ依リテ成リタルコトハ各国側ノ均シク承認シタルモノノ如ク米英側ニ推サレテ専門委員ハ二十五日英米二國専門委員五名ト共ニ蔡廷幹ヲ往訪先ツ佐分利ヨリ右案ヲ蔡ニ手交シ往

ノ)ニ関シ三月二十九日關係省會議ヲ開キタルカ大体ニ於テ各省異議ナキモ左ノ数品ニ関シテ要求アリ(括弧内ハ統計番号)

(一) Cotton Prints (一一) 及 Printed Grape (一二)

ハ Figured ノモノ等変リ織品ヨリハ税率上低位ニ置カルヘキモノナリ殊ニ Cotton Prints ハ対支輸入本邦品カ全輸入額ノ三分ノ二ヲ占ムルモノナルニ付右二品ハ G 級ニ入レラレタキコト

(三) Aluminium Ware (八八) 及 Enamelled Ware ト

共ニ今後益々対支輸出有望ナルモノナルカ Enamelled Ware ト其ノ性質ニ於テ大差ナキニ拘ハラズ本品カ E 級ニ入レアルコトハ權衡上ノミナラス我方ノ重要視セルモノナルニ付出来得レハ G 級ニ入レラレ度キ

ト

(四) Canvas and Cotton Duck (七一) ハ支那輸入ノ三

分ノ一ハ本邦品ナルカ Linen 又ハ Jute 製ノモノ以外ハ G 級ニ入レラレ度キコト

(五) Sharks' Fins (一一六ノ内) ニ付テハ上等品ヲ B 級下等品ヲ C 級ニ入レアル所税番一九四ノ Prepared ノモ

七五一

ノノミヲB級又稅番一九五ノ内(c)ノモノノミヲC級ニ止メ置クコト已ムヲ得サルモ稅番一九五ノ(a)及(b)ハ食用ニ供セラルル筋以外ノ不用ノ部分ヲ多量包含シ居リ(c)ノモノト價格ニ於テ著シキ相違アルニ付E級又ハ其レ以下ニ引下ケラレ度キコト

二、右要求ニ付テハ之カ貫徹ニ付努力セラレ度キモ之カ為別國ヨリ更ニ別品目ニ對シ數多ノ修正ヲ提議シ其ノ結果共同案ノ立直シヲ要スルカ如キ惧アル時ハ強ヒテ主張セラルルマテノ必要ナシ

本差等案カ收入増加ノ見地ヨリ案出セラレタルモノナルカ故ニ各品目間ノ權衡ハ必スシモ正確ニ考查シ得サリシ次第ハ篤ト承知セル処前記ノ品目ニ付テハ按配ニ付相當苦情モアルヘキニ付若シ修正不得策ナル時ハ性質上ヨリ右品目カ當該級ニ配セラルルノ止ムヲ得サリシ理由出來得ル丈詳細電報アリタシ

三、尚左記品目ニ付左ノ点確メタシ

(S) Silk and Cotton Ribbons (三〇二) ハ何級ニ屬スルヤ

(D) Butter (一五五) ハB、C何レニ屬スルヤ若シ二級ニ

大正十五年四月六日

在支那日本公使館

一等書記官 重 光 葵

外務省亞細亞局

第一課長 谷 正之 殿

拜啓陳者別紙佐分利局長顏惠慶會談要領何等御參考迄寫三部及送付候條御査閱相成度此段得貴意候 敬具

佐分利局長顏惠慶會談要領

(大正十五年三月三日午前)

一、局長ヨリ顏ニ對シ債務整理關係國ハ支那ヲ除キテ別ニ會合シツツアルコトヲ告ケ且心配ニ及ハサル旨ヲ告ケタルニ顏ハ我方ノ好意ヲ謝シタリ

一、顏ハ自分親シク西原借款ニ付精査シ借款金額カ全部交付セラレタルモノナルヲ知レリ外國人及支那人ノ疑ヲ解ク為此ノ際右事實ヲ明ニスルコト可ナルヘシト考フル旨ヲ述ヘタリ

一、顏ハ華府條約實施遲延ニ依ル利息停滯分切捨ノ問題ヲ述ヘタレハ局長ヨリ右ハ問題トナラサル旨ヲ告ケタルニ顏ハ之ヲ固執スル意ハナキモ右ノ事情ヲ諒シ元本切下利

分レ居ル時ハ其ノ區別ノ標準

(C) Platinum and White Gold etc. ハB級ノシナリヤ

四、奢侈品目表(支那側送付越ノ Yin 77)ニ関シテ前記會議ノ關係省ヨリ左ノ除外方注文アリタルニ付出來得ル丈ケ今後共努力セラレタシ

(Y) 稅番四〇七 Cigarette Paper 中直接吸煙用ニ供シ得ルモノト製造用ニ供スルモノトヲ區別シ後者ヲ除外スルコト

(E) 同五八二 Upholstery Fabrics ノ内ノ Trimmings ノ綿性ノモノ

(N) 同五七七及五八二ノ Haberdashery ノ低級ノモノ

(I) 同五八二ノ Tooth Powder

(K) 同五八二ノ Travelling Bags ノ低級ノモノ

尚 Fragrant Wood etc. ニ付テハ別記稅番以外ノモノヲモ含ム趣旨ナリヤ回電アリタシ

七二〇 四月六日 在中國重光一等書記官ヨリ 谷亞細亞局第一課長宛

佐分利ト顏惠慶ノ會談要領送付ノ件

閱會第二〇一号 (四月十五日接受)

息切捨ヲ行ハレ度キ希望ヲ有スト述ヘ且債務額決定ノ為「アービトレーション」ノ制度設ケラルルトセハ銀行家ヲ加ヘサル様致度ト云ヘリ

一、局長ヨリ Contingent Fund ニ對スル考ヲ叩キタルニ本案ノ適用アルハ既設鐵道ニ限ルコトトスヘシト主張シ今次提出ノ支那案ニハ充當金額ヲ「ブランク」トナシアリ右ハ結局一千五百萬元乃至二千元トシ内湖広津浦鐵道借款所要資金ハ五百萬元位ニ落付クコトトスル積リナリト云ヘリ又右兩鐵道借款ハ釐金補償資金ヨリ充當スルコト可然ト考ヘ居ル旨ヲ述ヘタリ

一、英國ノ釐金補償稅案ニ関シ顏ハ一部分ハ可ナルモ不可ナル部分モアリ稅関ハ Collecting organ ニシテ Distributing organ ニアラサレハ稅関ヲシテ参与セシメムトスルハ不可且稅関ノ存セサル内地ニ於テハ実行困難ナルヘシト述ヘタリ

尚釐金ノ問題ニ関シテハ決定前何レ支那側ヨリ日本ニ相談スヘシト云ヘリ

一、局長ヨリ自主權ノ問題ニ関シ支那ハ即時一方のニ自主權回復ノ手段ニ出ツルコトモ出來ル次第ナルカ各般ノ考

慮ヨリ自ラ之ヲ避ケ居ル処飯ニ三年經過後釐金廃止実行セラレサリシ場合釐金廃止ハ自主権ノ条件ニアラストシテ支那側一方ニテ自主権ヲ行使スルコトトセハ国家ノ good faith ノ問題ニ触ルル次第ナレハ熟慮ヲ要スト説キタルニ顔ハ此ノ点ハヨク考ヘ居ル所ナリト云ヘリ

又局長ヨリ釐金補償税実施ノコトトナレハ外国貨物ノ関スル限り(即外人ノ関スル限り)釐金廃止実行セラレタルモノト云フコトモ得ヘシト云ヘルニ(最近「ピール」ハ局長ニ対シ外国品ニ対スル釐金力完全ニ廃止セラレタル曉ニハ自主権ヲ認メテモ可ナリトノ意ヲ洩シタルコトアリ)顔ハ同感ヲ表シ且ツ自主権後モ中間税率以上ニ引上クル必要ナク且税率ノ引上ハ税收ノ減少ヲ伴フヘシト云ヒタレハ局長ヨリ右ハ国民生活ノ困難ヲ加フルコトナル所以ヲ説キタリ

一、「アグレン」整理内債ニ関シ全部 old charge トシテ優先セシムヘシト説キ九六公債ニ関シテハ何レ日本側ト相談スル積リナリト述ヘ春節庫券ニ付テハ自分モ研究中ナリト云ヘリ

一、顔ハ蔡ノ言ニ依レハ付加税收九千万ト云フモ初年実収

ハ治外法権撤廃前ニアリテハ支那ノ外人課税権ヲ承認スト云フハ結局外国裁判所及其ノ他ノ外国官憲ニ於テ課税ヲ自国人ニ強行スルコトヲ承認スルコトヲ意味スルニ外ナラス此点ハ租界内外ニ區別ナキニ依リ首席公使ノ分類ハ不適当ナルヲ以テ国税、省税、市税ノ三種ニ分チ論スヘシトテ分類ニ從ヒ具体的問題ニ入り国税トシテハ印紙税、煙酒購買税ヲ主義上承認ス可ク又生産税ノ設定ヲ希望ス省税ハ之ヲ承認セサル可ク市税ハ選舉ニ依ル市政委員ノ課税ナラハ承認スヘキ旨記載シアリ堀ハ全然自分一個ノ私案ナリトテ往電第二五四号ノ「ライン」ニテ其ノ作製シタル覚書ヲ朗読シタリ次ニ仏国委員ハ外国人課税問題ハ結局支那政府又ハ地方官憲力供給スル「サービス」ニ相応スル課税ナラハ認ムルコトトスヘシト云フニ歸スル次第ニシテ特別ニ覚書等作製セサリシ旨ヲ述ヘタルニ一同ノ希望ニ依リ後日他国委員同様覚書ニ認メ提出スルコトヲ承諾シタリ

然ル処英国委員ハ支那ノ各種ノ税法ヲ承認スル以上強行方法迄立入りテ研究スル必要有リトナシ自国ノ制度ニ関シ説明シタルカ米國委員ハ左程深入リセストモ行政手續ヲ以テ承認セル支那税法ノ施行ヲ援助スル途有ル可シトテ強行手

ハ七千万元位ニ過キサレヘシトノコトナリト述ヘ又沿岸貿易税廃止ノコトニ言及セシカハ局長ヨリ今此種税ノ廃止ヲ行フ時期ニ非サルコトヲ説キタリ

一、顔ハ付加税收入ノミヲ別個ノ box トシテ支途ヲ決定スヘシト云ヒタレハ局長ヨリ現在税收ト共ニ one box トシ支途ヲ決定スル必要アルコトヲ説キタルニ顔ハ支途ノ配分ヲ適当ニシテ貰ヘレハ此ノ点ハ固執セスト答ヘタリ

七二一 四月九日

在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

外国人課税問題ニ関スル第二回外交団委員會

ニツキ報告ノ件

第二六〇号

往電第二四五号ニ関シ

四月六日委員會ヲ開催ス先ツ米、英、日三国委員ヨリ各覚書ヲ朗読シタリ

米國覚書中ニハ大体首席公使ノ分類ニ從ヒ印紙税ヲ承認ス可ク租界ノ設ナキ開放地及内地ニ於ケル外国人ノ市政費負担ヲ主義トシテ認ムヘキコトヲ記載シアリ次ニ英覺書中ニ

段ニ関スル自國法制上ノ疑義ヲ説明シコノ強行問題ニ関シ種々ノ議論生シタルニ依リ堀ハコノ機会ヲ捉ヘ貴電第九一号及九二号ニ関スル訓令ノ趣旨ニ基キ日本モコノ強行問題ニ多少ノ疑義ヲ有スル次第ナルカ旁本問題ハ治外法権問題ト密接ナル關係ヲ有スルニ依リ之ヲ治外法権委員會ニ於テ研究セシムルカ又ハ本特別委員會ニ於ケル研究ノ結果ヲ同委員會ニ移シソノ可否、実行方法等ヲ研究セシムル事トシテハ如何ト提議シタルニ首席公使ハ治外法権委員會討議ノ範圍ハ華府決議ノ範圍ヲ出スル事困難ナル事態ナルヲ以テ右ノ提議ハ実行困難ナル可シト述ヘ各國委員モ殆ト同意見ナリキ次テ種々意見交換ノ上結局強行問題ハ全然之ヲ抛擲シ只單ニ將來外交団ニ於テ課税ニ抗議セストノ立前ノ下ニ如何ナル種類ノ課税ヲ抗議セサル課税ト為ス可キカニ関スル大体ノ原則ヲ定ムル事トシ首席公使ニ於テ各國委員提出ノ覺書ヲ參酌シタル上右原則案ヲ作成スル事トナレリ我方及ヒ各國委員覺書郵送ス

七二二 四月二十一日

幣原外務大臣ヨリ
在米國松平大使宛(電報)

関税特別會議ノ經過通報ノ件

別電 同日幣原外務大臣宛在米國松平大使宛電報第八

四号

付加税實施決議ニ関スル我方案

第八三号

往電第二四号ニ関シ開稅會議ハ其後時局ノ關係上主トシテ非公式會議ヲ繼續シ居レル処其ノ經過大体左ノ通り

一、二月十八日支那側ヨリ差当リ成ルヘク速ニ華府條約第三條ノ付加税ヲ實施セムトスル趣旨ノ決議案ヲ提出シ分科会ニ於テ審議ノ結果支那案ヲ基礎トセル我方修正案（要領別電第八四号）ニ付各国全權大体同意セルモ支那側ニ於テ意見ヲ留保セル為メ決定ヲ見ルニ至ラス

二、國定稅率實施ニ至ル迄ノ暫行差等稅率問題ニ関シ我方ニ於テハ向ニ貿易上ノ打撃ヲ慮リ「モラトリウム」付二分五厘案（毎年増収見積額約三千五百萬元）ヲ主張シタル次第ハ客年往電第二一三号既報ノ通ナル処各国共釐金補償ノ外債務整理ヲ重視シ毎年ノ増収見積九千萬元以上ニ達スル差等稅率案ヲ提議シ居ル關係上我方ニ於テノミ飽ク迄前記提案ヲ維持スルコト困難トナリタルニ依リ右案ニ代ヘテ付加税二分五厘乃至二割二分五厘ノ差等稅率ニ依リ毎年約九千余萬元ノ増収ヲ得ルト共ニ我對支貿

蘭、西、瑞典ニ暗送セシメラレ度シ

（別電）

四月二十一日幣原外務大臣宛在米國松平大使宛電報第八四号

付加税實施決議ニ関スル我方案

第八四号

支那及各国代表ハ左ノ諸点ニ付同意ス

一、差等稅率ニ関スル新條約ノ効力發生ニ至ル迄ノ間ニ於テ成ルヘク速ニ支那政府ヲシテ華府條約第三條ノ付加税實施ノ利益ヲ享受セシムル趣旨ニ基キ支那政府ハ一九二六年何月何日より海陸國境一律ニ同條約所定ノ通り普通品二分五厘奢侈品五分ノ付加税ヲ課スヘキコト

二、本決議採用後十日以内ニ原産國ヨリ積出シタル貨物ハ積出時ニ於ケル現行稅ヲ支払フヘキコト

三、關稅增收ハ差当リ海關ニ於テ之ヲ保管シ本會議ニ於テ決定スヘキ目的條件ニ從ヒ之ヲ支出スヘキコト但一九二六年五月三十一日迄ニ目的條件ニ關スル合意成ラサルニ於テハ右合意成立後十五日ヲ經タル後前記付加税ヲ實施スヘキコト

四、關稅增收ハ本會議ニ於テ決定スヘキ方法及割合ニ依リ保管銀行ニ預入ルヘキコト

易ニ及ホス惡影響ヲナルヘク輕少ニ止ムヘキ具體案ヲ作成シ英米其他各国全權ト協議ノ上大体我方原案通り賛同ヲ得三月二十五日各国專門委員ノ案トシテ必要ナル留保ヲ付シタル上之ヲ支那側ニ提示セリ（右ノ案ニ依レハ我邦對支輸出總額中付加税二分五厘ヲ課セラルルモノ六割強、付加税五分ヲ課セラルルモノ一割五分強ナリ）

三、關稅增收ノ支途殊ニ債務整理ノ問題ニ關シテハ屢次ノ非公式會合ニ於テ支那及各国委員ノ間ニ意見ノ交換ヲ行ヒツアル処我方ニ於テハ一律平等ニ新整理公債ニ乗替整理セムコトヲ主張スルニ對シ英米其他ニ於テハ湖広、津浦鐵道公債ノ優先償却並不確實鐵道公債ニ付テハ原契約ヲ存シタル儘特ニ關稅增收ノ一部ヲ以テ之カ為ニ予備基金ヲ設定スヘキコトヲ主張シ意見一致セス

四、互惠稅率協定ノ問題ニ付日支間ニ公文ノ交換ヲ了シタル次第ハ往電第二四号既報ノ通ナル処、我方ニ於テハ二月二十六日佐分利ヲ本件商議ノ委員ニ任命シ支那側委員ノ氏名、會議ノ場所及期日ノ通報方ヲ求メタルモ未タ回答ニ接セス

別電ト共ニ英ニ轉電シ英ヲシテ仏露ニ轉電シ独、伊、白、

七二三

四月二十六日

在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ幣原外務大臣宛

差等稅率ニ関スル仏國公使來簡寫送付ノ件

開會第二一九号

（五月七日接受）

大正十五年四月二十六日

關稅特別會議帝國代表

日置

益

同

芳沢 謙 吉

（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

差等稅率ニ関スル仏國公使來簡寫送付ノ件

曩ニ各国專門委員ニ於テ協議ノ上一応決定セル差等稅率表ニ對シ仏國專門委員カ一般的留保ヲ為シタル次第ハ既報（往電第二五六号）ノ通ナル処仏國全權ハ四月十六日付書翰ヲ以テ（二十一日接受）今般本國政府ノ訓令ニ依リ支那側ニ對シ付加稅率ニ關シ大要左記ノ如キ對案ヲ提出セル旨ヲ通知シ來リ且支那側提出ノ差等稅率案ハ各国專門委員ノ修正アリタルニモ不拘華府條約第三條ノ原則ニ反スルヲ以テ本國政府ノ承認ヲ得サリシ処今次ノ付加税ハ釐金補償稅ノ設置及外國貨物ニ對スル通過稅ノ免除ヲ伴フモノナレハ華府條約第二條ニ依リ列國ハ正ニ「マツカイ」條約ニ規定ス

ル如ク七分五厘ノ付加税ヲ認ムヘキ筋合ニシテ右付加税ニ依ル税収ハ容易ニ各種支途ヲ充スニ足り且仏國ノ貿易擁護ノ為好都合ナリ然レトモ仏國政府ハ會議參列諸國ニ對スル友好ノ精神ニ基キ出来得ル限り各國ノ利益ヲ満足セシメンカ為一定部類ノ貨物(仏國輸出品其ノ大部分ヲ占ムルコトナルヘシ)ニハ「マツカイ」條約所定税率ノ二倍ヲ課シ過度ニ貿易ヲ阻礙スルコトナクシテ一層ノ増課ヲ負担シ得サルモノト認メラルル爾余ノ貨物ニ對シテハ例外トシテ七分五厘ヲ課スルコトヲ認ムルニ吝ナラサルヲ以テ右ノ趣旨ニ依リ協議ヲ行ヒ度旨ヲ申來レリ委細別紙寫ニ就キ御了悉相成度尚右ハ仏國商務官「ナイト」ノ談ニ依レハ仏國商務省側ノ意見ニ基クモノナリトノコトナルカ英米側ニ於テハ曩ニ仏國側カ各國専門委員共同案ニ對シ一般の留保ヲ為シタル際ニモ仏國ノ貿易關係ヨリ見テ其ノ意見ハ之ヲ重要視スルノ要ナシトノ意向ヲ洩シ居リ我方ニ於テモ之ニ共鳴シ來リ特ニ數日前「スチューアート」ハ佐分利ニ對シ本件仏國側提案ハ之ヲ無視スル積リナリト語リ佐分利モ同様ノ意向ナル旨応酬シ置キタリ

貨物ニハ細目ニ關シ二三ノ変更ヲ加ヘテ一五%ノ付加税ヲ課シ同表C乃至Gノ五級ニ屬スル爾余貨物ニハ七・五%ノ付加税ヲ課スルコト右付加税率ニ依ル收入年額ハ少クトモ一億七百万元ニ達スヘク其額ハ會議ノ予見スル目的ヲ達スルニ必要ナル額ヲ超ユルコト大ナルヲ以テ或種ノ綿製品、綿糸、綿花、海產物、石炭、「セメント」獸皮等過度ニ貿易ヲ阻礙スルコトナクシテ高率ヲ負担シ得サルモノト認メラルル貨物ニ對シテハ例外トシテ二分五厘ノ付加税ヲ課スルニ止ムルコト可能ナルヘシ勿論釐金ノ補償若ハ釐金ニ代ルヘキ全テノ税ハ右付加税ノ中ニ包含セラルルカ故ニ本付加税ヲ支払ヒタル貨物ハ其ノ以外何等ノ税ヲ課セラレサルヘキモノナリ

七二四 四月二十七日

幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

中国ノ現状及ビ對策ニツキ在本邦英國及ビ

米國大使ニ内話ノ件

別電 同日幣原外務大臣發在中國芳沢公使宛電報第一

一九号

内話ノ内容

第一一八号

六 北京關稅特別會議關係 七二四

記

一、仏國政府ハ華府關稅條約ノ原則並精神ヲ遵守スルモ一方釐金廢止不確實債務整理及中央政府ノ緊急政費補給ヲ可能ナラシムル為同條約第三條ニ規定スルヨリモ広キ範圍ノ收入ヲ支那ニ与フヘキ新協定ニ参加スルノ意アリ

一、右ノ趣旨ニ依リ付加税ニ關スル支那側ノ提案ヲ審議スルニ右支那案ハ二種ノ付加税ヲ課スル代リニ七種ノ差等税ヲ課セムトスル点ニ於テ全然華府條約ノ原則ニ遠サカリ居ルコトヲ認メサルヲ得ス

一、仏國全權カ昨年十二月會議ニ提出セル案ハ華府條約第三條所定以上ノ付加税ヲ課スルモ兩級ノ貨物ニ課セラルル税率ノ比例ハ本税ト付加税ヲ合シテ三對四タルヘキコトヲ提議セルモノナルカ仏國政府ハ今協調ノ精神ニ基キ奢侈品ニ對スル付加税率ハ普通品ニ對スル付加税率ノ二倍トスルコト並重課ヲ負担シ得サル貨物ニ對シテハ例外トシテ二分五厘ノ付加税ヲ課スルコトヲ認ムルニ吝ナラヌ

一、依テ本國政府ノ命ニ依リ次ノ對案ヲ提出セムトス
各國専門家側提出ノ修正税率表中A、Bノ二級ニ屬スル

二十七日在本邦英國大使來訪支那時局並之カ對策ニ關スル本大臣ノ所見ヲ求メタルニ付大体別電第一一九号ノ通内話シ置キタリ就テハ右御含ノ上支那新政府承認問題乃至關稅會議統否問題ニ對シ可然御措置アリタク尚二十三日本邦米國大使ニ對シテモ略同様内話済

(別電)

四月二十七日幣原外務大臣發在中國芳沢公使宛電報第一一九

号

内話ノ内容

第一一九号

一、曩ニ列國ハ段執政政府ヲ事実上ノ政府トシテ承認シタル次第ナルカ今や段ノ失脚ニ依リ右承認ノ対象消滅シタリト云フヘク從テ今後出現スヘキ支那新政府ニ對シテハ列國ニ依ル新ナル承認ノ問題ヲ生スヘキコト法理上当然ノ筋合ナリト思考ス

二、今後張吳ノ結束克ク終局の二國軍擊滅ノ実ヲ挙げ得ヘキヤハ頗ル疑ハシク早クモ兩者暗闘ノ兆ナキニアラスト雖一面張吳共ニ孰レモ自ラ中央ニ乘リ出シテ他方ヲ压迫スルノ力ナキハ明ナルヲ以テ兩者共ニ差當リ不徹底ナル協力ヲ持續シテ戰勝ノ効ヲ空フセサルニ努ムヘク從テ今

後ノ中央政局ハ右不徹底ナル協力ヲ基礎トシ張吳諒解ノ下ニ適當ナル人物ヲ挙ケテ之カ變理ノ任ニ当ラシムルノ外ナカルヘク斯ル狀況ノ下ニ成立スヘキ新政府カ鞏固且強力ナリ得ヘカラサルハ想像ニ難カラサル所ナルモサリトテ支那ノ現政情ニ於テ直ニ鞏固ナル統一政府ノ出現ヲ望ムハ至難ノ事項ニ属ス故ニ新政府ニシテ相當ノ人物ヲ以テ其ノ首班トシ且ツ之ニ相當ノ永續性ヲ認メ得ヘキ場合ニハ列国トシテハ支那人心安定ノ趣旨ニモ顧ミ可成速ニ新政府ノ承認ヲ決行スルコト可然

三、昨今段政府消滅ヲ理由トシテ世上漸ク関税會議打切論行ハルルモ之ヲ從來ノ經過ニ徴スルニ同會議ハ動乱ノ為正式会合開催不能ノ場合ニハ非公式会合ノ便法ニ依リ或ハ支那ヲ除キタル列国代表ノ協議ニ依リテ實質上議事ノ進行ニ努メ居リ其ノ結果ハ

(イ)自主權回復釐金撤廃ニ関スル決議ハ客年十一月十九日今後締結セラルヘキ新條約中ニ他ノ諸條項ト共ニ挿入スヘキ一項トシテ採択セラレ

(ロ)関稅條約第三條二分五厘五分ノ増徴問題ハ三月十二日日本修正案ヲ基礎トシテ列国ノ意見一致シ支那側ニ於

記仮協定案ヲ基礎トシテ新條約其ノ他ノ協定ノ迅速調印ヲ了スルコトトセハ今日ニ至ル迄列国代表折角ノ苦心ヲ水泡ニ帰セシメサルヲ得ルノミナラス上海事件以來兎角不安定トナリタル列国ノ對支關係ヲ改善スル上ニ於テモ實際的効果ヲ挙クルコト尠カラサルヘシ就テハ支那時局如何ニ拘ラス列国全權ニ於テ非公式会合ヲ繼續シテ會議ノ実効ヲ收ムルニ努力スルコト可然

七二五 五月五日 外務・大蔵両省係官會議

関稅增收ノ支途ニ関シ協議ノ件

大正十五年五月五日関稅增收ノ支途ニ関スル外務大蔵両省係官會議

一、時日 大正十五年五月五日

二、場所 外務省亜細局長室

三、出席者

外務省側 木村亜細亜局長 谷第一課長

守島事務官 田中事務官

大蔵省側 富田理財局長 青木國庫課長代理

四、議事

田中事務官ヨリ會議ノ形勢並從來ノ經過ヲ記載セル関會

六 北京関税特別會議關係 七二五

テモ本案ノ實施期日不明ナル点ニ付不満足ノ意ヲ表明シ居レルニ過キス

(ハ)釐金撤廃國定稅率實施ニ至ル迄ノ過渡的差等稅率問題ニ付テモ又主要列国ノ意見一致シ支那側ニ對シテモ亦三月二十五日非公式ニ之ヲ提示シ追テ會議ノ正式決定ヲ待ツノ運ヒニアリ

以上三点以外ノ問題ニ付テハ未タ各国ノ意見一致ヲ見スト雖モ此ノ上其關係主要列国間ノ内協議ニ依リ議事未了ノ点ノ審議決定ヲ計ルヲ得ヘク斯クノ如クニシテ今後新政府ノ成立ニ至ル迄從來ノ公式非公式会合ノ成果ヲ一括整理シ他日談判再開ノ基礎トナスコトヲ得ヘシ支那政府ノ正式代表者ナキ今日關係列国限リニテ非公式協議ヲ遂クルモ故サラニ支那ヲ除外セルカ如キ非難ヲ受クヘキ謂ハレナカルヘク此ノ見地ヨリスレハ目下ノ時機ハ非公式協議ノ進捗ヲ図ルニ最便利ナルヤモ知レス或ハ談判再開ノ基礎タル大綱原則協定ヲ了セハ其ノ細目ハ各国駐在使臣ニ付託シ其ノ以外ノ全權代表ハ引揚クルモ可ナリ兎ニ角此ノ上其非公式会合ニ依リ基礎的協定ヲ遂ケ仮協定案ヲ定メ置キ正式ニ承認シ得ヘキ新政府成立ノ上ハ直ニ関稅會議ノ正式会合ヲ再開シ前

來電第二七八号ノ要旨及之ニ對スル批評ヲ別紙ノ通り読ミ上ケ之ニ付逐次審議ス

一、債務整理ノ財源

富田局長ヨリ英國側ノ釐金補償案中補償金トシテ充當スヘキ額ノ標準ヲ輸入稅收入ノ四分ノ一トセル理由判明セサル処右ハ從來地方ノ收入トナリ居リタル釐金ノミナラス中央ノ收入タル抵代稅及常關稅ヲモ「カバ」スルモノナリヤ又ハ單ニ地方收入タル釐金ノミニ當ルモノナリヤカ判明スルニ非レハ仮令仮ニ英國案ニ從ヒテ釐金撤廃ヲ行フコトトスルモ余裕財源ノ金額ヲ測定スルコト困難ナルヘシ尚本件ニ関スル批評ノ(一)釐金補償金ヲナルヘク少額ニ止メムトスル点ハ全然賛成ナリト述ヘタリ

二、支途ノ割當ニ付テハ一同異議ナシ

三、鐵道予備基金

富田局長ヨリ鐵道予備基金ニ均霑スヘキ借款ヲ公債ニ限ルヘキ理由ナク我方ノ京綏鐵道借款ノ参加方ヲモ考慮スルコト然ルヘク又(ロ)ノ代案ハ巧妙ナル案ト思考セラルルモ同時ニ同基金ノ「マキシマム」ヲ年額何百萬

元ト定メ置クコト必要ナルヘシト述ヘタリ

四、「アグレン」内債順位問題

本件内債ノ優先ニ付テハ大体ニ於テ異議ナキモ木村局長ヨリ「アグレン」内債ノ順位ハ現存關稅担保債務ノ次トスル点ヲ明確ニシテ償還年限ヲ延長スルコト(四)關稅收入減少ノ場合ニモ一般整理公債資金ノ「ミニマム」ニ喰込マサルコトヲ条件トスルコト必要ナル旨ヲ述ヘタリ

五、湖広津浦鐵道公債

木村局長ヨリ之等鐵道公債ハ鐵道予備基金ニ編入スルコトトシ若シ之ニ参加セサルニ於テハ釐金補償金中ヨリ償還スヘキモノトスルコト適當ナルヘシト述ヘ一同異議ナシ

六、一般整理公債ノ条件

一同異議ナシ

七、整理債務ノ範圍

木村局長ヨリ(イ)中央政府ノ承認又ハ「オーソライズ」セルモノヲ整理ノ範圍ニ含マシムルコトハ理由薄弱ナルヲ以テ結局ニ於テハ讓歩スルノ外ナカルヘシト雖モ

付テハ

米國全權ハ華府條約付加稅ノ問題及ヒ一般の條約ニ關スル問題モ共ニ考究ヲ続ケ就中華府付加稅ニ付テハ可成速ニ形ヲ付ケル様ニシ度キ旨ヲ述ヘタルニ對シ

英國全權ハ華府條約付加稅ノ問題ヲ急速解決スル事ニハ何等異議無ク擬行内閣時代ニ於テモコノ問題ノ解決丈ハ差支ヘ無キモ一般條約ノ問題特ニ債務整理ノ問題ハ支那自身ヨリ提案ス可キ問題ニシテ各國側ヨリ押付ク可キ問題ニ非ス英國側トシテハ本國政府ヨリ訓令ノ次第モ有リ外國側ノミニテ調製セル右一般の條約案ヲ支那ニ「プレゼント」スル場合ニ之ニ参加スルヲ得サル旨ヲ述ヘテ英國ノ態度ヲ明白ニ宣明セルカ種々議論ノ際

(イ)債務整理ノ問題ニ付和蘭全權ハ右ハ條約ノ内ニ規定ス可キ問題ニ非ストノ趣旨(英國ノ意向ニ合ス)ヲ述ヘタルニ付日置ハ右大体ノ計畫ハ條約ニテ定メ以テ債務ノ整理ヲ「セイフガード」スル事必要ニシテ本問題一切ヲ擧ケテ支那ニ計畫セシムルハ吾々會合ノ趣旨ヲ没却スルモノナリ

尤モ支那側ノ出席無キ會合ニ於ケル專門家ノ審議ノ際

現ニ列國何レモ之ヲ整理ノ範圍ニ含マシムルコトヲ主張シ居ルニ付差當リ我方ニ於テ之ニ反對スヘキ理由ナカルヘシト述ヘタリ

八、債務額ノ決定

發行價格說ト額面說トノ何レヲトルヘキカニ付テハ富田局長及青木課長代理ヨリ右二者ヲ比較スレハ理論上額面說ヲ正当トスヘキコト勿論ナルモ最モ公平ヲ期セムトセハ利廻說ニ依ルヘシ但此点ニ付テハ我方ノ利害モ篤ト考慮ニ入ルコト必要ナルニ付更ニ大藏省ニ於テ研究スルコトトスヘキ旨ヲ述ヘタリ

編註 閱会來電第二七八号及ビ別紙見當ラズ

七二六 五月八日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

今後ノ會議ノ予定等ニ關スル各國全權會議ノ
議事要約報告ニ關スル件

閱会第二八七号 (五月九日接受)

五月六日和蘭公使館ニ於テ開カレタル各國全權會議(支那ヲ除ク)議事要約左ノ通

(一)今後關稅會議ニ於テ如何ナル事ヲ審議ス可キヤノ問題ニ

ニハ充分支那側不参加ヨリ生スル uncertaintyノ事柄ヲ考量ニ入ルルヲ要スルハ勿論ナル可キ旨ヲ述ヘ米國「ストロウン」ハ之ヲ支持シ整理問題ニ就テモ少クトモ一般事項ヲ各國間ニ定メテ之ヲ「テイブル」ノ上ニ置クノ必要有リト說キ仏國及伊國全權モ同様ノ意向ヲ述ヘ芳沢ハ債務整理ノ問題ヲ條約ノ中ニ規定ス可キハ勿論ノ事ニシテ其規定振ノ程度ニ就テハ議論有ル可キモ漠然タル原則ノミニテハ不可ナリ相當詳細ニ規定スルノ必要有リト述ヘタル処和蘭全權モ之ヲ首肯シタリ

(四)華府條約付加稅ノ問題ニ就テハ和蘭全權ハ往電閱会第二四四号迄ノ經過ヲ略述シ日本ノ proviso ハ外國側ノ全部承認シタル処ナルモ支那側ニ於テ拒絕シタル儘今日ニ至リ居レル旨ヲ略述セルニ付

日置ハ右日本ノ提案ハ一般の條約ノ締結ヲ前提トシテ提出セルモノナル処若シ一般の條約ノ整理ニ就キ疑問有ル時ハ proviso ハ之ヲ變更ヲ加フル必要有ルモノト認メラルト述ヘ

米國全權ハ右ニ關シテハ細目ノ規定ヲ必要トス可キ旨ヲ說キタリ(此点ニ就テハ往電閱会第二八五号ノ通米

国側ニ於テ腹案ヲ我方ト協議中ナリ)

(二)當日ノ會議ニ於テ和蘭全權ヨリ提起セラレタル支那ノ現狀ニ於テ如何ニシテ會議ヲ進捗セシムヘキヤノ問題ニ付テハ日置ハ現在ノ政況ニ於テ現ニ北京ニ在ル支那委員(顏及蔡)ヲ政府ノ正当代表者ト認メ得サルハ明カナルニ付之ニ対シ交渉ヲ開始スルコト能ハサルヘシト述ヘ結局政府ノ樹立ヲ見テ委員ヲ任命シ来リタル場合ニ之ト交渉スヘク華府條約ノ付加税ノ件ハ摂行内閣ト雖トモ話ヲ進メ調印シテモ差支無シト云フニ多数全權ノ意向纏リタルカ芳沢ハ其ノ性質及壽命等ヲ顧ミテ外国側ノ態度ヲ決スルヲ要スヘキ旨述ヘ和蘭英國等ノ全權首肯シ居タリ尚支那側トノ交渉ハ右ノ通トスルモ各国側ノ交渉ハ華府付加税ノ問題及一般條約ノ問題ニ付從來ノ通專門家ヲシテ取極メヲ継続セシメタル上出来上ケタル成案ハ全權會議ニ於テ審議ノ上処理方ヲ決定スルト云フコトニ申合セタリ

七二七 五月八日

在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

關稅會議一般ニ対スル英國ノ消極的態度ニ関

シ打診ノ件

消極的態度ヲ決スルニ至レル主タル原因ニ関スル当地ニ於ケル印象ニ依レハ英國ハ支那ニ於ケル自己ノ地位ノ擁護ハ可成現存諸制度ヲ維持スル事ニアリト認メ居ルモノノ如ク特ニ海關制度ニ付テハ海關ニ対シ將來惡影響ヲ及ホスト認メラルル高キ利息ヲ有スル海關收入担保ノ債務整理案ノ如キハ之ニ反對シ又海關收入ヲ担保トスル整理案其モノニモ支那ノ承認アル以前ニ之ニ参加スル事ヲ拒絶セル所以ト思ハル(「アグレン」)ノ如キハ華府會議付加税ノ問題ニ付テモ行政費ヲ支那政府ニ捻出スルハ結局一派ノ政權ヲ援助スル事トナリ結局海關制度ニ累ヲ及ホスモノナリトノ議論ヲ為シ居レリ)

他方英國ハ支那政局ニ関シ將來ハ或ハ反動的勢力ノ時代トナリ極端派ノ議論ハ下火トナルノ見込ヲ付ケ政局ノ混沌タル現代ニ於テ可成事態ノ變更ヲ防止シ必要有ラハ広東政府ノ如キニ対シテハ地方的ニ別ニ交渉スルモ差支ヘ無シトナシ寧ロコノ際ハ債務整理釐金問題ノ如キハ支那ノ為ス可キ事ナリトノ口実ノ許ニ會議ヲ終ラントスルニ出タルモノト認メラル

(三) 米國ノ態度ハ御承知ノ通り出来ルタケノ結果ヲ得度

六 北京關稅特別會議關係 七二八

關會第二八九号(極秘)

(五月九日接受)

(一) 關稅會議ハ支那ノ時局ニ件ヒ重大ナル轉換ヲ見各國全權會議ノ結果ハ往電關會第二八七号ノ二ノ通トナリタルモ華府付加税問題ハ別トシ英國カ果シテ一般の問題ニ付テモ協議ニ加ハルヤ否ヤ不明ナリシニ付佐分利ニ於テ「スチュワード」ニ付真意ヲ確メタルニ英國トシテハ右條約案成立ノ場合之ヲ支那側ニ提出スル事ニ参加セサル次第ナレハ其審議ニ付テモ特殊ノ点ニ付他國ヨリ意見ヲ求メラレタル場合ハ別トシ原則トシテハ参加ノ意向ナキ旨ヲ明言シタリ(此ノ点ニ付テハ「マクレ」及「ピール」カ芳沢ニ語リタル所ニ依レハ英國側ハ今後審議ニハ参加スルモ從來ノ通 active partヲ執ラス又勿論支那側ニ提出スル事ニ参加セストノ事ナリ)

斯クテハ英國全權「ピール」ハ六日北京ヲ去リ「スチュワード」モ続イテ本月中旬頃北京ヲ去ル見込ニテ英國側ハ會議ノ事務ヲ主トシテ公使館ニ残ス趣ノ所
(二) 英國カ累次報告ノ如ク結局往電第二七〇号及第二七四号ノ通りノ條約案及宣言案ヲ提出シタルモ不成立ニ終リ遂ニ右様ノ成行トナリタルモノナルカ英國カ斯ノ如ク

キ意向ニシテソノ他ノ國モ強テ會議離脱ヲ欲スルモノ無キ有様ナルカ当方トシテハ既定ノ方針ニ從ヒ米國側ト協力シ具體的成案ヲ得ル事ニ努ム可シ尚右ノ次第ニテ英國全權等モ引揚ケンソノ他ノ國モ或ハ之ニ倣フモノ有ル可ク(伊國公使ハ六月十日帰國スル由)且ツ吾方ニ於テモ多數ノ人員ヲ駐メ置クハ不要ナル可キモ會議ハ今後益々政治的ニ機微ノ時期ニ達ス可ク仮令會議カ不得要領ノ裡ニ終ル事トナルモ吾方ハ何等ノ責任ヲ有セサルノミナラス支那一般ニ対シ飽迄吾方ノ有スル誠意ヲ貫徹シ會議当初ヨリノ一貫シタル態度ヲ表明スル事特ニ意義有ル事ト思考スルニ付四圍ノ事情ヲ判斷シ差支ヘ無キ(不明)出張者帰朝ノ事ヲ取運フ可キニ付キコノ辺ハ御含ミ有リ度シ

七二八 五月十日
在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛

英國ノ釐金補償特別稅案ニ関スル件

關會第二三二号

大正十五年五月十日 (五月十八日接受)

關稅特別會議帝國代表 日置 益

同 芳沢 謙吉 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

英国ノ釐金補償特別税案ニ関スル件

本件ニ関シ過日英国側ノ説明ヲ聴取セル処其要領別紙ノ通ナリ委細右ニ付御了悉相成度

(別紙)

英国ノ釐金補償特別税案ニ干スル

「スチュアート」ノ説明要領

大正十五年五月四日午前英国公使館ニ於テ英国側「スチュアート」「ニュートン」及米国側「ホーンベック」「パーキンス」並我方ヨリ佐分利局長堀内日高両事務官参集英国ノ釐金補償税案ニ干シ談話ヲ交ヘタリ「スチュアート」ノ説明要領左ノ通り

(一)「スチュアート」ハ其後英支間意見交換ニ関スル佐分利局長ノ問ニ応ヘ次ノ如ク述ヘタリ

三月一日及二日ノ両日ニ亘リ英支専門委員会合(支那ハ李景銘、魏渤出席)シ「タイチマン」ヨリ英国案ヲ説明シ意見ヲ交換シタルカ(委細ハ三月十三日付英国側ヨリ送付ノ「ノート」参照) 本案ニ対スル支那側ノ「オブゼクシション」ハ比較的枝葉ノ点ニ関スルモノナリ

其後「スチュアート」ハ蔡廷幹ヲ訪ヒ本案ニ対スル意見ヲ求メタルニ至極結構ナリト答ヘ「ブラクチカブル」ナリヤトノ問ニ対シテハ Procedure ニ関シ多少ノ困難アルノミナリト云ヘリ「スチュアート」ハ蔡ニ対シ英国案ハ大体ノ「アウトライン」ヲ「サゼスト」セルモノニ過キスシテ支那側ニ於テ実行細目ヲ案出スヘク又必シモ各省同一ノ「プロセデューア」ヲ採用スルヲ要セスト云ヘルニ蔡ハ先ツ英国案ヲ漢訳シ之ヲ各地ノ海關監督 Superintendent of Customs ニ配付シ地方商会等ノ意見ヲ徴シタル上ニテ之ニ対スル意見ヲ提出セシムルコトトスル考ナリト云ヘリ

(二)吾人ノ考案ニ依レハ上海ニ釐金補償委員会ヲ置キ之ニハ地方ノ代表者ヲ含マシメ地方ニ配分セル釐金補償費ノ残額(不法ニ課税セル地方ニ対シテハ配分ヲ停止ス)ハ海關ヨリ本委員会ニ渡シ之ヲ釐金廃止ノ為ニ用ヒシメムトスルモノナルカ其ノ方法ハ本委員会ノ決定スヘキ所ナルモ例ヘハ本案ニ規定セル開港場付近百支里ノ「フリーゾーン」ヲ拡大スル等モ一法ナルヘシ

(三)現在抵代税収入ハ中央ノ収入トナリ居ルカ故ニ地方ハ合

法的ニ抵代税ノ利用ヲ妨クル手段ヲ採ル傾向アリ(不法ニ課税スルカ如キ例ハ極テ稀ナリ)

現在「トランシットパス」カ尊重セラレ居ルヤニ関シ吾人ハ綿密ニ書類並実地ニ就キ調査シタルモ不当課税ノ事例極テ少ナシ只「パス」ヲ官憲ニ渡シタル後到達地ニ於テ destination tax ヲ課セラルル事例ハ相当アリ又 Military Exaction へ致方ナキ次第ナリ

吾人ハ本案ヲ採用シ税収ヲ地方ニ分与スルコトトセハ之等ノ不法課税ハ消滅スヘシト思惟ス

吾人ハ先ツ華府所定二分五厘付加税ヲ課スルニ当リテモ(イ)抵代税収入ヲ地方ニ分与スルコト、此ノ方法ヲ続行スレハ漸次輸入貨物ニハ「トランシットパス」ヲ無料ニテ交付スルコトトナルヘク支那人モ其ノ便利ナルヲ知リ本制度ヲ助クルコトトナルヘシ

(ロ)海關ヲ通過スル貨物ノ干スル限リ「トランシットパス」ノ制度ヲ支那人(内地産貨物)ニモ享有セシムルコト

右ノ方法ニ依リ外支人間取扱ノ不平等ナルヲ是正シ現今行ハルル「アビューズ」ヲ止メシムル効アルヘシ此

点ハ支那人モ賛成ナルヘク其ノ税率ニ関シテモ支那側ハ異議ナキ様様ナリ但「アビューズ」セラレサル様「ボンド」ノ供託等相当ノ手段ヲ講スル要アルヘシ 四即吾人ノ案ハ直チニ釐金ノ廃止ヲ行ハムトスルニアラスシテ之ニ到達スル方法ヲ論スルニアリ而シテ其ノ次ノ「ステージ」トシテ支那政府ハ内地貨物ニ対スル釐金ヲ廃止シ釐金補償委員会ト協力シテ地方間ノ配分ヲ定ムヘク此ノ時ニ至ラハ「トランシットパス」制度ハ自然消滅スヘシ

(四)吾人ハ内地貨物ニ対スル釐金ノ廃止ニ要スル burden ノ全部ヲ外国貨物カ負担スルコトハ不当ナリト思惟ス右ニ要スル費用ハ支那ニ於テ輸入税以外ニ之ヲ求メサルヘカラス

支那案ニ依レハ釐金廃止ノ為ニ三年間ニ九千萬元ヲ補償トシテ地方及釐金局官吏ニ与ヘ爾後所要経費減少スル見込ナルモ吾人ハ一年分ノ所要経費ヲ補償スルノミニテハ地方ヲ満足セシメ廃止ノ実ヲ挙げ得ヘシトハ思惟セス阿片ノ例ノ如ク一時ハ釐金廃止ヲ実行シ其結果自主權ヲ享有スルコトアルモ忽チ釐金制度ハ復活スヘシサレハトテ

釐金廢止ノ為ニ關稅收入ヨリ債務整理ノ外ニ釐金補償費トシテ毎年六千萬元(支那側最初ノ提案ニ云フ釐金收入額)ヲ支払フヘシト云フコトハ前述ノ如ク輸入貨物ノ負担シ得ル所ニアラス此ノ点ニ於テ支那案ハ「ノンセンス」ナリ英國案ニ依レハ外國貨物ニ對スル内地課稅ヲ止ムル補償トシテ特別稅ノ收入ヲ与ヘ支那政府ハ自ラ漸次内地品ニ對スル釐金ニ代ルヘキ財源ヲ求ムルト共ニ釐金廢止ヲ行フ仕組ナルカ故ニ釐金廢止セラレタル上ハ地方ハ輸入稅收ノ四分ノ一並前記新收入ノ配分ヲ受クルコトナルヘシ尚釐金廢止後ハ内地貨物ニ對スル Export transit passノ收入ハ存セサルコトナルヘシ

(丙)釐金ノ定義ニ關シ支那側ノ意向ハ大体ニ於テ可ナルカ如キモ之ニ關スル「ステートメント」ヲ支那側ノミニ委ヌルコトハ不可ナリ(トテ英國案末尾ノ文句ヲ讀ミ上ク)消費稅ハ本案ニ依リ wash out セラルルモノト考フ右ニ付テハ支那側ニ於テモ一般的ニ消費稅ヲ課スル意向ナキカ如シ

又吾人 Licence fee 一律ニ課スルナラハ不可ナシト思考シ居レリ(「ホーンベック」ハ之等ノ点ニ關シ明瞭

往電開會第二九〇号日、英、米三国専門家私案成立ニ至ル經過概要左ノ通

(一)前文ニ華府條約第六條第二項ノミヲ引用シ第一項ヲ掲ケサルハ本協定カ華府附加稅ノミニ付規定スル趣旨ニ出テタルモノニシテ一般陸境問題ニハ觸レサル建前ナリ

(二)附加稅收入ノ使途ニ關シ

(イ)抵代稅收入ヲ地方ニ分与スル案ハ英國ノ考案ニシテ各國共大体異議無キカ如クナル処本件附加稅ノ場合ニモ釐金廢止ノ準備的措置トシテ之ヲ認メ附加稅收入ヨリソノ保障ヲ与フル事ハ将来釐金廢止ヲ理由トシテ附加稅ノ最低率ヲ二分五厘以上ニ引上ケラルル事ヲ阻止スルノ効有ル可シト思考セラレタルニ依リコノ趣旨ヲ冒頭ニ掲クル事トシテ一応之ヲ認メ尙地方ニ對スル配分ニ關シ海關ノ内政干涉ヲ惹起スル事無カラシムル点ヲモ顧慮シ海關ニ依リ (by) 配分ヲ行フ事無ク海關ヲ通シテ (through) 行ハシムル事トセリ

(ロ)沿岸貿易廢止ハ英國側ニ於テ強硬ニ主張シ米國モ協調の立場ヨリ之ニ賛成シ居レリ我方ハ從來主義トシテ異議ナキモ此際直ニ実行スル要ナシトノ趣旨ニテ反對シ

ニ規定シ置カサレハ将来紛議ヲ起スヘシト注意セリ)
(乙)補償稅收配分機關及方法等ニ關シ支那側ハ意見ヲ述ヘサリシモ吾人ノ案ハ支那側ノ提議セルカ如キ釐金補償委員會ヲシテ行ハシムルニ在リ(トテ英國案ノ(3)ヲ讀ミ上ク)之ニハ地方ノ代表者ヲ列席セシメサルヘカラス最近審計院ノ提出セル案ノ如キハ中央政府ノ官吏ノミヨリ成ルカ故ニ不可ナリ

(丙)華府所定二分五厘附加稅ノ場合ニモ抵代稅收入ヲ地方ニ分与スルコトナリタルトキハ右ト同様ノ方法ニテ配分ヲ行フヤトノ佐分利局長ノ質問ニ對シ一応ハ海關カ徵收シ且地方ニ分与スルコトスルモ可ナルヘシト考ヘ居ル旨ヲ述ヘタレハ局長ハ徵收スルコトト地方ニ分与スルコトトハ全然別個ノ任務ナリト注意セルニ此ノ点ハ未タ充分考慮シ居ラスト云ヘリ

七二九 五月十二日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

附加稅實施協定ノ日英米三国専門委員私案ノ成立ニ至ル經過ニ關スル件

開會第二九二号

来レルモ本件ニ關スル英米ノ主張極メテ強ク且從前暫行差等稅ニ關連シ英國側ノ主張セル沿岸貿易稅及内地輸出稅双方ノ廢止ニ比スレハ金額モ少ク他方此種内地稅ノ廢止ハ釐金並ニ輸出稅廢止ノ先驅トシテ実行最容易ナルモノヨリ始ムル趣旨ニ於テ主義トシテ可ナルノミナラス国内貨物流通ノ障害ヲ除去シ国内ノ購買力ヲ増進スル点ニ於テ内地貿易ニ從事スル多數本邦商人乃至船舶業者ヲ利スルコト少カラサル可シト思考シタルニ依リ一応之ヲ認ムルコトトシ冒頭ニ右ノ趣旨ヲ記スコトトセシメタリ

(イ)政費ニ關シテハ流用及無謀ナル起債ヲ防ク趣向ニテ毎月払トシ且全部經常政費ニ充ツル旨ヲ記スコトトセリ
(二)前記ノ使途ニ充テタル殘額ノ処分ニ關シテハ今日之ヲ確定セントスレハ短時日ノ間ニ各國間ノ協定ニ達スルコト極メテ困難ナルヘク且仮令可能ナリトスルモ右ノミニテハ到底満足スヘキ債務整理ヲ行フニ足ラサル可キヲ以テ差當リ之ヲ積立テ置キ從來成立スヘキ暫行稅率ニ伴フ大整理案ノ一部トシテ之ニ依リ其ノ使用方法ヲ定ムルコト結局有利ナリト認メタリ且使途ニ關スル

六 北京關稅特別會議關係 七三〇

米國案ノ文句ハ明瞭ヲ欠ク嫌アリタルヲ以テ無担保及不確實債務ノ償還ニ使用スヘキコトヲ明カナラシムルコトトセリ

米國案ハ付加税收入ノ一部ニ限り其保管方法ヲ定ムルコトトナリ居ル処我方ヨリ保管銀行問題ニ付テハ別ニ一般のニ規定スヘシト主張セル結果(四)ノ一項ヲ設クルコトナレリ

本問題ニ関シ我方ハ現行税収並ニ付加税收入ノ全部ニ付調整ヲ加フル必要アルコトニ付英米側ニ対シテモ累次強ク主張シ居ル次第ナルカ英國側ニ於テモ主義上異議無ク「アグレン」モ或ハ異議無キ模様(五月八日付機密開會第二三〇号「スチュウアード」宛「アグレン」書翰参照)ニテ三国委員會合ノ節モ「ホーンベック」ハ付加税收入以外ノ保管問題ニ触ルルコトヲ好マサリシモ「スチュウアード」ハ各國年来ノ要望ヲ容ルル必要アルコトヲ説キ結局本協定ニ付屬セシムヘキ決議ニハ關稅收入ノ全部ニ亘リ規定スルコトトシ我方ニ於テ「アグレン」トモ意見ヲ交換シ決議案ヲ作製スルコトトナレリ

スルモノト考ヘラル

本件ハ我滿鮮陸境關稅輕減ト密接ナル關係アルニ付左記ノ点ニ關シ出来得レハ詳細御回報アリタシ

一、仏國側ハ今次ノ提案以外ニ華府條約第六條第一項末段ノ衡平ナル調整ノ手段トシテ印度支那側ニ於テ陸境輸入ノ支那產貨物ニ印度支那輸入稅率ヲ相当引下ルノ底意ヲ有スルヤ

二、支那ハ仏支國境ノ輕減陸境關稅率ヲ華府條約第六條第一項前段ノ規定ニ拘ラス相当ノ程度ニ於テ之ヲ維持シ差支ナシト認メ居レルヤ

七三一 五月十三日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

付加税實施協定ノ對処方針ニ關スル件

開會第二九四号 (五月十四日接受)

往電開會第二九二号ニ關シ

(一)我方トシテハ累次申進ノ通華府付加税實施ノ問題ハ付加税ニ關スル一般協定ノ一部トシテ差当リ施行スル建前トシ各種ノ目的條件ノ決定ニ就テモ右ノ趣旨ニテ折(脱)シ居ル処米國側ハ頻ニ本協定ノ成立ヲ急キ居リ從テ其ノ

(三)最後ニ付加セル二項ハ何レモ英國側ノ提出セルモノナルモ其内鐵道ニ關スル部分ニハ初メ華盛頓決議第八ヲ引用シアリタルモ我方ヨリ右ハ鐵道經理ノ改善トハ直接ノ關係無キコトヲ指摘シ削除セシメタリ

七三〇 五月十二日 幣原外務大臣ヨリ 在北京關稅特別會議帝國代表宛

陸境關稅ニ關スル仏・中間ノ協定ニツキ照會ノ件

開會機密第二六号

陸境關稅ニ關スル仏支間ノ協定ニ關スル件

本件ニ關シ四月二十二日付開會第二一六号ヲ以テ仏支間ノ往復書翰御送付相成タル処仏國提案ハ現行仏支間陸境關稅制度ニ關シ(イ)支那ノ輸出稅四割減ヲ撤廢スルコト(ロ)印度支那通過貨物ニ對スル從價二分ノ通過稅ヲ課スル物品ヲ十一品ニ制限スルコト以外ハ依然現制度ヲ維持セムトスルモノニシテ殊ニ特殊物品ニ關シテハ現行ノ支那輸入稅ニ對スル三割減ニ代フルニ七割減ヲ提議セルニ鑑ミ仏國側ニ於テハ華府條約第六條第一項前段ノ規定ニ拘ラス今後モ仏國及印度支那產貨物ニ對スル支那側ノ陸境關稅輕減ヲ主張セムト

範圍ヲ華府條約第三條ノ實施ニ限ルト共ニ大体ニ於テ六ヶ數目的條件ヲ付スルコトナク可成早目ニ實施シ得ル仕組トナシ置ク意向ニシテ英國側ハ二分五厘ノ場合ニモ最少限度ノ條件トシテ抵代稅收入ノ地方配(脱)及沿岸貿易廢止ヲ強硬ニ主張スルモ稅收ヲ一般債務整理ニ充ツルコトニハ反對シ尙本稅收入ヨリ前記兩種稅ノ廢止補償及政費ニ充テタル剩餘ハ売却代金償還ノ補充ニ當ツルコトヲ主張シ米國側モ協調的立場ヨリ之ニ反對セサリシ処我方ヨリ英米ヲ説キ此分ヲ將來不確實債務整理ニ當ツルコトニ同意セシメタル次第ナリ

(二)從テ我方ニ於テ抵代稅及沿岸貿易稅ニ關スル英國案ニ反對シ之カ補償ニ充テラルヘキ額タケ債務整理ニ充ツヘキ額ヲ増加スルコトヲ主張スルモ英米側ノ強キ反對アルヘク去リトテ此ノ節約額ヲ以テ政費充當額ヲ増加スルコトヲ主張スルハ各國共支那ノ現狀ニ顧ミ多額ノ行政費ヲ与フルコトヲ好マサル有様ナルニ徴シ面白カラス結局此ノ際通商障礙除去釐金廢止ノ準備及輸出稅撤廢等ニ触レ規定シ置クコト望マシキ点ヲモ考慮シ右ノ趣旨ヲ明ニシテ兩種稅ニ對スル補償ヲ認ムルコトトセル次第ナリ

(三) 尚ホ前記米國側ノ態度並ニ一般付加税問題ニ対スル英國ノ態度等ニ顧ミ此ノ際ハ先ツ本付加税實施協定ノミ單獨ニ協議セラルルコトトナルヘキヤニ認メラルル処其ノ場合ニハ二分五厘ノ賦課ニ付各種ノ条件ヲ付スルコトハ困難ナルヘシト思惟セラルル尤モ当方トシテハ適當ナル機會ヲ捉ヘ目的ノ貫徹ニ努ムヘキコト勿論ニシテ(保管銀行問題ニ関シテハ前電所報ノ通り)一般付加税問題ニ関シテモ此等ノ点ニ付注意ヲ怠ラサル所存ナリ

右前電補足旁々申進ス

七三二 五月十三日

在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

付加税問題及ビ一般條約問題ノ取纏メ方針ニ

關シ回訓アリタキ件

關会第二九五号

(五月十四日接受)

(一) 華府條約付加税問題及一般條約問題ニ付テハ吾方既定ノ方針ニ從テ各國専門家間ニ於テ審議ヲ進メ居ル次第ハ屢次ノ電報ニ依リ御承知ノ通ニテ右ノ内付加税問題ニ付テハ可成吾ニ有利ナル条件ヲ付加スルト共ニ一般の條約間

題ト關連シテ規定スル事ニ努メ居ル次第ニシテ往電關会第二九三号^(四?)日英米三国専門家ノ成案ニ付テハ今後多少ノ変更ヲ加ヘラル可キモ大体右ノ程度ニテ纏ムルノ外ナキ次第ナリ

(二) 之等問題ニ対スル各國ノ態度ハ往電關会第二八九号ノ通ニシテ又支那側特ニ顏惠慶ハ華府付加税ノ實行如何ニ非常ニ重キヲ置キ之ニ対スル之迄ノ日本ノ態度ニ不滿ナル意向ヲモ吾方ニ洩ラシ居ル次第ナルカ本問題ニ付テハ各國共會議当初ヨリ何等異存ナク寧ロ無条件ニ税率増加ヲ承認セントスル意向ヲ有シ英國側モ之サエ承認スレハ支那ハ満足スルモノナリト稱シ居リ今日ニ於テモ可成速ニ本件ヲ解決セントスルニ各國共ニ焦慮シ居ル次第ナリ吾方ニ於テハ本件カ大体前項述フル趣旨ニ於テ立案セラレ居リ且ツ又大局上ヨリ見テ本件ヲ承認スル事得策ナリト信ス

(三) 一般條約問題ニ付テハ吾方ニ於テハ前記(二)ノ二分五厘問題ト關連シテ考慮シ米國側トノ間ニ成案ヲ纏メ他國専門家ニ協議シ成案ヲ得ン事ヲ努メ居ル処本件ニ対スル英國ノ態度ハ往電關会第二八九号ノ通之ニ参加セサル次第ニ

シテ且ツ英國以外ノ他國カ結局如何ナル態度ヲ執ル可キヤハ今日判明セサル処若他國ニ於テ支那ノ現状ヲ口実トシテ英國ノ態度ニ倣フ場合ニ於テモ吾方ハ飽迄米國ト協力シテ進ミ万已ムヲ得サル場合ニ於テハ米國ト二國丈ニテモ成案ヲ作り他國ニ於テ希望スル場合ニハ何時ニテモ之ニ参加シ得ル事トシソノ成案ヲ日米兩國ノ名ニ於テ

(他國カ参加スル場合ニハ之ヲ加ヘ)支那政府ニ遣シ支那ニ於テ政權確立シ交渉ニ応シ得ル時期ニ何時ニテモ右成案ヲ基礎トシテ交渉ヲ再開シ得ル事トシ茲ニ會議ヲ終ル事トセハ最吾方ノ立場ヲ有利トナス可シト思考ス

右ハ貴電第一〇〇号ノ趣旨モアリ政府ノ御方針ト合スル事ト思考スルモ此点ニ関シ前項華盛頓付加税ニ關スル点ト共ニ的確ナル御回訓ヲ請フ

(四) 會議ハ元ヨリ支那中央政府ノ樹立及ヒ支那ノ形勢ニ繫ル事多キモ現在ノ如キ政局ニ於テハ結局纏マルタケノ國ノ間ニ於テ出来得ルタケノ案ヲ纏メ之ヲ支那政府ニ殘ス程度ノ所ニテ暑中休暇ノ名義等ヲ以テ各國代表ハ引揚クルコトトナルヘク結局六月中ニハ事實終了セシメ得ル見込ナルカ若シ前記ノ方針ニシテ政府ノ御意図ニ叶フモノト

セハ対支政策ノ全般局ニ於テ支那ニ対スル我カ立場ヲ強クスルノミナラス各國トノ協調ヲモ破ル事ナク特ニ將來支那問題ニ付テ米國トノ間ニ益々密接ナル連絡ヲ取り得ル結果トナリ我カ対外政策ノ全般ニ貢獻スル所尠ナカラサルヘキヲ信ス元ヨリ充分御攻究ノ事ナルモ右特ニ申添ユ

七三三 五月十三日

在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

ステュアート、佐分利ニ対シ英國ノ立場ニツ

キ談話ノ件

關会第二九六号

(五月十四日接受)

Stuart (同人ハ十四日出発上海日本ニ滞在六月末頃乗船歸國ノ予定) 十三日佐分利ヲ來訪シ談話中將來英國ハ日本側ト協調シテ諸事処理シタキ旨述ヘタルニ付佐分利ハ右ニ對シ全然同感ノ意ヲ表シタル上尚差当リテノ問題即チ付加税ノ一般問題ニ付テハ英國ハ遂ニ stay out スルコトナリテ審議ニモ加ハラス日本ハ最後迄成案ヲ得ルコトニ努力スルコトトナリタルヲ以テ差当リ米國ト共同ノ行動ニ出テ米國等ト成案ヲ机上ニ殘シ置クコトトナルヤモ知レサル次

第ナルカ此ノ点ハ英國側ニ於テ充分了解スルコト思考ス
ト述ヘタル処 Stuart ハ右ニ付テハ perfect understanding
アリ英國側内部ニ於テモ此ノ点ニ付意見分レタルモ公使及
自分等ノ意見ニ依リ兎ニ角華府条約付加税以外ノ問題ニハ
参加セサルコトニ決セル次第ナルニ付日本側モ何等御心置
無ク本件進捗セラレタシ云々トテ隔意無キ談話ヲ交換シ辭
去セリ御参考迄

往電開會第二九五号一段「往電開會第二九三号」ハ「往
電開會第二九四号」ノ誤

七三四 五月十四日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

付加税實施協定ノ調印取運ビ方ニツキ御回示
アリタキ件

開會第二九七号

当方ニ於テハ貴電開會第七四号ニ依リ華盛頓條約第三条ノ
規定實施ニ關スル取極メニ付テハ結局樞密院ノ諮詢ヲ要ス
ヘキモ正式批准ハ之ヲ要セス又元ヨリ右取極メ中ニ批准条
項ヲ挿入スルノ必要ナキコト諒解シ之カ調印ニアタリテ
ハ国内法上ノ手續完了ヲ俟ツテ右取極メノ効力發生(調印

ノ日ヨリ)スルコトヲ明カニ留保シタル上ニテ之ヲ行ナフ
コトトシタキ意向ナル所右ニテ差支ヘナキヤ至急御回示相
成タシ尚他國ハ何等国内法上ノ手續ヲ必要トセサル趣ニテ
此ノ際我方ニ於テ右様ノ留保ヲ為シ調印スルカ(又ハ
「アドレフエレンダム」ノ形式ニテ)調印スルコトハ面白
カラサルヲ以テ支那政局ノ推移ニ依リ調印迄ニ尚相当期日
アルカ如キ場合ニハ予メ樞密院ノ手續ヲ了シ置キタル上無
保留ニテ調印スルコト致シ度キ所正式調印ナクシテ貴方
ニ於テ右ノ如キ手續ヲ取運ヒ得ルヤ合セテ御回示ヲ請フ

七三五 五月十四日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛

中國側關稅會議委員會ノ關稅會議經過報告ノ
通電ニ關スル件

開會第二三七号

(五月二十六日接受)

大正十五年五月十四日

關稅特別會議帝國代表 日置 益
同 芳沢 謙吉 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

關會委員ノ通電ニ關スル件

支那側關稅會議委員會ハ本月十一日關稅會議經過報告ノ通
電ヲ發シタル趣ニテ同十三日ノ当地各新聞ハ何レモ其原文
ヲ掲載シ居レリ何等御参考迄右訳文別紙ノ通新聞切抜添付
ノ上送付ス

(別紙)

關稅會議委員會通電

張作霖、吳佩孚、孫伝芳、閻錫山各省区軍民長官各位 今次
關稅會議ノ召集ハ稅權ノ回收、財政ノ救済及經濟ノ發展ヲ
以テ目的トセリ顧ミルニ民國十年華盛頓會議ニ於テ列國ハ
僅カニ普通ノ輸入貨物ニ對シ二分五厘付加税ノ加徴ヲ承認
シ奢侈品ニ對シテハ高率ノ付加税ヲ認メタルモ而モ五分ヲ
以テ限度トセリ此種ノ收入ヲ總計スレハ三千万元ニ過キス
其ノ用途ト條件トハ更ニ各國ト商定スルノ要アリ而シテ關
稅自主ノ一項ニ關シテモ未タ詳細ニ討論スルコト能ハス各
項ノ用途ヲ予測スルニ前記三千万元ハ分配ノ用ニ滿タス且
我國ノ經濟ハ久シク稅權ノ束縛ニ苦シミ來レルヲ以テ僅カ
ノ稅率増加ヲ以テシテハ根本的計畫ヲ樹ツル能ハス故ニ會
議前ニ於テ即チ華府會議ニ根拠シテ關稅自主ノ要求ヲ提出
スヘキコトヲ決定シ只自主權回復以前ニ在リテハ對内對外

共ニ準備セサルヘカラサルニ付茲ニ付加税増加ヲ以テ過渡
ノ計ト為スヘキコトヲ決定シ華府會議所定ノ付加稅率ヲ引
上ケ其ノ收入ヲシテ一億元以上ニ達セシメントセリ而シテ
其ノ用途ニ付テハ即チ華府會議ニ於ケル討論ノ情況ト国内
ノ需要トヲ斟酌シ之ヲ三種ニ分チテ一、裁釐準備金、二、
債務整理基金、三、建設費ト為シ其ノ上更ニ一種ヲ設ケテ
緊要ナル政費ニ供スルコトトセリ此レ原定ノ方針ナリ開會
ノ初メニ當リ我代表ハ自主案ト付加稅案トヲ同時ニ提出シ
各國代表ハ支那側主張ノ正大ナルニ鑑ミ已ニ自主ノ一案ハ
之ヲ承認シ民國十八年一月一日ヲ以テ實行ノ期限ト定メ同
時ニ支那ハ釐金撤廢ヲ宣言セリ付加稅率及用途ノ問題ニ付
テハ各國ノ意見同シカラス迭次ノ商議ヲ經テ始メテ端緒ヲ
発見シタリ茲ニ稅率、裁釐、債務償還等ニ大別シテ大略說
明スレハ左ノ如シ

(一)付加稅率

支那ハ原來普通貨物ニ對シテハ五分、甲種奢侈品ニ對シ
テハ三割乙種奢侈品ニ對シテハ二割ヲ徵收スヘキ計畫シ
居リテ之ヲ華府會議ノ稅率ニ比較スレハ普通品稅率ハ倍
加シ奢侈品稅率ハ四倍乃至六倍セリ各國ハ此項ノ稅率ヲ

以テ高キニ過クルト為シ賛同ヲ肯ンセス累次ノ討論ヲ經過シタル後稅率ヲ改定シ更ニ貨物ヲ分類シ始メテ承認シタルモ付加稅ヲ増加シテ七千萬元ニ至ラシメ或ハ九千萬元ニ至ラシメントスル議論ハ尚ホ正式ノ決定ヲ待ツノ要アリ即此項ノ稅率ハ既ニ華府會議稅率ノ範圍ヲ超過シ居リ各國ノ批准ヲ俟ツテ実行シ得ルモノナルニ付之カ実行ハ早クモ明春以後ニ待タサルヘカラス然レ共批准前ニ在リテ五分ノ旧率ヲ用フルコトトセハ支那ノ損失益々甚タシ故ニ先ツ華府會議ノ付加稅率ヲ実行シ關稅收入ヲシテ一日モ早く増加セシメントス是レ稅率問題ノ概要ナリ

(二)裁釐問題

裁釐問題ハ支那商民ノ久シク希望スル処ナルニモ不拘諸種ノ事情ニ依リ遲延今日ニ至レリ茲ニ於テ支那ハ民國十八年一月一日迄ニ裁釐スヘキコトヲ宣言シ裁釐補充ノ基金ハ先ツ過渡期間ニ於ケル付加稅中ヨリ準備處理スルコトトシ各國代表ハ通商關係ニ因リ亦各々意見ヲ具シ迭次ノ討論ヲ經テ未タ決定ヲ見ス只期ヲ定メテ裁釐^(釐)ヲ行フハ支那側ヨリ自發的ニ宣言シタル処ニシテ將來中央ト各省区ト共ニ協力合作裁釐補充ノ確定ヲ期スルナラハ即チ釐

金撤廃ハ実行可能ナルヘシ如何ナル規定方法ヲ設ケテ予メ之カ準備ヲ為スヘキヤハ即チ將ニ審査研究ヲ要スル問題ナリ

之即チ裁釐討論ノ狀況ナリ

(三)外債償還問題

財政交通ノ兩部ハ不確實担保ノ内外債山積シ八九億以上ニ上ル其ノ中外債ハ十分ノ六、七ニ當リ各國ハ本問題ヲ最も重要視ス關稅會議開會後關係各國代表ト接洽シタル処債務額、條件、期限、利率等ニ関シ彼此利害相反シ主張多種ニ分レ未タ尚弁法確定セス現ニ先ツ大綱ヲ定メントシ再ヒ財政整理會ニ於テ各節目ニ付キ詳細商議セント欲ス是債務整理商議ノ情況ナリ

其ノ他關稅條項ノ存廢陸路境界稅收ノ画一等ノ各種問題ハ亦皆商議中ニ在リ

要之支那ニハ余分ノ收入アルニ非ス各項用途ニ充ツルニ足ラサルナリ故ニ支那側ニ於テハ稅率ノ増加ヲ以テ先決問題ト為シ各國側ニ於テハ通商及債權關係ヨリシテ先ツ裁釐及債務償還ノ弁法ヲ定メントシ右ノ見地ニ基キ稅率ノ協定ヲ承認セントス故ニ開會後幾何モナクシテ爭議紛紜シ其ノ結

シ応接ニ機ヲ失センカ時機再ヒ来ラサルヘシ偏ニ内外ノ同心ニ賴リ協力合作セント欲ス之又友邦ノ希望スル処ナリ茲ニ開會ノ經過ヲ摘要電陳シテ各位ノ鑒察ヲ希フ

關稅委員會十一日

七三六 五月十五日

在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

全權會議ニ於ケル付加稅實施協定修正點等ニ

ツキ報告ノ件

付記 五月十五日全權會議決定ノ付加稅實施協定案

開會第三〇一号

(五月十六日接受)

(一)往電開會第二九八号和蘭公使館ノ全權會議ニ於ケル付加稅取極案ノ審議ニ於テ右取極案ノ修正セラレタル點別電開會第三〇二号ノ通

(二)當日全權ハ取極案中ノ差等稅率ノ部分ハ尚仏國政府ノ承認シ居ラサル処ニシテ之ヲ *strike out* シ難キ旨提議シタルカ日置ハ之ニ反對シ右ハ支那ノ特ニ重要視スル処ナリト指摘セルカ結局右ハ日全權ノ間ニ協議シテ解決スル事ト成リタリ

(三)尚「カストディアン・バンク」ノ問題ハ結局佐分利ニ於

果ヲ綜合スレハ只概括ノ範圍ヲ得タルノミニシテ具體的決定少シ、只自主權問題ノミハ既ニ定案ヲ得タルヲ以テ稅權ハ條約ノ束縛ヲ受ケス將來寬嚴宜シキヲ得テ國民經濟ハ自ラ發展ノ希望アリ關稅收入モ亦寬ク増加ノ余地ヲ留メタリ過渡期內ニ於テハ使途甚タ多シ而シテ付加稅收入ハ即チ九千萬元ニ至ルコトヲ決定セリ將來ノ實收額ハ所用ノ額ニ達スルヤ否ヤ未タ予測ヲ許ササルモ即チ此金額ノ分配ハ裁釐補充金、債務償還金ニ充ツルモノ毎年少クトモ約三四千萬元ニ上リ其ノ他ノ建設費及政費ニ充ツヘキモノハ實ニ幾何モ無シ但シ拮据支持シ以テ自主ノ時期至ルヲ俟チ別ニ処置ヲ講セサルヲ得ス之亦交渉困難ノ狀態ニアリ

以上ハ關稅會議開會以來ノ經過狀況ノ概要ナルカ關稅會議ノ形勢ヲ總觀スレハ各國代表ハ国内年々平穩ナラス軍費浩繁ナルニ鑑ミル処アリ條件用途ニ對シ鄭重ニ回ヲ重ネテ審議シ久シク決セス近畿ニ戰爭發生スルニ及ンテ會議ハ自然停頓ノ形トナリ各國代表中ニハ將ニ帰國セムトスルモノアリ焦慮ニ堪ヘサル処ナリ

夫レ我國今日財政經濟ノ狀態ハ關稅增加ノ能否ニ繫ル所大ニシテ稅權ノ回收ハ國際地位ノ増進ニ影響最も重大ナリ若

テ專使家ヲ合シシ條約ヲ案スル事ニ成リタリ
(附 記)
五月十五日全權會議決定ハ付加稅案通過後案

Suggestion for an

AGREEMENT TO BRING INTO FORCE
THE SURTAX PROVISIONS
OF THE WASHINGTON TREATY.

(as agreed upon at the meeting of foreign
Delegates on May 15, 1926)

Agreement:

In the exercise of authority vested in them by their respective governments, and for the purpose of giving effect to the provisions of Article III and the Second paragraph of Article VI of the treaty relating to the Chinese Customs Tariff, signed at Washington on February 6, 1922, the Representatives of the Powers assembled at this Conference, to wit.....

Hereby Agree that, beginning three months from the.....day of1926 (the date of signature of

will accrue from their levying shall be applied as follows:-

I. As an immediate measure in preparation of the way for the speedy abolition of likin, the collections taken in payment for transit passes (which passes shall continue to be issued as heretofore at the same rates) shall be distributed proportionately through the Maritime Customs Administration to the Provincial Authorities taking as a basis the amount of the transit duties collected on the merchandise destined to, or passing through, or originating in the various Provinces, respectively, under the cover of the transit passes.

For the loss occasioned by this action there shall be taken from the surtax collections the sum of \$ 5, 000, 000 per annum, and this sum shall be credited, by way of compensation, to the ordinary Customs revenue.

II. As a further measure in preparation of the

the present Agreement) the Chinese Government shall impose and collect surtaxes on dutiable imports as follows: On all commodities listed in the Schedule hereto annexed a surtax equal to the amount of the regular duty prescribed in the Revised Import Tariff for the Trade of China at the time being in force (that is, either the specific duty or the 5 percent *ad valorem* duty provided in that Schedule), and on all other dutiable commodities a surtax equal to one-half of the amount of the regular duty prescribed in the Revised Import Tariff for the Trade of China at the time being in force; and that these surtaxes shall be levied uniformly at all land and maritime frontiers.

And Do Hereby Agree that these surtaxes shall be collected by the Maritime Customs Administration and that, until this Agreement shall have been superseded or modified by provisions of a later treaty, treaties or agreements, the additional Customs revenue which

way for the speedy abolition of likin and as a step looking toward the abolition of export duties both on foreign and on domestic trade China will within three months after the going into effect of the above mentioned surtaxes abolish the tax known as the "coast-trade duty," that is, the half duty at present charged on the reimport of goods of domestic origin which, after having been exported from one Chinese port, are imported into another Chinese port.

For the loss occasioned by this action there shall be taken from the surtax collections the sum of \$ 4, 000, 000 per annum and this sum shall be credited, by way of compensation, to the ordinary Customs revenue.

III. From the surtax collections there shall be remitted monthly through the Maritime Customs Administration to the Ministry of Finance the sum of \$ 750, 000 to be used solely for the current con-

structive and/or administrative expenses of the Chinese Government.

IV. After the purposes specified above shall have been served, the remaining portion of the proceeds from the collection of the surtaxes shall be held by the Maritime Customs Administration, free from all encumbrances, as an accumulated fund to be applied in due course to the liquidation of the uncured and inadequately secured debts of the Chinese Government.

Disbursements shall be made from this fund in accordance with the provisions of the treaty, treaties or agreements concluded at this Conference, or, if such treaty, treaties or agreements or, any treaty or agreement which may have been negotiated otherwise for this purpose, shall not have come into effect within two years after the date of the signature of the present agreement, in accordance with the principles which may at that time be agreed

Conference, China will take the earliest possible steps to restore the commercial efficiency of her railways and to ensure that the financial obligations of the railways be adequately served from railway revenues.

七三七 五月十五日

在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

海關制度ニ関スル我方ノ提案ニ関スル件

付 記 海關制度調整ニ関スル日本ノ提案及び説明

関会第三〇五号

我方ニ於テハ海關制度ノ問題ニ関シ會議ニ於テ少クトモ我方ノ意向ヲ明カニスルノ必要ヲ認メ機ヲ見居タル処華府付加稅取極案審議ノ機會ヲ捉フル事適切ト認メ本十五日ノ和蘭公使館ニ於ケル全權會議ニ於テ右取極案修正審議ノ終リニ於テ芳沢ハ別電関会第三〇三号ノ通りノ案ヲ取極案ノ最後ニ付加スルノ要有ルヲ提議シ且ツ別電関会第三〇四号ノ通り之カ説明書ヲ讀上ケタル処之ニ對シ英國全權ハ請訓ノ要有リト述ヘ米國全權「マクマレー」ハ其趣旨ニ於テハ何等反對ス可キ点無キモ支那人ハ現ニ海關制度全部ノ問題ヲ提起セントスル際此問題ヲ支那側ニ提出スルハ爆彈ヲ投ス

六 北京關稅特別會議關係 七三七

upon.

V. The proceeds from the collection of the surtaxes shall be deposited in such banks, in such manner and in such proportions as are specified in the resolution hereto annexed.

It is understood that the foregoing arrangements for the disposal of the additional Customs revenue which will accrue from the levying of these surtaxes are adopted in the expectation that there will be concluded a new treaty, treaties or agreements, as indicated above, in which provision shall be made for a further increase in the Customs revenue with a view to serving purposes under discussion, and that these arrangements will be superseded by the provisions of such treaty, treaties or agreements.

It is furthermore understood that in view of the essential importance of the Chinese railways in the promotion of China's prosperity and rehabilitation of her credit, which are fundamental purposes of this

ルカ如キモノナルニ付本問題ハ外交團ニ於テ又ハ「カストムズ・インシニスタンション」トノ間ニ解決スル事然ル可シト述ヘ伊國全權ハ本問題ハ初メテノ問題ナレハ考量ノ時間ヲ得度シト述ヘ結局本問題ハ次会ニ審議スル事ト成リ

編註 別電第三〇三、第三〇四号省略

（付 記）

支那海關制度調整ニ関スル日本ノ提案

It is furthermore understood that with a view to increasing the facilities enjoyed by traders, suitable adjustment will be made in regard to the appointment and assignment of the foreign staff of the Chinese Maritime Customs Service, giving due consideration to the trade relations with China of the foreign Powers concerned.

海關制度調整ニ関スル日本提案ノ説明

It may be recalled that at the Washington Conference (the Fourth Meeting of the Sub-committee on Chinese Revenue) Mr. Odagiri of the Japanese Dele-

七八一

gation made a statement in regard to the question of the Customs-service. The excerpt of the passage of the minute pertinent to it reads as follows:-

(Minute of the Sub-committees, page 594; and Minutes of Committees, page 1494)

The opinion expressed in that statement was concurred to by the Delegates of other Powers, including Senator Underwood, who recognized the fairness of the Japanese position.

Since the question was already taken up at the Washington Conference, we do not think it irrelevant to raise the question at this juncture. In suggesting the insertion of this passage in the Draft Agreement, we do not contemplate to make any alteration in the existing system of the Chinese Maritime Customs, nor do we doubt the efficiency of the present organization, which has been very well administered during the past years to the interests of traders, Chinese and foreign. But we feel that there is an aspect in

regard to which certain adjustment may be made with a view to further increasing the benefits of the foreign traders in China. We believe that a suitable adjustment may be effected in the appointment as well as assignment of the staff of the Maritime Customs Service, so that an equitable representation of the nationals of the Powers more interested in trade may be effected in the foreign staff of the Customs administration, and more facilities may be enjoyed by foreign traders in China.

We must add that we have no intention to interfere with the administration of the Chinese Government, and trust that the reasonableness of our suggestion will be justly appreciated by the foreign delegates as well as by the Chinese Government.

七三八 五月十五日

在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

海關制度ニ関スル我方提案ガ協定案ニ挿入セ
ラレザル場合ヲ考慮シ一般問題ニツキ重ネテ

請訓ノ件

関会第三〇六号

(五月十六日接受)

往電関会第三〇五号ニ関シ

海關制度ノ問題ハ我方ニ取リテハ實質上ノ重大問題ナルニ付此レ迄有ラユル機會ニ於テ我方ノ希望實現ヲ期シツツアリテ總稅務司「アグレン」ニ對シテモ追テ我方ヨリ本問題ヲ會談スル意向アル旨ヲ英國側ヲ通シテ知ラシメ置キ「アグレン」ニ於テモ當方ト意見交換ノ用意アル模様アルモ我方希望ヲ達成シ適當ノ諒解ニ達スル為メニハ兎ニ角本問題ヲ華府會議以來ノ問題トシテ充分徹底的ニ持出スノ得策ナルコト認メラレタルカ支那側ハ海關制度ヲ全然支那國內問題トナシ之ヲ公然會議ニ持チ出スヲ好マス他方極端派ノ主張ニ耳ヲ傾クル支那一般民衆特ニ広東方面ノ形勢ハ或ハ海關制度ノ根柢的破壊ヲ企ツル者トモ見ラレ居リ旁々本問題ヲ支那側ノ面前ニ於テ公然討議スルハ好都合ナラサル次第ナリシ処偶々十五日ノ支那以外ノ全權會議ハ好機會ナリト認メ往電関会第三〇五号ノ如キ提議ヲ為シタル次第ナリ固ヨリ本提案ニ對シテハ他國側ノ賛成ヲ得ルコト難キハ万々承知ナリシモ我方ニ於テ斯ノ如キ強キ希望ヲ有スルコトヲ

各國特ニ英國側ニ對シ認識セシメ置クコトハ我立場ヲ強ムル所以ニシテ更ニ此等方面ト適當ノ諒解ニ達スルコトヲ容易ナラシメ海關制度ニ對シ事實上日本側ノ正当ナル Participation ヲ得ントスルノ趣旨ニ出テタル次第ナリ從テ本問題ニ関スル我方提案カ取極メ案ニ挿入セラレサル場合ヲ考慮シテ往電関会第二五九号ニ對シ何分ノ御回訓ヲ煩ハス次第ナリ

七三九 五月十七日

幣原外務大臣ヨリ
在北京關稅特別會議帝國代表宛
(電報)

付加稅實施協定案ノミヲ急速承認スルハ大局

上慎重ヲ要スルニツキ同案ニツキ此ノ上深入

リセザル様訓令ノ件

関会第一〇二号 至急

貴電関会第二九五号ニ関シ

會議ニ對スル當方ノ方針ハ往電関会第一〇〇号ノ通變リナキ処當方ノ最モ重キヲ置ケル差等稅率ヲ含ム一般の條約ノ成否甚タ不確定ナル今日華府條約付加稅ニ関スル協定案ノミヲ獨立シテ急速承認スルハ大局上慎重考慮ヲ要スル次第

ナルニ付同協定案ニ付テハ此上深入リセサルコト致サレ度ク尚右一般の條約案乃至華府付加稅協定案ニ關スル全般ノ問題ニ付テハ引續キ電報スヘシ

~~~~~

幣原外務大臣ヨリ  
七四〇 五月十九日 在北京關稅特別會議帝國代表宛  
(電報)

付加稅實施協定案ノミ決定スルコトハ取止メ  
差等稅率案等ヲ一括整理シテ簡明ナル記錄ヲ  
作成シ他日交渉再開ノ基礎トナスニ止メタキ  
件

關會第一〇三號 至急  
往電關會第一〇二號ニ關シ

一、貴電關會第二九八號華府付加稅協定案ハ差等稅率ヲ含ム一般の條約ノ一部トシテ初メテ有意義ノモノナル処最近支那ノ時局並ニ會議ノ形勢殊ニ英國等ノ態度ニ鑑ミルニ右一般の條約ノ成否ハ固ヨリ主要列國間ノ決定スラ甚タ疑ハシキノミナラス本来本協定ハ一般の條約實施ニ至ル迄ノ暫行措置トシテ初メテ會議ノ情勢ニ適合スルモノナルニ拘ラス今之ヲ獨立シテ急速承認スルトキハ列國中

ラス又仮ニ右補填ヲ行フトスルモ現行基本稅收入ノ自然增收及担保解除額ヲ考慮ニ入ルコトナク付加稅收入ノミヨリ之ヲ補填スヘキ理由ナシ

(ロ)本協定案ハ右第三條ノ規定セル付加稅增收ノ目的及條件ヲ定メ居レリト稱スヘキモ明確ニ之ヲ定メ居レルハ抵代稅及沿岸貿易稅ノ廢止及之ニ基ク欠損補填並政費ノミニシテ債務整理ニ付キ積立基金ノ年額ヲ不確定ニシ且之カ運用方法ヲ未決定ノ儘トナシ居ルハ極メテ不徹底ニシテ使途ノ大部分タル整理ヲ未定ノ儘ニ置クナラハ他ノ使途モ同様未定ト為シ他日ノ決定ニ殘スコトトシ關會第七四號訓電ノ趣旨ニ抛リ貴電關會第二三八號ノ形式ノ如キ仮決議トスルコト妥當ナリ

(ハ)從來中央政府ニ對シ其ノ不安定ノ故ヲ以テ政費ヲ与フルヲ欲セサリシ英國力此ノ際抵代稅收入ヲ其ノ地位更ニ不安定ナル地方政府ニ分与スルハ其ノ理由乏ク殊ニ本来中央政府ニ歸屬セシ右收入ヲ地方ニ与ヘムトスルハ中央政府ヲ無視セル措置ニシテ釐金撤廢準備ト云ハムヨリ寧ロ英國側ノ稅關ヲ通シタル對地方的宣伝ノ一手段タルノ感ナクンハアラス

或ハ之ヲ以テ一応支那ノ要求ヲ充タセリトスルモノアルヘク或ハ本協定案本文第一項及第二項ハ釐金撤廢ニ關スル一種試驗の規定ト見ルヲ得ヘキヲ以テ差等稅率ヲ含ム條約實施前相當ノ期間右試驗の規定實行ノ成績ヲ見ムコトヲ欲スルモノアルヘク其ノ結果本協定ヲ以テ一段落トナシ我方ノ最モ重キヲ置ク差等稅率乃至債務整理ヲ伴フ一般條約ノ實施ヲシテ少カラス遲延セシムル危險ナシトセス

二、加之本協定案自体ニ付テ見ルモ亦欠点尠シトセス例ヘハ

(イ)本件付加稅ハ華府條約第三條ニ依ルモ第二條實行迄ノ暫行付加稅ニシテ今回ノ會議ノ情勢ニ依レハ差等稅率トノ關係上一層過渡の一時的使命ヲ有スヘキ筈ノ処本案ニ依レハ本来二分五厘以上ノ増徴ヲ以テ支弁スヘキ釐金撤廢準備ノ為本付加稅收入中ヨリ年々九百萬元ノ多額ヲ割イテ抵代稅及沿岸貿易稅ノ欠損ヲ補填セムトスルハ華府條約第三條審議ノ當時何人モ予想セサリシ所ニシテ之カ為ニ政費ヲ少額ニシ且支那財政確立ニ寄与スヘキ債務整理準備基金ヲ不確定裡ニ置クハ妥當ナ

三、本案ニ伴フ危險欠点叙上ノ如クナル一方曩ニ我方ニ於テ關稅會議ニ臨ムヤ對支貿易並投資ノ擁護ト共ニ支那國民ノ合理的の冀望ニ對シ好意的の考慮ヲ惜マサル方針ノ下ニ會議劈頭既ニ我公正ナル大方針ヲ聲明シタル次第ナル処此際支那時局並英國側不参加ノ為当初ノ大計畫ヲ進ムルニ由ナク一時會議ヲ中止スルハ止ムヲ得ストスルモ此際會議ノ主要目的ノ一部ヲ切離シ本案ノ如ク獨立ノ一協定トシテ不徹底ナル約束ヲ確立スルニ於テハ到底我國論ノ承認ヲ得ルコト困難ナリト思考セラル

四、然ルニ支那側ニ於テ曩ニ華府付加稅增徴問題審議ノ際二分五厘付加稅ノ賦課ノミヲ以テ會議打切トナルヲ憂慮シ同決議案中ニ將來九千萬元ノ差等付加稅ノ實施セラハヘキ趣旨ノ一項ヲ挿入セムコトヲ切望シタル経緯ニ鑑ミルニ本協定ノミヲ以テハ到底満足シ得サルヘク從テ此際我方ニ於テ二分五厘ノ獨立決定ヲ急クコトナク支那新政府代表ト再會ノ上飽迄九千萬元差等稅率ヲ含ム條約案ノ作製ニ依リ支那稅制並財政ノ整理ニ貢獻セムコトヲ主張シ二分五厘付加稅ニ關スル仮決議案ヲ以テ一般の新條約實施ニ至ル迄ノ暫行規定タラシメムコトヲ主張スルニ

於テハ或ハ支那側ノ希望ト相俟チ會議ヲ最近同國時局變動以前ノ狀態ニ戻スコトヲ得ヘク不幸決裂ノ場合ニ於テモ我立場ヲ全ウシ我方ニ於テ今後ノ情勢ニ応シ日支經濟關係上他ノ局面開展策ヲ講スル上ニ於テ累ヲ遺ササルコトヲ得ヘシト思考セラル

五、要之我方トシテハ飽ク迄当初ヨリ一貫セル公正ノ態度ヲ持シ差當リ米國側其ノ他ヲ德憑シテ差等稅率ヲ含ム一般條約案ノ準備ニ努力シ二分五厘付加稅協定案ハ華府條約第三條ノ精神ニ依リ右一般條約ノ實施ニ至ル迄短期間之ヲ實施スル立前ヲ以テ準備シ其ノ使途ハ差等稅ニヨル收入ト共ニ更ニ協定スル事トシ兩者共ニ支那新政府ノ成立ヲ待チテ正式討議確定ノ結果調印シ得ル程度ノモノトナシ置クヲ得ハ好都合ナリト思考ス

六、尤モ各國側ニ於テ右方針ニ応セサル場合ニハ止ムヲ得サルヲ以テ我方トシテハ少クモ華府付加稅協定案ノミ之ヲ此ノ際決定スル事ハ取止メ各國ト共ニ從來公式非公式會合ノ成果殊ニ差等稅率案等ヲ一括整理シテ簡明ナル記錄ヲ作成シ置キ關稅會議今日迄ノ成績ヲ明確ニシ他日新政府成立ノ曉之ヲ談判再開ノ基礎トナスコトニ止メ度

ニ角華府付加稅ノミニテモ急速實現セシメント焦ルニ至リ續イテ現當局モ等シク華府付加稅ノ實現ヲ熱望シ若シ是スラ成立セサルニ於テハ列國側ノ誠意ノ到底認めヘキモノ無キヲ感シ居ル狀況ナル所英國側カ一般條約ニ不参加ノ態度ヲ示シタル此ノ際御來示ノ如ク付加稅ノ徵收自体ヲモ其ノ使途等ヲ規定スヘキ一般條約ノ成立ニ繋ラシムル事トスルニ於テハ近キ將來ニ於テ右一般條約成立ノ見込尠キ今日日本ハ華府條約付加稅ノ實施スラ之ヲ欲セサルモノト各國ハ解スルニ至ル可ク特ニ支那側ハ最後ノ希望タル華府條約ノ實現ヲモ日本ニ依リテ拒レタリトノ感想ヲ抱キ(往電第二三八号仮決議案カ不成立ノ儘トナリタルハ我方最後修正案ニ支那側カ反對ナリシタメナリシハ當時報告ノ通ニシテ支那側ハ華府付加稅ノ實施カ一般條約ノ成立ニ係ラシメラルル事ニ對シテハ既ニ當時異議ヲ唱ヘル次第ナリ)將來久敷ニ亘リ各方面ニ對シ我立場ヲ頗ル困難ナラシムヘキハ大ニ憂慮セサルヲ得ス

(三)就テハ前頭第一項ノ我方態度ニ拘ラス直ニ一般條約成立セサル場合ニ於テモ(イ)前記取極ハ之ヲ成立セシメ

就テハ右ノ方針ニ依リ我方主張貫徹方此上共御努力相成度シ

七四一 五月二十六日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

付加稅實施協定案ノミニテモ成立セシムル必

要ニツキ意見具申ノ件

閱會第三一〇号(極秘)

貴電第一〇二号及貴電第一〇三号ニ関シ

(一)當方ニ於テモ一般條約ト華府條約付加稅ニ関スル取極メハ相互關連スルモノトシテ兩者トモ成案ヲ作製シ之ヲ支那側ニ殘サントスル趣旨ニハ終始變ル所ナク今後モ元ヨリ其ノ方針ヲ以テ努力スヘキ処最近會議ノ情勢ニ付テハ累次ノ電報ニテ或ハ意ヲ尽ササル所アルヤノ虞アルヲ以テ此処ニ幾分ノ重複ヲ顧ミス一括申上度シ

(二)米國側カ華府會議ノ成果ヲ收メルニ急ナル為少クモ華府付加稅ニ関スル取極メ案ノ急速成立ニ努力シ英國側ニ於テモ右取極メ案ハ速ニ之ヲ取纏メ置キ支那政府成立ノ上之ヲ提示シ度キ意向ニシテ其他ノ國ニ於テモ皆同様ノ態度ヲ持シ他方支那側ニ於テハ王正廷離職前ヨリ兎

華府付加稅ノ徵收開始ニ同意ヲ与ヘ(イ)政費ノミハ適當ノ方法ニ依リ之ヲ支那側ニ交付スルコトトシ(ハ)殘余ハ單ニ其ノ用途ノ項目ヲ示シテ詳細ノ規定ハ一般條約ニ譲リテ其ノ決定迄(ニ)全部取極案中ニ規定セラルヘキ保管銀行ニ保管スルコトトシ(ハ)沿岸貿易稅及抵代稅ニ關シ九百萬元充當ノ件ハ當方研究ノ結果相當理由アルモノト認め且往電閱會第二九四号所載ノ経緯ニ依リ双方互讓ノ結果トシテ成立シタルモノナルモ(特ニ英國側ヲシテ債務整理ノ件ヲ認メシメタルハ寧ロ成功ナリト米國側ニ於テモ考ヘ居ル次第ナリ)別電閱會第一〇三号(2)(イ)ニ御指摘ノ趣旨モアリ一応之ヲ削除スルニ努力シ其他ハ大体現在ノ案ノ程度(但政費ハ之ヲ月額百萬元ニ増加スルコトニ提議然ルヘシ)ニテ之ヲ承認スルコト然ルヘシト思考ス就テハ以上御審議ノ上大至急何分ノ回訓ヲ請フ

(四)尤モ右華府條約付加稅協定案ヲ作成シ置ク場合ニ於テモ少クトモ事實上ノ政府トシテ承認セラルル政府ノ實現スル迄ハ之ヲ調印セサルハ勿論ナリ

七四二 五月二十七日

在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

付加税實施協定案ニ反対スルコト不得策ナル

理由ニツキ補足説明ノ件

開会第三一三三號

往電開会第三一〇號御詮議ニ関シ

左ノ諸點御考量ヲ請フ

(一)我方ニ於テ特ニ重要トスル債務整理ニ付テモ英國側ノ強キ反対ニ拘ラス兎ニ角主義ニ於テ付加税ニ関スル取極案中ニ規定スル事トナリタルハ今後益々困難トナルヘキ同問題ニ対シテ解決ノ端緒ヲ開キ置キタルモノト云フヘシ債務整理ハ支那ノ信用ヲ回復スル所以ニシテ之ヲ以テ支那ニトリ有利ノ條件トシテ數フルハ充分ノ理由アル次第ナルモ支那人ノ心理狀態ハ斯ノ如ク理論のニ非スシテ動モスレハ列國力關稅増徴ヲ認ムルハ全ク債權ノ取立ヲ行ハントスルモノニシテ特ニ日本ノ如キハ特殊ノ不確實債務ヲ此機會ニ整理セントスルモノナリトノ印象ヲ有シ而モ此印象ハ單ニ支那ノミナラス外國ノ間ニ於テモ當方ノ説明ニ拘ラス今尚刻マレ居ル次第ニシテ從テ今日ニ於テハ先ツ華府付加税ニ付テ前記ノ程度ニ規定シ他日一般的條約ノ成立ニ努ムルノ外ナキ次第ナリ

七四三

六月一日

幣原外務大臣ヨリ  
在北京關稅特別會議帝國代表宛(電報)

華府條約付加税實施協定案ノ取扱ニ関シ訓令

ノ件

開会第一一〇號(至急)

貴電開会第三一〇號及第三一三三號ニ関シ貴代表等ノ苦衷ハ推察ニ余リアルモ

一、華府條約第三條ノ付加税ヲ他ノ暫行稅率ニ先チ關稅増收ノ一部トシテ早目ニ徵收スルノ主義ニ付テハ當方ニ於テ初メヨリ異議ナキモ貴電ノ方針ハ全然從來會議ノ成行ヲ離レ二分五厘案ヲ獨立シテ決定シ置キ之レ丈ケ新政府成立會議再開ノ曉直ニ調印實施セムトスルモノニシテ我之ニ同意セハ會議ハ之ヲ一段落トシテ事實上打切トナリ折角大体纏リタル差等稅率財政整理其ノ他ノ重大事項ノ審議ハ無期限ニ延期セラルルコトナルヘキハ想像ニ難カラス

二、元來支那ノ國民的希望ハ國定稅率、暫行稅率、華府條約第三條ノ付加税ヲ一体トシテ此ノ會議ニ於テ關稅ノ漸進的増徴計畫ヲ確立シ併テ支那ノ國際的地位ヲ昂上セム

(二)保管銀行(成行別ニ電報ス)及海關制度ノ問題ハ目下各國ト意見交換中ナルカ保管銀行ノ問題ハ大体ニ於テ我レニ有利ニ解決シ得ル見込立チタリト云フ可ク又海關問題ニ就テモ取極中ニ規定ヲ見ルニ至ラストスルモ今後主トシテ英國側ト折衝ノ上出来得ル限り我希望達成ヲ計ラントシツツ有ル次第ナリ

就テハ是等ノ問題ハ華府付加税取極案ニ關連シ審議セラレ居ル次第ナレハ寧ロ我方ニ於テハ談ヲ進捗シ我地步ノ獲得ヲ努ムル事有利ナリト思考セラル

(三)支那政局ハ今後近キ將來ニ於テ安定ノ見据モツカサル有様ニテ會議ニ於テ各國間ニ意見ノ合致ヲ見ルモ尚新政府ノ承認等ニ關連シテ華府付加税取極ノ事態ニ就テモ其實現ニハ幾多ノ手續ヲ要ス可ク從テ現狀ニテ交渉ヲ進ムルモ付加税取極案カ直ニ成立シ又ハ實行セラルルニハ猶今後幾多ノ曲折有リト見ルヲ至當トス可ク然ルニ今日ニ於テ明ラカニ之ニ反対スルノ態度ヲ我方ニ於テ明示スルハ少クトモ機宜ヲ得タルモノニ非サルノミナラス支那側ハ勿論他國(特ニ英國)ハ其責任ヲ全部我方ニ轉嫁スル事ト成ル可シ此點ハ大局上極メテ不得策ナル事申ス迄モ無シ

トスルニ在リタルモノト認メラルル處此際二分五厘付加税實施ノミヲ會議ノ唯一ノ成果トシテ獨立決定シ其ノ他ノ緊要事項ニ關スル解決ヲ他日ニ讓ルニ於テハ支那ハ其ノ國民的希望ヲ達成スルノ機會ヲ逸シ所謂不平等條約ヲ改廢スルノ望ハ暫ク之ヲ絶ツノ外ナカルヘシ斯ノ如キハ列國殊ニ日本トシテ支那國民ノ為ニ謀リテ誠実ナル所以ニ非サルヤノ感ナキ能ハス

三、固ヨリ二分五厘付加税ノ急速實施ハ支那トシテハ之レナキニ優ルヘシト雖其ノ付加税ニ依ル増收トテモ全部直ニ支那人ノ手ニ引渡サルルモノニ非ス唯差當リ新政府組織ノ任ニ當ルモノニ於テ右増收ノ一部分ヲ政費ニ使用スルコトヲ得ルニ止マリ支那國民全体ノ利益ヲ著ク増進スルモノトモ思ハレス又列國側トシテハ支那政府ノ現狀ニ鑑ミ何時列國ノ承認ヲ受クヘキ新政府出現スヘキ見据付キ難キ今日單ニ現當局者目前ノ都合ニ依リ政費捻出ヲ理由トシテ右付加税案ノミヲ獨立シテ燥急決議シ置クハ單ニ一般條約トノ關係ノミナラス其他ノ政治的考量ヨリ云フモ面白カラス而シテ新政府承認關稅會議開會後ハ往電開会第一一〇三號方針ノ通二分五厘付加税ノ實施ヲ一般條

約ト併セテ協定スルコトヲ明ニシ置カハ新政府ニ於テ之ヲ基礎トシテ却テ政費ニ關スル弁法モ自ラ立チ易キ次第ナリ

四、將又列國側ノ見地ヨリ本問題ヲ見ルニ元來二分五厘付加税ヲ協定スルハ華府條約ニ基ク既定ノ義務ナリト雖今回ノ協定案ハ其ノ實際ノ結果ニ於テハ增收ノ主要部分ヲ海關ニ保管蓄積セシメムカ為貿易業者ヲシテ多大ノ犠牲ヲ供セシムルコトトナリ殆ト無意味ノ讓歩タルノ觀アリ五、惟フニ會議ノ形勢最近ニ至ツテ急転セルハ英國側ノ態度ニ基因スルモノト云フヘク其間我方ニ於テハ一点誠意ノ欠クル処ナク終始會議本來ノ大目的タル支那税制及財政ノ整理ニ貢獻セムカ為全力ヲ致シ來レル次第ニシテ若シ我方カ二分五厘付加税ノ実施ヲスラ肯セサルモノノ如キ感想ヲ支那並列國側ニ抱カルルノ虞アリトセハ其ノ誤解ヲ一掃スル為適當ノ時機ニ會議劈頭ニ於ケル我方宣言ト相呼応スヘキ宣言ヲ為シ我方ノ誠意並今日迄ノ公明ナル態度ヲ中外ニ表明スルコトモ一策ナルヘク右ノ憂慮ノ為支那ノ為ニモ列國ノ為ニモ不徹底ナル二分五厘實施案ニ此ノ際同意スルコトハ好マシカラスト思考セラル

# 一般關稅收入保管問題協定案作成ニ關スル件

別 電 同日在北京關稅特別會議帝國代表發幣原外務大臣宛電報關會第三二二號  
右協定案

關會第三二〇號

往電關會第三二一號ノ(一)末段一般關稅收入保管問題ニ關シ其ノ後五月二十六日以來三回關係國專門家合審議ノ結果別電關會第三二二號ノ案ヲ作製セリ本案ハ現在收入ノ外暫行付加稅實施ノ場合ヲモ「カバー」スル原則ヲ定メントスルモノナリ尚露亞銀行ハ保管銀行ニ加ヘサルコトニ一応專門家ノ意見一致セリ將又本案ハ一九一七年ノ取極ニ代ハル結果同取極ニ規定セラルル國際銀行家委員會ハ廢止セラレ從テ季報モ廢止セララルコトナルヘキ処我方ヨリ此種事項ヲモ新協定中ニ規定スヘキコトヲ主張セルカ各國共之ニ反對シタル結果此点ニ付何等カ適當ノ方法ヲ講スルコト望マシキ旨ヲ專門家ヨリ全權會議ニ「レコメンド」スルコトトナレリ

## (別 電)

六月二日在北京關稅特別會議帝國代表發幣原外務大臣宛電報關會第三二二號

六、要之往電關會第一〇三號ハ当方ニ於テ對支並對內關係ノ大局ニ鑑ミ慎重考慮ヲ加ヘタル結果ニシテ此際貴電ノ如キ付加稅案ノミヲ決議スルハ却テ會議ノ全般の成功ニ累ヲ及ホシ我國論ノ承認ヲ得難キノミナラス對支關係ノ將來ヨリ云フモ面白カラストスル当方ノ見解ナルヲ以テ矢張り前記往電特ニ同電第五、第六ノ方針ニ依リ最善ノ努力ヲ尽サルコトト致度而シテ今後列國ノ態度ニ依リ會議繼續不可能ナル場合ニハ適宜前記ノ如キ宣言ヲ發シ新政府成立ニ至ル迄一先ツ會議ヲ中止スルモ止ムヲ得サルコトト思考スルヲ以テ其ノ含ニテ我方主張貫徹方此上共努力相成度シ

七、尚貴電關會第三二一號保管銀行問題其他枝葉ノ問題ニ關シテハ其ノ内容ニ付当方ニ於テ別ニ意見モアリ追テ申進スヘキ処前記根本方針ノ貫徹ヲ見サル間ニ之等問題殊ニ貴電二分五厘案ニ深入リスルニ於テハ却テ我方ノ立場ヲ拘束スル虞アルニ付此際ハ先ツ右我方ノ根本的主張ニ各國ヲ誘フコトニ努メラレタシ

七四四 六月二日

在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

# 關稅收入保管問題協定案

關會第三二二號

Suggestion for a proposal to be submitted with a view to effecting a revision of the agreement of January 30, 1912.

Whereas an agreement was concluded on January 30, 1912, between the Wai Chiao Pu and the Foreign Ministers concerned for the custodianship of the Customs revenues charged with the service of the foreign obligations secured thereon, which Agreement was subsequently modified on April 7, 1913, and December 24, 1914, and

Whereas the circumstances now render it desirable to revise the said Agreement, as provided for in the final Clause thereof, it is agreed

(1) The Chinese Government will designate certain Banks at Shanghai as custodian banks in which the net customs revenues shall be deposited. These

banks shall be chosen from among Chinese banks and such foreign banks as may be recommended by the Powers materially interested in the foreign loan and indemnity services secured on the customs revenues and there shall be included at the least one Chinese bank and one bank of each nationality of the recommending powers.

(2) The Inspector-General of Customs shall arrange for prompt remittances of net revenues from all collecting points to Shanghai, for this purpose he may, at his discretion, avail himself of the facilities afforded by the local branches of the Custodian Bank.

(3) Of the total net Customs revenue thus assembled at Shanghai, such portion as may be required for the foreign loan and indemnity services shall be distributed at intervals not to exceed one week *pro rata* among the Custodian Banks concerned, each of which banks shall receive a share in proportions as they fall due, following as closely as possible the proportions given in Article 3.

(7) Interest shall be paid by each Banks at equitable rates which shall be agreed upon periodically for a period not to exceed six months between the Chinese Government and the Custodian Banks.

(8) The provisions of this Agreement shall supersede the Agreement of January 30, 1912, and all amendments thereto shall be subject to revision by General Treaty or future revision as circumstances may require.

七四五 六月四日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

伊国政府ガ付加税實施協定ニ同意セル件

関会第三二三号

往電関会第三〇二号華府付加税協定ニ関シ

伊国全権ヨリ三日付ヲ以テ同国政府ハ本協定案第四項ニ規定セル *remaining portion* ハ無差別平等ニ無担保及不確定債務ノ全部ノ整理ニ当ツル事ヲ条件トシテ本案ニ対シ異議無キ旨ヲ通知シ来レリ(全文郵送ス)

六 北京關稅特別會議關係 七四五 七四六

portion to the interest of the nationality which it represents in the foreign loan and indemnity services.

(4) The surtaxes collected in accordance with the agreement whereby the surtaxes provided in the Washington Treaty of February 6, 1922 are authorized to be levied, shall be deposited in accordance with the provisions of the resolution annexed to that Agreement.

(5) The Custodian Banks shall be required to offer adequate security for the shares allotted to them or the deposits which they accept, and the securities shall be deposited in the central banks or other proper institutions of the nationalities concerned.

(6) Loan Service Accounts in the name of the Inspector-General of Customs shall be opened by each of the Custodian Banks and the Commissioner of Customs at Shanghai shall be authorized to draw upon these accounts for Loan and Indemnity pay-

七四六 六月五日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

付加税實施協定案ノ取扱ニ関スル訓令執行ノ

困難ナル事情具申ノ件

関会第三二四号 極秘

貴電関会第一〇三号及第一一〇号ニ関シ

本員等ニ於テ熟議ヲ擬シタル結果今一応左記諸点御考慮ヲ煩ヒタシ

(一) 往電関会第三一〇号及第三一三号稟申ノ方針ハ実ハ會議今日迄ノ自然ノ帰結トモ云フ可キモノニシテ即チ決シテ會議ニ於テモ從來ノ方針ニ依リ全般ノ問題ニ関シ成案ヲ得ントノ主義ヲ貫徹セントノ堅キ決心ヲ以テ各国委員カ鋭意研究討議中一方各国ノ利害關係上打勝ツ可カラサル障害ニ遭遇セルト他方支那政局ノ限リナキ變転並ニ會議ニ対スル熱度減退ヨリ自然ニ前記往電ノ通ノ帰結ニ連リタルモノニシテ今日ニ於テハ右ハ寧ロ動カス可カラサル大勢トナリタルモノナリ即チ過去七ヶ月ニ亘ル各国委員ノ熱心ナル討議ノ結果一切ノ事情ヲ綜合シテ最早何人モ右ノ外ニ解決ノ方法ナシト考ヘ得ルニ至リタルコトハ実

七九三

際ノ事實ナリト云ハサル可ラス從テ仮令今日華府付加税取極案ノ審議ヲ中止シ一般條約問題討議ヲ再開セントスルモ各本國政府ニ對シ新ニ會議ヲ進行セシムル手段ヲ講セラルルニアラサル限り之ニ依リテ會議ノ此形勢ヲ挽回スルコトハ到底不可能ナルヲ確信ス

(二) 貴電中略纏リタルハ差等税率財政整理ト云ハルモ前者ニ對シテハ尙他國ノ故障アリ後者ニ付テハ全ク事實ノ誤解アリ是迄幾十回トナク最モ露骨ニ行ハレタル意見ノ交換ニ依リ獲得シタル諒解ニ依ルニ英國ノ債務整理問題ニ對スル反對ハ到底日米ノ方針ト調和セシムルノ頗ル困難ナルヲ信セシム即チ英國ハ本問題ニ多クノ利害關係ヲ有セス西原借款ノ整理ト支那海關ヲ借款取立機關ニ墮落セシムルコトニ反對ナリ仏蘭白等ノ如キモ其ノ利害專ラ鐵道ニアリテ一般の債務整理ニ何等ノ熱心ナシ本問題ヲ現狀ニ引付ケ得タルハ全ク米國委員ノ誠意アル援助ニ依ルモノナリ尙序ニ一言シ置キタキハ差等税率協議ノ場合ニ日本ハ随分我儘大胆ナル要求ヲナシ其ノ大部分ノ容レラレタルハ一ニ米國ノ協調ニ依ルコトヲ忘ル可ラス其ノ他ノ問題ニ付テモ亦然リ蓋シ少クモ本會議ノ関スル限リ米

國トノ協調ヲ破ルコトハ愚ノ極ト云ハサル可ラス

### (三) 各國現今ノ態度

(甲) 英國ハ本條約ヲ作ル場合ニハ支那政府ヲシテ釐金廢止ト云フカ如キ重大ナル責任ヲ負ハシメサル可ラス而シテ其ノ責任ヲ実行シ得ル政府ハ全支那ニ對シ実力ヲ有スルモノナラサル可ラサルモ斯カル政府ノ樹立ヲ支那ニ望ムハ百年河清ヲ待ツカ如シトナセリ他面英國ハ此ノ上會議ヲ進ムルモ英國ニトリ何等利スル所ナクシテ却テ英國既得ノ權利ヲ支那及列國ニ侵害セラレ又自主權ヲ支那ニ与フル結果不当ナル國稅ノ制定ヲ見貿易上偉大ナル妨害ヲ蒙ムル可キ危險アルノミトナシ只華府付加税丈ハ之ヲ与フルコト当然ナリトセリ

(乙) 米國ハ華府會議主催者タル關係上当初ヨリ踏襲シ来リタル方針ニ依リ成ル可ク完全ノ締結ヲ得ントシテ誠意努力シ来リタルモ一方ニ於テ支那政局ヲ收拾スル見込絶エタルト列國ノ利害ヲ一致セシムルコトノ非常ナル困難トニ顧ミ現今ニ於テハ最初ノ方針ヲ遂行スルノ念慮著シク薄ラキタリ過日置カ旅行中ノ法權委員ニ加ハル為滿州ニ出發セントスル際「ストロロン」ハ予テ

日置ト切テ滿州丈ハ各自自身ニ視察スヘシト約束シ居タルヲ以テ日置ヲ來訪シ自分カ約ニ背キ同行シ得サルヲ謝シタリ其ノ節彼ハ北京ヲ離レ得サルハ關稅會議即華府會議付加税案ヲ促進センカ為ナルカスノ如ク簡單明瞭ナル問題ニ関シ尙各國間ニ異議アルハ余ノ了解シ得サル所ナリト大イニ興奮シテ語リ居レリ十ヶ月間自分ハ自己ノ(脱?)全然放念シテ専心本會議ニ從事セルニ未タ何等効果ヲ得ス支那カ各國ノ好意ヲ顧念スルコト無ク徒ラニ内輪喧嘩ニノミ没頭シ居ルコト是列國ヲ侮辱スルノ甚シキモノナリ余ハ七月一日ニハ必ス出発歸國ニ決シ斷シテ一日モ猶予セサル決心ナルカ米國政府ヲ代表シテ十ヶ月間モ働キタル末手ニ何物モ携ヘスシテ歸國スルコトハ一身ノ面目ニカケテ出来サルコトナルヲ以テ華府付加税案丈ハ是非共取纏メサル可ラスト敦囑キ居レリ其後ニ於ケル會議ニ関スル米國ノ案ハ如何トノ日置ノ問ニ對シ之ヲ「ドリフト」セシムルヨリ外ナシト云ヘルカ右ハ此処打切トカ中止トカ云フ形式ヲ採ラス成行ニ任ストノ意味ナラント解釈セリ日置ハ尙「ストロン」カ會議ヲ離ルル前ニ於テ債務整理

其ノ他所謂 big treaty ノ骨子トナルヘキ問題ニ付各國ノ意見ヲ求メ之ヲ卓上ニ置カントノ予テ相互ノ申合ニ付テハ今後如何ニ処理スル考ナリヤトノ問題ニ對シトテモトテモ之ヲ成功セシムル見込ナシト劍モホロロニ挨拶ヲナセリ當時彼ノ述懐ニ支那ニハホトホト愛想ヲ尽カセリ從テ一日モ早く歸國シタキ念庄ヘ難キカ只今回經驗ノ結果得タト思フモノカニツアルハ日本ヲ誤解シ居タルコトヲ發見シタルコトニシテ他ハ日本ト協調シ行クコトノ出来得ルコトヲ發見シタルコトナリ有体ニ云フ自分カ米國ヲ出發スル時分ニハ宣教師等ト同シク支那ハ日本ヤ英國其ノ他ヨリ非常ノ圧迫ヲ加ヘラレ居ルモノト信シ居タカ実ハ然ラス曲全ク支那ニアルコトヲ確知シタルコトナリ其ノ二ハ今度ノ經驗ニ依リ日本ト協調ノ可能ナルコトノ確信ヲ得タルコトナリ英國ノ如キハ利己本位ニテ話ニナラサルモ日本ハ随分大胆ヲ提議ヲナスコトアルモ之ニハ道理アリ以上ノ二物ハ今度ノ唯一ノ獲物ナリ云々ト述ヘ米國式ニ華府案ノ促進ヲナサント烈火ノ如キ熱心ヲ示シ居タリ

(丙) 自余ノ各國ハ華府付加税案ノ調印ニ對シ最初ヨリ

何等異議ナキノミナラス目下ノ場合寧ロ当然ノ処置トシテ速ニ実行サレンコトヲ希望シ居レリ現ニ瑞典公使ノ如キハ東京ニ於ケル公使館借家建築落成シ又近ク皇太子殿下ノ一行歡迎準備等ノ為一日モ速ニ東京ニ歸リタキモ華府案ノ調印近キニアルヘキヲ期待シ一日一日ト出発ヲ延期シ居ルノミ將又各國中ニハ華府案丈ケニテ此會議ヲ終了スル方貿易上利益ナリト考ヘ居ルモノアリ我國實業界ニ於テモ此解釈可ナリ有力ナリトノ説アルヤニ聞キ及ヘリ

(丁)支那ハ會議初頭ニ於テハ非常ニ「アンビシアス」且激烈ナル態度ヲ以テ之ニ臨ミ曩ニ米國委員ノ提出セル華府附加稅單行案ニ反對セリ其ノ理由ハ若シ之丈ケヲ引離シ決定スル時ハ列國カ所謂 big treaty ニ對シテ通ケヲ打ツ虞アリトナシタルモノナルカ有識者ノ中ニハ支那カ三年間ニ釐金廢止ヲ実行スルト云フカ如キ大胆ナル提議ニ對シ當ニ疑慮ヲ抱キ居リタルノミナラス全然不可能事トシテ之ヲ排斥シ居タルモノアリ  
現ニ顏惠慶ノ如キハ最初ヨリ自主權ノ如キハ實利ナシ寧ロ附加稅ヲ獲得スル方利益ナリトテ私カニ王正廷一

派ノ態度ヲ冷笑シ居タルモ其ノ後時局屢々變転シ遂ニ華府附加稅ヲ貰フコトニシタシト申出テ談判順當ニ進行シ居タルモ日本ノ「プロヴィソ」ノ為停頓セリ要スルニ顏ノ如キ政治家ハ今日ニ於テ真面目ニ釐金廢止ノ約束ヲ結フカ如キヲ無謀ノコトトシ從テ最初王正廷一派ノ自主權回復ヲ此會議ニ依リ獲得シ得ラルルモノトハ考ヘ居ラス兎ニ角華府會議ノ附加稅丈ニテモ確実取得シタシト考ヘ居ルモノト信ス

(四)事情前述ノ如クナレハ当地ニ於テハ御訓令ノ如キ提議ハ誰ニモ全然予見セラレ居ラス若シ御訓令ノ趣旨ヲ會議ニ披露セハ青天ノ霹靂一般ヲ驚動憤激セシムルノ外何等効果アルナシ殊ニ「ストローン」ノ如キハ烈火ノ如ク憤怒スヘキハ勿論一國モ我カ提議ニ同意スルモノナシト斷言スルモ過言ニアラス此場合如何ニ宣言書ヲ以テ我立場ヲ聲明スルモ何人ヲモ之ニ首肯セシムルヲ得サル可ク結局局面ハ我カ失敗ニ終ハルコトヲ免カレサル可シ果シテ然ラハ之カ我カ國內政上ニモ有利ナル結果ヲ齎スヘシトハ考ヘラレサルニ付本員等ニ於テ御訓令ヲ実行スル前尚一応微衷ヲ披瀝シテ御再考ヲ促ササルヲ得サル次第ナリ即

七四八 六月八日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

附加稅實施協定案等ニ關シ至急訓令アリタキ  
件

閱会第三二八号 至急 (六月九日接受)

「ストローン」ノ請求ニ依リ六月十日午前全權會議ヲ開催スル旨六月八日和蘭公使ヨリ通報アリタリ就テハ議題ハ猶判明セサルモ兎ニ角往電閱会第三二六号及出來得ヘクハ往電閱会第三二四号ニ對シ六月九日夜迄何分ノ御電訓ヲ得ハ幸甚ナリ

七四九 六月九日 幣原外務大臣ヨリ  
在北京關稅特別會議帝國代表宛(電報)

附加稅實施協定案ニ關スル訓令ハ折角詮議中  
ナル旨通報ノ件

閱会第一一一号 至急

貴電閱会第三二八号ニ關シ

貴電閱会第三二四号ハ我方從來ノ方針ヲ一變スヘキヤ否ヤニ關スルノミナラス將來ノ影響モ重大ナルモノアリ慎重考慮ヲ要シ目下折角詮議中ニ付右ニ御含ミアリ度シ尚貴電閱会第三二六号ノ件ハ枝葉ノ問題ニシテ此際斯ル問題ノ進行

チ当地ニ於テ御訓令ノ趣旨ヲ実行スルコトハ到底予期ノ結果ヲ收ムルコト不可能ト考ヘ得ルニ付如何ニシテモ此方針ヲ貫徹セントノ御決心ナラハ先ツ各本國政府ヲ動カスノ外途ナシト思考スルニ依リ貴方ニ於テ倫敦及華府ニ於テ交渉ヲ開始セラレ其ノ結果ニ徴シ更ニ御訓令ヲ仰クコトトシタシ尤各國委員共歸國若クハ避暑地ヘ赴カントシテ飛立ツ様焦リ居ル折柄永キ猶予ヲ許ササルニ付何レトモ至急御決裁仰キタシ

七四七 六月八日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

各國ハ附加稅實施協定案ノ審議ヲ急グ模様ナ  
ルニツキ同案ニ對スル意見至急回示アリタキ  
件

閱会第三二六号

往電閱会第三二五号ニ關シ

五月七日和蘭公使ヨリ帝國政府ノ訓令接到シタルヤ否ヤ問合ノ次第アリ列國側ニ於テハ該協定案審議ヲ急キ居ル模様ナルニ付貴電閱会第一一〇号ノ(戊)御意見至急御回示相成タシ

ヲ計ルハ我方ノ立場ヲ拘束スル虞アリ旁々右貴電開会第三二四号ニ対スル回訓ト一併引進スヘキニ付此ノ際ハ訓令未着ノ故ヲ以テ然ルヘク応酬シ置カルルノ外ナシ

七五〇 六月十一日 在北京関税特別會議帝國代表ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

付加税協定並ビニ一般条約問題ニ関スル全權  
會議審議ノ模様報告ノ件

開会第三三二二号

(六月十二日接受)

往電開会第三二八号ニ関シ

六月十日和蘭公使館ニ於テ全權會議開催

(一)先ツ和蘭全權ヨリ関税保管銀行ニ関スル専門家案成立ノ経過ヲ報告シタル後往電開会第三〇二号華府付加税協定案ニ対スル各国政府ノ意見ヲ求メタル処瑞典ノ回訓ノミ未着ナルヲ除キ自余各国何レモ異議ナキ旨ヲ述フ(伊国全權ハ往電開会第三三三三号ノ趣旨ヲ述ヘタリ)

(二)次テ日置全權ハ前回會議ノ中止ヲ要求シ本日尚會議ニ対シ的確ノ意見ヲ述フルヲ得サル事情ヲ説明シ更ニ此機會ニ於テ我政府ノ御意向ヲ述ヘ置クヲ適當ト認メ(往電開会第三三三一号参照)日置ハ目下本国政府ト電報往復中ニ

シテ政府ノ訓令未着ナル今日意見ヲ留保スルノ外ナキ処今日迄本国政府ノ意思ト想像セラルル処ヲ自分ノ言葉ヲ以テ一応會議ニ開陳スル事ハ無用ニ非サル可シト前程シ次ノ如ク述ヘタリ

(イ)日本政府ハ華府条約ノ精神ヲ充分ニ実行シタキ意向ニシテ関税會議当初ニ宣言セル方針ニ從ヒ會議ヲ進行セシメン事ヲ欲スルカ故ニ右方針ヲ變更シ又ハ之ニ違サカルカ如キ事態ヲ醸成スル虞アル「アレンドメント」ニハ同意スルヲ欲セス

(ロ)最近會議ヲ執リ來タレル経路ニ依ルニ或ハ實際上會議ヲ終熄セシムルニ至ラントスル情勢ヲ生スル懸念アリ(ハ)若シ本會議カ暑中休暇等ノ目的ヲ以テ中止セラルルカ如キ事アラハ其以前ニ於テ各国全權カ將來ニ対スル方針ニ付確固タル了解ニ達シ置クノ要アリト思考ス

(ニ)差等税率表ノ如キ大ナル努力ト協調ノ精神トニ依リ到達セルモノノ如キハ之ヲ適當且安全ニ保持スル方法ヲ執ル事ヲ必要ト認ム

(四)日本政府ハ各国全權カ現ニ有スル了解即チ支那ヲ除ク各国間ニ會議ノ主要問題ニ付一ノ協調点ヲ得置ク事ニ

付尚一層ノ努力ヲ希望ス右ノ内最重要ナルモノノ一ハ債務整理ノ問題ナリ本問題ニ関シテハ和蘭公使館ニ於テ支那委員ヲ加ヘ各国全權間ニ久シキニ亘リ非公式意見ノ交換ヲ行ナヒタリシモ半途ニシテ之カ終止ヲ見タルヲ以テ日、英、米ノ専門委員ハ寄々意見ノ交換ヲ行ナヒ三国ヲ通シテ一ノ協調ヲ得ン事ヲ力メタルカ此試ミハ著シキ成功ヲ為シ三国委員間意見ノ相違ハ整理公債ノ利率ヲ六分トスルカ七分トスルカノ一点ニ帰スル程度ニ達セシモ不幸終局ニ至ラスシテ止メリ日本政府ハ此点ニ付テモ尚努力ノ余地アリト信スルモノナリ

(三)右日置ノ陳述ニ次テ英国全權ハ英国カ関税會議ヲ破壊セントスルモノナリトノ風説新聞紙上ニ散見スルモ英国政府ハ決シテ斯ル考ヲ有セス何処迄モ會議ヲ繼續スル意向ナリト述ヘ和蘭全權ハ會議ヲ続行スル事ハ各国全權一般ノ意向ト認メラルル処右ニ異議ナキヤト諮リタルニ別ニ一同異議ナシ

(四)次テ和蘭全權ハ日本ノ訓令接到迄全權會議ヲ中止ス可キヤヲ諮リタル際英国全權ハ華府付加税協定案ニ付支那政府ヨリ何等申出ル時期迄會議ヲ開カサルモ可ナリトノ趣

旨ヲ述ヘ居タルカ日置ハ日本ノ参加ナクシテ全權會議ヲ続行スル事ニハ反対ナル事ヲ明ラカニシ仏国全權モ之ヲ支持シタリ  
尚「ストローン」ハ少クモ華府付加税タケニ付テハ各国間ノ意見ヲ纏メ之ヲ卓上ニ置カサレハ吾人数ヶ月ノ努力モ無意味ナリトテ我方ノ訓令接到時機ヲ訊ネタレハ日置ハ「ストローン」ノ會議促進意見ニハ同感ナレハ訓令接到セハ直ニ右処置ヲ執ルヘシト答ヘ結局本案審議ノ為更ニ会合スル事トナレルカ其際英国公使ハ本案ハ支那政府トノ討議ノ基礎トシテ本国政府ニ「レコメンド」スルモノニシテ之ヲ支那側ニ押付ケントスルモノニ非サレハ今後支那トノ交渉ニ当リ多少ノ變更ヲ見ル事有ルヘシト述ヘタリ

(五)英国全權ハ芳沢公使往電第三八〇号天津ニ於ケル塩税抑留ノ例ヲヒキ支那ノ中央政府及地方殊ニ広東ノ現状等ハ華府會議當時トハ大ニ異ナルヲ以テ華府付加税ノ徵收ヲ認ムルニ当リテハ税収ノ処置ニ付的確ナル保障ヲ取り付クルヲ要スト説キタルニ仏国全權モ右保障条件ヲ明瞭ニ規定スル事然ルヘキ旨ヲ述ヘ「ストローン」ハ税収ノ処

置力適法ニ行ハレサル場合ニハ徵收ヲ中止スル等適當ナル保障方法ヲ講スル要アルヘシト述ヘタルニ對シ白耳義全權ハ徵收ノ中止ハ債務整理ヲ不可能ナラシムヘシト云ヘルニ英國全權ハ之ニ付債務整理ノ問題ヨリモ *revenue*ノ *integrity*ヲ重視スル要有リト応シタリ結局本問題ニ付テハ次回會合ノ節具體案ニ付審議スル事トナル

内日置ヨリ華府付加税ハ支那政府成立セハ直ニ之ヲ与フルモ可ナリトノ前回會合ニ於ケル各國全權ノ意見ハ何等變更無キヤ即チ華府付加税取極ニ調印シ得ル政府ト一般條約ニ調印シ得ルモノトハ別個ノモノト解スヘキヤ否ヤノ問題ヲ提出シタル處英國全權ハ右ノ如キ支那政府ヲ承認スル場合ニハ之カ果シテ支那ノ全部ヲ代表スルヤ否ヤニ付考慮スルヲ要スル處華府付加税協定ハ條約ニ非サルヲ以テ支那政府カ相當確立セル上ハ法律上ノ承認ヲ俟タス其調印ヲ「レコメンド」シ得ト思考スルモ一般條約ニ付テハ批准ヲ要スルカ故ニ法律上ノ元首ノ下ニ成立セル政府ノ存在ヲ必要トスヘシト述ヘ「ストローン」(de jure)ノ政府ニ非サルモ試験的ニ華府付加税ヲ与ヘ其成績ヲ見テ一般條約ヲ与ヘ得ヘキヤ否ヤヲ決定シテ可ナルヘシ理

(一) 六月十日全權會議ノ模様ハ往電開會第三三二號ノ通ニシテ要スルニ各國トモ會議ヲ繼續シテ一般條約問題ヲ審議スルノ方針ニ於テハ表面何等異議ナキモ華府付加税ノ問題ニ付テハ現在ノ程度ノ取極メノ形ニ付加税濫用ニ関シ何等カノ保障ヲ付加スル事トシテ満足シ如何ナル内閣ニテモ事實上ノ政府タル以上ハ試験的ニ之ヲ与ヘントスルモノニシテ其後ノ成績如何ヲモ考慮ニ入レ一般條約問題ヲ決セントスルニ帰着ス即チ結局各國ハ付加税取極メ案ノ審議ヲ急キ之ヲ各國間ニ纏メ會議ヲ中止セントスルニアリト見得可シ

(二) 前記付加税濫用ニ對スル保障ハ十日ノ會議ニ於テ新ニ起リタル問題ニシテ支那地方權力者ニ對シ中央政府ノ威令全然行ハレス鐵道ハ到ル所ニ差シ押ヘラレ居ル現狀ヨリ痛切ニ考慮セシメラルルニ至リタル次第ニシテ(塩稅差シ押ヘニ關シテハ十日午後塩關係國公使會議ニ關スル芳沢電報参照)「ストローン」ノ九日「アグレン」ヨリ受ケタル書翰中「アグレン」ハ二分五厘付加税成立スルトシテ「アグレン」ハ華府付加税ノ成立ヲ希望セサルハ既ニ報告ノ通ナリ)其徵收ハ貨物到着ノ日ヨリ始ム

論上ハ兎ニ角今日ノ事情ニ顧ミ寛大ナル態度ニ出テ付加税ヲ成立セシメ之ヲ卓上ニ置ケ事然ルヘシト述ヘ伊國全權之ニ賛成シ仏國全權ハ適當ナル保障ヲ付スレハ二分五厘ヲ与ヘルモ可ナリト述ヘ多數意向ハ「デファクト」ノ政府成立ノ上ハ適當ナル保障事項ヲ付シテ華府付加税ヲ与フルモ可ナリト云フニアリタリ

尚之ニ關連シ丁抹全權ハ華府付加税協定ニ調印シ得ル政府ハ同時ニ一般條約ノ審議ヲ為シ得ル程度ニ確乎タルモノナラサルヘカラス從テ斯ル政府ハ一般條約問題ヲ討議シ得ヘシト云ヘルニ和蘭全權ハ一般問題ニ關シ會議続行ニ付テハ本會合当初一同ノ意見一致セル處ナル旨ヲ指摘シタルカ其際英國全權ハ付加税取極ハ調印シ得ルト同時ニ一般條約ノ審議ハ之ヲ続行シ得ヘキモ其調印ヲ行フヤ否ヤハ別個ノ問題ナル旨ヲ明ラカニセリ

七五一 六月十一日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

各國ハ付加税協定案ヲ至急纏メ會議ヲ中止シ  
タキ意向ナル旨等報告ノ件

開會第三三三號

(六月十二日接受)

ル事(到着主義)及支那地方權力ト中央政府トノ關係完全ナラサル今日若シ付加税ニ付テ事起レハ之ヲ徵收スルヲ中止スル事ヲ布告スルヲ要スヘキノ二点ヲ指摘シアリタル由ナル所付加税濫用ニ對スル保障トシテ十日ノ會議ニ於テ「ストローン」ハ徵收中止(脱?)ヲ挙ケタルカ其際白耳義公使カ徵收中止ト債務整理トノ兩立シ難キヲ指摘セルニ對シ英國公使カ債務ノ整理ヨリモ *Integrity of revenue* 其モノニ重キヲ置カサルヘカラサルヲ説キタルハ前記「アグレン」ノ意向ト其軌ヲ一ニスルモノニシテ即チ海關制度ノ維持ニ重キヲ置ケル次第ナリ(現在ニ於テモ廣東政府ノ如キ動モスレハ海關制度ヲ蹂躪セントスル際地方分配ノ案ヲ含ム二分五厘付加税取極案實施ノ曉ニハ地方權力者ハ直接海關ノ差押ヘニ類スル行動ヲ執リ遂ニ海關制度ノ維持ヲ期スル能ハストスルモノナリ)何レニセヨ支那政局ノ現狀ニ鑑ミ前記保障ノ問題ハ中央政府ニ依ル濫用ノ場合例ヘハ將來ノ收入ヲ担保トシテ公債ヲ發行スルカ如キ亦前記ノ如キ地方權力者ニ依ル濫用ノ場合ト共ニ充分考究ヲ要スル重要ノ問題ナル所此点ニ關スル御意見至急御回示ヲ請フ

(三) 英国側ニ於テモ今後支那側ト交渉スルニ当リ今日迄審議ノ保管銀行ニ関スル取極案ヲ基礎トスル事ニ異議ナク且右保管銀行ニ関スル成案ハ米國側ニ於テモ日本ノ為ニ多大ノ尽力ヲ為シテ出来上リタル問題ニシテ此機ヲ逸スルハ甚タ不得策ナリト米國側モ認メ居ル次第ニテ之ヲ出来得ル文具体的ノモノトシ置ク事有利ト認メラル

七五二 六月十二日(着) 在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

新内閣ノ顔触レ並ビニ関税會議ニ関スル顧維

鈞ノ談話報告ノ件

第三九七号

六月十一日顧維鈞挨拶ノ為メ本使ヲ來訪シ

(一) 内閣問題ニ関シ自分ハ端午節後直ニ就職ス張志潭ハ天津ニ於ケル予備會議ノ終了ヲ待チテ就任スヘク杜錫珪、楊文愷ハ既ニ就職セリ王寵惠ハ未タ態度ヲ決定セス鄭謙、張景惠ハ予備會議済マサル内ハ態度不明ナルモ多分就職スルコトナルヘシト語リ

(二) 更ニ関税會議ニ関シ日本從來ノ援助ニ対シ謝意ヲ表スルト共ニ華府付加税ニ付テハ速ニ実施ニ至ランコトヲ希望

程困難ナル問題ニ非スト思考スト述ヘタリ

(欄外記入)

差当リノ政費ヲ得ムカ為メノミ

七五三 六月十五日 幣原外務大臣ヨリ  
在北京関税特別會議帝國代表宛(電報)

華府條約付加税實施協定案ノ取扱ニ関シ訓令

ノ件

別 電 一 同日幣原外務大臣宛在北京関税特別會議帝國代表宛電報閣会第一一五号

共同声明案

二 同日幣原外務大臣宛在北京関税特別會議帝國代表宛電報閣会第一一六号

華府付加税實施協定修正案

関会第一一四号 (至急)

往電閣会第一一二号二関シ

一、貴電第三二四号ノ次第ハアルモ本日迄貴官等ノ努力ニ依リ差等税率案ノ作成、支途ニ関スル大体了解、自主權回復ニ関スル決議、互惠條約ニ関スル協定等會議トシテ相当ノ成績ヲ挙げ日本ノ立場ハ支那ニ対シテモ国内ニ於テモ既ニ良好ナル地步ヲ占ムルニ至レルニ顧ミ成ルヘク

(欄外記入)

シ暫行付加税ニ付テハ華府付加税ノ協定後引續キ交渉ヲ是非共繼續セシメタク即チ會議ヲ「アヂアーン」スルコトナク若シ各國委員カ疲勞シ居ルトセハ少シ宛「インターバル」ヲ置イテ繼續スルコトトシテ貰ヒタシト述ヘタルニ付本使ハ之ニ対シ日本ハ華府付加税ニ付テモ出来得ル限り尽力シ來リ居リ目下尚ホ各國委員間ニ協議中ナリ只タ貴下ノ御含ミ迄ニ申述フルカ各國委員間ニハ廣東政府カ北京政府トノ間ニ成立スヘキ條約ハ之ヲ否認スト声明シ居ルニ依リ條約成立ノ場合ニ於ケル廣東ノ態度ヲ懸念スル向アリト語リタル処顧ハ右廣東ノ態度ハ國際條約ニハ關係ナキ筈ナリト答ヘタルニ付本使ハ條約ハ國際間ノ協定ニ相違ナキモ右條約ノ結果生スヘキ関稅收入ニ不法干涉ヲ試ミルモ中央政府ノ權力及ハサル場合ニハ誠ニ困難ナル事態ヲ生スルニ非スヤト述ヘタリ尚ホ日本ハ協定税率ノ成立ヲ絶対必要條件トシテ數ヶ月前ヨリ交渉開始ヲ督促シ居ルニ拘ハラズ北京政府ハ時局ノ為メ未タ交渉開始ニ応セサル次第ニテ甚タ遺憾ナリト云ヘルニ顧ハ前陳ノ通り不日内閣成立スヘキニ付キ其ノ上ニテ関稅會議ノ繼續ニ付交渉ヲ開ク所存ナリ協定税率ノ締結ハ左

ハ暑中休暇前ニ右努力ノ結果ヲ今少シク具体化セシメタキ意向ナリシカ果次貴電ニ依レハ英国全權ハ華府條約付加税案文此ノ際是非完成シ支那ニ於テ不安定ナル政府ニテモ成立ノ上ハ直ニ之ニ調印スルノ覚悟ヲ有スルト共ニ其ノ他ノ問題ニ就テハ會議繼續ヲ決議シ置キナカラ之ヲ協定スヘキ對手ハ憲法上正式ニ成立セル鞏固ナル政府タルヲ要スル旨ヲ主張シ居リ會議ノ大勢モ之ニ傾キ居ルヲ以テ結局付加税以外ノ問題ニ付テハ此ノ上ノ進展ヲ見ルコトナク自然ニ會議打切トナサムトスル傾向一層明白トナレルカ如ク思考セラル加之貴電第三〇二号付加税協定最終案ハ下記五ノ如ク我政府ノ内外ニ対スル立場トシテ此ノ儘承認シ難ク而カモ今日ニ至リ修正案ヲ提出スルモ其修正ハ右付加税案ヲ暫定差等税率其他ト引懸ケ會議再開ノ際從來ノ公式非公式會合ノ成果ヲ其ノ儘繼續討議ノ基礎トスル了解ヲ明白ニナシ置クコトヲ必要條件トスルカ故ニ列國側殊ニ一般條約討議ニ不参加ヲ言明セル英国ハ容易ニ承諾セサルヘク結局我方ノ目的ヲ達スルニハ非常ノ努力ト時日ヲ要スヘシト思考ス酷暑ニ差懸リ之ヲ急速結了スルコトハ事実上無理ナルヘシト思ハル

二、將又我國ノ如ク會議ノ全般的成功ニ付痛切ナル利害關係ヲ有セサル国ニ在リテハ貴電二分五厘案ノ如キモノニテモ何等ノ帰結ナキニ優ルトノ論モアリ得ヘシト雖本邦ニ取リテハ斯ノ如キ不徹底ナル帰結ニ甘シシ差等税率及債務整理問題ノ如キ重要ナル成果ヲ終ニ未定ノ儘之カ放棄ヲ默認スルニ於テハ我貿易上ハ勿論、一般對支政策ノ見地ヨリスルモ有害無益ナリトシテ物議ノ沸騰ヲ来スヘク今日迄會議ノ成功ニ望ヲ嘱シ政府ノ方針ヲ支持シ来レル國論ハ俄然惡化スルノ形勢アリ

三、一方二分五厘増徴ト雖各國ノ承認ヲ經タル支那政府ニ對スルニ非レハ之ヲ許スヘキニアラサルコト華府関稅條約ノ精神ヨリ云フモ当然ナルト共ニ支那ノ現政況ヲ以テスルニ速ニ斯ル政府ノ出現ヲ期スルコト困難ナルニ當リ列國限リニテ増徴ニ関スル協定案ヲ作り置クコトハ支那側ニ於テハ自己ノ参加ナシニ決定セル案ヲ強要スルカ如キ形式ト思惟スヘク寧ロ右協定案ト雖他ノ問題ト同様今日未定ノ儘ニナシ置キ政府成立ノ上支那側ヲモ参加セシメテ再議スル方得策且穩当ナルヘシ

四、以上ノ諸点ヲ考慮セル結果昨今ノ酷暑ニ際シ事實會議

上其ノ調印ノ對手方ハ当然 *de facto* ノ政府ニセヨ *de jure* ノ政府ニセヨ列國ノ承認セル政府タルヘキ

コト從テ調印ニ先チ列國ハ承認問題ヲ決定スルノ要アルヘキコト或ハ英米側ハ不安定ナル政府ニ對シテモ二分五厘案丈ハ一種試験のニ之ヲ与フルノ意向ニシテ右案調印ノ前提トシテ承認問題ヲ考慮セサルカ如シト雖未タ承認ヲ与ヘサル政府ハ國際上ハ単ニ一ノ政治的集團タルニ止マリ仮令批准ヲ要セサル協定ニモセヨ一種ノ國際的約束タル以上承認前ニ之ト調印スルコトハ法理上不可能ナルヘシ實際上ニ於テモ右協定案ハ一定ノ政費ヲ毎月与フルコトヲ約スルモノナルカ故ニ其ノ結果ハ一派ノ政治的集團ニ財政的援助ヲ与フルコトナリ日本ハ固ヨリ他ノ外國ノ對支根本方針ニ反スルコトナルヘシ將又一旦新政府ヲ承認シ二分五厘案ニモセヨ之ト調印シタル以上ハ他ノ一般條約ト雖モ之カ討議ハ勿論調印モ亦同様右政府ヲ對手方ト為シ得ヘク之ニ對シテ調印ヲ拒ミ得サルモノナリト確信ス

(ロ)貴電二分五厘案ハ其ノ規定中了解ニ苦シム点アリ即チ

続行困難ノ事情ニ鑑ミ旁々會議ノ成果ハ暫ク今日ノ儘トシテ別電第一一五号ノ通共同聲明ヲ發シ秋涼ト共ニ再會ノ諒解ノ下ニ一先ツ會議ヲ休会スルコト最時宜ニ適スト思考セラルルニ付右ニ御含ノ上列國全權說得方可然御尽力アリタシ

五、尤モ從來列國全權間協調ノ關係上此ノ際二分五厘案ニ付何等カノ結末ヲ付クルコト絶対ニ必要ナル事情アルニ於テハ進シテ妥協案ヲ考究スルノ要アル処

(イ)此ノ場合ニハ先ツ左ノ二点ニ関シ列國全權間ニ何等カノ方式(例ヘハ議事録作成)ニテ明瞭ナル了解ヲ定メ置クコト肝要ナリ

(一)暑中休会ニ先チ華府條約第三条ノ実施ニ付關係列國間ニ一応具体案ヲ協議決定シ之ヲ支那全權トノ他日ノ商議ノ基礎トシテ机上ニ殘シ置クモ單ニ會議ノ目的ノ一部トシテ之ヲ決定スルニ止マリ會議ノ打切りノ意ニ非ス從テ會議再開ノ場合ニモ從來ノ討議ト離レテ全然新ナル基礎ノ上ニ討議ヲ開始セムトスルモノニ非サルコト

(二)華府條約第三条付加稅實施案ト雖モ國際協定ナル以

釐金撤廢準備及關稅増徴ノコトハ華府條約第二条ニ規定シ第三条ハ單ニ第二条ノ實行迄ノ過渡的規定タルコトヲ明定セル処貴電案ニ拠レハ第三条ノ實施ニ際シ同條ノ予期セサリシ釐金撤廢準備トシテ沿岸貿易稅廢止、抵代稅地方分配ヲ定メ之カ補償ノ為右第三条増収中ヨリ多額ノ金額ヲ使用スルコトヲ規定セルハ穩当ナラサルノミナラス同條増収ノ支途中釐金撤廢準備費ノミ一定額ノ使用ヲ明定シ債務整理費ハ單ニ漠然基金ヲ積立テ置クコトトスルハ彼此權衡ヲ失スルノ感アリ乍去此ノ際右債務整理ニ付意見ヲ一致セシメ明確ナル規定ヲ設クルコトハ貴電ノ通困難ナルノミナラス更ニ之ヲ執拗ニ主張スルハ我真意ヲ誤解セラルル虞モアリ面白カラサルヘキヲ以テ政費ノ外ハ一律之ヲ積立テ置キ其ノ処分ニ付テハ一切之ヲ會議再會後一般條約其ノ他ニ依リ決定スルコト理義明白ナリト思考ス且斯ノ如ク規定スルハ支那並列國側ヲシテ會議続行ノ要ヲ痛感セシムル上ヨリ云フモ得策ナリ

六、前項(イ)ノ了解事項決定ノ上我修正案容レラレタル場合ニ於テモ會議休会ノ場合ニハ別電第一一五号共同聲明案

ハ之ヲ公表スルコト必要ナリ將又右(四)ノ趣旨ニ顧ミ別電第一一六号ノ修正案ヲ作製シタルニ付從來累次ノ往電ニ依リ我方意ノアルトコロヲ御体得ノ上先以テ右前記(イ)ノ了解事項ノ通過ニ努力セラレタシ右了解事項ハ單ニ會議続行ニ関スル列國側ノ決意並法理上当然ノ結論ヲ記録ニ止ムルニ過キサルヲ以テ支那側ノ反感ヲ受クヘキ理ナク又列國側ニ於テモ正面ヨリ之ニ反對シ得ヘキ筈ナシト思考スルモ之ヲシモ成立ノ見込ナシトセハ最早列國ニ於テ會議続行ノ誠意ナシト認ムルノ外ナキヲ以テ此ノ場合ニハ今後ノ方針ニ就キ直ニ請訓セラルルコトヲ致度之ニ反シ(イ)ノ了解成立ノ場合ニハ引續キ右別電第一一六号修正案ヲ提出セラレ結果回電アリタシ

## (別電一)

六月十五日幣原外務大臣発在北京關稅特別會議帝國代表宛電  
報關会第一一五号  
共同声明案

關会第一一五号 至急

Nearly eight months have elapsed since the Special Conference on the Chinese Customs Tariff held its inaugural session at the invitation of the Chinese

diately upon the expiration of the period defined for the recess.

## (別電二)

六月十五日幣原外務大臣発在北京關稅特別會議帝國代表宛電  
報關会第一一六号  
華府付加稅實施協定修正案

關会第一一六号 至急

貴電關会第三〇二号最終案第一項及第二項ハ其儘ニシ第三項 And do hereby agree (イ)トシ左ノ通致ス

And do hereby agree that these surtaxes shall be collected by the Maritime Customs Administration, and that customs revenue which will accrue from the levying of the surtaxes shall be applied as follows;

1. Out of the proceeds from the collection of the surtaxes, the sum of \$ 750, 000 shall be remitted monthly through the Maritime Customs Administration to the Ministry of Finance to be used solely for the current administrative expenses of the Chinese Government or for such constructive purposes as may be deemed useful.

Government. The Delegations of the foreign Powers assembled at Peking have not failed to consider sympathetically and helpfully China's proposals for the realization of her legitimate national aspirations. Friendly and fruitful discussions to that end have been in progress.

Unfortunately, the work of the Conference has been interrupted more than once by domestic strife in China, and the complete restoration of the country to peace and stability is not yet in sight. The Delegations are by no means discouraged in their hope that the Conference will achieve a fair measure of success. But in view of the actual conditions, climatic as well as political, prevailing at Peking, they are now persuaded of the desirability for all parties concerned to take a recess until September 30 next. It is in no sense the closing of the session that they have in mind. On the contrary, they undertake to resume in all sincerity their deliberation of the outstanding questions, im-

2. The remaining portion of the said proceeds shall be held by the Maritime Customs Administration, free from all charges and encumbrances, as an accumulated fund which shall be applied in due course, and in a manner to be agreed upon, to the adoption of measures designed to promote the facilities of trade, and to the liquidation of the unsecured and inadequately secured debts of the Chinese Government.

3. The proceeds from the collection of the surtaxes shall be deposited in such banks, in such manner and in such proportions as are specified in the resolution hereto annexed.

It is understood that the foregoing agreement is adopted in the expectation that there will be concluded a new treaty, treaties or agreements in which provision shall be made for the disposal of the accumulated fund as above indicated and also for a further increase in the customs revenue with a view to serving purposes useful alike to China and to the

other Powers interested, and that if such treaty, treaties or agreements shall not have come into effect within two years after..... 1926 (date of the signature of this agreement), or if, for any reason, it be found impossible to proceed with the negotiations for the conclusion of such treaty, treaties or agreements, the operation of the present agreement shall be suspended, and the accumulated fund which may at that time be held by the Maritime Customs Administration under this agreement shall be disposed of in a manner to be then agreed upon.

It is furthermore understood that in view of the essential importance of the Chinese railways for the promotion of China's prosperity and the rehabilitation of her credit, China will take the earliest possible steps to restore the commercial efficiency of her railways and to ensure that the financial obligations of the railways be adequately served from the railway revenues.

ルモ二調印ニ先立チ政府ノ承認ヲ必要トスル点ニ関シテハ「ストローン」ヲ始メ二歩五厘付加税案ノ調印カ即チ承認トナルヘシト云ヒ或ハ華府条約ヲ implement スル為ニ承認セハ可ナリト述ヘ我方ハ承認ハ或一定ノ政府ヲ将来交渉 (deal with) ノ相手方トシテ認ムル意思ノ表示ナルカ故ニアル特殊ノ目的ノ為ニノミ承認スルカ如キコトアル可ラサル旨ヲ説キタルニ「マクマレー」ハ単ニ華府付加税ヲ与フルニ適當ナル程度ノ政府即華府条約ノ決定セルコトヲ完了スルニ足ルト認メラルル政府樹立セハ同付加税案ヲ調印シテ可ナル可ク支那ハ之ニ依リ比較的輕少ナル義務ヲ負フニ過キサルヲ以テ非常ニ鞏固ナル政府ヲ必要トセサルモ一般条約ノ如キハ新ナル問題ニシテ且各国政府ノ批准ヲ要シ支那政府ノ義務モ大ナルヘキヲ以テ前者ノ場合ニ比シ一層鞏固ナル政府ヲ要スルコトトナルヘシト論シタルカ結局華府付加税案ヲ調印スル為ニハ何等カノ承認ヲ必要トスル点ニ付テハ意見ノ一致ヲ見タリ

(b) 我方修正意見中沿岸貿易税及抵代税ニ関スル二項削除方ニ関シテハ「ストローン」ハ華府条約中ニモ釐金廢止間

七五四 六月二十日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ幣原外務大臣宛 (電報)  
付加税實施協定案ノ取扱方ニ関スル訓令ニ基ツキ米國及ビ英國側トノ内交渉ノ結果報告ノ件

関會第三三六号

(六月二十一日接受)

(一) 貴電関會第一一四号御回訓ノ次第篤ト了悉然ルニ今回御回訓モ之ヲ貫徹セシムル為尚多大ノ困難アルヲ予期セラレ之カ執行ニハ細心ノ注意ヲ要スル次第ナルヲ以テ先ツ貴電関會第一一四号(一)乃至(四)ノ趣旨ニテ日本政府ノ最も剋切適當ト認ムル趣旨ヲ米國側ニ通セシメタルニ同國側ハ目下ノ時局ニ顧ミ矢張此ノ際華府付加税實施案ヲ是非成立セシメ置キタキ旨主張シ其ノ決心甚タ強ク其他ノ各國モ同様ノ態度ヲ採リ居リ到底我主張ノ貫徹困難ナリト認メラレ右貴電(ロ)ノ方針ニ依リ折衝スルノ外ナキニ至リタルヲ以テ十七日日置芳沢 (佐分利同伴) 米國公使館ニ於テ「ストローン」及「マクマレー」(専門家同席)ト会见シ非公式意見交換ヲ為シタルニ

(a) 貴電(イ)ノ了解事項ノ中一二付テハ全然同感ノ意ヲ表シタ

題ニ関シ規程アルニ鑑ミ右二項ノ挿入ハ適當ナルノミナラス商人力増税ヲ負担スルニ付テハ何等カ通商上ノ対償ヲ要求スヘキコト寧ロ至當ナルヘク殊ニ本件ハ英國ノ最も強ク固執シ来リタル所ナルヲ以テ同國力該二項削除ニ同意スルヤ疑問ナルモ先ツ我方ヨリ英國ノ意向ヲ突キ止メ其ノ上ニテ日英米協議ヲ為スヲ適當トスヘシ米國トシテハ今直ニ其ノ意見ヲ commit スルコトヲ得サルモ米國ハ如何ナル場合ニ於テモ日本ニ対シ mean ナル態度ヲ執ルコトナカルヘシト語リ「マクマレー」ハ「ストローン」ノ言ニ対シ別段異議アル様子ニハ見ヘサリシモ篤ト専門家トモ考究スヘシト云ヒ尚ホ今日ノ如キ eleventh hour ニ至リ一國ヨリ material ナル修正ヲ出スコトハ今後例トナラサル様致シタキ旨ヲ付言セリ次ニ貴電関會第一一六号ノ「suspension clause」ノ挿入ニ付テハ米國ハ到底行ハレ得サルモノトシテ強硬ニ反対セリ

(c) 次ニ日本ハ修正案カ成立シタル場合ニ於テモ共同声明ノ必要アリトテ貴電(イ)ノ趣旨ヲ披露シタルニ「ストローン」ハ會議ハ新政府ノ成立スル迄事實上會議ヲ休ムコトトシテ可ナルヘク仮令再開ノ時期ヲ定ムルモ其ノ際新政府カ

成立スルヤ否ヤ予測シ難シト述ヘ「マクマレー」ハ声明ヲ出スハ却テ誤解ヲ招キ将来面倒ナル事態ヲ惹起スル惧アル故ニ英國ノ取りタルト同シク全権カ勝手ニ個々ニ帰国スルコトスルモ各国公使初メ delegation ハ依然残リテ事務ヲ執レルトノ立場ヲ取ルヲ適當ナリト述ヘ日置ハ日本トシテハ休暇ヲ取ルコトハ好シテ主張スルモノニ非ス各国委員カ暑中休暇ヲ欲スヘシトノ前提ノ下ニ再開ノ期日ヲ明カニシテ休暇ニ入ルコト適當ナルヘシト考ヘタル次第ナリト応酬シ置ケリ

(二)翌十八日日置、芳沢(佐分利同伴)ハ英國公使館ニ於テ英公使「ニュウトン」(「タイチマン」列席)ト会見シタルニ貴電(a)諒解事項二点ニ付テハ異存ナク殊ニ承認セサル新政府ト華盛頓付加税案ノ調印ヲ為シ得サルコトニ付テハ強ク同感ノ意ヲ表セリ

(b)我方修正案中前記二項削除ノ点ニ付テハ「マクマレー」ハ右ハ華盛頓條約ノ精神ニ背馳スルノミナラス海關ニ積立テ置ク金額増加シ将来海關ニ取り困難ナル事態ヲ生スヘク又英國政府ハ右兩点ニ重キヲ置ケル次第ナルヲ以テ自分トシテハ目下意見ヲ述フルヲ得ス一応速ニ政府ニ電

收入ハ一切債務整理ニ充当スヘカラストノ一項アル趣ニテ從テ本付加税案ニ於テ remaining portion ヲ債務整理ニ充当シタルハ英國トシテハ大ナル讓歩ナリト思考シ居ル次第ナリトコトナリ更ニ彼ハ付言シテ英國政府カ如何ナル態度ニ出ツルヤ全然予測シ難キモ日本側修正案ヲ万一採用スル場合ニハ使途ニ関シ全然何モ定メサルコトトスルモ一案ナル可キモ之レ勿論自分一個ノ当座ノ考ニ過キスト語レリ(又「タイチマン」ハ別ニ佐分利ト会谈ノ際英國ハ釐金問題ヲ重要視セルヲ以テ万一日本ノ修正案ニ依ル如キ場合ニハ単ニ稅收ヲ貿易助長云々ノ為ニ充当ストナサス釐金ナル文字ヲ適當ニ挿入スルコトナシ置キタシト述ヘタリ)

尚英國側ニ於テハ右二項ノ削除ハ日本カ華府付加税ノ使途ニ関シ債務整理ニ重キヲ措クニ非サルヤノ疑ヲ抱キ頗ル憂色ヲ示シタル様子ナリシヲ以テ佐分利ハ英國専門家ニ対シ日本ノ立場ハ斯カル意味ニ非スシテ或ル事項ヲ決定シ他ノモノヲ未確定ノ儘存置シ置クコトハ不公平ナルノミナラス釐金問題ハ断片的ニ取扱ハス一括シテ処理スヘキモノナリト思考シ居ルカ故ニ過キサルコトヲ語リ置

稟シタル上挨拶スヘシト述ヘ又 suspension clause ニ対シテ一旦施行セルモノヲ廢止スルハ実行不可能ナリトシテ絶對ニ反對ノ意ヲ表示セリ

(c)尚夏期休暇ノ形式問題ニ付テハ英國側ハ米國ノ立場ニ傾ケルカ如キ感ヲ与ヘタリ

(三)尚右会合終了後「ニュウトン」ハ佐分利ニ対シ二項削除ノ問題ニ関連シ右通商條項ハ華盛頓條約ノ文面上当然ノコトナルニ同條約ニハ債務整理ノ問題包含セラレスト論セルカ佐分利ハ釐金廢止問題ハ同條約第二条ニ關スル事項ニシテ自分カ専門家會議ニ於テ幾度カ反復シタル如ク第三条釐金廢止前ニ行フヘキ措置ナリ又條約文面上債務整理ノコトハ規定セラレサルモ同條ニ所謂 Conditions purposes ハ全然白紙ニシテ本會議ノ自由ニ決定スヘキコトナルノミナラス華府會議ノ議事録ニ徵スルモ債務整理問題ニ付言及セラレタルコト極メテ多キニ拘ラス釐金ニ關シテハ「ボウデン」カ一言シタルコトアルノミニシテ當時ノ成行ニ徵スルモ債務整理カ付加税ノ条件使途中ニ包含セシメラルルハ極メテ当然ノコトナリト述ヘ置キタルカ彼ノ内話ニ依レハ英國政府ノ訓令中ニハ華府付加税

ケリ

(四)以上会見ノ結果今後英米トノ協議決定ハ英國政府ヨリノ回訓如何ニ係ル次第ナレトモ英國公使トノ会談ノ際ノ印象ヨリ想察スルモ全然将来ヲ逆睹シ難ク且英國公使ハ米國側ト等シク eleventh hour ニ面倒ナル問題ヲ提起シタルヲ迷惑トシ居ル様子ヲ示セリ就テハ本件促進ノ為在英大使ヨリモ英本國政府ニ対シ我方ノ立場ヲ篤ト説明シ我主張ノ貫徹方尽力セシメラルルコト緊要ノ措置カト存セラルルニ付右御參考ノ為卑見申進ム尚右会見ノ際十二日東京「ジャパンタイムス」ノ記事ニ関シ在東京英國大使ヨリ電報アリタリトテ日本政府ノ機關紙トモ見ラルル同紙其他一般論調カ反英的ニシテ英國ノ立場ニ関シ面白カラサル印象ヲ与ヘ日本トノ協調ニ障礙トナルコトナキヤヲ憂ウル旨ヲ述ヘ興奮シテ不平ヲ洩ラシ居レリ

(五)最後ニ我方提案ハ全權會議ニ突然提出スルモ若シ反對ニ合ヒ事態ヲ複雑ナラシムルニ於テハ之カ收拾困難トナルヘキヲ憂慮セラレタルヲ以テ先ツ英米トノ間ニ了解ヲ遂ケ置クヲ妥當ト思考セラレタルニ付前陳ノ措置ニ出タリ又今後英國政府ノ回訓アリ英米トノ相談決定スル迄一般

全權會議ハ開催セサル様話合済ナリ為念

七五五 六月二十一日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

付加税實施協定案ニ関スル訓令執行ニ當リ我  
方ノ置カルベキ立場ニツキ意見具申ノ件

関会第三三七号 (六月二十二日接受)

(一)貴電関会第一一四号御訓令ニ基キ差当リ英米側ト為シタル内交渉ハ往電関会第三三六号ノ通ニシテ本件交渉開始カ稍々時機ヲ遅レタル為兩國ヨリ觀レハ將ニ成立セントシタル協定案ニ重大ナル修正ヲ申出ラレタル結果トナリ兩國側共ニ難色ヲ示シタル次第ナリ既ニ十七日芳沢カ仏国公使ニ対シ我方修正提案ノ概略ヲ内話シタル際ニモ同公使ハ然ラハ一般付加税ハ勿論華府付加税ヲモ不成立ニ帰セシムル結果トナルヘシト述ヘタルニ其他ノ方面ニ於テモ我案カ同様ノ印象ヲ与フルノ懼アルハ到底免レサル処ナリ從テ我方トシテハ此際成ル可ク無理ナル提案ヲ為ササルコト誤解ヲ避クル為緊要ナリト思料セラル

(二)貴電関会第一一六号ノ二 suspension clause ニ対シテハ英米ハ非公式会見ニ於テ明確ニ反対ノ態度ヲ表示シタル

スル要アルヘク之他國ニ対スル礼讓タルノミナラス我方ノ執ル可キ態度トシテモ又当然ノ事ナリト思考セラル從テ貴電修正案中微細ナル修正ハ未タ本員等ヨリ全部英米側ニ提議スルノ措置ニ出テス只極メテ非公式ニ我方隨員ヨリ英米隨員ニ内話セシムルニ止メ置キタリ故ニ右ノ点ニ付テモ今後ノ形勢如何ニ依リ必スシモ固執セサルヲ適當ト思考シ居ルニ付予メ御含ミ置キヲ請フ

(四)更ニ往電関会第三三六号報告ノ通華府付加税案調印ノ為ニハ支那新政府承認ヲ必要トスル点ニ付テハ英仏蘭ノ三全權ハ勿論米國モ結局我方意見ト一致セルモ(十七日仏国公使ハ芳沢ニ対シ此ノ点ニ關スル仏政府ノ訓令ハ全然日本政府ノ意見ト一致セリト述ヘ又二十一日和蘭公使モ芳沢ニ対シ米國側ノ意見ノ感服シ難キ事並ニ日本政府ノ意見ノ極メテ妥當ナル事ヲ述ヘタリ)將來現實ノ問題ニ對シ如何ナル政府ト如何ナル順序ニ依リ調印スヘキヤノ点ニ至リテハ英米兩國ノ意見ニ霄壤ノ差アリ「中央政府ヨリ右ニ付保証ヲ得タル上ニアラサレハ實施セス又實施後ト雖モ地方ニ於テ反對ヲ表示シタル場合直ニ其實施ヲ停止スヘキ事ヲ条件トナサント考ヘ居ル次第ニテ案文ノ

カ將來支那側モ之ニ強硬ニ反對シ我誠意ヲ疑フノ有力ナル理由ノ一ト思惟スルニ至ルヘキハ予測スルニ難カラス惟フニ一旦徵收ヲ開始シタルモノヲ途中ニテ停止スルカ如キハ實行上不可能ナルノミナラス支那ニ要求スヘキ條件トシテハ極メテ苛酷ナルヲ免カレス蓋シニ歩五厘五歩付加税ノ徵收ハ既ニ華府條約ニ於テ決定シ特別ノ事情ノ為今日迄之カ實施遷延シ来リタル次第ナルカ漸ク之ヲ實施シタル後支那カ故意ニ條件又ハ義務履行ヲ為ササル場合ニ制裁トシテ右ノ如キ措置ヲ採ルコトハ別トシテ支那政府ノ責任トハ關係無ク單ニ一般條約ノ成立セサル事ヲ理由トシテ一旦承認シタル付加税ヲモ否認スルカ如キハ甚タ苛酷且不条理ニシテ日本カ支那ニ對シ表示セントスル好意ト合致セサルモノト解釋セラルヘク如何ニ我立場ヲ弁明セントスルモ之ヲ理解セシメル事困難ナリト思考セラルルヲ以テ本件條項ノ挿入ハ強イテ固執セラレサル事ニ御詮議相成度シ

(三)又本件協定案ハ既ニ各國トシテハ夫々本國政府ニ稟請シ承諾シタル次第ナルヲ以テ今日該協定案ニ對シ提議スヘキ修正ハナルヘク万已ムヲ得サルモノノミニ局(限?)

作成ハ為シ置クモ將來支那側トノ交渉ノ曉右案件ヲ提示シ容易ニハ付加税實施ヲ肯ンセサルヘキハ想像ニ難カラサル也目下吾修正提議ニ對スル英政府ノ態度ハ全然予測シ難キモ優先利益ニ付テハ可成速ニ同案ノ調印實施ヲ為サント欲スルニ對シ英國ハ此際華府付加税ノ徵收ト雖地方殊ニ廣東ノ反對ヲ招キ延テ海關ノ地位ニ累ヲ及ホスニ至ルヘキヲ恐ルカ故ニ(五月六日付「スチュウアード」宛「アグレン」書翰末段參照)本案ハ各國委員ニ於テ作成シ置クモ愈々支那政府ト調印ノ際ニ至ラハ先同政府カ廣東政府其他地方ト本件ニ付諒解ヲ遂クルコトヲ必要トシ本會議乃至支那ニ對スル立場ニ於テ日英間ニ立場ノ相違アルニ拘ラス華府付加税ノ不成立ニ終ルヘキ實際の結果ニ至リテハ同様トナルノ可能性アリ從テ或ハ英國カ今日迄會議停頓ニ付負ヒ来タリシ責任ヲ今次ノ吾提案ニ依リ我方ニ轉嫁スルノ結果ヲ生スルニ至ルヤモ計リ難ク之ノ点ハ米國側ニ於テモ我方ノ為ナリト考ヘ居レリ右ハ今後ノ交渉ニ當リ我方ニ於テ細心ノ注意ヲ払フヲ要スル次第ナリト思考ス

米國ハ成ルヘク速ニ同案ノ調印實施ヲ為サント欲スルニ

對シ英國ハ此ノ際華府付加税ノ徵收ト雖地方殊ニ広東ノ反對ヲ招キ延テ海關ノ地位ニ累ヲ及ホスニ至ルヘキヲ恐ルルカ故ニ(五月六日付「スチュウワード」宛「アグレン」書翰末段参照) 本案ハ各国委員ニ於テ作成シ置クモ愈支那政府ト調印ノ際ニ至ラハ先同政府カ広東政府其ノ他地方ト本件ニ付諒解ヲ遂クルコトヲ必要トシ中央政府ヨリ右ニ付保障ヲ得タル上ニ非サレハ実施セス又実施後ト雖地方ニ於テ反對ヲ表示シタル場合直ニ其ノ実施ヲ停止スヘキコトヲ条件トナサント考ヘ居ル次第ニテ案文ノ作成ハ為シ置クモ將來支那側トノ交渉ノ曉右案件ヲ提示シ容易ニハ付加税実施ヲ肯セサルヘキヤハ想像ニ難カラサルナリ目下我カ修正提議ニ對スル英政府ノ態度ハ全然予測シ難キモ本會議乃至支那ニ對スル立場ニ於テ日英間ニ立場ノ相違有ルニ拘ラス華府付加税ノ不成立ニ終ルヘキ實際の結果ニ至リテハ同様トナルノ可能性有リ從テ或ハ英國カ今日迄會議停頓ニ付負ヒ來リシ責任ヲ今次ノ我カ提案ニ依リ我方ニ轉嫁スルノ結果ヲ生スルニ至ルヤモ計リ難ク此ノ点ハ米國側ニ於テモ我方ノ為ナリト考ヘ居レリ右ハ今後ノ交渉ニ當リ我方ニ於テ細心ノ注意ヲ払フヲ

号一般保管問題取極案モ其内ニ前記兩案ノ成立実施ヲ前提トスル一項アル処前記第三〇二号案中抵代税及沿岸貿易税ノ填補其他ノ未決定事項ニ付我方主張貫徹ノ上ハ前記保管銀行案モ根本的ニ更改ヲ要スヘキ筋合ナルヲ以テ往電第一(七五三文書)一四号訓令執行ノ結果ヲ見テ考慮スヘキ問題トシテ回訓差控ヘタリ大体当方トシテハ(イ)正税及付加税ノ收入ヲ一併シ「ワン・ボックス・システム」主義ヲ一貫スルコト並(ロ)保管ノ割合ハ関税收入ヲ担保トスル債權支払所要年額國別割ニ比例シテ之ヲ決定スヘキコトノ二原則ニ基キ公平ナル保管問題取極案ヲ作成シ度キ意向ナリ尚貴電第三三八号海關制度調整問題ニ関シ貴電第三〇三号案自体ニ付テハ別ニ異存ナキモ貴電第三〇五号各国ノ態度殊ニ米國側ノ申分ニモ鑑ミ之カ提出ノ時期及方法ニ付テハ慎重考慮ヲ要スヘク且本件ハ性質上一般の條約審議ノ際併セテ適宜議セラルヘキモノト思考セラルルニ付前記訓電執行ノ結果ヲ俟ツテ攻究致タシ

七五八 六月二十四日 幣原外務大臣ヨリ

在米國松平大使宛(電報)

関税會議ノ經過通報ノ件

六 北京関税特別會議關係 七五八

要スル次第ナリト思考ス  
編註 括弧内ハ後段ノ如ク訂正サレタ

七五六 六月二十一日 在北京関税特別會議帝國代表ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

海關制度ノ調整問題ニ関シ意見請訓ノ件

関会第三三八号 (六月二十二日接受)

往電関会第三三五号ニ関シ

海關制度ノ調整問題ニ付テモ目下折衝ヲ中止シタル儘トナリ居ル処右ニ付御意見アラハ併セテ御回訓相仰キ度シ

七五七 六月二十三日 幣原外務大臣ヨリ  
在北京関税特別會議帝國代表宛(電報)

保管問題及ビ海關制度調整問題八十五日付訓

令ノ執行結果ヲ待ツテ考慮スベキ問題ナル件

関会第一二〇号

貴電関会第三三五号ニ関シ

二分五厘付加税收入保管問題ニ関スル貴電第三一二号案ハ貴電第三〇二号同付加税実施案ヲ基礎トシ又貴電第三二一

別電一 同日幣原外務大臣宛在米國松平大使宛電報合

第一三〇号

二分五厘付加税實施ニ関スル各國全權共同請  
訓案要領

二 同日幣原外務大臣宛在米國松平大使宛電報合

第一三一号

右各國全權共同請訓案ニ對スル日本側修正案  
要領

合第一二九号

(前掲七二三文書)

往電第八三号以後関税會議ノ經過大要左ノ通り

一、從來往電第九〇号ノ方針ヲ以テ非公式會議ヲ繼續シ來リシ処五月六日ノ各國全權會議ニ至リ突然英國側ハ本國政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ差等稅率ヲ含ム一般の條約案ノ審議ニ不参加ヲ唱ヘ唯差當リ條約上ノ義務タル華府二分五厘付加税ノミヲ支那側ニ与ヘテ事實上會議ヲ打切ラムトスル態度ヲ示シ米國側モ亦何等カ具體的成果ヲ挙クルニ急ナル為二分五厘付加税實施案ノ作成ニ熱心ナル処我方ニ於テモ差等付加税實施ニ至ル迄ノ暫行措置トシテ二分五厘付加税ヲ實施スルコトニハ主義トシテ反對ニ非ルヲ以テ一般の條約ニ付テハ別ニ米國側等ト協力シテ成案ヲ得ルコトトシ差當リ二分五厘實施案ヲ支那以外ノ各國間ニ於テ準備シ置ク

趣旨ニテ五月十一日ヨリ先ツ關係各國專門委員會ニ於テ米  
國側作成ノ二分五厘實施案ニ付審議修正シタル後同十五日  
各國全權會合ノ上別電合第一三〇号要領ノ如キ案ニ付各本  
國政府ニ請訓スルコトナレリ

二、然ルニ本省ニ於テハ屢次ノ報告ニ依リ英國ハ素ヨリ米  
國ト雖最初ノ如ク一般の條約ノ協議ニ熱心ヲ有セサルコト  
明カトナリタルヲ以テ華府條約第三條付加稅實施ハ差等稅  
率ヲ含ム一般の條約ノ一部トシテ初メテ有意味ナルコトヲ  
指摘シ此ノ際ハ右案ノミ決定スルノ不可ナル所以ヲ予メ訓  
令シ一般の協議促進ヲ計リシモ英米ノ態度益々強硬トナリ  
右案ノミ其ノ儘確定セムトスル傾向トナリシニ付六月十五  
日最後ノ訓令トシテ左記趣旨ヲ電報セリ

(一)新政府成立ノ曉直ニ調印實施スル為此際二分五厘實施  
案ノミヲ獨立決定スルニ於テハ會議昨今ノ形勢殊ニ英米  
其他各國ノ態度ニ鑑ミ會議ハ之ヲ一段落トシテ事實上打  
切トナリ折角大体纏リタル差等稅率財政整理其他ノ重大  
事項ノ審議ハ無期限ニ延期セラルルコトトナル虞アル処  
右ハ支那ノ國民の冀望ニ背反スルモノト云フヘキノミナ  
ラス殊ニ會議劈頭以來常ニ公正ナル方針ヲ以テ支那ノ根

議再開ノ場合從來討議シタル所ヲ基礎トシテ商議ヲ続行  
スヘキコト並(右)右實施案ノ調印ニ先立チ先ツ新政府承認  
問題ヲ決定スルノ要アルヘキコトノ二項ニ付明瞭ナル了  
解ヲ遂ケ置クト共ニ前記各國全權共同請訓案ニ對シテハ  
別ニ本省ニ於テ作成セル修正案(要領別電合第一三二号)  
ヲ提出スヘク尚右修正案容レラレタル場合ニモ前記共同  
聲明ヲ發スルコト

三、我方全權ニ於テハ右訓令(一)ノ趣旨ニ依リ先ツ米國側ト  
内交渉ヲ遂ケタルニ米國側カ此際是非共二分五厘案ヲ通過  
セシメ度キ強キ希望ヲ有シ居ルニ鑑ミ終ニ前項(二)ノ方針ニ  
依リ英米側ノ意向ヲ探リタルニ

(一)米國側ニ於テハ會議繼續方ニ付テハ異議ナク前項(二)ノ  
了解事項(イ)ニ付テモ大体賛同ノ意ヲ表シタルモ抵代  
稅、沿岸貿易稅ニ關スル二項ノ削除ニ付テハ尚考究ヲ要  
スヘキ旨ヲ以テ意見ヲ留保シ又保障方法トシテ付加稅ノ  
徵收中止ヲ行フ案ハ実行不可能ナリトシテ之ニ反對セリ  
(二)英國側ニ於テハ前記了解事項二点ニ付テハ異議ナキモ  
付加稅徵收ノ中止ハ実行到底不可能ナリトシテ反對シ尚  
抵代稅及沿岸貿易稅ニ關スル二項ハ同國側ノ甚タ重要視

本的財政改造ノ為努力シ來レル我國トシテハ此際不徹底  
ナル前記二分五厘實施案ヲ以テ會議ヲ終結セシムルトキ  
ハ我國論ノ承認ヲモ得難ク又右二分五厘實施ノ取極ト雖  
一ノ國際約定ナル以上正式ニ承認セラレタル政府ヲ相手  
トスルニ非レハ法理上之ヲ調印シ得サルニ付此際成案ヲ  
作り置キ支那側ニ之ヲ強要スルカ如キ形式ハ之ヲ避ケ新  
政府ノ成立ヲ俟テ支那全權ヲ加ヘタル會議再開ノ上一般  
的條約ト共ニ其一部トシテ二分五厘實施案ヲ審議決定ス  
ルコト適當ナルヘキヲ以テ今ヤ酷暑ニ際シ事實上會議ノ  
続行困難ノ事情アルニ鑑ミ會議從來ノ成果ハ暫ク今日ノ  
儘トシ秋冷ト共ニ會議ヲ再開続行スヘキ諒解ヲ明瞭ナラ  
シムル為共同聲明ヲ發シ一先ツ會議ヲ休會スルコト最モ  
時宜ニ適スルモノト思考セラルルヲ以テ右ノ方針ニ依リ  
各國全權説得方努力スヘキコト

(二)尚若シ列國全權間協調ノ關係上此際二分五厘案ニ付何  
等カノ結末ヲ付クルコト絶對ニ必要ナル事情アルニ於テ  
ハ前記請訓案ノ内容ハ到底承認シ難キニ付進テ妥協案ヲ  
考究スルノ外ナキ処(イ)仮ニ此際二分五厘實施案ヲ定ムル  
モ右ハ之ヲ以テ會議ヲ打切トスル趣旨ニ非スシテ他日會

スル所ナルヲ以テ本國政府ニ請訓ノ上何分ノ回答ヲナス  
ヘシト述ヘタルニ付全權會議ノ開催ハ英國政府ヨリ回訓  
到着スル迄之ヲ延期スルコトトナリタリ

四、要之最近或ハ我方ニ於テ會議打切ノ意向ヲ有スルモノ  
ノ如キ風説行ハルル趣ノ処右ハ全ク虛説ニシテ我方トシテ  
ハ前述ノ通會議開會以來ノ大方針ニ何等變更ナク終始會議  
ノ大目的達成ノ為之カ繼續方努力シ居ル次第ナルニ付右御  
含ミノ上貴官ニ於テモ必要ニ応シ適宜各方面ト応酬セラル  
ルコトト致度シ

訓令トシテ別電ト共ニ英ニ転電シ英ヲシテ仏露ニ転電シ  
独、伊、白、蘭、西、瑞典ニ暗送セシメラレ度シ

## (別電一)

六月二十四日幣原外務大臣發在米國松平大使宛電報合第一三  
〇号

二分五厘付加稅實施ニ關スル各國全權共同請訓案要領

合第一三〇号

各國全權共同請訓案要領

華府條約第三條及第六條第二項ニ基キ關稅會議參加國代表  
者ハ左ノ諸点ニ付合意ス

一、本協定調印ノ日ヨリ三ヶ月後ヨリ支那政府ハ普通品ニ

分五厘奢侈品五分ノ輸入税付加税ヲ徴収スルコト

二、右付加税ハ海陸国境共均一率ニ依ルヘキコト

三、右付加税増徴ニ依ル増収ハ左ノ使途ニ充当スルコト

(イ) 釐金撤廃ノ準備トシテ抵代税收入ヲ海關ニ依リ地方官憲二分与スルコトトシ之ニ依リテ生スル中央政府ノ欠損ヲ補填スルヲ右付加税收入中ヨリ毎年五百萬元ヲ支出ス

(ロ) 釐金撤廃ノ準備トシテ沿岸貿易税ヲ廢止シ之ニ依リテ生スル中央政府ノ欠損ヲ補填スルヲ右付加税收入中ヨリ毎年四百萬元ヲ支出ス

(ハ) 支那政府ノ政費及建設費トシテ右付加税收入中ヨリ毎月七十五萬元宛ヲ海關ヨリ財政部ニ交付ス

(ニ) 残余ノ付加税收入ハ支那ノ不確實債務整理ノ為海關ニ積立テ置キ之カ支出方法ハ将来成立スヘキ一般的条約(又ハ協定)ノ中ニ之ヲ定ムルコトトシ若シ右条約(又ハ協定)カ本協定調印ノ日ヨリ二ケ年以内ニ實施セラルルニ至ラサルトキハ其時ニ至リ右支出ニ関スル原則ヲ決定ス

(四) 右付加税收入ニ関スル保管銀行問題ハ別ニ之ヲ定ム

四、本協定ハ将来諸種ノ目的ニ応スルヲ為本付加税ニ依ルヨリモ多額ノ増収ヲ得ヘキ旨ノ規定アル新条約(又ハ協定)ノ成立スヘキコトノ諒解ノ下ニ採用セラルルモノナルコト五、本會議ノ大目的タル支那ノ繁榮増進及信用回復ノ為鐵道問題ノ甚タ重要ナルニ鑑ミ支那ハ可成速ニ鐵道ノ能率ヲ改善シ鐵道債務ハ鐵道收入ヲ以テ支弁スルニ努ムヘキコト(別電二)

六月二十四日幣原外務大臣宛在米國松平大使宛電報合第一三  
一號

各國全權共同請訓案ニ對スル日本側修正案要領

合第一三一號

我方修正案要領

別電合第一三〇號ヲ左ノ通修正ス

三ノ(イ)ヲ削除シ(ニ)ヲ「残余ノ付加税收入ハ貿易ノ改善及不確實債務ノ整理ニ充ツルヲ為之ヲ海關ニ積立テ置キ別ニ定ムヘキ方法ニ依リ之ヲ支出ス」ト改ム(理由、釐金撤廃準備ハ華府条約第二条ノ規定中ニ存シ第三条ノ增收以上ノ付加税ヲ前提トセルモノナリ之カ為第三条ノ増徴ヨリ多額ヲ支出スルハ穩当ナラス且支途中右撤廃準備費ノミ定額使用ヲ明定シ債務整理費ハ漠然基金積立ニ止ムルハ權衡ヲ失ス)

件寧ロ理由明白且公正ナリト思考ス

但會議ノ大勢上万止ムヲ得サルニ於テハ右中止条項ヲ削除シ適宜積立金ノ処分法並本協定ノ将来ニ就テモ再議スルノ規定ヲ設クル様例ヘハ the operation of the present agreement 以下 to be then agreed upon 迄全部削除シ the Governments of the Powers represented at the present Conference shall consider in common the measures to be taken to meet the new situation so created. ト改ムルコト可然

二、沿岸貿易税及抵代税ニ関スル二項削除ニ對スル英米側ノ反對並右二項原案支持ノ理由同意シ難シ尤釐金撤廃ノ準備ヲ此ノ際明白ニ規定スルノ主張ヲ容ルルニ於テハ英米側ト妥協ノ余地アルヘシト思考セラルル場合ニハ我修正案第一項2ノ条項末段 to the adoption of measures 以下全部削除シ

(a) to the adoption of measures designed to promote the facilities of trade, and, in particular, to prepare the way for the speedy abolition of likin, and (b) to the liquidation of the unsecured and inade-

四ニ「尚右条約(又ハ協定)カ本協定調印後二ケ年以内ニ實施セラルルニ至ラサルカ又ハ右条約(又ハ協定)作成ノ為ノ會議繼續不可能トナリタルトキハ本協定ノ實施ヲ中止シ海關ニ積立テアル資金ハ其時ニ至リテ定メラルヘキ方法ニ依リ処分スルコト」ノ一項ヲ加フ

幣原外務大臣ヨリ

七五九 六月二十九日 在北京關稅特別會議帝國代表宛

(電報)

付加税實施協定案修正ノ最終讓歩案ニ関スル

件

關會第一二三號(至急)

貴電關會第三三六號ニ關シ我二分五厘案修正条項ニ付英米側ニ於テ異議アル由ナル処

一、suspension clause ハ本案實行上ニ付既ニ列國側ニ於テ危惧ノ念ヲ抱キ(貴電關會第三三三號)何等カ保障条件ヲ付スルノ要アル意見ナリシニ鑑ミ他方本案ヲ一般条約成立ト不可離關係ニ置カムトスル我方從來ノ方針ヲ此ノ機ニ少シニテモ明白ニ規定セムトスル趣旨ニ外ナラス殊ニ英國側カ広東政府ノ意向如何ニヨリ實施ヲ停止セムトスル条件ヲ付セムトスルニ比シテ(貴電關會第三三七號)我方ノ条

quately secured debts of the Chinese Government.  
ト改ムルコト可然

以上ノ再修正ハ我方妥協譲歩ノ最終点ニシテ且我修正ノ理由ハ関税會議ニ関スル根本方針ニ基クモノニシテ單純ナル字句上ノ微細ノ修正ニアラス將又前電第一二二号ニテ申進シタル通り本案ノ成否ハ我方ニ執リ重大ナル問題ニ属シ他國ニ対スル礼讓ノ問題ノ為ニ譲歩シ得サル次第御含ノ上先ツ前電ノ方針遂行ニ努力セラレ最後ニ本電再修正ヲ最終ノ譲歩トシテ提議セラルル様致タシ

七六〇 七月一日 幣原外務大臣  
スチュアート閣税會議英國委員 會談

#### 関税會議ト日英兩國ノ立場ニ関スル件

大正十五年七月一日幣原外務大臣関税會議英國委員「スチュアート」會談要領

大正十五年七月一日英國委員「スチュアート」帰國ノ途次幣原外務大臣ヲ來訪シ関税會議問題ニ言及シテ自分ハ五月十四日北京ヲ去リタルカ故ニ最近ノ經過ヲ審ニセサルモ要スルニ會議ハ飽ク迄モ存続スルト共ニ此際事實上暫時休会スルノ必要アルハ列國委員間ニ何等異議ナキ所ナリ唯華府

二分五厘付加税實施案ニ付テハ日英兩國間ニ尚若干意見ノ懸隔アリ又仮リニ一切ノ問題妥結ニ至ルコトアリトスルモ広東ニ於ケル時局ノ發展ニ依リテハ到底右協定ノ実行ヲ期シ難キコトアルヘク從テ英國トシテハ華府付加税ト雖輕々ニ之カ實施ヲ許容スルコト能ハス結局日英兩國ハ目下意見ヲ異ニスル所アルモ實際ノ帰着点ニ至リテハ大差ナカルヘシト云ヘリ

之ニ対シ外務大臣ハ先ツ近來本邦新聞紙ニ於テ英國ハ會議ノ中絶ヲ提議シ日本ハ其ノ存続ヲ主張シ根本的ニ意見ノ衝突ヲ來タシタルカ如キ報道連載セラレ在支英人中ニハ之ヲ以テ日本カ支那ノ欲心ヲ買ハムカ為會議中絶ノ責任ヲ英國ニ転嫁セムトスル一種ノ宣傳ナルカ如ク憶測スルモノアリ誤解ハ誤解ヲ生シテ事態ヲ綜錯セシムルニ至リタルハ遺憾ナリ自分ノ記憶スル所ニテハ曩ニ在英支那代理公使ヨリ英國政府当局者カ會議存続ノ無益ナルコトヲ直言セル旨北京外交部ニ電報シ來リタルヤノ風説伝ハリタルコトアリ最近新聞紙上ノ論難ハ之ニ根源ヲ發スルモノナルカ如シ外務省ニ於テハ新聞紙代表者トノ會見ニ際シ其ノ誤報ヲ正サムコトヲ努メタルモ會議ノ経緯ヲ詳細公言シ得サルカ故ニ直ニ

疑惑ヲ一掃スルコト困難ナリト述ヘタルニ「スチュアート」ハ斯ノ如キ新聞紙上ノ誤報論難ハ我等ニ於テ固ヨリ毫モ意ニ介シタルコトナク支那ニ於テ最痛切ナル利害關係ヲ有スル日英米三国ハ互ニ終始最緊密ナル接觸ヲ保チ誠意協力シ來リ今後ト雖同様ナルヘキコト疑ヲ容レスト云ヘリ次ニ外務大臣ハ華府付加税以外ノ問題ヲ含ム條約案ニ付テハ支那ニ於テ列國ノ承認ヲ得ヘキ新政府ノ確立スル迄英國委員ハ日米兩國委員トノ間ニ於テモ之カ審議ニ参加セサル意向ナリト解シ差支ナキヤト借問シタルニ「スチュアート」ハ必スシモ然ラス唯日米兩國ハ右條約ニ付テモ華府付加税問題ト同様此際具體案ヲ定メテ之ヲ机上ニ殘シ置クヘキコトヲ主張セル処英國ハ斯ノ如キハ支那政情不安定ノ際列國將來ノ行動ヲ余リニ「コンシット」スルノ嫌アリト認メ右具體案ヲ机上ニ殘シ置クノ目的ヲ以テスル討議ニハ参加スルヲ欲セサルモ何等將來ノ行動ヲ羈束スルコトナキ限リ日英米三国委員間ニ自由ナル意見ノ交換ヲ行フコトハ何等異議ナキ所ニシテ此ノ趣旨ナラハ英國委員ハ欣然協力スヘシ將又英國委員ノ参加ナクシテ日米兩國委員間ニ本件審議ヲ繼續スルトモ英國ハ何等異議ヲ有セス日米兩國委員ハ能ク英

國ノ主張ヲ了解スルカ故ニ兩國委員ノ協定スヘキ具體案ハ事實上英國ニ取リテモ別段差支ナカルヘキヲ信ス從テ広東方面ノ事態カ満足ナル發展ヲ見ル場合ニハ英國ハ直ニ日米共同案ニ同意シテ之ニ調印スルコトヲ得ヘク若シ又広東方面ノ事態不満足ナル場合ニハ日米兩國ハ英國ノ不参加ヲ理由トシテ右共同案ノ調印ヲ拒ミ以テ行動ノ自由ヲ留保スルコトヲ得ヘシ是ヲ以テ觀レハ前記英國ノ態度ハ日米兩國ニ取リテモ便宜ナルコトト思考スト答ヘタリ

又華府二分五厘付加税實施案調印問題ニ付テハ外務大臣ハ私見トシテ右調印ハ左ノ結果ヲ伴フヘキコトヲ注意セリ  
第一 苟モ支那ノ代表者ト共ニ本件協定ニ調印スル以上ハ其ノ調印ノ事實ニ依リテ直ニ支那政府ヲ公然承認スルノ結果ヲ生ス既ニ支那ノ代表者トシテ協定ニ調印スルコトヲ承認シナカラ支那政府其ノモノヲ承認セスト云フカ如キ主張ヲ為スハ論理ノ矛盾ヲ免レス又一旦支那政府ヲ承認シナカラ之ト新條約ノ締結ヲ商議セスト云フモ明ニ不合理ナリ  
第二 右協定調印ノ結果トシテ所定ノ行政費ヲ調印ノ對手方タル支那ノ新政府ニ交付スルノ義務ヲ生ス然ルニ英米委員ノ意見ノ如ク支那政府トシテ列國ノ未タ承認セサルモノ

ニ行政費ヲ供給スルハ内政不干渉ノ根本原則ニ違反シ中央政府ヲ承認セサル地方実権者ノ不満ヲ招クヘシ

以上ノ二点ニ顧ミ英米両国委員カ華府付加税実施案ハ不安定ナル臨時的ノ北京政府ト雖其ノ代表者ト共ニ調印スルノ覚悟ヲ有シ其ノ以外ノ条約又ハ協定案ニ付テハ一層鞏固ナル政府ノ成立ヲ待ツテ商議スヘシト云フハ自分ノ解シ難キ所ナリト述ヘタルニ

「スチュアート」ハ全然同感ヲ表シ唯右第二点ニ付テハ地方權力者ニ対シテモ付加税増収ノ幾部分ヲ分配スルノ案ニ依リテ其ノ不満ヲ除クニ足ルヘキヲ期待セル旨ヲ説明セリ尚外務大臣ヨリ華府二分五厘付加税実施案ノ内容ニ亙リ日本トシテハ通商上ノ便益ノ増進（抵代税收入ヲ地方ニ分配シ並沿岸貿易税ヲ廃止スルノ案ヲ含ム）ト不確実債務ノ整理ト兩者ニ対シ等シク重要視スルモノナル処列国専門委員ノ採用セル協定案ハ前者ニ厚クシテ後者ニ薄キノ感アリト思考スル旨ヲ述ヘタルニ「スチュアート」ハ之モ一ノ見解ナルヘシト雖自分等ノ見ル所ニテハ一方ニ於テ付加税増収中釐金廃止ノ一階段タル措置ニ向テ九百萬元ヲ充當スルト共ニ他ノ一方ニ於テハ右ノ外一定ノ行政費（九百萬元）ヲ

差引キタル剩餘全部（年々若干ノ自然ノ増収アルヘシ）ヲ不確実債務ノ整理ニ充當セムカ為別ニ細目ノ協定ヲ了スル迄之ヲ蓄積シ置クノ考案ハ兩者ノ場合ニ対シ權衡ヲ失スルモノト考ヘラレスト答ヘタルカ此説明ハ明瞭ヲ欠ク所アルモ外務大臣ハ更ニ論究スルコトヲ避ケタリ

七六一 七月一日（着）

在米國松平大使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

關稅會議繼續方ノ日本側主張ハ東洋式ノ術策

二過ギズトノ新聞論調報告ノ件

第一二六号

支那關稅會議ニ関シ六月三十日紐育「ヘラルド・トリビューン」ハ最近日本外務省ノ言明ニ依レハ日本ハ他ノ列國カ長期休暇ノ名目ノ下ニ會議ヲ葬リ去ラントスル希望ニ応スル意向ナシトノコトナルモ日本ノ對支貿易ニ徴シ日本カ現關稅率ノ維持ト關稅會議ノ中止ヲ切望シ居ルハ明白ニシテ唯日本ノ恐ルル所ハ支那國民ノ好意ヲ失ハントノ一点ニ存ス然ルニ列國委員カ支那委員ノ不参加及暑期ヲ理由トシテ會議ノ一時中止ヲ仄シタルニ乘シ日本カ同會議ノ將來到底圓滿ニ進行スル望ミナキヲ信シツツアルニ拘ラス飽ク迄

其繼續方ヲ主張シテ支那ニ好意ヲ示サントスルハ東洋式ノ術策ニ過キス但シ右日本ノ態度ハ支那ニ在ル日本ノ新聞紙ヲ通シ広ク支那國民ニ伝達セラレ遂ニ支那ノ好感ヲ得ルニ至ルヘキコトヲ忘ルヘカラストノ趣旨ノ社説ヲ掲ケタリ

七六二 七月一日  
在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

付加税實施協定案ニ関スル本國政府ノ訓令接  
到セル趣ニテ英國公使來訪ニツキ報告ノ件

關會第三四二号（至急 極秘） （七月二日接受）

往電關會第三三六号ニ関シ

七月一日英國公使來訪本國政府ノ訓令接到セル為メ一兩日内ニ和蘭公使ニ対シ全權會議ノ開催ヲ要求スル積ニシテ其ノ際右電訓ニ基キ「ステートメント」ヲ作り之ヲ會議ニ於テ讀ミ上クル考ナル処右「ステートメント」ノ前文トシテ華府付加税案ニ対シ日本側ヨリ修正ノ提議アリタル次第第二言及スル必要アルニ付予メ御諒解ヲ得シカ為メ來訪シタル次第ナリトテ右訓電ヲ讀ミ上ケタルカ要スルニ今日列國委員間ニ於テ華府付加税取極案ニ付協議ヲ為シ居ルモ右ハ支那委員參加シ居ラサル為メ單ニ他日支那側トノ協議ノ基礎

トナルニ過キス何等實際的效果アリトモ認メラレサルニ付右協議ハ此ノ儘トシ今後支那政府成立シタル上華府條約ヲimplementスル案ハ支那側ヨリ「フォミュレイト」シテ會議ニ提出セシメ支那委員ヲモ参加セシメテ協議ヲ尽スコトトシタク尚ホ其ノ際独リ華府付加税案ノミニ止マラスmajor treatyノ交渉ヲナスモ差支ナキ意向ナリ云々ト述ヘタリ其ノ際本委員等ハ試ニ支那現政府ヨリ今直ニ會議ノ再開ヲ求メ支那委員ノ参加ヲ要求シ來ル場合ニ付テノ意向ヲ訊シタルニ英國公使ハ支那政府ヲ承認シ之ト會議ヲ再開スヘキヤ否ヤハ本國政府ノ決スヘキ問題ナル旨答ヘタリ前記英國政府訓電ハ英國公使ヨリ送付シ越ス約束ニ付入手次第電報スヘシ

七六三 七月二日  
在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

付加税問題ニ関スル英國提議ニ対シ我方ノ措

置振り報告ノ件

別電

同日在北京關稅特別會議帝國代表發幣原外務大臣宛電報關會第三四四号

英國ノ意向ニ關スルタイチマンノ内話報告ノ件

關會第三四三号（大至急 極秘）

往電開會第三四二號ニ関シ

(一) 英國ノ意向ハ別電開會第三四四號ノ通ニテ會議ハ此際何事ヲモ決定セス適當ナル支那政府ノ樹立ヲ俟ツ次第ニテ實際ニ於テ貴電開會第一一四號ノ(一)乃至(四)ト大体一致セル次第ナルカ英國ノ真意ヲ付度スルニ元來右ハ英國力衷心大ニ希望シ居タル処ニシテ只大勢上已ムナク華府付加稅案タケヲ決定スルノ態度ニ出テ然モ表面上之ヲ主張シ來リシ次第ニシテ今次ノ我方提案ヲ機會トシテ其希望ヲ實現スルノ好機ヲ得ルノ結果トナレルモノト認メラル

(二) 右英國ノ提議ハ從來米國ノ執レル態度ト全然背馳スルヲ以テ米國力直ニ之ニ同意スルヤ否ヤハ大ニ疑アリ(明ニ日米國側ノ意向ヲ確カムル積ナリ)從テ土曜日ノ會合ノ結果ハ固ヨリ之ヲ予測シ難キモ何レノ場合ニ於テモ此際華府付加稅案ノ成立ヲ阻止シタル責任ハ日英兩國ノ内ニテ之ヲ負フノ事態トナルノ虞アリ固ヨリ我方ハ終始支那ニ對シ好意ヲ有シ自主權ヲ回復セシメントスルモノナルヲ以テ一時ノ誤解ヲ招クモ何等意トスルニ足ラサルカ如キモ日支ノ重要ナル關係ニ顧ミ所有場合ニ於テ出來得ル限り誤解ヲ避ケ我公正ナル場合ヲ明カニスルノ措置ヲト

於テハ英國提案ニ付テハ直ニ賛否ヲ明示スルコト無ク單ニ政府ニ請訓スヘシト述ヘ置ク積リニ付右ニ御含置相成度シ

#### (別電)

七月二日在北京關稅特別會議帝國代表發幣原外務大臣宛電報  
開會第三四四號  
英國ノ意向ニ關スルタイチマンノ内話報告ノ件

開會第三四四號 (大至急 極秘)

七月一日英國公使館ニ於テ「タイチマン」カ佐分利ニ内話シタル所ニ依レハ英國ハ

(一) 華府付加稅問題ハ一般條約ノ一部分トシテニ非サレハ之ヲ實施セサル事ニ決定シ又

(二) 華府付加稅ヲ与ヘキ政府成立セハ之ト一般條約問題ノ交渉ヲナス積リナリト述ヘ(從來ノ說ヲ變シタルモノナリト付言セリ)何レモ日本ノ意見ニ合致スル次第ナリト更ニ

(三) 最近英國ハ會議ヲ打切ラントスルモノナリトノ多数ノ報道新聞紙上ニ現ハレタル關係上暑中休暇問題ノ如キ自ラ發言スル事ハ絶對ニ避ケサルヘカラサル立場ニアリト述ヘタリ

ル事最緊要ナリ依テ今日英國ヲシテ右ノ提案ヲナスニ至ラシメタル直接原因タル我方提案ノ決シテ無理ナル注文ニ非サルコトヲ明カニシ置クコト極メテ必要ナリト思考ス就テハ土曜日ノ會議ニ於テハ我方主張ノ終始一貫セル所以ヲ述ヘ特ニ我方ハ會議全部ヲ一括シテ完成セシメントヲ熱望スル次第ニシテ華府付加稅ニ關スル取極ノ成立ノミヲ以テ満足スル次第ニ非サルモ各國間ノ協調ヲ保ツ為華府付加稅案ニ就テハ或修正ヲ以テ之ヲ承諾スルコトトシ其趣旨ヲ以テ英米ト會談セル旨ヲ披露スルコトトシ尚其際貴電開會第一二三號最終案ノ趣旨ヲ參酌シ華府付加稅案ニ對スル我方修正ノ点ハ決議案中沿岸貿易稅並抵代稅ニ關スル二項ヲ削除スルノミニアルコトヲ指摘シSuspension Clause ニハ言及セサルコトトシ度ニ付右御承認相成度シ若シ何分ノ御意見アラハ土曜日前ノ會議ニ間ニ合フ様至急御回訓ヲ請フ尚英國ハ今回ノ提案ニ依リ自己ノ責任ヲ以テ貴電開會第一一四號ノ一乃至四ト同様ノ主張ヲナスニ至リタル次第ナルカ從來ノ我方交渉ノ成行殊ニ米國トノ關係ニ顧ミ英國案ニ直チニ同意スルコトハ又重大ナル誤解ノ原因トナル虞アルヲ以テ全權會議ニ

尚最近同人ト累次ノ談話ヲ綜合スルニ英國ハ米國カ華府付加稅ノ急速實施ヲ主張スル事該付加稅ヲ与フヘキ政府ハ如何ナル程度ノモノニテモ差支ヘナシトスル事及廣東政府ニ關スル問題等ニ付到底一致ノ態度ヲ執リ得サル事ヲ痛感シ成ル可ク日本ヲ自己ニ惹キ付ケントスルノ意向ヲ有スル事明カナリ又今回ノ會議停止ノ提議ヲ為スニ當リテモ右ハ結局日本ノ意向ト背馳セサルモノナリト思考シ居レリ

右參考迄

七六四 七月二日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

英國公使ヨリ全權會議ニ於テ披露スベキ「ステートメント」内示ノ件

別電 七月二〇三日在北京關稅特別會議帝國代表發幣  
原外務大臣宛電報第三四六號  
右英國公使ノ「ステートメント」全文

開會第三四五號 大至急(極秘)

往電開會第三四二號ニ関シ

三日ノ會議ニ於テ英國公使ノ披露スヘキ「ステートメント」同公使ヨリ内示シ來レリ全文別電開會第三四六號ノ通り

## (別電)

七月二日在北京關稅特別會議帝國代表發幣原外務大臣宛電報  
第三四六号

英國公使ノ「ステートメント」全文

関会第三四六号 (大至急 極秘)

His Majesty's Government regret that in the recent informal discussions which have taken place between the foreign delegations in the absence of the Chinese (delegation?) in anticipation of the early resumption of the Conference and of the renewal of the request by the Chinese delegates for the immediate grant of the Washington Surtaxes, it has not been found possible to reach complete agreement on the proposals to formal basis of discussion with the Chinese.

In these circumstance His Majesty's Government are of the opinion that no useful purpose will be served by the foreign delegations in continuing these informal negotiations with a view to reaching a closer degree of agreement at the present stage and

that it would be preferable to await the resumption of the Conference and the formulation of the Chinese proposals.

「His Majesty's Government instruct me to state that it is their earnest desire and intention to implement the Washington Treaty with the least possible delay and to grant the surtaxes provided for therein, if this should be the wish of the Chinese Government and that they are prepared to discuss any reasonable proposals put forward by the Chinese Delegates to this end in harmony with the spirit and letter of the Washington Treaty.

His Majesty's confederation also wish it to be clearly understood that in the event of the Chinese Delegation on the resumption of the Conference tabling a proposal for the immediate enforcement of the Washington surtaxes, they have no intention, after agreement on such proposal has been reached, to suspend the proceedings of the conference or to break off the

negotiations for conclusion of a Tariff Treaty which have been interrupted by recent political developments in China.]

編註 右電報中ノ括弧内ハ七月三日在北京關稅特別會議帝國代表發幣原外務大臣宛電報関会第三五一号ニテ發電サレタモノデ其ノ冒頭デ「貴電関会第二二六号ニ関シ再電左ノ通」関会第三四六号ノ二(一)トアリ。

七六五 七月二日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

米国公使ハ会議停止ニ難色ヲ示セル旨報告ノ

件

関会第三四七号 (極秘)

(七月三日接受)

七月二日佐分利ヲシテ米国公使ヲ訪問セシメ前日英國公使談話ノ次第ヲ内報セシメタル処「マクマレー」ハ少カラス失望ノ色ヲ示シ英國案ノ如ク列国間ノ協議ヲ停止シ華府付加税案サヘモ之ヲ決定セサルニ於テハ既ニ華府条約成立以後四年ヲ経過セル今日尚列国カスノ如キ態度ヲ取ルハ全ク誠意無キニ基クモノトシテ非難ヲ受クヘク之ニ対シ列国ハ弁解ノ辞乏シキヲ感セサルヲ得ストノ趣旨ヲ縷々陳述シタルカ其際公使ハ公ノ資格ヲ離レ全然友人間ノ内話ナリトシ

六 北京關稅特別會議關係 七六五

テ左ノ二点ニ言及セリ

(一) 明日ノ會議ニ於テ英國案發表セラルレハ他ノ諸国ハ非常ナル失望ノ念ヲ以テ之ヲ迎フヘク而モ自分カ今日迄同僚トノ接触ニ依リ得タル感想ニ基キ判断スレハ仮令右英國提議ノ結果協議中止トナル場合ニモ列国側ハ英國ヲ以テ真ノ責任者トセス寧ロ日本ヲ責任者トシテ非難スルニ至ルヘク日本ハ英國ヲ corner ニ追込メテ之ヲ impossible situation ニ置キタルモノナリトノ感想ヲ一般ニ与ヘ居ルモノノ如シ

(二) 吾人ハ目下極メテ重大且危険ナル支那ノ事態ニ直面シ居リ当面ノ問題ハ如何ナル手段ニ依リ之ヲ切抜クヘキカニアリ而シテ之カ為ニ華府条約ヲ成ル可ク速ニ実施シテ列国ノ誠意ヲ示スハ最モ有効ナル手段ナリト思考シ居ルモノナリ此ノ際ニ当リ各国カ一樣ニ同意セル案ニ対シ日本ノ提議セル修正案ハ仮令多少ノ意味アリトスルモ余リニ minor points ニ亘リ大局ニ対スル洞察ト用意トニ欠クルアルヤヲ疑ハシム

尚同氏ハ日本カ英國ノ提議ニ依リテ會議停止ニ賛成セントスルモノナリヤノ危惧ノ念ヲ懷キ居ルモノノ如ク日本

現在ノ立場（即チ華府付加税実施案ニ修正ヲ加ヘテ之ヲ決定セシムルコトヲ指ス）ヲ維持シテ変セザランコトヲ希望セサルヲ得スト云ヒ右公使ノ言ハ米國側カ漸ク出来上リタリト思惟スル華府付加税案ニ動揺ヲ来シタルヲ遺憾トスル私情ノ包含セラルルコトハ勿論ナルモ大体右ノ如キ空氣カ現ニ存在スル以上往電開会第三四三号末段ニ依リ御了解相成ル可キ通り我方トシテハ俄ニ英國案ニ左袒スルノ態度ヲ採ルコトヲ避ケ修正案維持ノ立場ニ依リ措置スルコト支那側及列國側ノ誤解ヲ防ク為最モ機宜ニ適スルモノト思考ス

七六六 七月二日

幣原外務大臣ヨリ  
在北京關稅特別會議帝國代表宛（電報）

付加税實施協定案等ノ対処方ニツキ訓令ノ件

開会第一二四号（至急）

貴電開会第三四三号ニ関シ

大体英國側ハ我方予定ノ方針ニ適応スル事トナリタルハ同慶ナリ此ノ際貴電ノ二ノ通り會議ニ於ケル我方ノ立場ヲ明白ニ陳述セラルルコトハ必要ニシテ又會議ノ模様ニヨリ右貴電末段ノ如ク英國提案ニ付直ニ同意ヲ与ヘス單ニ本國政

府ニ請訓スヘシト述ヘ置カルルコトモ異存ナシ尤モ休会ノ責任ヲ強テ英國側ニノミ帰セシメムトスルカ如キ誤解ヲ与フル言動ハ努メテ之ヲ避ケラルヘキコト云フヲ俟タス將又本件英國提案カ成立スル場合ニモ期限ヲ定ムルコトナク事實上休会シテ列國委員カ帰國シ又ハ避暑地ニ向フトキハ支那側ヲシテ會議打切りナリトノ疑惑ヲ抱カシムル虞アルニ付一定期日後ニハ會議ヲ続行スルノ決意ヲ明白ニ言明スル「ステートメント」發表ノ要アルコトヲ主張セラレタシ尚貴電中「我方修正ノ点ハ決議案中沿岸貿易稅並抵代稅ニ関スル二項ヲ削除スルノミ」トアルモ往電第一二三号ノ通り原案カ右二項ノミヲ掲記スルヲ修正シ條件ノ範圍ヲ廣クシ釐金稅撤廢準備ノ為トシ他日其ノ詳細ヲ協定セムトスルモノニシテ單ナル削除ニアラサルニ付申迄モナキ義ナカラ此ノ点留意アリタク追テ貴電開会第三四四号（三）ニモ言及セラレタル通若シ米國側カ會議ニ於テ二分五厘付加稅ヲ与フヘキ政府ハ如何ナル程度ノモノニテモ差支ナシト主張シ一般條約ノ對手方ト區別セムトスルニ於テハ仮令既存條約ノ實施ニモセヨ苟モ國際協定タル以上新政府ト共ニ之ニ調印セハ右調印自體カ該新政府ノ公然ノ承認ヲ意味スルモノト

解セラルヘキハ当然ナルヘク一方ニ於テ斯ノ如キ承認ヲ与ヘナカラ他ノ一方ニ於テ二分五厘付加稅以外ノ問題ニ付テハ其ノ新政府ト公然商議スルコトヲ拒絕スト云フハ矛盾ノ論ナラサルヤヲ指摘セラレタシ右ハ御氣付ノコトト信スルモ念ノ為

七六七 七月三日

幣原外務大臣  
在本邦テイリ英國大使 會談

日本ガ付加税實施協定案ニ対シ修正意見ヲ提

起シタル理由ニ關スル件

大正十五年七月三日幣原外務大臣在本邦英國

大使「チレー」會談要領

七月三日英國大使「チレー」幣原外務大臣ヲ來訪シ一日開稅會議英國委員「スチュアート」ニ面會セルカ同氏ハ当日外務大臣トノ會談ニ依リ開稅會議ニ對スル日本政府ノ意見明瞭トナリ大ニ得ル所アリタリト満足ノ意ヲ表シ居リタル旨ヲ語り次ニ開稅會議ニ於テ既ニ日本ヲ含ム各國全權全部ノ一致シタル二分五厘案ニ對シ日本政府カ最後ノ瞬間ニ至リテ修正意見ヲ提起シタル事情如何ト質問シタルニ付

幣原大臣ハ右二分五厘案ハ單ニ專門委員ノ非公式會合ニ於テ大体ノ一致ヲ見タルニ止リ全權會議ニ於テ最終ノ二確定シタルモノニ非ス或ハ右案ハ各國全權ノ大体ノ諒解ノ下ニ專門委員會ニ於テ審議シ来リタルモノナリトスルモ各國政府ハ之ニ對シ修正案ヲ提起スルコトモ固ヨリ差支アルヘカラスト述ヘタリ

英國大使ハ軫シテ日本カ右二分五厘案中貿易保護ノ條項（即沿岸貿易稅及抵代稅ノ二項）ニ付反對スル理由ヲ訊ネタルニ付

幣原大臣ハ

一、沿岸貿易稅及抵代稅ノ二項ハ共ニ釐金撤廢ノ準備ノ為ナルコト言フ俟タサル処釐金ノ撤廢ハ華府條約第二條ノ予期スル所ナルモ第三條ノ規定中ニハ之ヲ予想シ居ラス故ニ二分五厘増徴ノ支途ヲ右釐金撤廢準備ノ為ニ充當スルコトハ稍々進ミ過キタルノ感アリ尤モ右充當ハ列國ノ希望モアリ日本トシテハ之ト協調ノ為主義上反對スルモノニアラサレトモ日本トシテハ貿易ノ保護ト不確實債務ノ整理ト兩者同様ニ重キヲ置クモノナルカ故ニ二分五厘實施ニ關スル英米案中貿易保護ノ條項ニ付テハ充當額並

条件ヲ明定シナカラ債務整理ニ付テハ総テヲ未決定ノ儘積立テ置クコトトセルハ兩者間ノ權衡上不公平ナリト思考セラル

二、加之貿易保護及債務整理ノ兩目的ノ為ニ充當セラルヘキ金額ノ比例ニ付テハ慎重考慮ヲ要スヘキヲ以テ此点ニ付テハ從來各國専門委員ノ間ニ屢々非公式ニ意見ノ交換ヲ行ヒ來レル次第ナルカ右英米案ニ依レハ沿岸貿易稅、抵代稅並政費トシテ毎年千八百萬元ヲ割當テ債務整理ノ為ニハ其殘余ヲ積立テ置クコトトスルニ付兩者ノ金額ノ比例ニ付テモ亦妥當ナルモノト信シ難シ

三、要之目下北京ニ於テ酷暑ニ際シスノ如キ重要且複雑ナル問題ヲ速決セムコトヲ求ムルハ事實上無理ナルヘク若シ此際華府二分五厘附加稅實施ニ付何等カノ具體的協定案ヲ lay on the table ノ必要アリトセハ附加稅增收中行政費月額七十五萬元ヲ差引キタル剩餘ハ一切之ヲ貿易保護及債務整理ノ二目的ノ為ニ積立テ置ク旨ヲ規定スルニ止メ此ノ二目的ニ使用セラルヘキ金額ノ割當並支出方法等ハ引續キ商議セラルヘキ條約又ハ協定ニ讓ルヲ適當ト思考スル旨ヲ述ヘタリ

針ニ近似セルモノナリト解セラル然レトモ米國側ニ於テハ之ニ對シテ絶對ニ反對ナリトノ報アリ同國委員「ストローン」トシテハ北京ヲ去ルニ臨ミ是非共何カ土產案ヲ必要トスヘク旁々米國ノ立場トシテハ容易ニ右英國提案ニハ賛成シ得サルヘキコトト想像セラル旨ヲ述ヘ置キタリ

(木村局長口授 田中記)

七六八 七月三日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

#### 全權會議ノ經過報告ニ關スル件

關會第三四九号

(七月四日接受)

七月三日和蘭公使館ニ於テ全權會議開催、往電關會第三四二号前段ノ通英國側ニ於テ其ノ「ステートメント」前文ニ日本側ヨリ修正提議アリタル次第第二言及シタキ希望ナリシヲ以テ其ノ後英國公使ト協議ノ結果右日本側修正提議ノ由來ハ我方ニ於テ説明スルコトニ打合せ置キタリ

依テ開會劈頭日置ハ往電關會第三五〇号ノ通陳述シタルニ英國公使ハ之ニ續キ往電關會第三四六号其ノ「ステートメント」ヲ朗読シタリ議長和蘭公使ハ日本側提案ノ趣旨ハ五月十五日ノ會合ニ於テ「アド・レフエレンダム」ニ採用シ

英國大使ハ之ニ對シ全然自分一個ノ思付キナル旨ヲ斷リタル上貴大臣ノ御説ノ如ク貿易保護ト債務整理トノ二目的ニ使用セラルヘキ金額ノ割當上偏重偏輕ノ嫌アリトセラルルニ於テハ抵代稅、沿岸貿易稅ノ二條項ノ内何レカ一方ノミヲ決定シ置キ他ノ一ハ未決定ノ儘トシテ之ヲ積立金中ニ繰入レ他日之カ用途ニ付考究スルコトトセハ如何ト問ヒタルニ付

幣原大臣ハ右案ニ付テハ尚考究ヲ要スヘク其可否ヲ即答シ難キ旨ヲ以テ回答ヲ避ケ此際強ヒテ二分五厘案ヲ速決セムヨリハ支那政局不安定且酷暑ノ折柄一応此儘夏休暇トシテ休會シ更ニ日ヲ期シテ再會ノ上引續キ協議ヲ行フコト最モ時宜ニ適スルモノト思考スト述ヘ尚本日北京ノ全權會議ニ於テハ英國全權ヨリ新提案ヲナス筈ナリト付言シタルニ英國大使ハ全ク今回ノ英國側新方針ニ付テハ承知セサルモノノ如ク頻リニ其内容ヲ訊ネタルニ付

幣原大臣ハ未タ其内容ニ付テハ詳報ニ接セサルノミナラス本日ノ會議ノ結果ヲ見ルニ非レハ確實ニ之ヲ語ルヲ得サル次第ナルモ大体今日以上會議ノ進行ハ支那新政府成立、支那側委員ノ参加スルヲ待タムトスルノ趣旨ニテ大体我方

タル協定ニ修正ヲ加ヘテ會議ヲ続行セントスルニ反シ英國側ニ於テハ右非公式會議ノ続行ヲ不必要ト認ムルモノナリ此点ニ關シ各國全權ノ意見ヲ承知シタキ旨ヲ述ヘタルニ「マクマレー」ハ本日ノ二個ノ提案ハ會議ヲ行詰ラシムルモノニシテ米國委員ハ深甚ノ失望ヲ以テ之ヲ迎フルモノナリ蓋シ五月十五日ノ協定ハ應テ支那ノ關稅自主ニ至ル道程ノ第一歩トシテ各國ノ既ニ「アド・レフエレンダム」ニ承認シタル処ナルニ拘ラス今會合ヲ繼續シテ之カ實施ヲ計ラントセハ英國公使ノ所謂「ドラスティック・アmendメント」ヲ承認セサル可カラサルコトナリ又他方ノ提議ヲ容レテ會合ヲ打切ルトセハ其ノ結果ハ何レノ一國ニ取リテト云フニアラス外國側全部ニトリテ重大ナル結果ヲ惹起スヘキヲ憂フルカ故ナリ即チ支那側ニ於テハ外國側ノ會議中止ヲ口実トシ國民的若ハ「ボルシェビック」運動ヲ開始スヘケレハナリ故ニ自分ハ會議中止ヲ避ケタク何等カノ方法ニ依リ此ノ「デッドロック」ヲ切抜クルノ案ヲ得ンコトヲ欲スル旨ヲ述ヘ

仏國公使ハ會議ヲ急遽中止セハ面白カラサル結果ヲ招キ支那側ニ於テハ之ヲ惡用スル憂アルヘキハ米國側ト同感ナル

モ然リトテ日英双方ノ提議全然相容レサルモノナルニ依リ如何トモシ難シ唯一ノ解決方法トシテハ支那側ヲシテ會議再開ノ日ヲ定メシムルニアリ即チ支那政府ニ於テ商議ノ相手方ヲ通知シ来ルニ於テハ外国側ニ於テハ何時ニテモ會議ヲ再開シ得ルコトヲ通告シ置キ別ニ徐ニ日英双方ノ提議ヲ審議スルコト然ルヘシト述ヘタリ英國公使ハ米國公使ノ所謂會議行詰リナルモノハ之ヲ了解スルヲ得ス抑今日會議ノ停頓セルハ全ク支那ニ政府無キカ為ナリ支那政府成立セハ會議ハ続行セラルヘシ殊ニ從來非公式會合ヲ続ケ来レルハ之ニ依リ敢ヘテ最後ノ確定案ヲ得シカ為ニ非ス單ニ支那側トノ商議再開ノ場合ノ基礎案ヲ得シカ為ニ外ナラサリシモノニシテ英國側ハ華府條約ノ精神ニ基キ支那側ノナスヘキ提案ハ之ヲ議スルニ吝ナラス只今日ハ支那側ニ於テ何ヲ欲スルヤ明ナラサルカ故ニ暫ク之ヲ待ツコト然ルヘシト云フノミニシテ敢テ會議ノ行詰リト云フ可カラス又英國側ニ於テハ會議ヲ破壊セントスルモノニモ非ス現ニ英國側ニ於テ會議続行ノ希望ヲ有スルコトハ本日朗読セル「ステートメント」ノ最後ノ二項ニモ明言セル処ニシテ此ノ点ニ付テハ英國側ニ於テハ最近同國ニ對スル攻撃ニ答フル為本日午後

特ニ「ステートメント」ヲ發表スル積リナリト述ヘ葡萄牙公使モ仮ニ本日外國側集會ニ於テ華府附加税ノ協定ヲ承認シタリトスルモ直ニ之ヲ實施スル能ハサル状態ニアリ故ニ日英提案ノ結果會議行詰リト云フハ當ラサルヲ述ヘタルカ之ニ對シ「マクマレー」ハ華府附加税實施ニ付テハ各「デレゲイション」中英國側意見ニ賛成スルモノナカルヘシ同附加税ハ支那側ヨリ要求セサル可カラストノ英國側意見ナルモ我々ハ華府條約ノ命スル義務ニ基キ本會議ニ参加セルモノナリ故ニ支那側ヨリ要求無キヲ理由トシテ會議ヲ中止シ得ル權利アリヤ否ヤハ問題トナラサル事柄ナリト応酬シ

英國公使ハ會議当初ニ於テハ王正廷ハ華府附加税ハ要求セス一舉ニシテ自主權ヲ獲得セント計リタルモ中途ヨリ華府附加税ノミヲ要求スルニ至リタリ故ニ現在支那政府ニ於テ結果シテ何ヲ望ムヤ之ヲ明ニスルコト必要ナリト答ヘ

「マクマレー」ハ之ニ對シ米國側ニ於テハ初ヨリ一般條約ノ實施ニ先立チ華府附加税ヲ實施センコトヲ主張シ此主張ハ嘗テ之ヲ「ドロップ」シタルコトナシト述ヘタルカ米國側ハ更ニ議長ニ對シ事態ヲ明瞭ニスル為ナリトノ理由ノ下

ニ次ノ二問ヲ各國全權ニ質サンコトヲ求メタリ

(一) 各國全權ハ支那政府成立ト同時ニ五月十五日「アド・レフエレンダム」ニ承認セラレタル協議案ヲ基礎トシテ討

議ヲ開始スル意向ナリヤ

(二) 各國全權ハ沿岸貿易税及抵代税ニ関スル七月三日日本側修正ヲ參酌シタル協定案ノ基礎ニ於テ會議再開ノ用意アリヤ

第一問ニ對シテハ我方ヲ除ク外之ヲ肯定シタルカ第二問ニ對シテハ英國公使ハ協定案ト修正案ノ相容レサルニ顧ミ何等「コンミット」シ得スト述ヘ仏國公使ハ自分モ今ヨリ「コンミット」シ能ハサルモ仏國ニ執リテハ重大ナル關係無キ点ナルヲ以テ修正ニ全然反對ナル次第ニハ非スト述ヘ他ノ全權モ大体仏國公使同様ノ回答ヲ為シタルカ「マクマレー」ハ米國側ハ五月十五日案ヲ以テ現在歲入規定ニ一層良ク適合スルモノト思考スルモ會議ノ進捗ヲ計ル為日本側修正ヲ容レテ討議ノ基礎ト為スコトニ異議無キ旨ヲ明言シタリ此処ニ於テ英國公使ハ華府附加税實施ニ付其額ニ付テハ各國既ニ異議無ク只些細ナル一二点ニ付テ意見ノ一致ヲ見サルノミ故ニ此際ハ寧ロ支那側ニ於テ何ヲ要求スルカラ

聞クコト賢明ナルヘシト述ヘ仏國公使モ之ニ賛成シテ支那側ノ参加ヲ俟ツコト然ルヘキヲ述ヘ外國側ノミニ於テ意見

不一致ノ点ニ固執論議スルノ無益ナルヲ付言シ最初ニ述ヘタルカ如ク支那側ニ對スル適応ナル「ステートメント」ノ「フォミュラ」ヲ作ルコト妥協ナルヘキヲ主張シタリ右

「ステートメント」ニ關シ議長ハ簡單ニ「外國全權ノ一致ノ意見ハ支那政府ニ於テ會議ヲ招集スル場合討議ヲ続行セントス」トノ趣旨ヲ以テ發表スルコト如何ヲ諮リタルニ

「マクマレー」ハ何等發表スル処無ク休暇ヲ取りタキモノハ事實上休ムコトトスルヲ賢明トスヘシト提議シタルカ日置ハ日本政府ニ於テハ仮令華府附加税協定案成立ノ上夏休

ニ入ル場合ニ於テモ猶一定ノ日ヲ定メ以テ懸案ノ審議ヲ再開シ外國側ニ係ル義務ノ全部ヲ完済セントスル旨ノ共同宣言ヲ發センコトヲ希望シ居ル趣ヲ述ヘタルニ同宣言ハ成ル

可ク簡單ナルコト肝要ナリトノ説多ク更ニ日置ハ日本政府ニ於テ希望セル宣言案ハ次ノ如クナリトテ貴電閣會第一一

五号共同聲明案ヲ朗読シタルニ議長ハ休暇ナル文字ヲ用ユルコト及再開ノ日ヲ限定スルコトノ二点面白カラサルヲ指

摘シ「ストローン」(脱)ケレハ所謂(無用)擧げノ批評ヲ招ク虞

アリトテ簡單ナルヲ主張シ依テ議長ハ其ノ提案ニ依ルモノト日本側提案ノ声明案トノ何レヲ選フヘキヤニ付賛否ヲ問ヒタルニ全部簡單ナルヲ可トスル旨主張シタリ依テ議長ノ提案セル「ドラフト」ニ「ストローン」多少ノ修正ヲ加ヘタル往電開會第三四八号ノ通りノ「コンミニケ」ヲ發表スルコトトシテ散會シタリ

七六九 七月五日 幣原外務大臣ヨリ  
在米國松平大使宛(電報)

関税會議休会ニ至ルマデノ經過通報ノ件

別電 同日幣原外務大臣宛在米國松平大使宛電報開會  
第一四〇号  
日本全權發言要旨

合第一三九号

関税會議ハ三日列國代表會合ノ結果大体我方希望ノ通一先ツ休会トナリタルカ往電合第一二九号以後ノ會議ノ經過大体左ノ通

一、一日英國全權ハ今日ノ如ク支那側委員ノ参加セサル会合ニ於テ二分五厘案ニ付協議ヲ繼續スルモ何等實際の効果アリト認メラレサルニ付右協議ハ此儘トシ今後支那政

(イ)ニ対シテハ我方ヲ除ク外各國共之ヲ肯定シ又(ロ)ニ対シテハ英國全權ハ何等「コンミット」スルヲ得スト述ヘタルカ仏國全權ハ今ヨリ「コンミット」シ難キモ日本側修正ニハ全然反対ニハ非スト述ヘ他ノ各國全權モ亦大体仏國側同様ノ趣旨ヲ以テ回答シ米國全權モ會議ノ進捗ヲ計ル為日本側修正ヲ容レテ討議ノ基礎トナスコトニ異議ナキ旨ヲ明言セリ

茲ニ於テ英國全權ハ二分五厘案ニ付各國ノ意見一致セサルハ些細ナル一二点ニ過キササルヲ以テ此際ハ寧ロ支那側ノ意向ヲ聞クコトトスヘシト述ヘ仏國公使モ之ニ賛同シ支那側ノ参加ヲ待ツヘキコトヲ述ヘタルニ付仏國全權ノ提議ニ依リ支那側ニ対スル共同宣言案ヲ作成スルコトトナリタルカ米國側ニ於テハ此際何等發表スル所ナク休暇ヲ取リタキモノハ隨時休ムコトトシ度キ意向ナリシモ我方ニ於テハ再開ノ期日ヲ定メテ會議ノ続行ノ趣旨ヲ一層明白ニシタル宣言ヲ發セムコトヲ主張シタルニ各國共宣言ハ可成簡單ナルコト肝要ナリトシタル為結局會議再開ノ期日ヲ明記セスシテ別電合第一四二号ノ通「コンミニケ」ヲ發表スルコトトシ散會セリ

府成立シタル上支那側ノ二分五厘案作成提出ヲ待テ之ヲ審議シ其際更ニ一般的條約ノ討議ヲ続クルモ差支ナキ旨ノ訓令ニ接シタル結果列國代表會合ヲ開催セリ

二、同會合ニ於テ先ツ我方全權ヨリ大体別電合第一四〇号ノ通陳述シ(修正條項中保障方法トシテノ徵收中止ノ点ハ特ニ言及ヲ避ケタリ)次テ英國全權ヨリ別電合第一四一<sup>(省略)</sup>号ノ「ステートメント」ヲ朗読セル処米國全權ハ右二個ノ提案殊ニ英國案ハ畢竟會議ヲ行詰ラシムルモノニ外ナラストテ深ク失望ノ意ヲ表シタルニ英國全權ハ英國案ハ支那政府成立セハ何時ニテモ會議ヲ続行セムトスルモノナルヲ以テ會議ヲ行詰ラシムルモノト云フヘカラストテ前記「ステートメント」後段ヲ引照シ応酬スル所アリタルカ結局米國全權ハ議長(和蘭全權)ニ対シ此際事態ヲ明瞭ニシ置キ度キ趣旨ニテ左ノ二点ニ付各國全權ノ意向ヲ質サムコトヲ求メタリ

(イ)各國全權ハ支那政府成立ト同時ニ五月十五日ノ二分五厘共同電稟案ヲ基礎トシテ討議ヲ再開スルノ意向ナリヤ  
(ロ)各國全權ハ沿岸貿易税及抵代税ニ関スル日本側修正ヲ參酌シタル協定案ヲ基礎トシテ會議再開ノ用意アリヤ

三、右會議ニ於テ他國特ニ英米間ハ互ニ協調ノ円滑ヲ欠クモノアリタルニ反シ我方ニ於テハ右兩國トモ極メテ円滑ニ終始スルヲ得タル次第ナル処英國全權ハ會議後前記同國「ステートメント」中末段二項ノ趣旨ヲ公表シタリ  
別電ト共ニ英ニ転電シ英ヲシテ仏、露ニ転電シ独、伊、白、蘭、西、瑞典ニ暗送セシメラレ度シ

(別電)

七月五日幣原外務大臣宛在米國松平大使宛電報開會第一四〇号  
日本全權發言要旨

合第一四〇号

日本全權ハ左記趣旨ノ訓令ニ接シタリ

一、日本政府ハ華府會議以後ノ狀勢殊ニ本會議劈頭以來認めラレタル方針ニ鑑ミ二分五厘付加税問題ハ暫行差等税、債務整理乃至自主權回復ノ諸問題ト共ニ不可分ノ一體ヲナスヘキモノト思考スルモノナルヲ以テ右二分五厘案決定後一般的條約ニ関スル諸問題ノ解決ヲ為ササル方針ニ対シテハ反対ノ意向ヲ有ス

二、然レトモ二分五厘案急速決定ハ他ノ各國全權ノ明ニ希望スル所ナルニ鑑ミ日本政府ハ協調互讓ノ精神ニ基キ右

六 北京關稅特別會議關係 七七〇

案中抵代稅及沿岸貿易稅ニ関スル條項ヲ削除シ二分五厘付加稅增收中政費以外ノ支途割當ハ後日一般の條約ト共ニ其一部トシテ審議スルコトスル條件ノ下ニ前記二分五厘案ヲ承認セムトスルモノナリ

七七〇 七月八日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ  
幣原外務大臣宛

關稅會議停止ニ関スル新聞論調報告ノ件

開會第二七〇号 (七月十五日接受)

大正十五年七月八日

關稅特別會議帝國代表 日置 益

同 芳沢 謙吉 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

關稅會議停止ニ関スル新聞論調報告ノ件

七月三日共同「コムミュニケ」ノ發表セラルルヤ翌四日ハ恰モ馬廠義起(革命)記念日ニシテ且日曜日ニ當レルヲ以テ支那新聞ハ殆ト休刊シタル為右「コムミュニケ」ハ一二新聞ヲ除キ五日ニ至リ始メテ掲載セラレタル次第ニシテ同日以後ノ当地各新聞ハ順天時報ヲ除キ殆ト社論ヲ以テ之ヲ論評スルモノナク唯僅ニ一般記事欄ニ前記共同「コムミュ

付ス

(別紙)

一、會議停止ノ原因

六月十日全權會議ノ席上ニ於テ日、米ハ英國代表ノ會議停止ノ提案ニ對シ反對シタルニモ不拘今回遂ニ從前ノ主張ヲ變更シテ英國ニ追隨シ會議停止ニ贊成スルニ至リタル理由ハ其ノ原因甚タ複雑ナルモ要スルニ左ノ二点ニ歸着ス

第一、會議關係各國ハ何レモ吳、張入京ノ後直チニ正式政府ノ成立スヘキコトヲ期待シ會議ヲ再開行センカ為各國ノ意見ヲ纏メツツアリタルカ遂ニ予期ニ反シテ鞏固ナル政府ノ出現ハ予測シ難キ狀況ニ陥リ又仮令内閣成立セリトスルモ果シテ能ク責任ヲ以テ各國トノ交渉ヲ繼續シ得ルヤ否ヤ疑アリ依ツテ茲ニ會議ノ停止ヲ直截ニ宣言シ各國カ能力アル政府樹立セラレタリト認ムルニ至レルトキ再ヒ事情ヲ斟酌シテ會議ヲ再開スヘキヤ否ヤヲ決スヘシト為セルコト

第二、各國ハ現在支那ニハ正式政府無シト雖モ實際勢力ヲ有スル吳、張ノ兩巨頭ハ必ス關稅會議ニ對シ何等カ

六 北京關稅特別會議關係 七七〇

ニケ」ヲ掲ケタル後此次ノ宣言ノ由来ヲ述フルニ先チ英國代表ハ亦別ニ一ノ單獨聲明ヲ為セルカ之ヲ載録セサルヘカラス元來本件ハ主動英國ニ在リ故ニ英國ハ支那人民攻撃ノ矢面ニ立ツコトヲ避ケンカ為粉飾セサルヲ得サルナリトテ英國公使館ノ聲明ヲ掲ケ次テ佐分利局長ノ電通記者ニ對スル談話ヲ掲ケ要スルニ是等ハ關稅會議力決シテ停止セス又各國ノ意見ヲ支那政府ニ強制スルモノニ非サルコトヲ弁明スルニ努メ居ルモ其ノ内情ハ大ニ之ト趣ヲ異ニスルコト六月十日ノ全權會議ニ於テハ英國側ノ會議打切提議ニ對シ日米ハ極力之ニ反對シタルカ六月三十日ノ會議ニ於テ英國ヨリ更ニ同様ノ提議アリ各國代表ハ事態重大ト認メ本國政府ニ請訓スルコトトナリタルカ七月三日ニ至リ突如前記ノ如キ態度ニ出ツルニ至リタルハ其ノ原因ナカルヘカラスト別紙ノ如キ記事ヲ掲ケ居レリ

要スルニ關稅會議ノ無期延期ハ中央政局カ今日ノ如キ狀態ニテハ已ムヲ得スト諦メ居ルモノノ如ク百數十萬元ノ會議費ハ遂ニ空費セラレテ一モ得ル所ナシト歎スルモノスラアル有様ナリ

尚御參考迄北京「リーダー」、晨報、順天時報各切抜一部添

ノ意思ヲ表示スル処アルヘシト思考シ居タルカ兩巨頭

トモ遂ニ其ノコト無カリシ為各國代表ハ非常ニ失望シ

關稅會議ニ對スル支那側ノ意向ハ遂ニ窺知スルコト能

ハス其ノ前途五里霧中ニ陥レリト為シ茲ニ断然英國ト

一致ノ行動ヲトルニ至リタルモノナリ

右ノ外更ニ支那代表中王正廷、黃郛ハ政局ノ變更ニ依リ或ハ上海ニ歸リ或ハ天津ニ赴キ蔡廷幹ハ事實上已ニ辭職ニ均シキ狀態ニアリ殘ルハ顏惠慶一人ノミナルモ内閣ノ紛糾未タ納マラサルニ付又會議ノ問題ニ触ルルコトヲ欲セス支那何レノ方面ヲ見ルモ各國ト商議スヘキ人物無キコト

二、會議停止共同宣言ノ批評

次ニ各國共同宣言ヲ見ルニ關稅會議ハ完全ニ停止スルモノニアラスシテ尚再開繼續ノ希望有ルカ如ク見ユルモ其實決シテ近キ將來ニ於テ再開スルモノニアラス蓋シ將來開會ノ可否ハ第一各國政府ノ認可ヲ經サルヘカラス第二各國公使カ支那政府ノ正式ニシテ鞏固有力ナルモノナルコトヲ認定スルコトヲ要ス

以上二点ハ手續其ノ他ノ点ニ於テ極メテ繁雜且困難ナル

処況シヤ此間尚一大外交戦略ノ作用アルニ於テオヤ即チ各国ハ已ニ関税會議討論ノ範圍ヲ華府條約所定ノ付加税率ヲ超ユヘカラサルコトヲ議決シタルカ已ニ各国ハ會議当初ニ於テ自主權ノ許容ヲ宣言スル処アリテ自主權問題ノ討論ヲ拒絶スル能ハサル地位ニアリ又過渡期ノ弁法モ華府條約ノ規定以上ニ超過セサルヲ得サルニ至レリ之各国ノ欲セサル処ナルヲ以テ目下ノ政局紛糾ヲ口実トシテ會議停止ヲ宣言シタリ若シ支那側ニ於テ會議再開ヲ欲スルトキハ各国ハ種々口実ヲ設ケテ之ヲ遷延セシメ事実上必ス支那政府ノ意見ヲ徵シ然ル後會議召集ニ對スル応否ヲ決スヘク結局支那ヲシテ華府條約ノ拘束ヲ受ケシムルモノナリ而モ右ハ各国必スシモ會議ノ席上ニ於テ力爭スルノ必要無ク秘密手段ヲ用ヒテ各国専門委員會ノ建議スル処及各国全權代表會ノ議決スル処ヲ貫徹シ得ヘク責任ハ之ヲ支那側ニ轉嫁スルコトヲ得是レ停會宣言ノ魂胆ナリ

## 三、結論

各国代表或ハ帰国シ或ハ避暑ニ赴キ而シテ支那ノ政府ハ未タ成立セス責任ヲ負フヘキ人無シ只自然ノ成リ行ニ委

ンミニケ」ハ表面関會ノ休止若ハ停止ヲ明言セサレトモ右ハ要スルニ打切りニ外ナラス其内幕ヲ言ヘハ終始會議ノ破壊ヲ画策セル英國外交ノ成功ニ外ナラストスルモ會議打切りニ反對スル日、米ヲモ動カシテ英國ニ追隨セシメタルハ呉張會見ノ結果依然トシテ政局ノ收拾ヲ見ス前途尚見据着カサル為メニシテ其實ハ寧ロ支那自身ニアリトスルノ記事等ヲ掲ケタルト六日ノ晨報カ社説ニ於テ略ホ同様ノ論旨ニ於テ杜内閣ニ對シ此際速ニ支那側代表ヲ任命シ関會ノ統行ヲ計ルヘシトノ比較的眞面目ナル論評ヲナセル外（委細郵報スミ）何等注目スヘキ記事論說ヲ掲クルモノナシ

(二)他方右共同「コンミニケ」カ支那政府ニ對シ多少ノ刺戟ヲ与ヘ六日閣議開催ト共ニ蔡廷幹ノ外交總長等ノ任命ヲ見タル次第ハ芳沢往電第四三九号所報ノ通りニシテ支那側ニ於テハ茲一週内ニ支那側代表ノ顔触レヲ揃ヘル旨言振ラシ居ルモ愈々関會再開ノ提議ヲ為スハ尚相当経緯ヲ免レサル可シト観測セラレツツ有リ是等ニ對スル新聞紙ノ興味モ支那内政問題特ニ戰事ノ推移ノ為ニ次第ニ減少シツツ有ルモノノ如シ

スルノミ國計民生ニ關係アル関税會議ハ國民ノ努力ニ依リ始メテ開會スルヲ得タルモ遂ニ斯ノ如キ結果ト成レリ亦歎クヘシ

七七二 七月十日

在北京関税特別會議帝國代表ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

## 関税會議中止ニ関スル中国側ノ反響報告ノ件

開會第三五八号

（七月十一日接受）

(一)支那中央政局ハ軍事ノ結末ヲ見サル限リ到底決定的解決ハ望ミ難ク仮令軍事問題一段落ヲ告グル事アリトスルモ軍閥各利害ヲ異ニシ法律問題地盤問題乃至軍閥各自ノ内部統制問題等ニ付幾多ノ暗礁アリ政局ノ前途容易ニ逆睹シ難キ次第ハ芳沢發累次ノ往電ニ依リ御承知ノ通ナル所政況斯ノ如キ次第ナルヲ以テ関税會議中止ニ對シテ支那各実力派ノ見ル所必スシモ一致セス況ヤ目下反動勢力ノ擡頭ト共ニ失意ノ地位ニアル民党側ハ夙ニ関税會議打ち切りヲ希望シ居ル關係アリ関會往電第三四八号共同「コンミニケ」ニ對スル支那側ノ反響モ左シタル事ナカルヘキハ予想ニ難カラサリシ所ナルカ果シテ当地新聞ハ右公表文發表直後公表文及英國側聲明等ヲ記載シ共同「コ

(三)茲ニ特ニ注意ヲ要スルハ前記ノ通り支那新聞カ割合ニ冷静ナルニ不拘我國言論界カ却テ種々ノ論議ヲ為シ近來殊ニ會議破壞ノ責任カ英國ニアルヲ高調スルモノ多ク是等ノ論議ハ当地新聞ニ轉載セラレ却テ支那側ヲ刺戟シツツ有ル有様ニシテ殊ニ当地外人ノ感情ヲ刺戟シ噂ノ種ト成リツツ有リ右ニ對シ英國人ハ特ニ感情ヲ害シ「京津タイムス」ノ如キハ盛ニ日本攻撃ヲ開始スルニ至リタル次第ニシテ今後モ折ニ触レ益々毒筆ヲ振フ事ナル可シ右「京津タイムス」ノ論調ノ如キハ目下ノ如キ排英氣分漲リ居ル際左シタル反響無カル可シト思考スルモ我方力余リニ論議ヲ試ムルハ却テ支那新聞及外国新聞等ニ無用ノ刺戟ヲ与フル可キヤニ思考ス

七七二 七月十二日

在北京関税特別會議帝國代表ヨリ  
幣原外務大臣宛

## 「先ツ関税會議ノ目的ヲ貫徹スヘシ」ト題ス

ル晨報社説報告ノ件

開會第二七一号

（七月二十二日接受）

大正十五年七月十二日

関税特別會議帝國代表 日置 益（印）

同

芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

関税會議停止ニ関スル晨報論說報告ノ件

関税會議停止ニ関スル新聞論調ニ付テハ本月八日付関会第二七〇号拙信ヲ以テ報告致シ置キタルカ更ニ本月八日ノ晨報ハ「先ツ関税會議ノ目的ヲ貫徹スヘシ」ト題スル大要左記ノ如キ社説(記者淵泉)ヲ掲ケ居レリ何等御参考迄新聞切抜添付ノ上報告ス

記

一、共同宣言ヲ如何ニ解釈スヘキカ

吾人カ杜内閣ニ対シ希望スル積極的行為トハ第一ニ須ク全力ヲ以テ関税會議ノ目的ヲ貫徹スヘキコト之ナリトテ三日ノ各国全權共同宣言ハ三種ノ解釈ヲ為シ得ヘシ即チ(一)暑期ニ依リ暫ク停会シテ初秋ニ至リ開会続行ス(二)正式政府尚未タ成立セサルヲ以テ會議ヲ進行シ得サルヲ以テ我國カ代表ヲ派遣スルヲ俟テ開会ス(三)宣言書表面ノ理由ハ純然タル口実ニ過キス其内幕ヲ考フレハ所謂停会トハ即チ閉会ノ意ニシテ仮令正式政府成立シ暑期經過シタリトスルモ各国又必スシモ開会続行スルモノニアラス即チ

ヘシトテ慎重論優勢ヲ占メ英ハ其計略ノ実現スル能ハサルコトヲ知レリ

依ツテ英國ハ各国専門委員會組織ノ議ヲ起シ各国専門委員ニ運動シテ一致シテ今次ノ関税會議ハ華府条約付加税ノ限度ヲ超過スル能ハサルコトヲ議決シ専門委員議決ノ後各国全權代表會議ニ建議シ之ニ拠リテ該會議ハ最後ノ決定ヲ為セリ

英國ハ関税會議破壊ノ計画成ラス依ツテ軫シテ各国内部ノ意見統一ヲ計画セルナリ英國ノ腹ハ各国已ニ一致ノ決定アレハ即將來開会ノ時支那ハ唯全体ニ対シ賛否ノ表示ヲ為スノミニテ再ヒ限定以外ノ討論ヲ為ス能ハス之英國第二段ノ戰略ニシテ已ニ能ク成功シタリト雖モ然モ終始其ノ第一段戰略タル會議破壊ノ陰謀ヲ忘レス四月中旬國民軍撤退後英國ハ即チ機ニ乘シテ其ノ予定計画ヲ實現セムト欲シタルモ當時ハ各国尚頗ル吳、張兩人ヲ信頼シ彼等兩人已ニ合作シタル以上久カラスシテ正式政府成立スヘシト思ヒ未タ遽カニ英國ノ主張ニ賛同セス其ノ後約一ヶ月ニシテ漸ク顔開ノ復職アリ然レトモ形アツテ実無ク事涉ラサル為各國漸ク失望シ始メタリソレヨリ又約一ヶ

開会スルトキハ必ス先ツ条件ヲ提出シ然ル後始メテ商議セントスルモノナリ

各国ノ共同宣言ハ措辞曖昧ニシテ何レノ解釈ニ從フヘキヤ人ヲシテ迷ハシムルモノアルモ共同宣言發表ニ至レル經過ヲ詳細觀察スルトキハ(三)ノ意義ヲ含ムコト極メテ明瞭ナリトス

二、共同宣言發表ニ至ル經過

今次共同宣言發表ノ主動者ハ英國ナルコト吾人ノ夙ニ熟知スル処ニシテ英國ハ開会当初環境ノ支配ヲ受ケ相当ノ周旋ヲ為サルヲ得サリシカ開会后ハ陰ニ種々ノ手段ヲ以テ會議ノ遷延ヲ企図セリ英國ハ支那ノ政局ニ變化有ルコトヲ予見シ若シ其議決時期ヲ延長スルコトヲ得ハ政変ノ際ニ乘シ一挙ニシテ會議ヲ根本ヨリ推翻シ然モ其實ハ支那側ニ軫嫁シテ支那政府ハ會議進行ノ力無シト云ハントス英國ノ外交ハ実ニ天下ノ陰險狡猾ヲ極ム

三月京兆ノ地ニ戰事再ヒ起ルヤ當時支那側代表黃郛、王正廷ハ相前後シテ離職出京シ事実上會議ヲ進行セシムルコト能ハス英代表ハ即會議停止ノ意ヲ漏シタルモ各国代表ハ事重大ニシテ一度慎マサレハ支那人ノ反感ヲ惹起ス

月余ヲ經過シテ杜閣、顔閣ニ代リテ生レタルカ虚名ヲ擁スルノミニテ顔閣ト何等ノ差異ナシ各国ハ復吳張入京後負責ノ正式内閣成立スヘキコトヲ期待シタルモ其ノ入京後數日ヲ經過スルモ遂ニ實現セス茲ニ於テ英國復前議ヲ持出シ停会ヲ要求シ各国モ遂ニ亦之ニ付和シテ三日ノ宣言ト成リタルナリ

三、支那側ニモ責任アリ

今次ノ共同宣言ハ英國陰謀外交ノ成功ナリト雖モ支那側ニ於テモ自ラ取ルヘキ道無キニ非サリシナリ例ヘハ吳張兩軍北京占領ノ後正式政府ヲ促成セシムレハ英國ノ乘スヘキ機會無カリシナリ又一歩ヲ退イテ言ヘハ顔閣辭職ノ時之ヲ繼クニ負責ノ内閣ヲ以テスレハ事尚ホ為スヘキナリシナリ再ヒ一歩ヲ退イテ言ヘハ吳張入京ノ時正式總理ヲ即日發表スルコトヲ得ハ三日ノ宣言モ發シ得サリシナリ即政客官僚ノ争ハ遂ニ會議ヲ停頓セシメ今日ノ局面ヲ醸成シタリ故ニ吾人思フニ此ノ責任ハ英國ノ狡猾陰謀外交ヨリモ寧ロ支那側ノ粗忽ニアリ

四、杜内閣ニ対スル希望

過去ノ事ハ追フヘカラス吾人ハ今日ノ計ヲ為スノ必要ア

リ然ラハ如何ニシテ之ヲ補救スヘキヤ今日ノ杜内閣ハ閣員モ已ニ補充セラレ完全ニ成立シタリ今ヤ米國代表及日本代表モ正ニ帰國セントシツアリ若シ彼等ニシテ帰國センカ関税會議ノ再開続行ハ果シテ何時ノコトナルヤ知ルヘカラス関税會議ノ前途ヲ挽回シ得ルヤ否ヤ目下実ニ緊要ノ時機ナリトス

吾人思フニ政府ハ関税會議ニ対シ方針ト勇氣トヲ有セサルヘカラス方針有リテ勇氣無クンハ結果必ス貫徹シ難ク勇氣アツテ方針無クンハ進行必ス岐路ニ入ル今之カ為メニ計レハ須ク左ノ二段ノ弁法ニ依ラサルヘカラス

(1) 各国代表ニ対シ正式政府已ニ成立シ支那代表モ亦已ニ補充セラレタルコトヲ通告シテ各国ハ三日ノ共同宣言ニ拠リ會議ヲ再開続行セムコトヲ請求シ若シ各国カ夏期ノ休息ヲ必要ナリト為サハ明白ニ休息期間ヲ確定セムコトヲ請ヒ各国カ言辞ヲ曖昧ニシテ確答ヲ肯セサルニ於テハ即チ警告ヲ發シテ支那政府ハ前ニ適當ナル方法ヲ取ルヘキ旨及若シ又各国カ或種ノ条件ヲ提出シテ開會ノ条件ト為サハ之ヲ拒絕シテ開會前ニ在リテハ討論スル能ハサル旨ヲ伝フヘシ

否ヤヲ見ルヘキ最大ノ試金石ナリ杜閣ソレ勉メヨ

七七三 七月十六日 在北京関税特別會議帝國代表ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

中国側ヨリ全權會議開催ノ提案アリタル旨報

告ノ件

関会第三六〇号

(七月十八日接受)

七月十六日外交部陳秘書總長ノ命ニ依リ芳沢ヲ來訪シ支那側ニ於テ今回會議ノ委員ヲ任命シタルニ付テハ各国全權ト支那全權ト会合シ差当リ暑中休暇ヲ行フ事及秋涼ノ頃例ヘハ九月又ハ十月ニ至リ更ニ會議ヲ繼續スルコトヲ取極メ置キタシ然スレハ目下外間ニ流布セラレツアル謠言例ヘハ某々國ハ會議ヲ決裂セシメントストカ又ハ會議ハ全然中止セラレタリトカ云フカ如キ風聞ヲ一掃シ得ヘシト思考ス就テハ一応各国全權ノ意向ヲ承知セル上ニテ約一週間ノ予告ヲ以テ全權會議ヲ開催シタルニ付芳沢ヨリ右全權會議トハ正式会合ナル可キヤト諮問シタルニ陳秘書ハ秋ニ入り會議再開ノ為ノ打合ニ過キス從テ別段會議自体ノ事務ヲ処理スル次第ニハアラサルモ正式會議ハ正式會議ナリト答ヘタルヲ以テ芳沢ハ本月三日ノ声明ニモ明カナル通り

(2) 若シ各国終始開會ヲ拒絕スルトキハ第二ノ方法ニ依ルヘシ即チ世界ニ向ツテ各国ハ毫モ誠意無キニヨリ支那ハ已ムヲ得ス自動的ニ関税自主ヲ宣言スヘキ旨ヲ宣言シ期日ヲ定メテ國定稅率ヲ實行シ其ノ實施前ニ於テ支那ト互惠條約ヲ締結セムコトヲ希望スル國ニ對シテハ支那政府モ其ノ交渉ニ応スヘシ右ハ即チ全体締約ヲ單獨締約ニ變更スルモノニシテ取ルモ与フルモ伸縮ノ余地アリ且ツ得ル所ハ必ス會議ノ席上ニ於テ討論スル所ニ倍加スヘシ則チ今日各国ノ共同宣言ハ支那ニトリテ却ツテ幸福トナルナリ去年開會当初吾人ハ自主權問題ヲ討論スルニ際シ若シ明確ニ之ヲ決定セサレハ一面停會ヲ宣言シ一面自主ヲ宣佈實行スヘキコトヲ力説シタルカ当局者ハ急激手段ヲ採用スルコトヲ欲セス荏苒時日ヲ經過シテ遂ニ各国側ヨリ停會ヲ宣言スルコトト成レリ故ニ支那ハ時ニ乘シテ一步ヲ進ムルノ合理的的主張ヲ為スヘシ吾人ハ停會ノ宣言ヲ以テ支那失敗ノ結果ト認ムルモ可ナリ成功ノ機會ト認ムルモ亦可ナリ而シテ成功ト為スヤ失敗ト為スヤハ政府今後ノ活動如何ニ依ル処ニシテ衆目ノ環視スル処又吳張合作ノ政府カ「売國政府」或ハ「赤化政府」ト異ル処アリヤ

各国トシテハ支那全權カ商議ヲ繼續シ得ル立場ニ至ラハ何時ニテモ再開ニ応スルニ相違ナキモ正式會議トアレハ他ノ全權トモ種々打合ヲ要スト思ハルト輕ク答ヘ置キタルカ其ノ節陳秘書ハ右ハ政府承認問題ニ關スル為ナリヤト尋ネタルヲ以テ芳沢ハ然リト答ヘ置ケリ右不取敢

七七四 七月十六日 在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛

新聞紙掲載ノ関税會議ニ關スル國民軍代表ノ

外交團宛書翰訳報ノ件

公第八四四号 (七月二十八日接受)

大正十五年七月十六日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

関税會議ニ對スル國民軍ノ態度報告ノ件

本月十四日「ピー、テイー、タイムス」ハ「國民軍ト関税會議」ト題シ張家口交渉署員ニシテ國民軍代表タル包世傑ノ投書ニ係ル同氏發外交團宛本月十二日付書翰ヲ掲載シ居レリ何等御參考迄新聞切抜添付ノ上別紙ノ通訊報ス

尙当地新聞ニシテ之ヲ掲載シタルモノ無キハ官憲ノ忌諱ヲ恐レタルカ爲ナルヘシ

(別紙)

張之江、李鳴鐘、鹿鍾麟、宋哲元及劉郁芬等ノ命ニ依リ支那人並外人ニトリテ共ニ重要ナル左記事項ニ対シ外交團ノ注意ヲ喚起セント欲ス

(一) 国民軍ハ北京撤退以來屢々支那ノ名義ヲ用フル北京政府ノ行為ハ總テ之ヲ認メサル旨宣言セリ吳、張ハ目下關稅會議ニ関シ種々陰謀ヲ廻ラシツアルニヨリ茲ニ更ニ前記宣言ニ関シ注意ヲ喚起スルノ要アリ

(二) 關稅會議ニシテ列国カ支那ヲ援助セムトスルモノナラハ平和回復シ民意ニ基ク中央政府ノ樹立ヲ俟ツテ開クヘシ不法ニシテ好戰的北京政府ト會議ヲ開クハ關稅增收ニ依リ内乱ヲ長引カシムルコトナルヘシ

(三) 吾人ハ内乱ニ依リ同胞ヲ搾取スルヲ唯一ノ目的トセル吳、張ノ私的機關ニ過キサル北京政府ニ対シ列国政府並ニ人民カ財政的援助ヲ与ヘサランコトヲ希望ス

吾人カ特ニ此ノ点ニ付注意ヲ喚起セムトスルハ外国銀行カ支那銀行ニ対シ普通ノ取引ニ於テ多額ノ金ヲ融通スル

ハ支那モ今回新ニ全權代表ヲ任命シ各国側ニ通知シタル次第ナレハ一旦會議ヲ開キ各国全權ノ顔合セヲ行ヒ會議議長及各委員會ノ委員長及必要ノ場合ニハ會議書記長ノ改選ヲモ行ナヒ會議ノ編成變ヘヲ済マシ夫ヨリ秋季迄期日ヲ定メテ延期スルコトヲ議決シテ午餐會ニ移リテ散會シタキ意向ナルコトヲ確メタリ之ニ対シ芳沢ハ右ノ如キ正式ノ會議ハ政府ノ承認問題ヲ惹起シ各国ノ間ニ議ヲ纏ムルコト困難ニ付此点ニ付注意ヲ要スル旨ヲ述ヘ置キタルカ右支那側申出ニ付テハ何レ近々外国側ノ會合ヲモ要シ各国ノ採ルヘキ態度ヲ評議スルコトナルヘキ所其際我方トシテハ前記蔡談話ノ如キ正式會議ニハ元ヨリ賛同シ得サルモ大体貴電開會第一一五号共同声明案ニ関スル御電訓ノ方針ニ依リ承認問題ニハ触レス適當ノ方法ニ依リ各国全權ノ意向トシテ十月一日又ハ各国ノ一致シ得ル一定ノ期日ニ於テ會議再開ニ異議ナキコトヲ発表スルコトトシ尙支那側ニ於テ強ヒテ會議ヲ希望スルニ於テハ極メテ非公式ノ會合ヲ催シ前記ノ趣旨ノコトヲ決定スヘキ腹案ニテ折衝シタキ所存ナリ御意見アラハ折返ヘシ御回電ヲ請フ

コトアラハ支那銀行ハ強迫セラレテ之ヲ吳張ニ貸与シ延テ内乱助長ノ結果ト成ルコト及支那ニ於テ高位ニ在ル外人カ北京政府ヲシテ鹽稅剩餘及關稅收入ヲ内乱費用トシテ使用セシムルコトアルヲ恐ルルカ故ナリ云々

七七五 七月十八日(着) 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

日置大使帰朝ニ関スル件

開會第三六一号

日置大使十七日發滿鮮經由帰朝ノ途ニ就ケリ二十四、五日東京着ノ予定

七七六 七月十八日 在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

全權會議開催ニ関スル中国側ノ提案ニツキ対

処方針請訓ノ件

開會第三六二号

往電開會第三六〇号ニ関シ

其後各国代表側ノ意向ヲ探ルト共ニ他方支那側提案ノ真意ヲ確ムル爲メ十八日芳沢ハ蔡外交總長ヲ往訪シタル際蔡

七七七 七月十九日 幣原外務大臣ヨリ 在北京關稅特別會議帝國代表宛(電報)

全權會議開催ニ関スル中国側ノ提案ニツキ対

処方針回訓ノ件

開會第一三〇号

貴電開會第三六二号ニ関シ

一、貴見ノ通蔡外交總長ノ正式會議開催ニ関スル提案ハ之ニ同意シ會議ヲ開催スルコト自体直ニ新政府ノ承認トナルヘク或ハ又右提案ニ対シ別ニ先ツ外交團ニ於テ承認問題ヲ審議スルコトトナルモ何レニシテモ承認問題ノ議起ル場合ニハ在支公使宛往電第一一九号ノ(一)ノ方針ニ依リ措置セラルルコトト致度ク列国中ニハ本件ニ関シ或ハ強硬論ヲ主張スルモノモアルヘシト察セラルル処若シ他ノ数国ニ於テ一定条件ノ下ニ新政府承認ニ異議ナキ形勢ナルニ於テハ貴官ハ段政府承認ノ場合ト同様ノ条件ニテ右承認論ヲ支持セラレ差支ナシ

二、將又承認問題ハ外交團ニ於テ審議スヘキ筋合ニシテ關稅會議代表トシテハ直接之ニ關係スヘキ次第ニアラサル点ニ顧ミ貴電(二)ノ如ク此際同問題ニハ触レスシテ便宜話

合ヲ付ケ得ル場合ニハ我方共同声明案(往電関会第一一五号)ノ趣旨ハ休会中ニ正式政府ノ承認セラレサル場合ニモ一定期日(例ヘハ十月一日)ヲ期シ従来通り非公式会合ヲ再開継続シ支那側ヲモ之ニ参加セシムヘキコトヲ予想セルモノナルニ付右ノ点ヲモ御含ノ上大体貴見ノ通措置セラレ差支ナシ

七七八 七月二十日 在北京関税特別会議帝國代表ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

全権會議再開ノ見通シ並びニ芳沢公使ノ帰朝

二関スル件

関会第三六四号

往電関会第三六二号ニ関シ

十九日芳沢首席公使ヲ往訪更ニ意見ヲ交換シタル所同公使ハ今朝外交部ヨリ會議開催ニ関スル各国側意向開示方督促シ来レル所自分ハ既ニ英、仏、(不明)、白等ノ公使又ハ代理者ヨリ夫々意見ヲ承知シ居タルヲ以テ右外交部督促ニ対シ此ノ際正式會議ノ開催ハ非常ニ困難ニ付中止スル方然ルヘク非公式會議ナラハ各国代表モ多分出席スヘシト答ヘタル旨語リタルニ付芳沢ハ往電関会第三六二号蔡外交総長ト

ニ接セリ

(別電)

七月二十日在北京関税特別会議帝國代表發幣原外務大臣宛電  
報関会第三六七号

蔡外交総長ヨリノ来簡

関会第三六七号

(七月二十一日接受)

Admiral Tsai Ting-Kan, in his capacity as Delegate Plenipotentiary to the special Conference on Chinese Customs tariff and his Chinese colleagues, will be much pleased to have an exchange of views with the foreign Delegates Plenipotentiary to the Conference concerning its future work and therefore has the honour to suggest to them to hold an informal meeting at Chu Jen Tang on Friday afternoon, July 23rd at 5 o'clock.

七八〇 七月二十二日 幣原外務大臣ヨリ  
在米國松平大使宛(電報)

全権會議開催ニ関スル中国側ノ申出ニツキ通

報ノ件

(欄外記入)  
合第一五〇号

六 北京関税特別會議関係 七八〇

会谈ノ次第ヲ語リタルニ首席公使ハ果シテ然ラハ支那側ノ意向ハ全ク正式會議ノ開催ニアル所右ハ素ヨリ不可能ナル旨述ヘ居タリ

右様ノ次第ニテ極メテ非公式ノ打合せ会ナラハ兎ニ角公式会合ノ開催ヲ見ル事不可能ナル事明白トナリ且首席公使ノ語ル所ニ依レハ目下避暑ニ出掛け居ル公使等ハ仮令打合せ会開催サルル事トナル場合ニモ多クハ代理者ヲ出スニ止メ自身ハ帰京スル事無カルヘシトノ事ナリ形勢右ノ通ニテ今後意外ノ發展ナキ限り芳沢出發ヲ見合ス必要ナク旁二十五日天津発二十七日大連發神戸ニ直航スル事ニ決定セリ

七七九 七月二十日 在北京関税特別会議帝國代表ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

全権會議開催ニ関スル蔡外交総長ヨリノ来簡

二関スル件

別電

同日在北京関税特別会議帝國代表發幣原外務大臣宛電報関会第三六七号  
右ニ関スル蔡外交総長ヨリノ来簡

関会第三六六号 (七月二十一日接受)

蔡廷幹ヨリ十九日付ヲ以テ別電関会第三六七号ノ通来(翰)

往電合第一三九号関税會議休会以後十六日ニ至リ蔡外交総長ヨリ芳沢全権ニ対シ同會議支那側委員任命セラレタルヲ以テ各国全権トノ間ニ正式会合ヲ開催シ差当リ暑中休暇ヲ行フコト及秋冷ノ候期日ヲ定メテ更ニ會議ヲ継続スルコトヲ取極メ置キ度旨非公式ニ申出タル趣ナルニ付本大臣ニ於テハ十九日會議代表宛大体左ノ通電訓スル所アリタリ  
一、蔡総長ノ提案ニ同意シ正式會議ヲ開催スルトキハ其自体直ニ新政府ノ承認トナルヘク或ハ右提案ニ対シ別ニ先ツ外交団ニ於テ承認問題ヲ審議スルコトトナルモ何レニシテモ承認問題ノ議起ル場合ニハ在支公使宛往電第一一九号ノ(一)(二)ノ方針ニ依リ措置セララルコトト致度ク列國中ニハ本件ニ関シ或ハ強硬論ヲ主張スルモノモアルヘシト察セラルル処若シ他ノ数國ニ於テ一定条件ノ下ニ新政府承認ニ異議ナキ形勢ナルニ於テハ段政府承認ノ場合ト同様ノ条件ニテ右承認論ヲ支持セラレ差支ナシ  
二、將又承認問題ハ外交団ニ於テ審議スヘキ筋合ニシテ関税會議代表トシテハ直接之ニ關係スヘキ次第ニアラサル点ニ顧ミ此際同問題ニハ触レスシテ便宜話合ヲ付ケ得ル場合ニハ我方共同声明案(貴官宛往電合第一二九号ノ(二))

参照)ノ趣旨ハ休会中ニ正式政府ノ承認セラレサル場合ニモ一定期日(例ヘハ十月一日)ヲ期シ従来通り非公式会合ヲ再開継続シ支那側ヲモ之ニ参加セシムヘキコトヲ予想セルモノナルニ付右ノ点ヲモ御含ノ上然ルヘク措置セラレ度シ

英ニ転電シ英ヲシテ仏露ニ転電シ独、伊、白、蘭、西、瑞典ニ暗送セシメラレ度シ

(欄外記入) 在支各総領事ヘ郵報済

七八一 七月二十四日

在北京關稅特別會議帝國代表ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

中国側提案ニヨル非公式會議ノ経過報告ノ件

別電

同日在北京關稅特別會議帝國代表幣原外務大臣宛電報開会第三六九号

非公式會議裏面ノ消息ニ関スル件

開会第三六八号

往電開会第三六六号ニ関シ

二十三日午後五時非公式會議開催(支那側蔡廷幹、顧維鈞、王寵惠、張英華、王蔭泰出席、米、白、伊、蘭、「デンマルク」各全權其他代理出席ス)

七月二十四日在北京關稅特別會議帝國代表幣原外務大臣宛  
電報開会第三六九号

非公式會議裏面ノ消息ニ関スル件

開会第三六九号

(七月二十五日接受)

往電開会第三六八号ニ関シ

非公式會議ニ先立チ二十三日午前佐分利ヲシテ「マクマレ」ヲ往訪シ米國側ノ態度ヲ質サシメタル処「マ」ハ支那ノ政情今日程不安定トナリタルコト無ク現在ノ政府ハ数日ノ命脈スラ疑ハシキヲ以テ此ノ際會議再開期日ヲ約スルカ如キハ困難ナル而已ナラス今日仮リニ之ヲ定ムルモ其ノ時ニ於ケル支那ノ政情モ全然予測シ難ク關係諸國トシテ行動ノ自由ヲ自ラ拘束スルコトヲ得サル旨内話シタルカ之ニ對シ佐分利ハ日本トシテハ曩ニ披露シタルカ如ク十月一日ニ再開ノ時日ヲ定メ置クコトニ對シテハ異議無ク又再開期日ニ至リ未タ政府承認セラレ居ラサレハ非公式ニ会合セハ可ナルヘシ何レニスルモ爾後ノ會議ニ於テ何事ヲモ決定セスシテ分レルコトモ出来サルヘシト述ヘタルモ「マ」ハ再開期日決定問題ハ満場一致ニ非サレハ確定セサルヘク米國トシテハ兎ニ角絶對ニ反対スル積リナルニ付決定スルヲ得サルヘシト語レリ

蔡總長ハ本會議非公式会合開催ニ当リ各国代表カ出席セラレタルコトヲ感謝スル旨ヲ述ヘ目下酷暑ノ折柄會議ヲ休会シ九月一日ニ再開スルコトト決定シタシト述ヘタルカ「マクマレ」ハ會議事務ヲ遂行スルニ足ルヘキ政府カ出来レハ再開スヘキハ当然ナルモ今日再開ノ期日ヲ確定スルハ適當ナラストテ反対シ英國(「タイチマン」)其他之ト同様ノ意見ヲ披瀝シ芳沢ハ日本代表ハ過日政府ノ訓令ニ基キ再開ノ期日ヲ定ムルヲ適當ト考ヘ居タリ但シ今必スシモ之ヲ固執スルモノニ非サル旨述ヘタリ

次イテ蔡ハ該期日ハ之ヲ確定スルコトヲ要セス一応ノ決定ヲ為シ後日変更スルコトモ可ナリト述ヘタルモ賛意ヲ表セス依テ和蘭代表ハ例ヘハ九月十五日頃ニ今日ノ会合同一ノ非公式會議ヲ開キ其ノ上ニテ正式會議再開期日ヲ決定スルコトトシテハ如何ト提議シ白、仏、西班牙之ニ同意シタルモ米國ハ寧ロ支那政府カ再開ヲ適當ト認ムルトキトスル方宜シカルヘシト述ヘ又英國モ頗ル不得要領ノ態度ヲ持シ結局何等意見ノ一致ヲ見ルコト無ク茶会ニ移リ散会セリ尚本件ニ関シ裏面ノ事情ハ別電開会第三六九号ノ通り

(別電)

斯テ會議ハ前記往電ノ通發展シタルカ會議中我方ハ一ノ調停案トシテ一定期日ヲ定メ其際非公式會議ヲ開キタル上會議ニ関シ如何ナル措置ヲ執ルヘキヤヲ決定スル事ノ案ニテ纏ムルモ然ルヘシト思料シ席上内々英國「タイチマン」ノ内意ヲ聴キタルニ同人ハ同意シタルモ「ストローン」ハ絶對ニ同意ヲ肯セス遂ニ何等ノ決定ナクシテ會議ヲ閉ツルノ已ナキニ至リタリ惟フニ米國側ハ曩ニ再開期日決定ニ關スル政府御訓令ノ趣旨ヲ内話シタル際期日決定ニハ強硬ニ反對シタルカ今日モ之ト同一ノ態度ヲ維持セルモノト想像セラル又他方和蘭公使ヨリ蔡廷幹ヘノ勸告ニ反シ会場ノ模様宛然正式會議ト何等変ル事ナク支那ハ結局当日ノ会合ヲ宣傳ニ利用セントスルモノナラントノ印象ヲ与ヘタルハ各国委員ノ感情ヲ刺戟シ反對ノ態度ヲ強カラシメタルノ一因ヲナシタルモノノ如シ

七八二 八月二日  
在広東森田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛

關稅會議再開ニ對スル広東政府ノ反對宣言記

報ノ件

公第三二三号

(八月十八日接受)

大正十五年八月二日

在広東 総領事 森田 寛蔵(印)  
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

関税会議再開ニ対スル広東政府ノ反対宣言訳報ノ件  
本件ニ関シテハ不取敢拙電第八一号ヲ以テ及御報告置キタルカ同宣言ノ要領左記ノ通り訳報ス

## 記

中国ノ関税ハ八十年來不平等条約ノ束縛ヲ受ケ税率ハ列国ノ協定ニ依リ税権ハ外人ノ手ニ握ラル其結果外貨侵入シ国内産業ハ遂ニ之ト競争スルコト能ハスシテ日ニ衰退シ輸入額ハ永久ニ輸出額ヲ超過シ且逐年増加シツツアリ物資ハ欠乏シ民生ハ凋弊シ関税自主不能ノ流毒ハ竟ニ此ノ極点ニ達セリ近年來中国人民カ帝國主義ノ侵略圧迫ヲ受クルコト甚シキニ從ヒ漸ク之ニ反抗セサル可ラサルヲ知り就中五・三十運動ノ強烈ニシテ普遍的ナリシヲ見ルニ及ヒ帝國主義者ハ漸ク單ニ武力ヲノミ恃ミテ之ヲ鎮圧スルコト能ハス別ニ緩和ノ法ヲ求メサルヲ得サルコトヲ悟リ昨年十月數年前華府會議ニ於テ決定セラレタル関税會議ヲ召集開会セリ然レ共時ノ北京政權者カ適々売国的段政府ナリシヲ為メ列強ハ此

ムルコト能ハス本政府ハ人民全体ノ利益ヲ保障スル為メ張吳ノ此ノ売国的行為ヲ絶對ニ承認スルコト能ハス希クハ全國人民速ニ起チテ之ニ反対シ且不平等条約廢止運動ノ為メニ益々努力シ本党ノ主張スル関税自主ヲ實現セシメヨ云々  
本信写送付先 在支公使、上海、汕頭

七八三 八月九日 在中国堀臨時代理公使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

## 外交総長ヨリ物価評価委員會ヲ組織ノ通告ヲ

## リタル件

第五〇三号

(八月十日接受)

八月六日付公文ヲ以テ外交総長ヨリ華府関税条約第四条ニ依レハ輸入税率ハ四年後再改訂ヲ行フコトナリ居リ遠カラス右期限ニ達スヘキ処支那政府ハ曩ニ関税會議第二委員會ニ於テ華府条約ノ趣旨ニ依リ税則章程修正ニ関スル提議ヲ提出シ関税自主前ノ過渡期ニ於ケル税則改正ノ基礎タラシメンコトヲ主張シタルモ右提議ハ未タ詳細ノ討議ヲ經ルニ至ラス依テ此ノ際積極の方法ニ依リ努メテ華府条約ノ精神ニ合致セシメ同時ニ税則改訂ニ対スル諸種ノ遅延ヲ避ケントスル目的ヲ以テ各種ノ機關ヲシテ上海ニ於テ物価編定

六 北京関税特別会議關係 七八三 七八四

ノ會議ニ藉リテ恩ヲ施サムトスルニ過キス段政府亦眞ニ人民ノ為ニ利益ヲ謀ルコト能ハサルモノト認メタルヲ以テ本党ハ其開会ノ当初宣言ヲ發シテ北京政府カ信賴スルニ足ラサルコトヲ明ニスルト共ニ同政府ヲシテ其ノ提出スル条件ヲ民意ニ背カシメサル様務メ同時ニ此ノ會議カ或ハ竜頭蛇尾ニ終ルコトアルヘキヲ明ニセリ今不幸ニシテ所言命中シ會議未タ終ラサルニ段氏ハ出走セリ繼テ吳張起リ政權ヲ握ルヤ各国代表ハ紛々トシテ出京シ此ノ機ニ乘シテ曩ニ議定シタル所ニ覆シ更メテ華府會議ニ於テ決定セラレタル二五付加税ノ増徴ノミヲ承認セムトシ吳張亦財政窮迫ノ為メ遂ニ各方ト接洽シテ関会ヲ再開シ自ラ讓歩シテ右付加税案ノミヲ解決シ此ノ付加税ヲ抵当トシテ鉅款ヲ起シ以テ其武力ヲ拡張シ革命ヲ抑圧セムト意圖セリ查スルニ二五付加税ノ実行ニ依ル毎年ノ增收ハ三千余万ニ過キス此ノ内一部ヲ軍費及無担保外債ノ償還費トシテ拘除セハ残余幾何モナク斷シテ裁釐ニヨル損失ヲ償ウニ足ラス故ニ二五付加税案ヲ承認セハ啻ニ全國各階級人民ノ要求スル関税自主ヲ永久ニ回復シ得サルノミナラス税率高ケレハ伸縮ノ自由ヲ失ヒテ徒ラニ人民ノ負担ヲ増スノミニシテ斷シテ産業保護ノ効ヲ収

委員會ヲ組織セシメ各種ノ資料ヲ基礎トシ卸売市価ヲ以テ算出ノ平均標準トシテ編定セシムルコトニ決定セリ就テハ事實上ノ便利ニ基キ上海駐在商務官又ハ領事館ニ於テ必要ニ応シ支那側委員ト折衝シ相互ニ意見交換ノ上今回ノ税則改訂ヲ出来得ル限り速ニ完成セシムル様當該官憲ニ伝達アリタキ旨照会シ来レリ(全文郵送ス)尚ホ七日付大總統指令ヲ以テ編定貨価委員會組織ノ件ヲ發布シ同日陳鑾(稅務署會弁代理)ヲ委員長ニ「ライファロ」ヲ副委員長ニ任命セリ

上海へ転電セリ

七八四 八月九日 在広東清水總領事代理ヨリ  
幣原外務大臣宛

## 関税會議反対示威運動ニ関スル件

公第三三三三三三

大正十五年八月九日

在広東 総領事代理 清水 亨(印)  
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

## 関税會議反対示威運動ニ関スル件

本件ニ関シテハ本日不取敢拙電第八七号ヲ以テ簡單ニ要領

八五一

及御報告置キタルカ尚ホ其詳細左記ノ通り追報申進ス

記

一、会場

中山大学（旧広東大学、本月一日ヨリ中山大学ト改称ス）運動場

一、参加者

国民党中央党部、省党部、市党部、国民革命軍各軍政治部、華全國總工會、省港罷工委員会、全省學生連合会、同農民協會、總商會等其他各界団体ヲ合シ団体數約二十此ノ人員總計約一万（尤モ支那紙ハ五百余団体、十五万余人ト報ス）

一、大会ノ状況

参集シタル各種団体ハ正午十二時ヨリ先ツ農工、商學、軍警ノ三界ニ分集シ各別ニ夫々代表者ヨリ開会ヲ宣シ孫文ノ遺囑ヲ朗読シ次テ国民党初メ各団体代表者ノ演說ニ移リ最後ニ大会ノ通電（要領左記）ヲ宣読シ「開会再開反對」「協定稅率取消」「關稅自主權回收」等ノ標語ヲ叫ビ別添ノ如キ伝單ヲ撒布シツツ示威運動ニ移レリ此ノ日市内ノ状況平常ト異ラス殊ニ降雨ノ為メ概シテ氣

勢揚ラス平穩裡ニ午後三時頃解散セリ

尚今回ノ大会ハ開会再開反對ノ名義ノ下ニ目下頻リニ吳張ノ打倒ヲ高唱シ居ル広東政府カ国民党平素ノ主張タル帝國主義打倒軍閥反對等ノ宣傳ヲナシタルニ止マリ特ニ目新ラシキ行動モナク又何等排外的色彩モナカリシ

開会再開反對示威大会通電要領

帝國主義者ハ數十年來我國ノ海關ヲ把持シ商工業ノ發達ヲ妨害シ全國人民ノ膏血ヲ吸尽シ其結果遂ニ我國ノ農工ハ失業シ商業ハ破産シ国内到ル処土匪軍閥横行スルニ至レリ故ニ國人唯一ノ努力ト期望トハ即チ關稅管理權ヲ回收シ完全ナル自主權回復ノ目的ヲ到達スルニ在リ

昨年五・三十慘案突發後國人ノ關稅回收不平等條約廢除ノ主張日ニ高マリタル為メ帝國主義者ハ小惠ヲ以テ人民ヲ誘騙セント欲シ關稅特別會議ヲ召集シニ五増徵案ヲ主張セリ然レ共右ハ根本的ニ國民ノ要求ニ違反スルモノニシテ各界ハ夙ニ之ニ反對シタルカ其後段政府ノ失落ト共ニ各國代表星散シ會議モ自然停會セラレタリ

然ルニ料ラスモ吳張再起シ北方ノ政權ヲ握ルニ及ヒ陰險ナル帝國主義者ハ二五案ヲ交換條件トシ開会ヲ再開セムトシ

吳張亦之ニ依リ軍費ヲ得ムトシテ爾來銳意會議ノ進行ヲ計ラムトス帝國主義者カ斯ノ如ク軍閥ヲ資助スルハ惹テ中国内乱ヲ延長スルモノニシテ究極ハ中国ノ人民ヲ屠尽セスムハ止マサルモノナリ吾人ハ是等帝國主義者ト軍閥トノ人民屠殺行為ニ對シ一致シテ反對シ共ニ危亡ヲ救フヘシ云々

本信写送付先 在支公使、上海、汕頭

七八五 八月二十三日

在中国堀臨時代理大使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

中国側ノ物価評価委員會組織ニ對スル米國側

ノ態度ニツキ報告ノ件

第五三三號

（八月二十四日接受）

往電第五三二二號ニ関シ

本日本官「マクマレイ」ニ会见米國側ノ本件ニ對スル態度ヲ尋ネタルニ「マ」ハ自分ハ政府ニ對シテ支那側今回ノ提議ノ内容ハ列國力既ニ華府會議ニ於テ大体承認シタル処ニカカリ列國ニ於テ新ナル義務ヲ負担スルモノニアラス且本件ニ関シテハ支那カ國際的義務ヲ負担スルノ能力ノ有無ノ問題ヲ考慮スルノ必要ナク從テ「レコグニション」ノ問題モ考慮スルノ必要ナシ唯支那側今回ノ「ノート」ノ内容ハ

六 北京關稅特別會議關係 七八五 七八六

勢揚ラス平穩裡ニ午後三時頃解散セリ

尚今回ノ大会ハ開会再開反對ノ名義ノ下ニ目下頻リニ吳張ノ打倒ヲ高唱シ居ル広東政府カ国民党平素ノ主張タル帝國主義打倒軍閥反對等ノ宣傳ヲナシタルニ止マリ特ニ目新ラシキ行動モナク又何等排外的色彩モナカリシ

開会再開反對示威大会通電要領

帝國主義者ハ數十年來我國ノ海關ヲ把持シ商工業ノ發達ヲ妨害シ全國人民ノ膏血ヲ吸尽シ其結果遂ニ我國ノ農工ハ失業シ商業ハ破産シ国内到ル処土匪軍閥横行スルニ至レリ故ニ國人唯一ノ努力ト期望トハ即チ關稅管理權ヲ回收シ完全ナル自主權回復ノ目的ヲ到達スルニ在リ

昨年五・三十慘案突發後國人ノ關稅回收不平等條約廢除ノ主張日ニ高マリタル為メ帝國主義者ハ小惠ヲ以テ人民ヲ誘騙セント欲シ關稅特別會議ヲ召集シニ五増徵案ヲ主張セリ然レ共右ハ根本的ニ國民ノ要求ニ違反スルモノニシテ各界ハ夙ニ之ニ反對シタルカ其後段政府ノ失落ト共ニ各國代表星散シ會議モ自然停會セラレタリ

然ルニ料ラスモ吳張再起シ北方ノ政權ヲ握ルニ及ヒ陰險ナル帝國主義者ハ二五案ヲ交換條件トシ開会ヲ再開セムトシ

多少曖昧ニテ或ハ支那カ主人公トナリテ改訂ヲ行ヒ列國ニハ單ニ其結果ヲ通告スルニ止マルヤノ嫌アル処此点ハ飽迄モ國際的會合トセサルヘカラス尤モ過去ノ此種ノ會合ノ如ク大袈裟ノモノトスル必要ナシ（前回ハ大藏省ヨリ派員シタルモ今回ハ上海ノ「アーノールド」ヲ参加セシムルニ止ムヘシ）トノ趣旨ヲ以テ請訓シ置キタル処右ニ對シ既ニ國務省ヨリ請訓通りニテ差支ナキ旨回訓アリタルニ依リ「アーノールド」ノ任命済ミ次第正式ニ支那側ニ回答スル答ナル旨ヲ答ヘタリ

右様ノ次第第二付右ニ就テハ前電所報各國ノ態度ヲモ御考慮ノ上當方回答振ニ就キ何分ノ儀御回示ヲ請フ

上海ヘ転電セリ

七八六 八月二十六日

在中国堀臨時代理公使ヨリ  
幣原外務大臣宛

關稅改訂ヲ目的トスル物価評価委員會ト關稅會議再開時期トノ關係ニ関スル米國公使ノ意向等報告ノ件

（寫）

機密第一〇〇一號

大正十五年八月二十六日

在支那

臨時代理公使 堀 義貴

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

關稅改訂ヲ目的トスル物価評價委員會ト

關稅會議再開時期トノ關係ニ關スル件

往電第五三三三號所報會見ノ際本官「マツクマレー」ニ對シ若シ本件評價委員會成立セハ其ノ結果ハ或程度ノ増収ヲ來シ支那ヲシテ小成ニ安ンセシメ關稅會議再開ノ機會ヲ遲延セシムルノ虞無キヤト訊ネタルニ「マ」ハ「(-)最近二三年ノ間世界一般ノ物価ハ漸落ノ趨勢ニ在ルヲ以テ此際物価ノ評價換ヲ行ハンカ貨物ノ種類ニ依リテハ昇騰ヲ示スモノモアルヘキモ同時ニ下落セルモノモアルヘキニ依リ全体ヨリ見レハ支那ニ差シタル増収ヲ与フルカ如キコト無カルヘシ」(二)會議再開ノ件ニ關シテハ打明ケテ申セハ自分ハ大ナル疑問ヲ有ス支那ノ中央政府ニ對スル自分ノ考ハ最近變更ヲ來シタリ從來ニ在リテモ先見ノ明アルモノハ支那政府ナルモノハ偶々其時北京ニ居リ合セタル為政權ヲ掌握スルニ至レルモノニシテ支那全体トハ關係無キモノナリトノ見解ヲ有シタ

動ハ外交部カ先驅者トナリ居レルノ事實ハ頗ル吾人ノ失望ヲ禁セサラシムルモノアリ是等ノ事態カ永續スヘキヤ否ヤハ問題ナルモ要スルニ米國ノ露國承認ヲ躊躇セシメツツアル露國ノ態度ヲ支那政府カ學フ様ニナリテハ甚タ失望セサルヲ得サル次第ニシテ斯カル者ヲ相手トシテ關稅會議ヲ再開スルハ甚タ疑問ナリ要スルニ關稅會議再開シテハ非常ニ「ペツシミスチック」ナリト語レリ

右關稅會議再開ニ關スル見解ハ外交部會議ニ於ケル各國代表ノ口吻ニ徴シ各國殆ント一致シ居レル所ニシテ例ヘハ白、仏兩國公使モ關稅會議ハ永久ニ擊沈(トーペード)セラレタリト述ヘ居タリ

叙上ノ次第ニシテ各國ノ意向ハ要スルニ今回ノ評價委員會ハ關稅トハ全然別個ノ性質ニ屬スルモノニシテ唯列國力華府ニ於テ約束シタル一片ノ義務ヲ果タスト共ニ他面支那ノ顔ヲ立テテヤル一ノ恩惠の行為ナリト為スニアアルモノノ如クニ感セララル所ナリ

右御參考迄報告申進ス

七八七 九月一日

在中国堀臨時代理公使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

六 北京關稅特別會議關係 七八七

ルカ最近ニ至リ此ノ見解ハ一般普遍的ノモノトナレリ四月九日段祺瑞亡命ノ後暫ク何人モ責任者無キ狀態繼續シタルカ如キハ言語道斷ノ次第ナリ(三)從來ハ中央政府ハ無力ナリトハ言ヘ國際義務ニ付キテハ一ノ保守的勢力存続シ地方當局ノ條約違反行為例ヘハ不當課稅問題、排外運動問題等ニ對シテハ之ヲ制止スルニ努メ若クハ少クトモ斯カル條約違反行為ノ不法ナルコトヲ指摘シ聲明スル機關トシテ存続シ來レルモノナルニ拘ラス最近ニ於テハ中央政府ニ進ンテ對外義務ヲ破棄セントシ此種面策ノ張本人タルニ至レリ殊ニ此ノ傾向ハ五月三十日事件以後ニ於テ甚シク例セハ白支通商條約廢棄ノ如キ其ノ一例ナリ白支通商條約ハ如何ナル解釈ヲ取ルモ改訂ノ權利ハアルモ廢棄ノ權能ハ無キ筈ナリトテ更ニ白支條約問題ニ言及シ且ツ「マ」ハ外交部當局ヨリ日支條約ニ關シテモ相當ノ時期ニ之カ廢棄ノ通告ヲ為ス予定ナル旨ノ言明ヲ聽キタル旨且ツ日支條約ノ廢棄ハ國內課稅ノ問題ニ付キ日支條約ヲ引用シ來レル列國ヲシテ多大ノ不便ヲ感セシムルニ至ルヘキコトヲ付加シタリ又上海會審衙門回收問題ニ付キテモ外交部ヨリハ反ツテ地方當局ノ方カ穩健ナル態度ヲ示シタル位ナリ其他アラユル地方ノ排外運

關稅會議再開困難ノ見通シニ關スル列國ノ見

解報告ノ件

第五六〇號(極秘)

(九月二日接受)

(一)關稅會議再開ニ關シ支那側ニ於テハ委員ノ中ニ頻リニ之ヲ計画シ居ルモノアリ且會議々題ノ諸問題ニ付研究シツツアルカ如キモ政府トシテハ政局ノ不安定ト中央政府ノ無力ナル事往電第五一二號ノ通りニシテ其結果目下ノ処別ニ自信ヲ以テ其再開ヲ期シ居ラス單ニ無責任ナル宣傳ヲ行ヒ居ルニ過キササルモノノ如ク外國側ニ於テモ英國ノ態度ノ如キハ既定ノ事實ニシテ又白仏等ニ於テモ外交部會議ノ席上本官ニ對シテ關稅會議ハ永久ニ「アジュールネ」セラレタリト語リタル位ニシテ其態度推測ニ難カラス而シテ最モ重キヲ置ク可キ米國側ノ態度ニ付「マクマレー」等ヨリ本官ニ對シテ語リタル處ハ機密第一〇〇一號拙信ニテ御承知ノ通りト同様ニシテ「ストローン」ノ談話ヲ綜合スルニ支那中央政府ナルモノハ何等ノ勢力ヲモ代表セサル無力ナル名義上ノ政府ニシテ最近ノ狀況ヲ見ルニ支那各地ニ於テ連日發生シツツアル對外對內の不法行為ノ阻止ノ力ナキノミナラス(各地ニ於ケル不當課稅

等)自ラ之ニ迎合シ又進シテ条約及約束違反ノ行動ヲナスノ状況(白耳義ニ対スル通商条約廢棄通告ノ如キ)ニシテ斯ル政府トノ間ニ重要ナル交渉ヲ行フ事能ハス米國ハ支那ニ対シテ先ツ現在ノ条約約束ノ履行ヲ求メ将来會議等ニ於テ成立スル事アル可キ新シキ約束ヲモ履行スルノ覚悟アリヤ否ヤヲ確ムル必要アリ但シ關稅會議ニ付テハ支那ニ対シ右様ノ態度ニ出スルニ先立チ先ツ日英米三國間ニ於テ充分意見ノ合致ヲ見ルヲ要ス然ラサレハ之迄ノ經驗ニ徴シ會議ヲ再開スルトモ無益ニシテ右三國政府ノ協議ハ北京ニ於テハ各全權ニ於テモ既ニ最終的努力ヲナシタルモ成功セサリシ次第ニ付各本國政府間ニ於テ充分打合せヲ要ス右様ノ次第ニ付「ストローン」ハ法權會議ノ終局次第北京ヲ出發シ東京ニ於テ外務大臣ニ就キ對支政策ノ一般問題特ニ右關稅會議ノ點ニ付意見ヲ交換シ華府政府ニ報告打合せヲ行フ所存ナリト云フニ歸着シ「ストローン」ハ目下ノ処東京ニハ九月十九日ヨリ三日間滞在スル予定ナリトノ事ナリ

(二)右様ノ次第ニテ關稅會議ヲ再開ハ支那側ノ策動如何ニ拘ハラス近キ将来ニ於テハ実行不可能ト見テ大体間違ナカ

七八八 九月七日

在中国堀臨時代理公使ヨリ  
幣原外務大臣宛

關稅會議及ビ一般問題ニ対スル列國特ニ米國

側ノ態度ニ関シ報告ノ件

機密第一〇三七号

(九月十七日接受)

大正十五年九月七日

在支那

臨時代理公使 堀 義貴(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

關稅會議及一般問題ニ対スル列

國就中米國側ノ態度ニ関スル件

關稅會議ノ再開其ノ他ニ関スル「マクマレー」公使ノ意見ニ付テハ八月二十日付機密往信第一〇〇一号ニテ既ニ御承知ノ通ナルカ尚右諸問題ニ対スル各國側就中「ストローン」及「ホーレンベック」等ノ意見ヲ綜合シ更ニ往電第五六〇号ヲ以テ不取敢具報致置タルヲ以テ關稅會議其ノ他一般問題ニ対スル当地外國側ノ態度並空氣ハ大体御了知相成タル事ト思考セラルルモ右往電ニテハ尚充分意ヲ尽シ得サリシ点モアルニ付右補足旁左ニ報告申進ス御査閱ヲ請フ

一、米國側ノ對支態度硬化

ル可ク(當方ニ於テハ元ヨリ日本ハ何時ニテモ再開ノ用意アルヲ言明シ居ルモ)支那側ニ於テ結局各國別ニ期限到来ノ条約ヨリ改訂ヲ要求シ其目的ヲ達セントスルノ手段ニ出テ来タルモノト察セラル(之等ノ點ニ関スル「ホーレンベック」(一週位後ニ當地ヲ出發スル筈)ノ意向其他ニ付テハ別ニ詳細公信ヲ以テ報告ス)尚米國側カ關稅會議ノ問題ハ勿論對支政策ノ一般問題ニ付甚タシク強硬ノ態度ヲ執ルニ至リ英國ノ態度ニ著シク接近シ来タリタルハ當地ニ於テ一般ニ注目セラルル処ニシテ其近因ノ一ハ無線問題ニ対シ米國政府ノ要求容レラレサル事判明セル為メナリトテ頻リニ支那側ニ於テ取沙汰セラレ居レリ右ハ米國ヨリ見ル時ハ支那側カ約束ヲ守ラサル一例ナル可ク本件ノ關稅會議當初ヨリノ成行ニ見テ必スシモ首肯シ得ラレサルニアラス兎ニ角最近列國ノ支那ニ対スル態度硬化ノ傾キアリ外國新聞記者間ニ支那ニ対スル列國ノ「インターベンション」ノ談スラ噂セラレ居ル状況ニシテ以上ノ諸點ハ「ストローン」トノ会見ニ際シ充分御含置ヲ請フ

米國公使「マクマレー」ノ意見カ最近著シク保守的反動の二傾キ来リタル次第ハ前頭機密第一〇〇一号ニテ御了知ノ通ナルカ其ノ後更ニ館員ヲシテ「ストローン」ノ意見ヲ叩カシメタル処右ハ別添甲号会见録ノ通ニテ大体「マ」ノ意見ト一致シ居リ可成リ反動的の傾向ヲ帶ヒ居ルハ推知ニ難カラサル次第ナルカ共ニ關稅會議ノ如キハ到底再開ノ運ニ至ラサルヘキコトヲ力説シ居ル処彼等ノ意向ハ要スルニ米國ハ支那ニ対シ飽ク迄モ条約並約束ノ履行ヲ要求ス支那政府ニシテ右条約上ノ義務並約束履行ノ意思及能力無キ限り關稅會議ノ再開ハ勿論華府付加税ヲモ断シテ之ヲ許与スヘカラス況ンヤ承認問題ノ如キハ到底問題トナラス然シ若シ支那政府ニシテ前記条約履行ノ誠意ト実力トヲ有スルニ於テハ其ノ局ニ当ル者ノ何人タルヲ論セス直ニ之ヲ承認シ進シテ關稅會議ノ再開、条約ノ改訂ヲ行フニ吝ナラス而シテ是等ノ諸點ニ付テハ日英米三國間ニ於テ充分下協議ヲ進ムルノ要アリトスルニ歸着ス

## 二、米國側態度變化ノ原因

上述ノ如ク米國側首腦幹部カ在来ノ米國一般ノ意見ニ反

シ最近著シク硬化スルニ至リタル原因ハ種々アルヘキモ近來支那ノ政局カ變転ヲ極メ中央政府ハ有名無実ニシテ各方面ノ軍閥其ノ他ノ不法並越權行為ハ益々多クナルニ至レルコト其ノ主タル原因タルハ殆ト疑ナキ処ナリ御承知ノ通近代支那國民運動ノ策源地ヲ以テ任スル廣東政府ハ勞農露國ノ革命主義ニ則リ從來ノ支那及列國間ノ條約ヲ以テ帝國主義國カ弱國ニ「ディクテート」セル不平等條約ナリトシ外人ノ有スル條約上ノ權利ヲ無視シ自主的不平等條約ノ破棄關稅自主權ノ回復並治外法權ノ撤廢ヲ絶叫シ國民黨並學生団体ハ支那全國ニ亙リ各地ノ勞働団体及商會等ヲ使喚強制シ反帝國主義ノ名目ノ下ニ排外運動及反基督教運動ヲ起シ各地ニ排外的「ストライキ」「ボーイコット」ノ絶スル間ナク一般人並宣教師ノ生命財產ノ脅威セラルルカ如キ事件ハ殆ト応接ニ遑ナキ有様ニテ彼等ノ行動ハ全ク常軌ヲ逸スルモノアリ而シテ斯クノ如キ外人ノ權利々益ノ蹂躪並生命財產ノ脅威ニ對シ現在中央政府ハ全然無能力ト云フヘク元來其レ自身何等實力ヲ有セス軍閥ノ傀儡タルニ過キササル中央政府力地方の二何等ノ勢力ヲ有シ得サルハ怪シムニ足ラサル処ナ

(欄外記入)

リト雖彼等反動軍閥ノ支持ニ依リ辛シテ名実ヲ維持シ居ル中央政府トシテハ寧ロ反動保守的ニ過キ前記ノ如キ排外運動ニ對シテハ極力其ノ責ニ任シ之カ取締ヲ勵行スルニ努力スヘキ筋合ナルニモ拘ハラス事實ハ却テ之ニ反シ關稅自主、治外法權其他不平等條約撤廢問題等ニ關シ寧ロ廣東政府及國民黨ノ遣リ口ニ輪ヲ掛ケタルヤノ觀アリ即チ近來各地ニ殆ト連日發生シツツアル對外及對内的不法行為例ヘハ塩稅差押ヘ、外國船舶ニ對スル不法射撃、外國人ノ輸入貨物押収、各地ニ於ケル不當課稅等ニ對シ全然阻止ノ力ナキノミナラス却テ之ニ迎合シ支那側不法ノ主張ヲ支持スルノ態度ニ出テ又進シテ條約及約束違反ノ行動ヲ為スノ状況ナリ例ヘハ最近白耳義ニ對シ條約破棄ノ通告ヲ發シタルカ如キ態度ヲ示シ居ル有様ニテ右ハ獨リ白耳義ニ對シテ而已ナラス同様ノ立場ニ在ル仏伊米英及日本ニ對シテモ亦全然同一ノ態度ニ出ツヘキハ外交部側ノ消息ニ依ルモ窺知スルニ難カラサル処ナリ而シテ右支那側ノ態度ハ關稅會議再開ノ到底實現シ得サルヘキヲ見越シ各國別ノ協定ニ依リ其ノ目的ヲ達セントスルノ魂胆トモ想像シ得ラレサルニ非スト雖兎ニ角廣東政府並

國民黨等ノ極端派ノミナラス寧ロ反動的色彩ヲ有スヘキ中央政府カ全然無能力ナルニ加フルニ進シテ條約破棄ノ態度ニ出テンコトハ比較的「リベラル、アイデア」ヲ以テ會議ニ臨ミタル「ストローン」ヲモ痛ク失望セシメタルハ別添會見録ニ依リ御承知ノ通ニシテ是等カ米國側態度硬化ノ主要ナル原因タルハ亦想像ニ難カラサル処ナルヘシ而シテ米國カ支那ノ不秩序ニシテ且ツ國際信義ヲ全然無視シ居ル一例トシテハ「フエデラル」無線問題ニ對スル支那側ノ態度ヲ數ヘ居ルモノノ如ク米國態度ノ硬化ノ近

國側ヲ疎ンセシムルニ至リ「フエ」契約ニ對シテモ言フ左右ニシテ今日迄遷延シ居ル模様ニシテ今尚米國側ハ各種ノ方法ヲ以テ目的ヲ達セント焦リ居ル次第ナリ其結果ハ大ニ注意ヲ要スヘキ処兎ニ角米國カ「フエデラル」問題ヲ一般對支問題ト關連セシメ居レルハ見逃スヘカラサル所ナリ

### 三、日英米三国ノ協議

斯クノ如キ米國側態度ノ硬化ニ伴ヒ茲ニ特ニ注目ヲ要スルハ英米ノ接近ト所謂日英米三国協調論ナリト前述セルカ如ク米國側首腦幹部ハ現在ノ如ク支那政府カ無力無誠意ナル間ハ之ト重要ナル交渉ヲ行フコトハ不可能ニシテ米國ハ支那ニ對シ先ツ現在ノ條約並約束ノ履行ヲ求メ將來會議等ニ於テ成立スルコトアルヘキ新シキ約定ヲモ履行スルノ覺悟アリヤ否ヤヲ確ムルノ必要アリ但シ關稅會議ニ付テハ北京ニ於テ既ニ各全權間ニ最終的努力ヲ為シタルモ成功セサリシ次第第二付日米英三国政府間ニ於テ充分ナル打合せヲ為スヲ要ス即チ三国協調シテ支那ニ臨ムニ非スンハ會議ヲ再開スルモ無益ナリトノ意見ナリ此種ノ硬論カ英國側特ニ支那ニ於ケル英國人在來ノ主張ト

一派ノ Give and Take ノ政策ハ却テ支那側ヲシテ米

極メテ接近シ居ルハ特ニ注目スヘキ点ナリトス元來英國ヲ筆頭トスル仏伊白等ノ諸國カ支那ニ於ケル old basis保持ヲ對支政策ノ基調トスルハ茲ニ贅述ヲ要セサル処ニシテ他方自由主義ヲ立テ範トセル米國カ其ノ態度ヲ硬化スルニ至リタル結果米國側カ漸次英國側ノ政策ニ惹入レラレントスルノ傾向近次濃厚トナリツツアルハ顯著ナル現象ニシテ遂ニ最近再ヒ所謂武力干涉論ノ擡頭ヲ見ルニ至レル次第ナリ即チ少ク共支那ニ於ケル英國人等カ此ノ機會ニ於テ日本ヲモ加ヘ日英米三國協調シテ支那近來ノ極端ナル主張ニ威圧ヲ加ヘ以テ支那ニ於ケル赤化ノ傾向ヲ阻止セント欲シ場合ニ依リテハ武力干涉ヲモ辞セス以テ列國ノ支那ニ於ケル威信ヲ發揮シ以テ既得ノ權利ヲ維持スヘシト説クモノ多ク御承知ノ如ク斯クノ如キ意見ハ從來「タイムス」一派ノ常ニ主張シ來リタル処ニシテ右ノ如キ意見カ最近著シク擡頭シ來リタルハ特ニ注目ニ値スル点ナリ最近ノ「デイリー」、テレグラフ」ノ所論ノ如キ之カ好適例ト云フヘシ而シテ右ニ關連シ看過シ得ヘカラサルハ万一支那ニ對シ武力干涉ヲ為サントスル場合ニ於テハ各國援助ノ下ニ差詰メ日本ヲ以テ之ニ當ラシメン

トシ而モ之ハ日本ノ好ム処ナリトノ意見一般外人間ニ極メテ有力ナルコト之ナリ日本カ口ニ不干渉論ヲ唱ヘ居ルモ内心支那ニ對シ武力干涉ヲ欲スルモノナリトノ意見ハ今尚英人其ノ他一般外人間ニ先入主トナリ居ルコトハ近來屢々日本ハ何時支那ニ出兵スルヤト質問セラルルコトアルニ徴スルモ明ナル処ニシテ此ノ際日本ノ此ノ慾望ヲ利用シテ支那ニ對シ日本ヲ矢面ニ立テテ武力干涉ヲ行ハントノ彼等一流ノ打算的考慮モ之ニ加ハリ居リ近來ハ寧ロ日本ニ對シ干涉ヲ德惠スルカ如キ態度ヲ示シツツアル次第ナリ

#### 四、三國協調策ノ検討

米國側首腦幹部ノ對支態度硬化ハ近來最モ注目セラレツツアル次第ナルモ右ハ果シテ米國全般ノ輿論ヲ代表シ居ルヤ否ヤハ大ニ検討ノ要アル処ニシテ就中無線問題ノ結果如何カ米國政府ノ對支政策ヲ動かスニ足ルヤ否ヤノ点モ大ニ考慮ノ要アルカ如シ前項「マクマレー」「ストロオン」等ノ保守的意見ハ当地ニ於ケル米國側ニ於テスラ必スシモ一致ノ意見ト云フヲ得サルカ如ク「ホーンベック」ノ意見ハ別添乙号會見録ノ通ニシテ支那通トシテ定

評アル同氏ノ右意見ハ重要視スヘキ価値アルヘク此種ノ意見カ結局米國ノ學者、宣教師及言論界ニ重ヲ為シ米本國ニ於テ優勢トナルヘキコトモ予想シ得ヘク況ンヤ所謂三國協調論ノ裏面ニハ幾多不純ナル暗影ヲ伴フアリ且我方トシテハ英米ト自ラ其ノ立場ヲ異ニシ特ニ支那關係ニ於テハ露國ニ對スル關係ヲモ大ニ考慮スルノ要アルハ申迄モナク他方支那ニ於ケル所謂排外運動及軌外行為ヲ以テ直ニ赤化ナリトスルモ稍早計ニ似タルノ感アリ旁支那ニ於ケル英國人ヲ中心トスル種々ノ言論乃至計畫ニハ我方トシテハ充分慎重ニ考量ヲ加フルノ必要アルヘシ

追テ「ストロオン」及「ホーンベック」ノ會見録ハ各三部宛添付シ置タリ

(欄外記入) 觀察ノ錯誤カ

編註 別添甲乙号會見録省略

七八九 九月二十一日 幣原外務大臣  
ストロオン 關稅會議米代表 會談

#### 關稅會議等二關シ會談ノ件

大正十五年九月二十一日幣原外務大臣「ストロオン」(關稅會議及法權會議米國代表) 會談要領

「ストロオン」歸國ノ途次東京立寄りノ際九月二十一日在本邦米國大使ト共ニ幣原外務大臣ヲ來訪シタルカ其會談要領左ノ通り

#### 一、關稅特別會議

本件ニ關シ先ツ「ストロオン」ハ幣原大臣ニ對シ日本全權並隨員ノ好意ニ依リ終始愉快ナル友好的空氣ノ中ニ完全ニ協力シ得タルコトニ付深厚ナル謝辭ヲ述ヘタルニ付大臣ハ実ハ當方ヨリ同様謝辭ヲ述ヘント欲シタル次第ニシテ我全權ハ勿論隨員全部モ米國側ノ極メテ友好的ナル協力ニ依リ愉快ニ事務ヲ執リ得タリトノ報告ニ接セリ支那ノ政局ノ為會議ハ其ノ当初ノ目的ニ向テ「タンジブル」ノ成果ヲ收メ得サリシトハ云ヘ少クトモ日米間友好的協力ノ大ナル「ポジビリティス」及価値ヲ証明スルノ機會ヲ与ヘタルハ深く欣快ニ堪ヘスト述ヘタル処

「ストロオン」モ全然之ニ同感ノ意ヲ表スルト共ニ關稅會議ニ於ケル英國側ノ態度ヲ全ク不可解ナリトシテ強ク非難シ特ニ西原借款整理問題ニ關シ英國側カ同借款ノ性質ニ顧ミ列國ヨリ徵收セル關稅增收ニ依リ之ヲ整理スルコトニ反對セルニ對シテハ自分(「ストロオン」)ハ極力其非ヲ責メ

タル次第ナルカ惟フニ西原借款ノ性質又ハ支那ニ取リテノ効果 (merit) ニ付テハ兎角ノ議論アリトスルモ本件貸借ノ事実ハ債權者タル日本側モ債務者タル支那側モ共ニ之ヲ確認シ居リ全ク疑問ノ余地ナキ今日ニ於テ第三者カ之ニ容喙シテ借款ノ性質又ハ效果ヲ批判スルノ權利アルヘキ謂ハレナシ既ニ支那ノ債務ナル以上速ニ之カ償還ノ方法ヲ講スルハ支那ノ為ニモ利益ニシテ之ヲ放任スルニ於テハ債務ハ益々嵩ミ結局決濟ノ途ナキコトナルヘク其ノ結果支那ニ對シテハ今後何人モ投資ノ危険ヲ敢テスルモノナキニ至ルヘシ關稅增收ハ主トシテ鐵道敷設等支那ノ積極的開發ノ目的ニ充テシムヘシトノ説アルモ支那カスノ如キ新財源ヲ目前ニ控フルニ於テハ各方面ノ軍閥ハ益々刺激ヲ受ケテ結局内亂ヲ挑發スルニ了ハルヘシ米國トシテハ其對支債權小額ナリト雖自分 (「ストローン」) ハ公正ノ見地ヨリ英國側ノ主張ニ反駁ヲ加ヘタル次第ナリ將來關稅會議再開ノ場合貴大臣ノ言ノ通日米兩國ノ間ニハ完全ニ了解ヲ遂ケテ進ミ得ヘキモ英國ノ態度ニ付テハ甚々疑ハシト述ヘ關稅會議ノ將來ニ付稍々悲觀的口吻ヲ洩シタリ

## 二、治外法權委員會

府ヨリ英國政府ニ交渉シ發表ノ期日等ヲ一定ニスル様努力スヘシト述ヘタリ

## 三、支那ノ時局

「ストローン」ハ支那ノ時局ニ關シ全然悲觀論ヲ唱ヘ支那ノ將來ハ全ク望ミナシトハ云ヒ難キモ時局ノ安定ハ容易ニ之ヲ期待スヘカラサル処列國トシテハ差當リ其ノ經過ヲ注視スルノ外ナカルヘク若夫支那軍民ニ於テ外人ニ對シ所謂 *wholesale massacre* ノ如キ重大ナル損害ヲ与フルニ於テハ列國トシテモ斷乎タル措置ニ出ツル必要アリト思考スルモ近來支那側モ斯ノ如キ殘虐ノ行動ハ極力之ヲ避ケ居レリ尤モ斯ル口実ヲ与ヘサル範圍ニ於テハ勝手氣儘ノ行為ヲナシ居リ或ハ列國カ利害關係ヲ有スル鐵道ノ收入ヲ恣ニ沒收シ或ハ不當課稅、通商航海ノ妨害ヲ行フ等殆ント枚舉ニ遑ナシ然レトモ之ヲ理由トシテ此際列國側ヨリ干涉ヲ行フハ却テ事態ヲ惡化スルノミニシテ得ル所ナキモノト思考セラル要之現下ノ政局ハ支那自身ノ為甚々憂フヘキコト勿論ナルト共ニ列國ニトリテハ迷惑至極ニシテ列國ハ此際最モ慎重ニ此事態ヲ注視スルコト肝要ト思考セラル旨ヲ述ヘ時局ニ關スル悲觀說ヲ繰返ヘセリ

「ストローン」ハ本件ニ關シテモ亦日米兩國間ニ完全ニ意見ノ一致ヲ見タルハ愉快ニ堪ヘサル所ナリト前置シ支那側ニ於テモ本件報告中ニ支那法制ノ欠陥ヲ赤裸々ニ指摘セル点ニ付テハ其意見ヲ留保セルモ勸告ニ付テハ無条件ニテ之ヲ容認セル次第ニシテ種々ノ紆余曲折ハアリタルモ兎ニ角本會議カ好成绩ヲ収メ得タルニ付テハ日本ノ協力ヲ大ニ多トスルモノナル旨ヲ述ヘタルニ付

大臣モ本件ニ關シ米國側トノ間ニ完全ナル意見ノ一致ヲ見タルコトニ付感懷ヲ述ヘタリ次テ「ストローン」ハ委員會ノ報告及勸告ノ公表ニ關シ何等決定ヲ見ルニ至ラサリ理由ヲ述ヘ右ハ英國側ニ於テ報告及勸告ノ全文本國政府ニ到達セサルニ先チ之ヲ公表スルハ面白カラストシテ反對シタルカ為ナリト云ヘリ

(木村重細亞局長口授 田中記)

七九〇 九月二十八日

在中国堀臨時代理公使ヨリ  
幣原外務大臣宛

關稅收入支途問題ニ關スル米國ホーンベック

委員ノ我が佐分利委員ニ語レル要領報告ノ件

機密第一一三號

(十月七日接受)

大正十五年九月二十八日

在支那

臨時代理公使 堀 義貴 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

支那關稅收入及支途ニ關スル件

本件ニ關シ日米專門委員ノ間ニ研究ヲ進メタル次第ハ七月三十一日付機密關會第二七七號報告ノ通りナル処今回佐分利局長九月十五日歸燕シ同日「ストローン」ト面會シタル節「ス」ハ關稅收入支途問題ニ關シ「ホーンベック」ヨリ話スヘキ事項アリト予告セシカ同日「ホ」ハ局長ヲ訪問シ要領左ノ如ク語レリ

今回「ス」氏歸米スルニ付支那側ニ對シ逃ケ歸ルカ如キ印象ヲ与ヘサル為曩ニ日米專門委員ノ間ニ研究セル案ニ基キ

一ノ表ヲ作成シ之ヲ米國専門委員ヨリ非公式ニ支那側ノ然ルヘキ向ニ渡し置ク積ナリ尤モ右ハ固ヨリ事前ニ日本側ニ通知スル積ニテ貴下ノ来着ヲ待チ居リタリ今回作成セル表ト日米専門委員研究ノ案（前記公信付属丁号）トノ間ノ差ハ（一）数字ハ概略ノ大数ニ依レルコト及（二）湖広津浦鉄道ノ「サービス」ニ充当スル金額ヲ建設費ヨリ離シテ五百万弗ノ額トシ之ヲ釐金廃止ノ次ノ順位ニ移シタル点ニ在リ而テ右ハ英國側カ最近右鉄道ノ「サービス」ニ付優先権ヲ主張セルニ至リタルヲ以テ米國ニ於テモ一応元ノ主張ニ戻ルモノナリト説明セリ

次テ翌十六日米國側ハ財政整理会秘書周治春（顔惠慶ノ秘書）ヲ米國事務所ニ招キ「パーキンス」「ホーンベック」両氏ヨリ口頭ヲ以テ説明シタル上右ノ表ヲ手交シタリ尚米國側ヨリ本表ヲ英國側ヘモ送付セル趣ナリ

七九一 十月四日 幣原外務大臣  
ホーンベック 会談

#### 関税會議付加税問題ニ関シ会谈ノ件

大正十五年十月四日幣原大臣「ホーンベック」（関税特別會議米國専門委員）会談要領

幣原大臣ハ二分五厘付加税実施ノ条件トシテハ不確實債務ノ整理ト貿易ノ改善トノ兩者ヲ併セ考慮スヘキ処同付加税実施案ニ依レハ右条件中貿易ノ改善ニ付金額等明定セルニ反シ債務整理ニ付テハ之ヲ不確定ノ儘トナセルハ公平ヲ失スルニ付我方トシテハ国論ノ承認ヲ得難キ關係モアリ同案ニ反対シタル次第ナリト述ヘタルニ

「ホーンベック」ハ右実施案ノ貿易改善ニ関スル事項ハ支那ノ現状ニ於テモ之ヲ行ヒ得サルニ非ルニ反シ債務ノ整理ニ付テハ二分五厘付加税ノ增收ノミヲ以テハ到底之カ実行ノ資源足ラサルニ付九千万元案ヲ生シタル程ニテ右実施案中ニモ之ニ関スル具体的条件及金額等ヲ明記シ得サリシ次第ナルカ日本側ノ之ニ同意シ得サリシ事情モ亦止ムヲ得サルモノト云フヘシ唯支那ノ現状ニ鑑ミ此際各国トシテハ出来得ル限りノ好意ヲ示スコト必要ナル処目下ノ状態ニ於テ関税會議ノ再開ハ差当リ問題トナラサルモ来春ニモナリ時局平靜ニ復スルニ至ラハ成ルヘク速ニ會議ヲ再開スルコト適當ナルヘシト思考セラル一九二九年一月ニハ支那側ヨリ関税自主権ハ既ニ列國ニ依リ認めラレタルモノトシテ之ヲ要求シ来ルヘク從テ列國トシ

関税特別會議米國専門委員「ホーンベック」帰國ノ途次東京立寄ノ際十月四日幣原大臣ヲ來訪シタルカ其会谈要領左ノ通り

#### 一、関税特別會議問題

「ホーンベック」ハ先ツ大ニ日本ノ対支政策ヲ謳歌シタル上関税會議ニ於テ二分五厘付加税実施案カ日本側ノ承認ヲ得ルニ至ラサリシヲ惜ミ実ハ英國側ニ於テハ「スチュワート」ハ大体自分等ト同意見ナリシモ「ビール」ハpet theoryヲ有シ居リ所謂「パーセンテイヂ」案ニテ使途割當ノ割合ノミヲ決定シ正確ナル金額ヲ定ムルコトニ同意セス英國政府モ其態度 wavering ニシテ大体同國全權ノ意見ニ從フモノノ如ク見ラレタルニ付二分五厘實施案ヲ得ル迄ニハ英國側説得ノ為難カラサル困難ヲ感シタル次第ナルカ結局右案ニ付日本側ノ同意ヲ得サリシ為英國側ノ乗スル所トナリ遂ニ御承知ノ通ノ結果トナリタルハ甚タ遺憾ナリ自分トシテハ二分五厘付加税ヲ此際直ニ支那側ニ与フルコトハ考量ヲ要スヘキモ少クトモ何時ニテモ同付加税ヲ實施シ得ル為各國ノ間ニ意見ヲ纏メ置クコト然ルヘシト考ヘ居タル次第ナリト述ヘタルニ付

テハ其ノ期ニ及ヒ支那側ニ強要セラレテ支那側ノ要求ニ応スルカ如キ態度ヲ取ラムヨリハ事前ニ進テ之ヲ与フルカ如キ形式ヲ取ル方賢明ノ政策ナリト云フヘシト述ヘタルニ付

幣原大臣ハ日本ノ関税會議ニ對スル政策ハ既ニ御承知ノ通ニテ全ク貴説ト合致スル次第ナリト述ヘタリ

#### 二、移民問題（以下省略）

七九二 十一月十五日 在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

#### 関税會議再開等ニ関スル顧外交總長トノ会谈

##### ニツキ報告ノ件

第七三七号 （十一月十六日接受）

貴電第三九四号ニ関シ十一月十五日外交總長ヲ訪問シ御來示ニ基キ帝國政府ノ趣意ヲ詳細説明シテ支那政府ノ再考ヲ求メタル処總長ハ日本政府ノ意見ニ對シテハ多大ノ興味ヲ感スルニ就テハ猶篤ト関税條約ヲ研究シタル上關係官庁ト熟議ヲ遂ケ何分ノ回答ニ及フヘク自分一己トシテハ好意ヲ以テ承リタリト述ヘタル上実ハ目下関税會議再開方ニ関スル提議ヲ考量シツツ

アル次第ナルカ関税会議ヲ速ニ再開セムトスル議ニ対シ日本政府ニ於テハ同感ヲ表セラルヘキヤト尋ネタルニ付本使ハ日本政府ノ意向ハ確知セサルモ関税会議ノ急速再開ハ我政府ノ最希望シ居ル処ト諒解シ居ル次第ナリ尤自分一己ノ推測ナルモ日本政府トシテハ仮令會議再開ノ曉ニ於テモ非公式ノ方法ヲ以テ議事ヲ進ムル意向ナラムト想像シ居レリト述ヘタルニ総長ハ物価評定委員ノ問題ノミナス関税收入ノ保管広東青島ニ於ケル課税問題酒類課税問題ニ対シ外国公使館側ヨリ頻々抗議シ来レル件等ハ関税會議進行中ナルニ於テハ何等面倒ナク解決サルヘキニ拘ラス會議中止ノ為問題続出ノ有様ニテ閉口シ居レル次第ナルカ若シ支那政府ヨリ會議再開ノ提議ヲ為ス場合日本側ニ於テ援助ヲ与ヘラルレハ至極好都合ナルモ貴公使ノ同僚間ニ於テハ再開問題ニ対シ如何ナル意見ヲ有スルヤト尋ネタルニ付本使ノ知レル処ニテハ賛成ノ向モアリ不賛成ノ向モアリト答ヘタル処総長ハ支那政府ヨリ提議ヲ為ス場合貴公使ニ於テ之ヲ援助シ呉レ間敷キヤト述ヘタルニ付本使ハ日本政府ノ命令ヲ得ル場合ニハ勿論最善ヲ尽スニ躊躇セスト答ヘ置キタリ上海ヘ暗送セリ

七九四 十二月十六日

在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

関税會議再開ノ提議アリタル場合ノ対処方針

ニツキ請訓ノ件

第八二二号

(十二月十七日接受)

外交部ハ首席公使ヲ通シ関税會議再開方關係各国公使ニ提議シ来ルヘキ筈ナル処右ノ場合本使ハ非公式會議開会ニハ賛成ナリトノ態度ヲ表明シ然ルヘシト存シ居レリ御意向成ル可ク早目ニ御電示相成タシ

七九三 十二月十一日(着)

在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

財政窮乏ヲ救フ為メ二分五厘増徴ノ急務ナル旨ノ潘財政総長ノ談話ニ関スル件

第八〇九号

八日潘復本使來訪ノ節潘ハ支那目下ノ財政窮乏ヲ救フ為ニハ少クトモ二歩五厘増徴ヲ成ルヘク速ニ実施スルノ要アリ之カ為関税會議ヲ促進シタキ希望ナルニ付其際ニハ本使ノ好意的援助ヲ求ムル旨述ヘタルニ付本使ハ公式ニ開会スルコトハ困難ニテ又非公式ニ開会スルコトニシテモ列國中賛成反対ノ兩者アルヘシト答ヘタルニ潘ハ自分一己ノ考ニテハ會議再開ニシテ不可能ナル場合ニハ公文ヲ以テ一定ノ時期ヲ定メ二歩五厘増徴実施方ヲ列國ニ通告シ之ニ依リ実行ヲ早メタシト思ヒ居リ之カ手續方法等ニ就キ目下折角研究中ナリ

但右ハ全然自分ノ私案ナルモ平素ノ厚誼ニ鑑ミ予メ御耳ニ入レ置ク次第ナリト語レリ

広東ヘ転電シ漢口、上海、奉天、天津ヘ暗送セリ

七九五 十二月十七日

在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

首席公使ヨリ華府条約付加税關係國ノ会合ヲ

開キタキ旨通知越ノ件

第八二五号

(十二月十八日接受)

往電第八一七号末段ニ関シ

十二月十七日首席公使ハ英國代理公使ノ要求ニ基キ二十二日(水曜日)特別関税會議ニ於テ華府付加税問題ノ討議ニ参加セル諸國ノ会合ヲ開キタキ旨通知シ越セリ

就テハ承ハリ置クヘキ事項ハ其御含ニテ御電訓ヲ請フ